
IV 教育課程表

(授業科目開講一覧表)

2025年度入学生用

《科目ナンバリング(体系的な教育課程の編成)について》

・科目ナンバリング

ナンバリング、あるいはコース・ナンバリングとは、授業科目に適切な番号を付し分類することで、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系的性を明示する仕組みです。大学内における授業科目の分類という意味を持っています。学問の分類や対象とするレベル(学年等)等を示すことで、学生が適切な授業科目を選択する際の参考となります。授業位置づけがわかるように各科目に番号を振ることで、学士課程の科目全体を体系化でき、学生が授業を選びやすくすることを狙いとしています。

・科目ナンバリング制度の学内基準

<u>NR</u>	<u>D</u>	<u>M</u>	<u>1</u>	<u>005</u>
学科／科	学修段階	位置づけ	配当学年	整理番号

本学のナンバリングは、まず、頭文字として、学科／科別にアルファベット 2 文字で分類しています。二つ目に、カリキュラムチャートにて分類された学修段階を英語表記(A～Z)で分類。次に、位置づけとして基礎科目(L)と専門科目(M)を表記しています。そして、配当学年を表示し、最後に科目順に整理番号を表記しています。

看護学科・・・・・・・NR Department of Nursing

学修段階・・・ カリキュラムチャートにて分類された学修段階を英語表記(A～Z)で分類。

位置づけ・・・・教養教育科目:L

専門教育科目:M

配当学年・・・・ 1 年生:1

2 年生:2

3 年生:3

4 年生:4

大学院:5

自由科目等:0

整理番号・・・・ 001 番～999 番

2025年度入学生用 看護学科 教育課程表（授業科目開講一覧表）

※開講時期は、変更となる場合があるので、毎年シラバス等で確認すること。

科目 区分	科目 コード	科目 ナンバリング	保 健 医 療 学 部 看 護 学 科 目	単位数			時間数	開講年次							
				必修	選択	自由		1年		2年		3年		4年	
								春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
基礎科目	ゼミナール 基礎教養	9501	NRAL1001	基 礎 ゼ ミ ナ ー ル I	1		30	●							
		9502	NREL1001	基 礎 ゼ ミ ナ ー ル II	1		30	●							
	人間と生活	9513	NREL1002	倫 理 学 ★	2		30	●							
		9516	NRFL1001	哲 学	2		30	●							
		951A	NRBL1001	心 理 学 概 論	2		30	●							
		9512	NRFL1002	人 間 関 係 論	2		30	●							
		9526	NRBL1002	社 会 学 概 論	2		30	●							
		9528	NRCL1001	社 会 福 祉 学 ☆	2		30	●							
		9532	NRCL1002	憲 法	2		30	●							
		9530	NRDL1001	地 球 の 生 態 学	1		15	●							
		953A	NRAL1002	生 命 科 学 の 基 礎	2		30	●							
		9521	NRAL1004	文 化 人 類 学	2		30	●							
		9523	NRBL1003	国 語 表 現 法	2		30	●							
		9517	NRAL2005	現 代 芸 術 論	2		30			●					
		9522	NRDL1003	ボ ラ ン テ ィ ア 論	1		30	●							
	情報と言語	9534	NRBL1004	情 報 リ テ ラ シ ー I	1		30	●							
		9535	NREL1003	情 報 リ テ ラ シ ー II	1		30	●							
		9538	NREL1004	ブ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン 技 法	2		30	●							
		9539	NRCL1003	英 語 I	1		30	●							
		9540	NRFL1003	英 語 II	2		30	●							
		9541	NRCL1004	英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン I	2		30	●							
		9542	NRFL1004	英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン II	2		30	●							
		9543	NRAL2004	英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン III	2		30			●					
		9544	NRDL1002	ド イ ツ 語 入 門 I	2		30	●							
		9545	NRBL4009	ド イ ツ 語 入 門 II	2		30							●	
		9546	NRAL1003	中 国 語 入 門 I	2		30	●							
		9547	NRCL4006	中 国 語 入 門 II	2		30							●	
		9548	NRBL2006	看 護 ・ 医 療 英 語	1		30			●					
	人間と健康	9551	NRGL1003	ス ポ ー ツ I	1		30	●							
		9552	NRBL2007	ス ポ ー ツ II	1		15			●					
		9555	NRBL1007	健 康 科 学	1		15	●							
	地域未来創造 プログラム	9560	NRBL2008	東 三 河 創 造 入 門	2		30				●				
		9519	NRBL2009	東 三 河 の 歴 史 風 土 と 文 化	1		15				●				
		9561	NRBL2010	デ ー タ サ イ エ ン ス 入 門	2		30				●				

科目 区分		科目 コード	科目 ナンバリング	保 健 医 療 学 部 授 業 科 護 学 科 目	単位数		時間数	開講年次							
					必修	選択 自由		1年		2年		3年		4年	
								春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
専門基礎科目	人間の理解	960A	NRCM1001	か ら だ の 構 造 と 機 能 I	1		30	●							
		960B	NREM1001	か ら だ の 構 造 と 機 能 II	2		60		●						
		960C	NREM2005	臨 床 心 理 学	1		15				●				
		960D	NRCM1005	社 会 シ ス テ ム と 人 間	1		15	●							
	健康の理解	961A	NRCM2002	臨 床 薬 理 学	1		30			●					
		961B	NREM1002	臨 床 栄 養 学	1		15		●						
		9609	NRFM1001	生 化 学	1		30		●						
		961D	NRCM1006	病 原 体 と 感 染	1		15		●						
		9651	NRFM1002	病 態 と 治 療 の 基 礎	1		15		●						
		9652	NRGM1001	病 態 と 治 療 I (内 科 系)	2		30		●						
		9653	NRDM2001	病 態 と 治 療 II (内 科 系)	2		30			●					
		9654	NRAM2001	病 態 と 治 療 III (外 科 系)	2		30			●					
		9655	NRCM2002	病 態 と 治 療 IV (小 児)	1		15			●					
		9656	NRCM2003	病 態 と 治 療 V (産 科 ・ 婦 人 科)	1		15			●					
		9657	NRCM2004	病 態 と 治 療 VI (精 神)	1		15			●					
	環境の理解	9621	NRGM1002	公 衆 衛 生 学	2		30		●						
		9627	NREM2006	保 健 医 療 福 祉 行 政 論 ☆	2		30				●				
		9628	NRCM2005	保 健 医 療 統 計 学 I ☆	1		15			●					
		9629	NRFM2005	保 健 医 療 統 計 学 II ☆	1		15				●				
		962A	NREM1003	環 境 と 人 間	1		15	●							
専門科目	基礎看護学	970A	NRCM1001	看 護 学 原 論	2		30	●							
		970B	NREM1004	看 護 理 論 概 説	1		15		●						
		970C	NRAM3004	看 護 倫 理 ☆ ★	2		30					●			
		970E	NRFM1005	ヘルスアセスメント論★	2		60		●						
		980D	NRFM1006	基 礎 看 護 学 方 法 論 I	2		60		●						
		980E	NRDM2004	基 礎 看 護 学 方 法 論 II	2		60			●					
		980F	NRAM2004	基 礎 看 護 学 方 法 論 III	1		30			●					
		9861	NRGM1003	基 礎 看 護 学 実 習 I	1		45		●						
	9862	NRFM2006	基 礎 看 護 学 実 習 II	2		90				●					
	在宅看護学	984A	NRCM1002	在 宅 看 護 学 原 論 I ☆	2		30		●						
		984B	NRCM2007	在 宅 看 護 学 原 論 II ☆	1		15			●					
		984E	NRCM2007	在 宅 看 護 学 方 法 論	1		15			●					
		984C	NRAM2008	在 宅 看 護 学 演 習 I	1		30				●				
		984D	NRAM3009	在 宅 看 護 学 演 習 II	1		30					●			
		986C	NRCM3011	在 宅 看 護 学 実 習	2		90						●		

科目 区分		科目 コード	科目 ナンバリング	保 健 医 療 学 部 看 護 学 科 目	単位数		時間数	開講年次							
					必修	選択 自由		1年		2年		3年		4年	
								春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
専門科目	成熟期看護学	988A	N RBM2008	成 熟 期 看 護 学 原 論	2		30			●					
		988B	N RGM2008	成 熟 期 看 護 学 方 法 論Ⅰ	1		15			●					
		988C	N RGM2009	成 熟 期 看 護 学 方 法 論Ⅱ	1		15			●					
		988D	N RGM2010	成 熟 期 看 護 学 方 法 論Ⅲ	2		30			●					
		988E	N RBM3015	成 熟 期 看 護 学 演 習Ⅰ	1		30				●				
		988F	N RBM3016	成 熟 期 看 護 学 演 習Ⅱ	1		30				●				
		988G	N RBM3017	成 熟 期 看 護 学 演 習Ⅲ	1		30				●				
		988H	N RBM3018	成 熟 期 看 護 学 演 習Ⅳ	1		30				●				
		988I	N REM2009	成 熟 期 看 護 学 実 習Ⅰ	1		45			●					
		988J	N REM2010	成 熟 期 看 護 学 実 習Ⅱ	1		45			●					
		988K	N REM3013	成 熟 期 看 護 学 実 習Ⅲ	1		45					●			
		988L	N REM3014	成 熟 期 看 護 学 実 習Ⅳ	2		90					●			
		988M	N REM3015	成 熟 期 看 護 学 実 習Ⅴ	2		90					●			
		988N	N RFM3016	成 熟 期 看 護 学 実 習Ⅵ	2		90					●			
		988O	N RFM4001	成 熟 期 看 護 学 実 習Ⅶ	1		45						●		
	小児看護学	983A	N RDM2004	小 児 看 護 学 原 論	1		15			●					
		983B	N RFM2009	小 児 看 護 学 方 法 論	2		30				●				
		9833	N RGM3009	小 児 看 護 学 演 習	1		30					●			
		983C	N RGM2009	小 児 看 護 学 実 習Ⅰ	1		45			●					
		983D	N RGM3010	小 児 看 護 学 実 習Ⅱ	1		45					●			
	母性看護学	982A	N RCM2008	母 性 看 護 学 原 論	1		15			●					
		982B	N RCM2009	母 性 看 護 学 方 法 論	2		30			●					
		9828	N RFM2007	母 性 看 護 学 演 習	1		30				●				
		9866	N RFM3010	母 性 看 護 学 実 習	2		90						●		
	精神看護学	986D	N RAM2005	精 神 看 護 学 原 論	1		15			●					
		986E	N RGM2011	精 神 看 護 学 方 法 論	2		30				●				
		9838	N RAM3004	精 神 看 護 学 演 習	1		30					●			
		9868	N RGM3008	精 神 看 護 学 実 習	2		90						●		
	看護の統合	974A	N RCM4016	看 護 管 理 学★	1		15							●	
		974B	N RDM4007	看 護 教 育 学		1	15							●	
		9846	N RBM3009	看 護 学 研 究Ⅰ	1		30					●			
		9847	N RDM4008	看 護 学 研 究Ⅱ	1		30							●	
		9745	N RBM3010	家 族 看 護 学☆	1		15			●					
		9747	N RAM4008	災 害 看 護 学		1	15							●	
		9746	N RBM4015	国 際 看 護 学		1	15							●	
		9749	N RFM4001	医 療 ・ 看 護 の 最 前 線	1		15								●
		9783	N RBM4016	統 合 実 習	2		90							●	

科目 区分		科目 コード	科目 ナンバリング	保 健 医 療 学 部 授 業 科 護 学 科 目	単位数		時間数	開講年次							
					必修	選択 自由		1年		2年		3年		4年	
								春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
専門科目（選択コース）	公衆衛生看護学*1	9622	NRCM3011	疫 学		2	30					●			
		9623	NRDM3005	学 校 保 健 学		1	15					●			
		9624	NRAM3006	産 業 保 健 学		1	15					●			
		978A	NRCM3019	公 衆 衛 生 看 護 学 原 論		2	30					●			
		978B	NRCM3020	公 衆 衛 生 看 護 学 方 法 論Ⅰ		2	30					●			
		978C	NRCM3017	公 衆 衛 生 看 護 学 方 法 論Ⅱ		2	30					●			
		9783	NRCM3013	公 衆 衛 生 看 護 学 演 習Ⅰ		1	30					●			
		9784	NRDM4011	公 衆 衛 生 看 護 学 演 習Ⅱ		1	30							●	
		978D	NRDM4012	公 衆 衛 生 看 護 管 理 論		2	30							●	
		9781	NRDM4010	公衆衛生看護学実習Ⅰ（行政）		4	180							●	
		9782	NRCM4017	公衆衛生看護学実習Ⅱ（学校・産業）		1	45							●	
	助産学*2	9777	NREM3012	地 域 母 子 保 健		2	30						●		
		977H	NRAM3010	助 産 学 原 論		1	15					●			
		977A	NRCM3013	助 産 診 断 ・ 技 術 学Ⅰ		2	30					●			
		977B	NRCM3014	助 産 診 断 ・ 技 術 学Ⅱ		2	30					●			
		977C	NRCM3014	助 産 診 断 ・ 技 術 学Ⅲ		2	30					●			
		977I	NREM4013	助 産 診 断 ・ 技 術 学Ⅳ		2	30							●	
		977J	NRCM4018	助 産 技 術 学		2	30						●		
		9779	NRFM3011	助 産 管 理		1	15						●		
		977E	NRCM3015	助 産 学 実 習Ⅰ		1	45					●			
		977F	NRDM4009	助 産 学 実 習Ⅱ		3	135							●	
		977G	NREM4014	助 産 学 実 習Ⅲ		7	315							●	

「公衆衛生看護学」の読み換え科目は☆の9単位です

「助産学」の読み替え科目は★の7単位です

*1：「公衆衛生看護学」の自由科目は保健師選択コースの学生が履修すべき科目です

*2：「助産学」の自由科目は助産師選択コースの学生が履修すべき科目です

V 2025年度入学生用 シラバス

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード		95010		
科目	9501 基礎ゼミナールⅠ			授業種別		週間授業		
担当教員	藤井 徹也			単位数		1		
その他担当者	井上 直子、林 美佐、高野 純平、新井 志歩、末定、渡邊 富士子、藤田 陽子							
授業概要	基礎ゼミナールⅠは、大学生生活に早期適応ができるように大学生に必要なとされる基本的学修技能(話す、書く、聞く)、主体的学修態度、生成AIと学修活動の関係性などを身に付けることを目的とする。授業形態は、講義、グループワークなどの演習で行う。 *この科目は該当授業内容に関する看護の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性					◎			
到達目標	1. ノート・テイキングやアカデミック・ライティング、テキスト精読とその要約など大学生に必要な基本的学修技能を修得することができる。 2. 大学生活における時間管理と目標設定ができる。 3. 人と接する態度・礼節などの一般的常識や自己管理、自己責任、規範意識を理解し、他者を尊重した行動が取れる。 4. 学修に必要な図書館、各センターを活用できる。							
テキスト(教科書)	藤井徹也:看護学生スタートブック(第2版)、医学書院、2021. ISBN9784260048040 前田樹海、江藤裕之:APAに学ぶ 看護系論文執筆のルール 第2版、医学書院、2023. 978-4-260-05290-0							
参考書および参考文献	安部紘久:文章力の基本の基本、日本実業出版社、ISBN9784534053084 福澤一吉:看護学生が身につけたい理論的に書く・読むスキル、 医学書院、ISBN978-4-260-03640-5 酒井浩美、山崎啓子:看護学生のための「読む力」「書く力」レッスンBOOK、日本看護協会出版会、ISBN978-4-8180-2356-7							
受講条件	必修科目							
事前・事後学修(内容・時間)	①授業前にはテキスト等の指定箇所を熟読する(第1～8回)。②授業後には授業での学びを整理しておく(第1～15回)。③授業内で指示する内容については、事前に調べて授業に臨む(第1～15回)。以上①②③について、1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることを踏まえ、自己学修(45分程度/毎回)を行うこと。							
成績評価								
受講態度、レポート、課題により総合的に評価する なお、欠席、遅刻、早退や劣悪な受講態度は減点の対象とする								
評価項目		割合	評価基準					
講義への取り組み		20%	受講時の主体性、グループワークの参加度を確認する。					
レポート		60%	レポート内容を確認する。					
課題		20%	講義で提示される課題に対する提出物の内容などを確認する。					
授業の実施方法と授業計画	第1回 講義・演習:本科目の概要と到達目標、授業計画、本学のポリシー、態度・礼節(藤井・その他担当教員)							
	第2回 講義・演習:大学生活に必要なサポート、自己目標の設定、授業の受講方法とノート・テイキング、生成AIと学修活動との関係性(藤井・その他担当教員)							
	第3回 講義・演習:グループワークの方法、プレゼンテーションへの取り組み(藤井・その他担当教員)							
	第4回 講義・演習:情報の集め方、読み方、整理の仕方、複写のルール、情報リテラシー(藤井・その他担当教員)							
	第5回 講義・演習:レポートの書き方(藤井・その他担当教員)							
	第6回 講義・演習:定期試験への取り組み、成績評価(藤井・その他担当教員)							
	第7回 講義:建学の精神(学長)							
	第8回 講義・演習:臨地実習に必要な取り組み(藤井・その他担当教員)							
	第9回 講義・グループワーク:テーマ、役割の検討、決定(藤井・その他担当教員)							
	第10回～11回 グループワーク:テーマ内容の討議(全教員)							
	第12回 グループワーク:討議した内容の発表準備(全教員)							
	第13回 グループ発表①(全教員)							
	第14回 グループ発表②(全教員)							
	第15回 講義・演習:学びの統合(藤井・その他担当教員)							
	*授業開始時に課題(掲載問題、漢字読み取り等)を実施する *グループワークのメンバーは、講義時に提示する *リアクションペーパー、課題および最終レポートについてのコメントは、講義およびメールで全体にフィードバックする。							
ナンバリング	NRAL1001							

開講年度・開講学期	2025年度 春学期		授業コード		95020		
科目	9502 基礎ゼミナールⅡ		授業種別		週間授業		
担当教員	藤井 徹也		単位数		1		
その他担当者	小山 順子、高野 純平、山本 義昭、都築 弘典、リトル 奈々重、渡邊 富士子						
授業概要	基礎ゼミナールⅠの学修を基盤に、興味関心のあるテーマについての文献検索、文献講読、討議、発表資料作成、発表を通して、論理的思考、クリティカルシンキングおよびプレゼンテーション能力を育成する。また、自己のキャリアデザインをテーマに文献検索と講読、レポート作成を通して、論理的な文章力を身につける。 *この科目は該当授業に関する看護の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目である。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性						◎	
到達目標	1. 多様なものの見方や異なる価値観を理解しながら、テーマに沿った討議ができる。 2. プレゼンテーションする力を修得できる。 3. アカデミック・ライティングを活用したレポートを作成できる。						
テキスト(教科書)	藤井徹也：看護学生スタートブック(第2版)、医学書院、2021. ISBN978-4-260-04804-0 前田樹海、江藤裕之:APAに学ぶ 看護系論文執筆のルール 第2版、医学書院、2023. 978-4-260-05290-0						
参考書および参考文献	安部紘久：文章力の基本の基本、日本実業出版社、ISBN978-4-534-05308-4 福澤一吉：看護学生が身につけたい理論的に書く・読むスキル、医学書院、ISBN978-4-260-03640-5 酒井浩美、山崎啓子：看護学生のための「読む力」「書く力」レッスンBOOK、日本看護協会出版会、ISBN978-4-8180-2356-7						
受講条件	必修科目						
事前・事後学修(内容・時間)	①授業前には教科書の指定箇所を熟読する(第1回、7回、11～15回)。②授業後には授業での学びを整理しておく(第1～15回)。③授業内で指示する内容については、事前に調べて授業に臨む(第1～15回)。④基礎ゼミナールⅠの内容を事後学修して臨む(第1～15回)。以上①～④について、1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることを踏まえ、自己学修(45分程度/毎回)を行うこと。						
成績評価							
受講態度、レポート、プレゼンテーション内容で総合的に評価する なお、欠席、遅刻、早退や劣悪な受講態度は減点の対象とする							
評価項目	割合		評価基準				
授業への取り組み	15%		受講時の主体性、課題の提出状況、グループワークの参加態度を確認する。				
レポート	65%		提出されたレポート内容を確認する。				
プレゼンテーション	10%		発表力、質疑に対する応答で確認する。				
課題	10%		講義で提示される課題に対する提出物の内容などを確認する。				
授業の実施方法と授業計画	第1回 講義・演習：情報の集め方、資料作り、プレゼンテーションの実際など(藤井・その他担当教員) 第2回 グループワーク(一部講義)：テーマ決定、討議(全教員) 第3回 グループワーク：グループ討議と発表資料作成①(全教員) 第4回 グループワーク：グループ討議と発表資料作成②(全教員) 第5回 グループ発表①(全教員) 第6回 グループ発表②(全教員) 第7回 講義・演習：キャリアデザイン(藤井・その他担当教員) 第8回 個人ワーク：レポート作成①(全教員) 第9回 個人ワーク：レポート作成②(全教員) 第10回 個人ワーク：レポート作成③(全教員) 第11回 レポート発表会①(全教員) 第12回 レポート発表会②(全教員) 第13回 レポート発表会③(全教員) 第14回 講義・グループワーク：看護におけるカンファレンス(藤井・その他担当教員) 第15回 講義・グループ発表：カンファレンス、学びの統合(藤井・その他担当教員) *各授業中に課題(掲載問題、文章表現等)を実施する *グループワークのメンバーは、講義時に提示する。 *リアクションペーパー、課題、レポートのフィードバックは、講義またはメールで全体に行う。						
ナンバリング	NREL1001						

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	95130		
科目	9513 倫理学			授業種別	週間授業		
担当教員	霜山 博也			単位数	2		
その他担当者							
授業概要	倫理学は人間の生き方を探求する学問である。哲学、宗教学との関連、歴史的な倫理学の変遷の概括を学び、人間の行動の規範と、その背景としての影響を与える倫理学からの視点について基礎的な理解を深める。また、諸科学が発展するなかで人間の行動は、自身とその周辺の環境を調整しながら生きる方策を探求することが必要になってきている。その調整において倫理的視点は重要である。生命倫理、医療倫理、社会倫理、政治倫理など多様であるが、それらに共通する倫理の原則等についても学ぶ。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性			◎				
到達目標	1.さまざまな分野の倫理的問題を知り、広い視点で考えられるようになる。 2.現代社会の倫理的問題に関心を持ち、自分で調べ、それに対する意見を持てるようになる。 3.倫理的問題の難しさを知り、具体的な場面で実践できるようになる。						
テキスト(教科書)	テキスト:使用しない。						
参考書および参考文献	特になし。適宜、授業内で紹介する。						
受講条件	履修条件はありません						
事前・事後学修(内容・時間)	事前学習(2時間相当/15回) ・新聞・ニュースなどを普段から読み、活字にいつも触れておくこと。 ・授業で学んだことを参考にして、世の中のさまざまな物事に対して、哲学的な視点から分析する訓練をすること。 事後学習(2時間相当/15回) ・授業後に、プリントを読み直し内容を復習しておくこと。 ・授業で分からなかったことを質問し、図書館等で調べておくこと。						
成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価します。なお、私語、講義への取り組み等を受講態度の悪さがあれば、減点の対象とする場合があります。						
評価項目		割合	評価基準				
毎回の課題		30%	毎回の授業内容を理解しているか確認する。優秀な回答は次回の授業において匿名で読み上げ、どう良いのかを解説する。				
レポート		70%	授業内容を生かしつつ、自分なりにその問題について考えているか評価する				
授業の実施方法と授業計画	※各回の最後に授業内容と関連する課題を出す。次回の初めに、回答の解説や補足説明を行う。 1.(講義) ガイダンス 2.(講義) カントの義務論 3.(講義) 道徳法則について 4.(講義) 最大多数の幸福 5.(講義) ミルの自由論 6.(講義) 徳倫理学 7.(講義) 動物倫理とパーソン論 8.(講義) ロボット倫理 9.(講義) ロングフル・ライフ訴訟と反出生主義 10.(講義) 脳死・臓器移植と身体における他者 11.(講義) 生命倫理の諸問題 12.(講義) スポーツ倫理と社会における道徳の例外 13.(講義) 宗教の役割と隣人愛 14.(講義) レヴィナスと顔 15.(講義) 道徳と倫理 (講義の習熟度に合わせて予定を変更する可能性があります)						
ナンバリング	NREL1002						

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード		95160		
科目	9516 哲学			授業種別		週間授業		
担当教員	霜山 博也			単位数		2		
その他担当者								
授業概要	教員や他の学生との質疑応答や討論を通じ、哲学を追体験する。我々の身の回りにあるさまざまな事物について、既存の学問や常識にとらわれずに論理的に考える能力を身につけていくことを目的とする。第一に感想や自分の考えたことを他人に理解できるように自分の言葉で伝える能力の習得を、第二にテキストの著者や他人の言いたいことを代弁する能力の習得を目指す。あわせて読解・論述能力の養成も目的とする。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性			◎					
到達目標	① 哲学の問題を自分で考えられるようになる。 ② 自分と他人の意見を批判的に検討し、それを肯定的に生かせるようになる。 ③ 他者に理解してもらうために、説得的な文章を書けるようになる。							
テキスト(教科書)	テキスト:使用しない。							
参考書および参考文献	特になし。適宜、授業内で紹介する。							
受講条件	履修条件はありません							
事前・事後学修(内容・時間)	事前学習(2時間相当/15回) ・新聞・ニュースなどを普段から読み、活字にいつも触れておくこと。 ・授業で学んだことを参考にして、世の中のさまざまな物事に対して、哲学的な視点から分析する訓練をすること。 事後学習(2時間相当/15回) ・授業後に、プリントを読み直し内容を復習しておくこと。 ・授業で分からなかったことを質問し、図書館等で調べておくこと。							
成績評価								
原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価します。なお、私語や講義への取り組み等、受講態度の悪さがあれば、減点の対象となります場合があります。								
評価項目	割合		評価基準					
毎回の課題	30%		毎回の講義内容を理解しているか確認する。優秀な回答は次回の授業において匿名で読み上げ、どう良いのかを解説する。					
レポート	70%		レポートにて理解度を確認する。					
授業の実施方法と授業計画	※各回の最後に授業内容と関連する課題を出す。次回の初めに、匿名でさまざまな回答を紹介し、その回答の内容について議論する。また、回答の解説や補足説明、質疑応答を行う。 1.(講義) ガイダンス 2.(講義) 思想をふだんに生かすこと 3.(講義) デカルトのコギト 4.(講義) 自由について 5.(講義) カントの批判哲学 6.(講義) 物事の「よさ」を見抜く方法 7.(講義) メルロ＝ポンティと身体図式 8.(講義) プラトンのイデア論 9.(講義) ニーチェとカへの意志 10.(講義) 真理と虚構 11.(講義) 記号について 12.(講義) バロールとエクリチュール 13.(講義) 言語行為論 14.(講義) 言葉遊び 15.(講義) まとめ(予備日として使用する可能性あり) (講義の習熟度に合わせて予定を変更する可能性があります)							
ナンバリング	NRFL1001							

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード		951A0		
科目	951A 心理学概論			授業種別		週間授業		
担当教員	加藤 知佳子			単位数		2		
その他担当者								
授業概要	心理学概論では、科学的にこころを探究する方法とその成果について、基礎的な内容を学ぶ。「知覚」「記憶」「パーソナリティ」「社会的認知」「学習」「動機づけ」「言語」「社会的行動」「人生初期の発達」「青年期の課題」等のテーマをとりあげ、解説する。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性		○	○					
到達目標	1.人間のこころを構成するさまざまな機能（知覚、記憶、学習、動機づけ、言語、思考など）の基礎的な構成要素を説明できる。 2.人間のこころの働きに関する個人差や発達のな差異（パーソナリティ、人生初期の発達、青年期の課題など）について、代表的な理論を説明できる。 3.一人であるときと他者とともにいるときでこころの働きが異なることについて、例示することができる。							
テキスト（教科書）	『系統看護学講座 基礎分野 心理学』（山村豊・高橋一公著、医学書院） ISBN 978-4-260-02768-7							
参考書および参考文献	必要に応じて指示する。							
受講条件	履修条件を付けない。							
事前・事後学修（内容・時間）	予習・復習の内容（4時間相当） 1.指示されたテーマについて、テキストやその他の資料を調べてノートにまとめておく。（各2時間） 2.授業で得た気づきと学びについてノートにまとめるほか、さらなる疑問については、毎回提出するミニレポートに記載して、自分でも調べ学習をしておく。（各2時間） 3.学期末には、授業全体の内容を確認し、定期試験範囲の復習を行う。							
成績評価								
授業の到達目標の達成度に応じて評価する。なお、度重なる欠席、遅刻、早退および劣悪な受講態度は減点の対象となる場合がある。								
評価項目	割合		評価基準					
ミニレポートあるいは小テスト	30%		授業内容の理解度あるいは取り組みを評価する。					
定期試験	70%		筆記試験によって、授業内容の最終的な理解度を確認する。					
授業の実施方法と授業計画	第1回（講義）ガイダンス： 授業のねらい、試験について、心理学とは 第2回（講義）感覚と知覚： 感覚のしくみとはたらき 第3回（講義）感覚と知覚： 知覚のしくみとはたらき 第4回（講義）記憶： 記憶のメカニズム 第5回（講義）学習： 学習のメカニズム(Think-Pair-Share) 第6回（講義）感情と動機づけ： 感情とは 第7回（講義）感情と動機づけ： 動機づけの理論(Think-Pair-Share) 第8回（講義）性格とパーソナリティ： 性格とは 第9回（講義・演習）性格とパーソナリティ： 性格の測定 第10回（講義）思考・言語・知能： 思考と言語 第11回（講義）思考・言語・知能： 言語と知能の障害 第12回（講義）発達： 発達とは、乳幼児の発達 第13回（講義）発達： 児童、青年、成人、および高齢者の発達 第14回（講義・演習）社会と集団： 社会的認知、態度と説得的コミュニケーション(Think-Pair-Share) 第15回（講義）社会と集団： 対人関係と対人魅力、集団とリーダーシップ(Think-Pair-Share)							
	本科目は、主として講義形式によって行う。 試験や課題における全体で共有すべき質問・疑問に関しては、授業内でフィードバックを行うほか、個別の質問等にフィードバックする場合は、Google Classroomの機能を活用する。なお、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。							
ナンバリング	NRBL1001							

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期		授業コード		95120		
科目	9512 人間関係論		授業種別		週間授業		
担当教員	式守 晴子		単位数		2		
その他担当者							
授業概要	人間関係とは人と人をつなぐ感情をふくめたつながりである。人と人との二者が最小単位となっており、多くの人のつながりが集まり社会が作られている。看護実践においても対象となる人々と看護師との信頼関係を通して具体的なケアが可能になるため、看護学生が人間関係について学ぶことが必要である。 この科目では、人を身体的、心理的、社会的側面からとらえ、二者の人間関係を通して人間関係の基本的な知識、理論や技法を講義や演習を通して学ぶ。二者の関係の中で最も理解しやすい関係は自分と他人、つまり自己と他者の二者関係で、自己から見た他者との継続的な人間関係を対人関係と呼ぶ。そこで発達段階に沿って他者の対人行動や自己理解の知識や方法を学ぶ。また、人間関係を築くツールとなるコミュニケーションに関する知識・技術を習得し、これらを活用したのちのスキルアップするための振り返りの方法を学ぶ。さらに今後学ぶ保健医療福祉分野で使われる人間関係の用語を紹介する。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性		◎	○				
到達目標	1. 人の身体的、心理的、社会的発達段階の特徴を理解し、自己や他者について個々の状況を説明できるようになる。 2. 人間関係を築くためのコミュニケーション手段の種類や特徴を知り、適切な手段でコミュニケーションできるようになる。 3. 自己のコミュニケーションの振り返りの方法を学び、よりよい人間関係を築く工夫ができるようになる。						
テキスト(教科書)	系統看護学講座 基礎分野 人間関係論 医学書院 ISBN 978-4-260-03170-7						
参考書および参考文献	*参考書、参考文献は授業時間内に紹介いたします。						
受講条件	受講予定者は、第1回講義に必ず出席すること。						
事前・事後学修(内容・時間)	*毎回、事前課題として、次回の授業内容を予習し、授業冒頭でリアクションペーパーの今日の目標欄に関心を持った課題や質問を記載する。(60分×15回) *毎回、授業の最後にリアクションペーパーに質問あるいは授業で理解したことや活用できそうなことを書き、知識の定着をはかる。(授業中15分+授業外45分)×15回)						
成績評価	・課題の提出(60%)、定期試験(40%)						
評価項目	割合		評価基準				
課題の提出			課題に対する記述が学んだ知識を用いた適切な表現になっているのかを評価する。				
①各回の課題の提出	30%	計60%					
②指定する体験課題の提出	30%						
定期試験	40%		筆記試験にて理解度を確認する。				
授業の実施方法と授業計画	第1回(講義)ガイダンス、講義の概要 エリクソンの発達段階、自己と自我 第2回(講義)発達段階:乳児期の対人関係(アタッチメント、人見知り、虐待の影響など) 第3回(講義)発達段階:幼児期初期、遊戯期の対人関係(自我の形成、言葉の発達、自己中心性など) 第4回(講義)発達段階:学童期の対人関係(知能の発達と学習の関係、集団での行動、競争など) 第5回(講義)発達段階:青年期・前成人期の対人関係(アイデンティティの確立、自立への道のりと悩みなど) 第6回(講義)発達段階:成人期・中年期の対人関係(結婚、養育などの家族の発達段階、社会的役割、中年危機など) 第7回(講義)発達段階:老年期の対人関係(心身の変化の受容、知能の使い方の変化など) 第8回(講義と演習)コミュニケーション1 対人コミュニケーションの基礎 第9回(講義と演習)コミュニケーション2 多様なコミュニケーション方法の知識と課題 第10回(講義と演習)日常生活や支援に活用できるコミュニケーションスキル: 交流分析、アサーション・コーチングなど 第11回(講義と演習)対人関係の振り返り方法1:リフレクション、プロセスレコードなど 第12回(講義と演習)対人関係の振り返り方法2:プロセスレコードによる振り返りの実際 体験課題についての説明 第13回(講義と演習)コミュニケーションの体験課題のグループでの共有と全体への発表 第14回(講義と演習)事例を用いてコミュニケーションによる看護師・患者関係を考える 第15回(講義)対人関係と支援に関する用語に関するまとめ 授業内の質問に対してフィードバックを行う。 受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。						
ナンバリング	NRFL1002						

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	95260			
科目	9526 社会学概論			授業種別	週間授業			
担当教員	中野 聡			単位数	2			
その他担当者								
授業概要	この講義では、グローバル社会とその多様性の中に日本の社会的状況を位置づける比較社会学の視点から、近現代産業社会の仕組みと変化を学ぶ。授業は、相互に関連する5つの基礎的テーマ——現代社会論の古典、人口変化の論理、産業社会と家族、社会階層と社会格差、福祉国家とその危機——を中心に進めるが、特定の社会経済的課題に焦点をあて、また異なるトピックを包摂することがある。知識の定着を図るため、適宜資料学習およびレポートの作成を求める。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性		◎	○					
到達目標	参加者は、グローバルな視点から社会学と社会史、経済学領域の成果を学び、近現代産業社会の仕組みと変化に関する基礎知識を習得する。							
テキスト(教科書)	授業中に指示。							
参考書および参考文献	A.ギデンズ『社会学』而立書房 2009年 第5版 ISBN 978-4880593500							
受講条件	社会科学領域に関心があること。							
事前・事後学修(内容・時間)	社会科学では、日々の社会経済的事象の背景をなす構造的側面を学ぶ。日頃から新聞や関連書籍に接して基礎的知識を習得するとともに、知的好奇心を涵養すること(毎日30分程度)。適宜、復習レポート(課題学習)の作成を求めるが、一部は事後学習の形態をとることがある。定期試験(選択論述式)の準備を十分に行うこと(2、3時間程度)。							
成績評価	授業参加(レポートや受講態度)30%程度、定期試験(選択論述式)70%程度。受講者数に応じ、試験を期末レポート・小論文に変更することがある。							
評価項目		割合	評価基準					
授業参加		30%	授業レポートの提出など					
定期試験		70%	テーマの基礎理解(選択論述式)					
授業の実施方法と授業計画	講義では、以下の基本プログラムをベースに、現代社会の課題に関連する項目を重点的に論じる。また、履修者数や進度に応じて授業内容や形態を変更することがある。							
	I 現代社会論の古典							
	第1回 近代という概念、現代の社会理論(講義) 近代という概念、近代と社会意識—K.マルクスとM.ウェバー、ポスト近代の社会思想、身分制度と階級社会							
	第2回 戦後社会の構造(1)(講義) 現代社会の理論—見田宗介、市場と社会の関係史—A.ギャンブル【課題学習】消費社会の課題							
	第3回 戦後社会の構造(2)(講義) フォード主義からポストフォード主義へ—R.ポワイエとレギュレーション学派、ポストフォード主義と民主主義、フレキシブル・スペシャライゼーション(柔軟な専門化)—M.ピオリとC.ゼーブル							
	第4回 エスピノーアンデルセンと福祉国家の諸類型(講義) 福祉国家の危機、福祉国家の取れん論、福祉国家の類型論【課題学習】日本の福祉国家							
	II 人口と家族							
	第5回 人口変化(講義) 人口転換モデル、人口変化の国際比較、人口変化のコンポーネント、【課題学習】少子化の要因							
	第6回 少子高齢社会の到来(講義) 人口変化の論理、少子高齢社会の到来、出生力挽回の秘訣、							
	第7回 産業社会と家族(講義) 産業社会と家族、家族史・家族社会学から学ぶ(オプションから選択：欧米伝統社会の家族構造、産業社会と家族)、産業社会と日本の家族							
第8回 現在の家族・未来の家族(講義) 核家族の社会学、核家族と男女の役割分担、ワークライフバランスと家族の未来、一人暮らしは幸せか【課題学習】現代日本の家族と社会								
授業の実施方法と授業計画	III 社会階層と格差社会							
	第9回 社会階層論と格差社会論(講義) 階級論と格差論(オプションから選択講義)、階級論、階級消滅論、先進諸国の経済格差							
	第10回 産業社会の所有関係(講義) 大企業体制の変化、産業社会の所有関係、グローバル資本家層の登場							
	第11回 格差社会(講義) 日本の経済格差、新しい貧困、雇用格差【課題学習】格差是正の方策							
	第12回 先進諸国の経済格差(講義) 経済格差の要因、資産格差の国際比較【Option】子供の貧困、ニートとフリーター							
	第13回 雇用格差の是正—EUの事例 フレキシキュリティ政策の形成、パートタイム指令、EUマルチレベルガバナンス、デモクラシーの赤字							
	IV 福祉国家							
	第14回 福祉国家と再分配システム論(講義) 福祉国家の危機、税制と再分配システム、社会支出の国際比較【課題学習】社会権は守られているか							
	第15回 福祉国家の現在と未来(講義) 日本の福祉国家、機会均等社会をめざして							
	レポートと試験に関しては、学生にフィードバック(コメントや解説)を行う。							
ナンバリング	NRBL1002							

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード	95280			
科目	9528 社会福祉学			授業種別	週間授業			
担当教員	葛谷 潔昭			単位数	2			
その他担当者								
授業概要	本科目は、患者や利用者の生活に利する基礎的な社会福祉サービスと社会保障制度、対人援助の理念を学習する。 「人間の幸せとはなにか」を考え、人間が人間らしく生きていくための、自己実現に向けての、社会、生活環境、制度のあり方を考え、必要な人々への適用、その他の援助を考えることができる基礎的能力を学習する。 例えば、福祉施設、地域福祉、法律や社会制度等の福祉課題に対する物質的・精神的援助を行う総合的サービスとしての社会福祉とそのあり方、社会保障制度、社会福祉と医療の関連と、保健・医療・福祉の連携と統合について学習する。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性		◎	○					
到達目標	①対人サービス専門職として、社会福祉の意義・目的、社会福祉とその関連制度について理解したうえで活用できる ②専門職として、社会福祉対象者の利用者ニーズを把握できる ③社会福祉の対象者に必要な社会福祉資源を選択し、アドバイスできる ④保健・医療・福祉の連携と統合の知識と心構えを身に付ける							
テキスト(教科書)	『コメディカルのための社会福祉概論 第5版』鬼崎 信好・本郷 秀和編著 講談社 ISBN: 978-4065301937							
参考書および参考文献	適宜、配布・紹介する。							
受講条件	必修科目							
事前・事後学修(内容・時間)	1.各回の授業計画に沿って、テキスト等の該当部分を熟読しておくこと。(合計8時間程度) 2.授業で紹介・配布された資料等について再度確認しておくこと。(合計8時間程度) 3.定期試験に向けて試験範囲の復習をしておくこと。(合計6時間程度) 4.社会福祉制度とサービスについての時事的な話題に関心を持ち、ニュース、新聞報道内容に注意を向けメモを取るようしておくこと。(合計6時間程度) 5.授業後の感想文・レポート作成(合計6時間程度)							
成績評価								
授業内容に関する課題・レポート、筆記試験を行い、科目の到達目標に対する達成度を評価する。 劣悪な受講状況(課題未提出、授業の参加度が低いなど)は減点の対象となる場合がある。								
評価項目	割合		評価基準					
演習、課題、レポート	45%		演習内容、課題提出状況、授業内容の理解度、課題に対する適切な内容や記述、分量となっているかを評価する。					
定期試験	55%		筆記試験にて授業の理解度を確認する					
授業の実施方法と授業計画	第1回(講義)オリエンテーション・社会福祉の考え方 第2回(講義)現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向・歴史と展開 第3回(演習)社会保障制度と社会福祉 第4回(講義)社会福祉の仕組みと運営 第5回(講義・演習)社会福祉の機関と施設・援助 第6回(講義)医療保障制度 第7回(講義)所得保障制度と公的扶助 第8回(講義)社会福祉と医療・看護の連携 第9回(講義・演習)子ども家庭福祉(外部講師) 第10回(講義・演習)高齢者福祉の理念と制度 第11回(講義)介護保険制度 第12回(講義・演習)障害者福祉 第13回(講義)地域福祉 第14回(講義)これからの社会福祉の課題 第15回(講義・演習)社会福祉を支える人たち 課題・レポート・試験のフィードバックについては、必要に応じて今後の学習に役立つよう、個人が特定できない形にして、内容について解説、コメント等を行うとともに、今後の授業内容の改善に役立てる。 外部講師の予定、受講学生の習熟度を勘案し、授業計画を変更することがある。							
ナンバリング	NRCL1001							

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード	95320			
科目	9532 憲法			授業種別	週間授業			
担当教員	伊藤 裕			単位数	2			
その他担当者								
授業概要	この授業は、日本国憲法の基本原理と規定内容を理解し、改めて市民社会法としての憲法の至高性を認識してもらうことを目的としている。現代社会は、憲法が規定する統治システムによって規制されるが、現実政治の担い手たちは、最高法規たる憲法を蔑ろにしている。受講者には、日本国憲法の崇高な理念を正しく理解し、主体的な価値判断ができるようになることを望む。講義では、日本国憲法の構造を分かり易く解説し、市民としては是非知っておいて欲しい基本的知識について講述する。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性		◎						
到達目標	憲法学は多分にイデオロギー的な学問領域であり、論者の思想信条、主義主張が色濃く反映する。しかし、この授業は、教職課程の必修科目であることや公務員試験を目指す受講者の存在を考え、憲法規定と主要判例の客観的解説を心がけ、到達目標も次のように設定する。 ①法体系における憲法の位置づけについて説明できる。 ②日本国憲法の基本的価値を、制定の歴史に基づき正しく理解し説明できる。 ③憲法解釈上の疑義とされる問題を認識し、「憲法問題」の実相について説明できる。 ④現時の多様な改憲論を比較検討し評価できる。							
テキスト(教科書)	霜島秋則著「テキスト 教職・教養のための日本国憲法入門」 ジアース教育新社 ISBN 978-4-86371-281-2 2200円+税							
参考書および参考文献								
受講条件	必修科目							
事前・事後学修(内容・時間)	毎回、教科書の指定箇所や配布資料を読んでおくこと(30分程度×14回) 新聞やテレビ、ウェブ等で「憲法問題」を見聞したら、メモ程度でよいからミニレポートにし提出する(40分×3回程度)							
成績評価								
期末に行う記述式試験の評点が中心となるが、ミニレポートやチャトルカード提出など、講義への参加姿勢も考慮して総合評価する。								
評価項目		割合	評価基準					
定期試験		90%	講義理解(語句、判例など)と到達目標の達成度で評価する。					
ミニレポート・チャトルカード		10%	自主学習への取り組み姿勢を確認する。					
授業の実施方法と授業計画	第1回 憲法総論 近代憲法の基本原理(講義) 第2回 日本憲法史 最高法規としての日本国憲法(講義) 第3回 日本国憲法の基本原理1 国民主権/平和主義(講義) 第4回 日本国憲法の基本原理2 人権保障 人権の主体 人権の限界(講義) 第5回 基本的人権1 包括的人権/法の下での平等(講義) 第6回 基本的人権2 思想・良心の自由/信教の自由/学問の自由(講義) 第7回 基本的人権3 表現の自由/集会・結社の自由(講義) 第8回 基本的人権4 経済的自由権(講義) 第9回 基本的人権5 人身の自由(講義) 第10回 基本的人権6 生存権/労働権/教育権(講義) 第11回 基本的人権7 参政権/国民の義務(講義) 第12回 三権分立1 国会・内閣(講義) 第13回 三権分立2 裁判所 違憲立法審査制(講義) 第14回 地方自治(講義) 第15回 憲法改正論議 改めて「立憲主義」を問う(講義) ※ 講義の進行状況や受講者の関心に応じ、授業計画を変更することもあります。 ※ 授業形態は全回「講義」形式ですが、受講者の積極的な参加も望むので、授業中に質問、意見など活発に出してください。出席カード裏面も利用してください。全員で共有できるものについては、次の講義の際に紹介、回答します。ミニレポートにはコメントを付して返却しフィードバックします。 ※ 教科書の記述の古い点は、講義でアップデートします。							
ナンバリング	NRDL1001							

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード	95300			
科目	9530 地球の生態学			授業種別	週間授業			
担当教員	渡部 吉規			単位数	1			
その他担当者								
授業概要	地球環境の成り立ちや人類の活動により深刻化する環境問題について説明する。地球温暖化防止技術をはじめとした種々の環境保全技術学ぶことで、科学的な知見から持続可能な発展のために現代人類の担う役割を理解する。 授業では、アクティブラーニングとして、テーマに関する討論形式でのグループワークおよび発表を行うことで理解の推進を図る。また、電子データでの教材資料公開、ワークシート配付、課題提出を行う。 ※この科目は当該授業内容に関する企業現場での環境保全対策の実務経験を有する教員がその経験を活かし講義を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性		◎						
到達目標	①人類の生産活動が地球環境に与える影響や環境破壊の現状について説明することができる。 ②環境問題を解決するための技術の具体例を挙げることができる。							
テキスト(教科書)	オリジナル資料を電子データにて配付する。							
参考書および参考文献	【例題で学ぶ環境科学15講】(伊藤和男・久野章仁・小出宏樹, コロナ社, 978-4-339-06642-5) 参考URL : https://www.coronasha.co.jp/np/isbn/9784339066425/							
受講条件	受講条件はありません。							
事前・事後学修(内容・時間)	次のような事前・事後学習を毎回4時間程度行うこと。()内に目安の時間を示す。 ・次回授業範囲の内容について配付資料および参考書の該当箇所を熟読する。(60分程度) ・インターネットなども活用し、次回講義テーマに関する「予習レポート」を作成する。(60分程度) ・毎回の授業で学んだ内容について整理し、理解を深める。(30分程度) ・配付資料および参考書などを活用して、予習と復習に励む。(90分程度) その他 ・授業中に指定した問題・演習問題は必ず解くこと。 ・講義で出された課題は次回の講義までに必ず解くこと。							
成績評価	授業の到達目標の達成度を次項に示す「予習レポート」、「課題レポート」、「ワークシート」および「定期試験」の4つの「評価項目」の得点にて総合評価する。 ※「予習レポート」はその性質上、必ず授業開始前に提出すること。授業開始後に提出しても受理しない。 原則として毎回出席すること。正当な理由なく3回以上欠席した者は失格とする。また、出席点は設定しないが、遅遅刻・早退や劣悪な受講態度は減点の対象とする場合がある。							
評価項目		割合	評価基準					
予習レポート		20%	各回の授業テーマに対する適切な内容・記述になっているかを評価する。					
課題レポート		10%	課題に対する適切な内容・記述になっているかを評価する。					
ワークシート		20%	講義内容の理解度を授業内で確認する。					
定期試験		50%	基本的な授業内容の理解度を筆記試験にて確認する。					
授業の実施方法と授業計画	※各回の授業開始前までに「予習レポート」を提出すること。 第1回【講義】ガイダンス: 本科目の目的と概要, 単位取得要件, 評価方法などの説明をする。イントロダクション: 地球環境の概要。 第2回【講義】地球温暖化防止技術: 人類および地球にとって喫緊の課題である地球温暖化の対策技術について解説する。 【アクティブラーニング】地球温暖化防止技術に関するグループ討論および発表。 【予習】「地球温暖化防止技術」の例を調べ、「予習レポート」を作成する。 第3回【講義】酸性雨と森林破壊: 酸性雨の原因とその影響および国際的防止策について解説する。 【アクティブラーニング】酸性雨の影響に関するグループ討論および発表。 【予習】「酸性雨」が環境や生物に及ぼす影響を調べ、「予習レポート」を作成する。 第4回【講義】廃棄物処理・リサイクル技術: 廃棄物処理・リサイクル技術の概要を説明し、その具体例について解説する。 【アクティブラーニング】廃棄物処理技術に関するグループ討論および発表。 【予習】廃棄物の焼却処理技術又は、最終処分場の構造について調べ、「予習レポート」を作成する。 第5回【講義】水質汚濁: 水質汚染物質の種類と汚染のメカニズムおよび汚染の現状や影響、汚濁防止技術について解説する。 【アクティブラーニング】汚水処理技術に関するグループ討論および発表。 【予習】「水が腐る」とは、具体的にどうなることを調べ、「予習レポート」を作成する。 第6回【講義】大気汚染と自動車排ガス: 大気中に排出される汚染物質の種類および汚染の現状やメカニズム、汚染防止技術について解説する。 【アクティブラーニング】排ガス対策技術に関するグループ討論および発表。 【予習】「自動車排ガス」に関する「大気汚染防止・低減技術」の例を調べ、「予習レポート」を作成する。 第7回【講義】エネルギーの現状と展望: エネルギー資源量と各国のエネルギー構成および各種エネルギーの特徴について解説する。 【アクティブラーニング】エネルギーの展望に関するグループ討論および発表。 【予習】化石燃料の寿命を調べ、「予習レポート」を作成する。 第8回【講義】エネルギー利用の高効率化: エネルギーの有効利用技術について解説する。 【定期試験】省エネ技術に関するグループ討論および発表。 【予習】「省エネ技術」の例を1つ調べ、「予習レポート」を作成する。 ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもあり得る。 授業内で課題に対するフィードバックを行う。							
ナンバリング	NRDL1001							

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード		953A0		
科目	953A 生命科学の基礎			授業種別		週間授業		
担当教員	大林 雅春			単位数		2		
その他担当者								
授業概要	本科目は、高等学校での化学、および生物学を統合した内容で進める。具体的には、原子・分子の構造を出発点とし、物質量と濃度、酸・塩基とpH、化学結合、細胞の構造と機能、遺伝や代謝等について概説する。この科目は、専門基礎科目である「生化学」[からだの構造と機能(解剖学)(生理学)]「病態と治療の基礎(病理学)」「臨床薬理学(薬理学)」「臨床栄養学(栄養学)」等を理解をするための基礎となる位置づけである。看護に関する専門知識や技術に比べて軽視されがちな基礎知識ではあるが、臨床の現場で自ら判断し、行動するためには基本的な知識が身につけている必要があると考えている。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性		◎						
到達目標	1. からだを構成する物質(原子や分子)を説明できる。 2. 物質の状態・物質の量の表し方を説明できる。 3. 化学結合を説明できる。 4. 酸と塩基・pH、酸化・還元反応を説明できる。 5. 細胞の構造と細胞内小器官の機能を説明できる。 6. 人体の構成成分や役割を説明できる。 7. 遺伝について説明できる。 8. 代謝について説明できる。							
テキスト(教科書)	看護系で役立つ化学の基本 第2版、有本淳一 著、(化学同人) ISBN-10:4759820647 看護系で役立つ生物の基本 第2版、西沢いづみ 著、(化学同人) ISBN-10:4759820655							
参考書および参考文献	授業中に説明する。							
受講条件	必修科目							
事前・事後学修(内容・時間)	本授業は、アクティブラーニングの「反転授業」のスタイルを取り入れて実施する。すなわち、次の授業項目の簡単な事前課題(基本問題)を果たし、次の授業の前に提出物として提出してもらう。これは、前もって各自で課題を教科書等で調べる「予習」のスタイルとなり、事前課題をこなしてから本講の授業を迎える前提の授業である。約30分から1時間ほど、テキスト中心に取り組むこと。なお授業の最後に、次の授業内容の参考になるスタディサプリの短編の「動画」番組の案内するので、視聴してから講義にのぞむこと。この動画は、事前課題に取り組む際にもヒントになるので利用を勧める。 毎回の授業で配る「講義資料(紙媒体)」は、講義中の全てのスライドを配布資料としてまとめたものである。講義資料を授業の前に配るので、各自空欄にメモ等をする。また全てのスライドをインターネットのGoogleDrive上に閲覧可能で設定するので、自己学修(事後学修)に役立てること。授業中のみならず、いつでもどこでも閲覧可能である。講義内容に便利なサイトや付随するサイトをURLやQRコードで紹介する。授業には、PCやタブレット、スマートフォンなど端末を持ち込みを許可する。 Googleのクラスルームに掲載する「演習問題」は、授業内容を問題形式で学習出来るように工夫したものである。事前課題の出題内容も含まれているので、解答合わせも兼ねて毎回必ず確認しておくこと。演習問題は、定期試験の出題範囲にもなるので、必要に応じて自己学修(事後学修)に役立てること。							
成績評価	定期試験の素点が、60点に達しない学生に対しては、再試験を実施します。再試験を受験した場合には、再試験での 6 割以下の点数が評価点となります。定期試験の点数に、提出物に対する評価を加味することにより 生命科学の基礎 の評価点とします。							
評価項目		割合	評価基準					
事前課題、レポート提出物		20%	学習内容について課題やレポートを果たし、理解の程度を把握する。					
定期試験		80%	学習内容について理解の程度を総合的に把握する。					
授業の実施方法と授業計画	第1回 講義:『生命科学の基礎』の講義の進め方、ガイダンスを行う。 第2回 講義: (化学)「もの」は何でできているのか(第1章)。原子構造、電子配置について学習する。 第3回 講義: (化学)「もの」の量はどうか(第2章)。 第4回 講義: (化学)「もの」の成り立ち(第4章)。化学結合、分子について学習する。 第5回 講義: (化学)「水(第5章)」を学ぶ。イオン、電解質について学習する。 第6回 講義: (化学)「からだの中の水(第6章:浸透圧)」を学ぶ。【※生物(第2章:浸透圧)を含む】 第7回 講義: (化学)「からだの中の水(第6章):酸と塩基、pH」を学ぶ。 第8回 講義: (化学)「からだは何からできている(第7章:有機化合物)」を学ぶ。 第9回 講義: (化学)「からだは何からできている(第7章:生体高分子、脂質・糖質・タンパク質)」を学ぶ。 第10回 講義: (生物) 生物の最小機能単位である「細胞(第1章)」を学ぶ。 第11回 講義: (生物) 遺伝情報の伝え方(第3章)を学ぶ。 第12回 講義: (生物) 化学エネルギーと代謝(第5章)を学ぶ。 第13回 講義: (生物) 化学反応と酵素(第6章)を学ぶ。 第14回 講義: (生物) 糖質の代謝(第7章)、脂質の代謝(第8章)、タンパク質アミノ酸の代謝(第9章)を学ぶ。 第15回 講義: (化学) (生物) まとめ 第1~15回は講義を行う。 *ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。授業中の内容に関する質問や感想、リクエストに関しては、リアクションペーパーに記入すること。次の授業までに個々にメール、あるいは口頭で返答する。多い質問項目などには、次の授業の冒頭で説明する。指摘された改善点などには、素早く対応するので遠慮せずに、口答でもリアクションペーパーでもメールでも対応します。 *授業中には、講義内容を把握しやすいようにビデオ学習、その他動画等の視覚効果を活かした学習も行うので、上映中は集中して病態の理解に努めること。							
ナンバリング	NRAL1002							

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード	95210		
科目	9521 文化人類学			授業種別	週間授業		
担当教員	高橋 大輔			単位数	2		
その他担当者							
授業概要	文化人類学は、地域の様々な社会環境において暮らす人々の生活様式や文化、風習等を調査し、人間生活を総合的に探究する学問です。この講義では、その基本的概念や実例等から、日本各地の地理的な環境下における暮らしや風土の特性や違いなど、多様な人間生活をテーマに分けて解説していきます。皆さんの生活で当たり前にある事柄の意味や背景を知ることによって人間生活への理解を深めていきたいと思います。前半は広い視野で世界や日本全体を俯瞰しながら我々の立ち位置を確認しつつ、後半は地域やコミュニティのミクロの目線を加えリアリティある内容で進めていく予定です。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性		◎					
到達目標	①文化人類学の目的等について、説明できるようになる。 ②生活文化が自然や社会と深く関わり多様で大切であることが理解できるようになる。 ③自然・風土や生活文化を取り巻く地域の様相について特徴や問題点を掴むことができるようになる。 ④生活文化を知るための研究方法や統計を読み解く技術が身につく。 ⑤以上を通じて我々の生活環境について今後の展望を考えることができるようになる。						
テキスト（教科書）	特定にテキストはなし。講義毎にレジュメ、資料を配布します。						
参考書および参考文献	特定の参考書等はなし。講義の中でテーマに応じて適宜紹介します。						
受講条件	特になし。						
事前・事後学修（内容・時間）	【事前学修】書籍、新聞等に目を通し、関連する社会動向に関心を持って講義に臨んでください。（30分） 【事後学修】配布した講義資料の読み直しや内容整理により復習してください。提示する文献、書籍等により講義内容を深化させてください。（30分～60分）						
成績評価							
授業内容の理解度を把握するため、毎回出席者に対してリアクションペーパーの提出を求めます。記述内容は、適宜指示します。 第15回講義は演習（ディスカッション・発表）を実施します。 試験期間中に定期試験を行います。 毎回のリアクションペーパーの提出状況、演習、定期試験の内容で総合的に評価します。							
評価項目		割合	評価基準				
各回の出席態度とリアクションペーパーの内容		20%	リアクションペーパーで授業内容の理解度を確認する。				
第15回講義での意見交換と発表の内容		20%	ディスカッションと発表の内容にて評価する。				
定期試験		60%	講義内容に基づいた考察や文化人類学の興味関心について考えが体系的に説明できているかどうか。				
授業の実施方法と授業計画	授業毎に講義資料（プリント等）を配付し、投影するスライドに基づいて進めます。毎回、授業終了時にリアクションペーパーに記述し提出してください。その内容は、毎回指示します。 第1回 イントロダクション：開講科目の紹介（講義） 第2回 世界と日本の文化・風習：エスニシティの特徴（講義） 第3回 文化遺産からみる世界と日本の特徴（講義） 第4回 日本の農山漁村の生業と発展（講義） 第5回 気候風土と生活①：世界の気候風土と暮らし（講義） 第6回 気候風土と生活②：日本の気候風土と暮らし（講義） 第7回 自然環境と人間生活①：地形のメカニズムと食生活（講義） 第8回 自然環境と人間生活②：日本の自然災害と暮らしの知恵（講義） 第9回 中山間地の生活基盤を考える①：中山間地の実態と窮状を捉える（講義） 第10回 中山間地の生活基盤を考える②：中山間地域の地域文化や振興策（講義） 第11回 環境問題・災害から生活基盤を考える①：グローバルな地球環境問題（講義） 第12回 環境問題・災害から生活基盤を考える②：ローカルな生活環境づくり（講義） 第13回 地域の資源や文化を活かした地域振興①：食文化を活かした地域振興（講義） 第14回 地域の資源や文化を活かした地域振興②：生活基盤と観光文化振興（講義） 第15回 講義のまとめ、ディスカッション、発表（講義、演習） 定期試験 試験期間中に定期試験を行う リアクションペーパーに書かれた内容に対するフィードバックを講義時間内で行います。 第2回から第15回については、講義の内容・順序等が変わる場合もある。						
ナンバリング	NRAL1004						

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード		95230		
科目	9523 国語表現法			授業種別		週間授業		
担当教員	井原 淑雅			単位数		2		
その他担当者								
授業概要	大学では、様々なタイプのレポートや論文を書くことが課せられます。そこで、レポート・論文とは何かといった基本的事項から、実際にレポートや論文が書けるようになる知識や技術を身につける。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性		○						
到達目標	大学で学び社会で働くには、文章表現力を身につける必要がある。国語表現法で学ぶ内容は、学科の卒業認定・学位授与の方針「看護にかかわる事象を科学的に探求するための基礎的な研究能力を身につけている」「看護の対象となる人々を、生物・心理・社会的な面から統合的に理解するための、広い教養と専門的な知識・技術を身につけている」「看護における顕在的・潜在的課題に対し、科学的根拠に基づく適切な判断と、解決していくための実践能力を身につけている」に沿ったものであり、その到達目標は、以下の通りとする。 1. レポート・論文と作文・感想文の違いが分かる。 2. レポート・論文を書くために必要な「発想力」「読解力」「要約力」「思考力」「表現力」を身につける。 3. 「課題発見力」「情報探索力」「構成力」を磨きながら、論理的な文章が書けるようになる。							
テキスト（教科書）	『大学生のための論文・レポート作成法』井上貴翔等著、学術図書出版、978-4-7806-1235-6							
参考書および参考文献	必要に応じて紹介する。							
受講条件	必修科目							
事前・事後学修（内容・時間）	毎授業前に教科書を読んでおくこと（第1回～15回／1時間程度） 毎授業後に授業で学んだことを復習すること（第1回～7回、第11回～13回／1時間程度） 授業内に指示されたレポートを作成すること（第8回～10回／1.5時間程度） 授業で学んだことの復習に加え、定期試験範囲の復習を行うこと（第14回～15回／1.5時間程度）							
成績評価	講義課題・レポート（50%）、最終レポート（50%）に基づいて評価する。なお、講義内課題をすべて提出していないものは、最終レポートの提出はできない。							
評価項目		割合	評価基準					
最終レポート		50%	ルーブリックに基づいた記述内容になっているかを評価する。					
課題		50%	課題に対して適切な内容になっているかを確認する。					
授業の実施方法と授業計画	※前回の講義が知識を習得する場合、講義の最初に小テストを行う。小テストは採点後速やかに返却するとともに、講義内で解説を行う。また、レポートは添削指導を行う。 第1回 ガイダンス オリエンテーション 第1章 レポートとは何か 第2回(講義・演習) 第2章 論証の基本 第3回(講義・演習) 第3章 文章読解 第4章 要約① 第4回(講義・演習) 第4章 要約？ 第5回(講義・演習) 第5章 文章構成の基本 第6章 引用のルール 第6回(講義・演習) 第7章 段落(パラグラフ) 第7回(講義・演習) レポートの構成 第8回(講義・演習) 協同学習① 第9章 テーマの設定 第9回(講義・演習) 協同学習？ 第10章 文献調査の方法 第10回(講義・演習) 協同学習③ 第11章 図表の利用 第11回(講義・演習) 協同学習④ 第12章 アウトライン 第12回(講義・演習) 協同学習⑤ 第13章 校正 第13回(講義・演習) 個人テーマ学習① 第14回(講義・演習) 個人テーマ学習？ 第15回(講義・演習) 個人テーマ学習③ 学生が提出した課題に関しては、コメントを添えて返却をする。 *ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもあります。							
ナンバリング	NRBL1003							

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード		95231		
科目	9523 国語表現法			授業種別		週間授業		
担当教員	井原 淑雅			単位数		2		
その他担当者								
授業概要	大学では、様々なタイプのレポートや論文を書くことが課せられます。そこで、レポート・論文とは何かといった基本的事項から、実際にレポートや論文が書けるようになる知識や技術を身につける。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性		○						
到達目標	大学で学び社会で働くには、文章表現力を身につける必要がある。国語表現法で学ぶ内容は、学科の卒業認定・学位授与の方針「看護にかかわる事象を科学的に探求するための基礎的な研究能力を身につけている」「看護の対象となる人々を、生物・心理・社会的な面から統合的に理解するための、広い教養と専門的な知識・技術を身につけている」「看護における顕在的・潜在的課題に対し、科学的根拠に基づく適切な判断と、解決していくための実践能力を身につけている」に沿ったものであり、その到達目標は、以下の通りとする。 1. レポート・論文と作文・感想文の違いが分かる。 2. レポート・論文を書くために必要な「発想力」「読解力」「要約力」「思考力」「表現力」を身につける。 3. 「課題発見力」「情報探索力」「構成力」を磨きながら、論理的な文章が書けるようになる。							
テキスト（教科書）	『大学生のための論文・レポート作成法』井上貴翔等著、学術図書出版、978-4-7806-1235-6							
参考書および参考文献	必要に応じて紹介する。							
受講条件	必修科目							
事前・事後学修（内容・時間）	毎授業前に教科書を読んでおくこと（第1回～15回／1時間程度） 毎授業後に授業で学んだことを復習すること（第1回～7回、第11回～13回／1時間程度） 授業内に指示されたレポートを作成すること（第8回～10回／1.5時間程度） 授業で学んだことの復習に加え、定期試験範囲の復習を行うこと（第14回～15回／1.5時間程度）							
成績評価	講義課題・レポート（50%）、最終レポート（50%）に基づいて評価する。なお、講義内課題をすべて提出していないものは、最終レポートの提出はできない。							
評価項目		割合	評価基準					
最終レポート		50%	ルーブリックに基づいた記述内容になっているかを評価する。					
課題		50%	課題に対して適切な内容になっているかを確認する。					
授業の実施方法と授業計画	※前回の講義が知識を習得する場合、講義の最初に小テストを行う。小テストは採点後速やかに返却するとともに、講義内で解説を行う。また、レポートは添削指導を行う。 第1回 カイダンス オリエンテーション 第1章 レポートとは何か 第2回(講義・演習) 第2章 論証の基本 第3回(講義・演習) 第3章 文章読解 第4章 要約① 第4回(講義・演習) 第4章 要約② 第5回(講義・演習) 第5章 文章構成の基本 第6章 引用のルール 第6回(講義・演習) 第7章 段落(パラグラフ) 第7回(講義・演習) レポートの構成 第8回(講義・演習) 協同学習① 第9章 テーマの設定 第9回(講義・演習) 協同学習② 第10章 文献調査の方法 第10回(講義・演習) 協同学習③ 第11章 図表の利用 第11回(講義・演習) 協同学習④ 第12章 アウトライン 第12回(講義・演習) 協同学習⑤ 第13章 校正 第13回(講義・演習) 個人テーマ学習① 第14回(講義・演習) 個人テーマ学習② 第15回(講義・演習) 個人テーマ学習③ 学生が提出した課題に関しては、コメントを添えて返却をする。 *ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもあります。							
ナンバリング	NRBL1003							

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	95170			
科目	9517 現代芸術論			授業種別	週間授業			
担当教員	加藤 克俊			単位数	2			
その他担当者								
授業概要	現代芸術と呼ばれる美術ジャンルは、様々な場所や機会において観ることができる。それは形あるものだけではなく、空間や概念などの鑑賞者の思考に所在するものまでも。この授業では現代芸術とどのように対峙し、どこに作品の魅力があるのか、鑑賞の仕方を学ぶ。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性		○						
到達目標	1. 美術鑑賞に興味を持つことができる。 2. 鑑賞と作家理解を通し、様々な現象に対して多角的な解釈を試みることができる。 3. 人々は多様な価値観を持っている事を理解し、認めることができる。							
テキスト（教科書）	なし							
参考書および参考文献	適宜、資料を配布する。							
受講条件	美術に興味を持っていること。まじめに授業に取り組むことができること。							
事前・事後学修（内容・時間）	予習・復習の内容（毎回2時間程度） 毎回の授業計画にそって予習をすること。また、時間内に完成できなかったプリントや制作は、完成するまでごだわりを持って取り組むこと。							
成績評価								
提出物50%と最終回の確認テスト50%で総合的に評価する。 なお、授業に集中できなかったり、周囲への迷惑となる行動をしたりし注意に従わない場合は、その授業を欠席扱いとすることがある。								
評価項目		割合	評価基準					
提出物		50%	授業で学んだことをプリントに記入したり、制作したりしたものを提出してもらいます。内容の理解度や、自身の考えをどれだけ深められ、示すことができているか見ます。					
定期試験		50%	これまでに学んだことから問題を作成します。得点が評価となります。持ち込み不可。					
授業の実施方法と授業計画	第1回	（講義）現代芸術について 社会の中での表現行為						
	第2回	（講義）絵画と非絵画						
	第3回	（講義）抽象表現主義1						
	第4回	（演習）抽象表現主義2（制作体験）						
	第5回	（講義）コンセプチュアルアート 概念芸術1						
	第6回	（演習）コンセプチュアルアート 概念芸術2（制作体験）						
	第7回	（講義）ミニマリズム						
	第8回	（講義）ランドアート						
	第9回	（講義）ポップアート1						
	第10回	（演習）ポップアート2（制作体験）						
	第11回	（講義）ニューベインティング、グラフィティアート						
	第12回	（講義）美術館×国際展×パブリックアート						
	第13回	（講義）デートコースを考えよう						
	第14回	（講義）J回帰 スーパーフラット						
	第15回	（講義）アールブリュット						
	※提出された課題については、授業内で解説することでフィードバックする。 ※但し、受講学生の習熟度、受講環境により、授業計画を変更することもある。							
ナンバリング	NRAL2005							

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード	95220		
科目	9522 ボランティア論			授業種別	週間授業		
担当教員	葛谷 潔昭			単位数	1		
その他担当者							
授業概要	ボランティアは新しい時代を生きていくための行動様式の一つである。本講義では、福祉・医療・環境保護・まちづくり・子育て・国際協力等さまざまなボランティア活動とそれに関連したNPO（非営利組織）の活動を扱う。ボランティアの意義と実情を学ぶことを目標に、講義だけではなく、実際にボランティア活動をしている現場のリーダーたちの話を聞き、諸施設を訪問し、実際にボランティア活動を行う。これらを通じて、総合的に受講者のボランティア論・ボランティア観の基礎を作り出すことを目的とする。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性					○		◎
到達目標	1.わが国のボランティア活動の現状を説明できる 2.自ら意欲的にボランティア活動に参加することができる 3.人と人とのコミュニケーション技能・プレゼンテーションの表現力を高め、実践できる 4.対人援助専門職としての「社会人基礎力」を身に付け、実践することができる 5.組織の管理者として重要な要素、マネジメント能力、アントレプレナーシップ、ベンチャースピリットを理解し、説明することができる						
テキスト（教科書）	『これだけは身につけておきたいボランティアの実践スキル』久米 隼 日本橋出版 ISBN：978-4434343865 上記の他に適宜資料を配布する。						
参考書および参考文献	適宜、配布・紹介する。						
受講条件	履修条件はつけない						
事前・事後学修（内容・時間）	1. テキストおよび配布資料を事前・事後に予復習する（合計15時間程度） 2. 講義によっては、事前課題・事後課題（個人ワーク、外部講師感想文、活動計画など）を行う（合計10時間程度） 3. ボランティア先について、調べ、連絡する（合計4時間程度） 4. ボランティア活動を行う（合計3時間以上） 5. ボランティア活動についてまとめる（合計6時間程度）						
成績評価							
授業内課題の取り組み度、および授業後課題提出状況、学外での課題（学外における実習（ボランティア活動）の書類提出、レポート課題含む）で評価。 劣悪な受講状況（課題未提出、授業の参加度が低いなど）は減点の対象となる場合がある。							
評価項目			割合	評価基準			
演習・課題・レポート			50%	①演習、ワークなどの内容 ②授業内容の理解度（感想文等） ③課題が適切な内容・記述になっているか（設題に対する内容、分量等）			
学外実践活動（課題）			50%	①課題のボランティア活動の実習期間を終了したか。 ②課題に対する適切な内容と記述、分量になっているか。 ③提出すべき書類が正しく期限内に出されているか。			
授業の実施方法と授業計画	第1回（講義）人間としての社会生活とボランティア活動（ボランティアをする側とされる側、当事者性とは）						
	第2回（講義）ボランティア活動の範囲、機能、理念、組織、社会的意義						
	第3回（講義）ボランティア実践活動の意義と計画・実際について						
	第4回（演習・実技）分野別ボランティア活動（手話、防災、学習支援：学内講師）、明るい社会づくり作文の案内（外部講師）						
	第5回（講義・演習）分野別ボランティア活動（地域福祉・ボランティアコーディネート）（外部講師）						
	第6回（講義・演習）分野別ボランティア活動（医療的ケア・介護分野）（外部講師）						
	第7回（講義・演習）分野別ボランティア活動（災害・自然保護・環境・まちづくり）（外部講師）						
	第8回（講義・演習）分野別ボランティア活動（子育て分野）（外部講師）						
	第9回（講義・演習）分野別ボランティア活動（フードバンク、子ども食堂）（外部講師）						
	第10回（講義・演習・実技）分野別ボランティア活動（レクリエーション、ホスピタルクラウン）（外部講師）						
ナンバリング	第11回（実習）ボランティア実践活動						
	第12回（実習）ボランティア実践活動						
	第13回（講義・演習）国際協力とボランティア活動（外部講師：国際中継）						
	第14回（講義）近年の日本におけるボランティア活動・NPO活動、地域活動の変遷と課題						
	第15回（演習）今後のボランティア活動とNPOの活動、地域の活動のあり方、ボランティア実践活動報告会						
	課題・レポートのフィードバックについては、今後の学習に役立つよう、個人が特定できない形にして、内容について解説、コメント等を行うとともに、今後の授業内容の改善に役立てる。						
外部講師の予定、受講学生の習熟度を勘案し、授業計画を変更することがある。							
ナンバリング	NRDL1003						

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード	95340			
科目	9534 情報リテラシーⅠ			授業種別	週間授業			
担当教員	江口 則和			単位数	1			
その他担当者								
授業概要	医療に関する多くの情報から、必要な情報を選択し、効率的に収集して編集し、発信できる能力を養う。大学内のIT環境の活用を通して、看護学の学修や研究等に必要な知識を修得し、医療情報の利活用に関する基本的な考え方を学ぶ。さらに、情報モラル（著作権、セキュリティ、SNS利用におけるトラブルとリスク回避など）、情報の探索方法（文献検索、データベース検索、学修における生成 AI 利用の注意点など）、情報の整理と分析およびレポート・論文の書き方に関する基礎知識についても学ぶ。 授業ではUNIVERSAL PASSPORTやGoogle Classroomの課題提出・授業資料・アンケートなどの機能等を活用し、双方向の授業を行う。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性		◎						
到達目標	1. タッチタイピングができる 2. データの管理ができる 3. 表や図などを含む、ビジュアルな文書作成ができる 4. インデントや段組みを用いたレイアウトができる 5. レポート、論文の作成ができる							
テキスト（教科書）	30時間アカデミック Office2021 Windows 11対応 (杉本くみ子、大澤栄子、実教出版株式会社、ISBN978-4-407-35943-5) 参考URL : https://www.jikkyo.co.jp/book/detail/22510043							
参考書および参考文献	30時間でマスター Word2021 (Windows11対応) (実教出版企画開発部、実教出版株式会社、978-4-407-35938-1) 参考URL : https://www.jikkyo.co.jp/book/detail/22326050 その他、講義の中で適宜紹介する。							
受講条件	必修科目							
事前・事後学修（内容・時間）	次のような事前・事後学習を毎回2時間/週程度行うこと。（）内に目安の時間を示す。 ・タイピングの練習をする。できれば毎日。（20分程度） ・授業で学んだ操作が確実に実施できるよう繰り返し練習する。（40分程度） ・次回授業範囲の内容について教科書を熟読し、予め練習する。（60分程度） わからないところはテキストにマークし、次回の講義時に質問をするようにする。 その他、パソコンを使って他の科目のレポートなどを日常的に作る努力をする。							
成績評価								
授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価する。 演習が中心の科目であるので、欠席の場合でもその時間の演習課題などは次回の講義までに行うこと。								
評価項目		割合	評価基準					
演習課題		30%	講義内容の理解度、課題の完成度を確認する。 UNIVERSAL PASSPORTもしくはGoogle Classroomを用いて課題を提出する。					
定期試験		70%	実技形式で授業内容についての習熟度を確認する。 概ね基礎的事項に関する問題が80%、発展・応用問題が20%の割合で出題する。					
授業の実施方法と授業計画	第01回	(講義・演習) はじめに: Windowsの基本操作、Google Classroomの基本操作、タッチタイピング						
	第02回	(講義・演習) 情報科学基礎: 情報の定義と特徴、生成系AI利用の注意点						
	第03回	(講義・演習) 情報科学基礎: 情報管理と情報モラル、セキュリティ、SNSの利用の注意点						
	第04回	(講義・演習) Wordによる文書作成: Wordの基礎知識、文書の作成						
	第05回	(講義・演習) Wordによる文書作成: ページ設定と文書の印刷						
	第06回	(講義・演習) Wordによる文書作成: 表作成の基本操作						
	第07回	(講義・演習) Wordによる文書作成: 表作成演習						
	第08回	(講義・演習) Wordによる文書作成: 文書編集の基本操作						
	第09回	(講義・演習) Wordによる文書作成: 文書編集演習						
	第10回	(講義・演習) Wordによる文書作成: 表現力アップのための基本操作						
	第11回	(講義・演習) Wordによる文書作成: 表現力アップのための演習						
	第12回	(講義・演習) Wordによる文書作成: 長文作成演習 (アウトライン、目次の作成)						
	第13回	(講義・演習) 情報の探索: 学術文献の検索・データベースの利活用						
	第14回	(講義・演習) 情報のアウトプット: 学術文献の引用						
	第15回	(講義・演習) 総合演習: レポート・論文の作成						
		ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。						
	提出課題等については、授業内あるいはGoogle Classroomを通して質問や疑問等に対するフィードバックを行う。							
ナンバリング	NRBL1004							

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード		95341		
科目	9534 情報リテラシーⅠ			授業種別		週間授業		
担当教員	江口 則和			単位数		1		
その他担当者								
授業概要	医療に関する多くの情報から、必要な情報を選択し、効率的に収集して編集し、発信できる能力を養う。大学内のIT環境の活用を通して、看護学の学修や研究等に必要な知識を修得し、医療情報の利活用に関する基本的な考え方を学ぶ。さらに、情報モラル（著作権、セキュリティ、SNS利用におけるトラブルとリスク回避など）、情報の探索方法（文献検索、データベース検索、学修における生成 AI 利用の注意点など）、情報の整理と分析およびレポート・論文の書き方に関する基礎知識についても学ぶ。 授業ではUNIVERSAL PASSPORTやGoogle Classroomの課題提出・授業資料・アンケートなどの機能等を活用し、双方向の授業を行う。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性		◎						
到達目標	1. タッチタイピングができる 2. データの管理ができる 3. 表や図などを含む、ビジュアルな文書作成ができる 4. インデントや段組みを用いたレイアウトができる 5. レポート、論文の作成ができる							
テキスト（教科書）	30時間アカデミック Office2021 Windows 11対応 (杉本くみ子、大澤栄子、実教出版株式会社、ISBN978-4-407-35943-5) 参考URL : https://www.jikkyo.co.jp/book/detail/22510043							
参考書および参考文献	30時間でマスター Word2021 (Windows11対応) (実教出版企画開発部、実教出版株式会社、978-4-407-35938-1) 参考URL : https://www.jikkyo.co.jp/book/detail/22326050 その他、講義の中で適宜紹介する。							
受講条件	必修科目							
事前・事後学修（内容・時間）	次のような事前・事後学習を毎回2時間/週程度行うこと。（）内に目安の時間を示す。 ・タイピングの練習をする。できれば毎日。（20分程度） ・授業で学んだ操作が確実に実施できるよう繰り返し練習する。（40分程度） ・次回授業範囲の内容について教科書を熟読し、予め練習する。（60分程度） わからないところはテキストにマークし、次の講義時に質問をするようにする。 その他、パソコンを使って他の科目のレポートなどを日常的に作る努力をする。							
成績評価								
授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価する。 演習が中心の科目であるので、欠席の場合でもその時間の演習課題などは次回の講義までに行うこと。								
評価項目		割合	評価基準					
演習課題		30%	講義内容の理解度、課題の完成度を確認する。 UNIVERSAL PASSPORTもしくはGoogle Classroomを用いて課題を提出する。					
定期試験		70%	実技形式で授業内容についての習熟度を確認する。 概ね基礎的事項に関する問題が80%、発展・応用問題が20%の割合で出題する。					
授業の実施方法と授業計画	第01回	(講義・演習) はじめに: Windowsの基本操作、Google Classroomの基本操作、タッチタイピング						
	第02回	(講義・演習) 情報科学基礎: 情報の定義と特徴、生成系AI利用の注意点						
	第03回	(講義・演習) 情報科学基礎: 情報管理と情報モラル、セキュリティ、SNSの利用の注意点						
	第04回	(講義・演習) Wordによる文書作成: Wordの基礎知識、文書の作成						
	第05回	(講義・演習) Wordによる文書作成: ページ設定と文書の印刷						
	第06回	(講義・演習) Wordによる文書作成: 表作成の基本操作						
	第07回	(講義・演習) Wordによる文書作成: 表作成の演習						
	第08回	(講義・演習) Wordによる文書作成: 文書編集の基本操作						
	第09回	(講義・演習) Wordによる文書作成: 文書編集の演習						
	第10回	(講義・演習) Wordによる文書作成: 表現力アップのための基本操作						
	第11回	(講義・演習) Wordによる文書作成: 表現力アップのための演習						
	第12回	(講義・演習) Wordによる文書作成: 長文作成演習 (アウトライン、目次の作成)						
	第13回	(講義・演習) 情報の探索: 学術文献の検索・データベースの利活用						
	第14回	(講義・演習) 情報のアウトプット: 学術文献の引用						
	第15回	(講義・演習) 総合演習: レポート・論文の作成						
		ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。						
	提出課題等については、授業内あるいはGoogle Classroomを通して質問や疑問等に対するフィードバックを行う。							
ナンバリング	NRBL1004							

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード		95350		
科目	9535 情報リテラシーⅡ			授業種別		週間授業		
担当教員	山田 洋巳			単位数		1		
その他担当者								
授業概要	大学での学修や研究に関連したアプリケーションソフトの実践的な操作を通して、情報倫理や個人情報管理、知的財産権、著作権等実際のデータの取り扱いに関する基礎的知識を学び、安全かつ効率的な資料作成ができる能力を養う。将来実践で役立つ情報リテラシーを総合的に身につける。さらに、著作権、セキュリティ、SNS利用におけるトラブルとリスク回避など情報モラルに関する知識を深める。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性		◎						
到達目標	1. 効率良く、かつ、正確なデータ入力ができる 2. 適切な式・関数などを組み、目的にあった表計算ができる 3. 第3者を納得させることができる表やグラフが作成できる							
テキスト(教科書)	30時間アカデミック Office2021 Windows 11対応 (杉本くみ子、大澤栄子、実教出版株式会社、ISBN978-4-407-35943-5) 参考URL: { https://www.jikkyo.co.jp/book/detail/22510043 } (注記) 春学期必修科目「情報リテラシーⅠ」と同じテキストを継続して使用する							
参考書および参考文献	30時間でマスター Office2021 (Windows11対応) (実教出版企画開発部、実教出版株式会社、978-4-407-35937-4) 参考URL: { https://www.jikkyo.co.jp/book/detail/22326049 } その他、講義の中で適宜紹介する。							
受講条件	必修科目							
事前・事後学修(内容・時間)	次のような事前・事後学習を毎回1時間程度行う。()内に目安の時間を示す。 ・タイピングの練習をする。できれば毎日行う。(10分程度) ・授業で学んだ操作が確実に実施できるよう繰り返し練習する。(20分程度) ・次回授業範囲の内容について教科書を熟読し、予め練習する。(30分程度) ※わからないところはテキストにマークし、次回の講義時に質問をするようにする。 その他 ・パソコンを使って他の科目のレポートなどを日常的に作る努力をする。							
成績評価								
演習課題、定期試験による総合評価を行う。 課題: 30%、定期試験: 70% 演習が中心の科目であるので、欠席の場合でもその時間の演習課題などは次回の講義までに行う。								
評価項目	割合		評価基準					
演習課題	30%		講義内容の理解度、課題の完成度を確認する。 Google Classroomを用いて課題を提出する。					
定期試験	70%		実技形式で授業内容についての習熟度を確認する。					
授業の実施方法と授業計画	第01回		(講義・演習) Excelの基礎知識、データの入力・編集					
	第02回		(講義・演習) 表の作成Ⅰ: フォント、罫線、セルの塗りつぶし、セルの結合					
	第03回		(講義・演習) 表の作成Ⅱ: 条件付き書式、列・行の非表示					
	第04回		(講義・演習) 情報セキュリティとモラル、著作権、SNS利用におけるトラブルとリスク回避、表の印刷、セルの参照方法					
	第05回		(講義・演習) いろいろな数式Ⅰ: 関数の入力方法、基本の関数、順位、条件					
	第06回		(講義・演習) いろいろな数式Ⅱ: 条件で集計、検索、端数処理					
	第07回		(講義・演習) いろいろな数式Ⅲ: エラー回避、日付					
	第08回		(演習) 関数の活用Ⅰ					
	第09回		(演習) 関数の活用Ⅱ					
	第10回		(演習) 関数の活用Ⅲ					
	第11回		(講義・演習) グラフの作成: 棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフグラフ、複合グラフグラフ、図形の作成					
	第12回		(演習) いろいろなグラフの作成Ⅰ					
	第13回		(演習) いろいろなグラフの作成Ⅱ					
	第14回		(講義・演習) データベース機能: 並び替、抽出					
	第15回		(講義・演習) ピボットテーブル・マクロ					
※課題(試験やレポート等)については、授業内あるいはClassroomを通して質問や疑問等に対するフィードバックを行います。 ※学生の理解度や要望により授業計画を変更することもあります。								
ナンバリング	NREL1003							

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード		95351		
科目	9535 情報リテラシーⅡ			授業種別		週間授業		
担当教員	山田 洋巳			単位数		1		
その他担当者								
授業概要	大学での学修や研究に関連したアプリケーションソフトの実践的な操作を通して、情報倫理や個人情報管理、知的財産権、著作権等実際のデータの取り扱いに関する基礎的知識を学び、安全かつ効率的な資料作成ができる能力を養う。将来実践で役立つ情報リテラシーを総合的に身につける。さらに、著作権、セキュリティ、SNS利用におけるトラブルとリスク回避など情報モラルに関する知識を深める。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性		◎						
到達目標	1. 効率良く、かつ、正確なデータ入力ができる 2. 適切な式・関数などを組み、目的にあった表計算ができる 3. 第3者を納得させることができる表やグラフが作成できる							
テキスト（教科書）	30時間アカデミック Office2021 Windows 11対応 (杉本くみ子、大澤栄子、実教出版株式会社、ISBN978-4-407-35943-5) 参考URL: { https://www.jikkyo.co.jp/book/detail/22510043 } (注記) 春学期必修科目「情報リテラシーⅠ」と同じテキストを継続して使用する							
参考書および参考文献	30時間でマスター Office2021 (Windows11対応) (実教出版企画開発部、実教出版株式会社、978-4-407-35937-4) 参考URL: { https://www.jikkyo.co.jp/book/detail/22326049 } その他、講義の中で適宜紹介する。							
受講条件	必修科目							
事前・事後学修（内容・時間）	次のような事前・事後学習を毎回1時間程度行う。()内に目安の時間を示す。 ・タイピングの練習をする。できれば毎日行う。(10分程度) ・授業で学んだ操作が確実に実施できるよう繰り返し練習する。(20分程度) ・次回授業範囲の内容について教科書を熟読し、予め練習する。(30分程度) ※わからないところはテキストにマークし、次回の講義時に質問をするようにする。 その他 ・パソコンを使って他の科目のレポートなどを日常的に作る努力をする。							
成績評価								
演習課題、定期試験による総合評価を行う。 課題：30%、定期試験：70% 演習が中心の科目であるので、欠席の場合でもその時間の演習課題などは次回の講義までに行う。								
評価項目	割合		評価基準					
演習課題	30%		講義内容の理解度、課題の完成度を確認する。 Google Classroomを用いて課題を提出する。					
定期試験	70%		実技形式で授業内容についての習熟度を確認する。					
授業の実施方法と授業計画	第01回	(講義・演習) Excelの基礎知識、データの入力・編集						
	第02回	(講義・演習) 表の作成Ⅰ：フォント、罫線、セルの塗りつぶし、セルの結合						
	第03回	(講義・演習) 表の作成Ⅱ：条件付き書式、列・行の非表示						
	第04回	(講義・演習) 情報セキュリティとモラル、著作権、SNS利用におけるトラブルとリスク回避、表の印刷、セルの参照方法						
	第05回	(講義・演習) いろいろな数式Ⅰ：関数の入力方法、基本の関数、順位、条件						
	第06回	(講義・演習) いろいろな数式Ⅱ：条件で集計、検索、端数処理						
	第07回	(講義・演習) いろいろな数式Ⅲ：エラー回避、日付						
	第08回	(演習) 関数の活用Ⅰ						
	第09回	(演習) 関数の活用Ⅱ						
	第10回	(演習) 関数の活用Ⅲ						
	第11回	(講義・演習) グラフの作成：棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフグラフ、複合グラフグラフ、図形の作成						
	第12回	(演習) いろいろなグラフの作成Ⅰ						
	第13回	(演習) いろいろなグラフの作成Ⅱ						
	第14回	(講義・演習) データベース機能：並び替、抽出						
	第15回	(講義・演習) ピボットテーブル・マクロ						
※課題（試験やレポート等）については、授業内あるいはClassroomを通して質問や疑問等に対するフィードバックを行います。 ※学生の理解度や要望により授業計画を変更することもあります。								
ナンバリング	NREL1003							

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	95380		
科目	9538 プレゼンテーション技法			授業種別	週間授業		
担当教員	大野 晴己			単位数	2		
その他担当者							
授業概要	患者やご家族に対して、上手な伝え方や相手の考えていることを引き出す聴き方、質問、問いかけ方法から相手に行動をしてもらうための「プレゼンテーション技術」の基本を習得する。患者、家族の係わり方や説明などの対応など、的確な把握と伝達能力を必要になるため状況や場面に合わせたコミュニケーション技法を学ぶ。また、実習の発表などにわかりやすいパワーポイントの資料の作成手順や構成、図表、知的財産権などを学び、効果的な発表方法も習得する						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性		○			◎		
到達目標	自分の考えを、場面や相手の状況や理解にあわせて的確に伝えることができることを目標とする。また、自分の考えを企画書として作成し、論理的思考力を養うことができるようにする。 1、患者や家族などへ効果的な伝え方ができるようになる 2、研究発表会などの資料作成や効果的な話し方ができるようになる 3、円滑な自己表現方法が習得できるようになる						
テキスト(教科書)	授業内容にあわせて資料を配布する						
参考書および参考文献							
受講条件	履修条件はつけない						
事前・事後学修(内容・時間)	・毎授業前に指定箇所まで配布テキストを読んで理解を深めておくこと(毎回/15分程度) ・授業内で行った個人ワーク、グループワークの学びや気づきをノートに書いておくこと(2回～14回/30分程度) ・プレゼンシート提出における自分の課題テーマは、事前調査と研究を念入りにしておくこと(8回～14回/60分程度) ・入院及び通院患者が抱える問題や課題を調べリストアップしておく(1回～15回/60分程度) ・事後学習は、テーマについての情報収集をして記述してまとめる(2回～14回/15分程度)						
成績評価							
1、プレゼンテーション力確認の小テスト3回 2、企画書の提出と発表 3、貢献度							
評価項目		割合	評価基準				
プレゼンテーション習得確認テスト		40%	言語表現、非言語表現に関する対人力の理解と習得を確認				
企画書の提出・発表、発表への質問		60%	パワーポイントの記述項目と発表力と質問の仕方				
授業の実施方法と授業計画	・授業の実施方法 1、配布テキスト(配布データ) 講義(説明) 2、自己理解を深める「自己診断チェック表」を用いる 3、自己ワークで定着を促す 4、グループワークで他者理解を深める 5、発表、発表などの質問 6、フィードバック ふりかえり、意見共有 など ・授業計画 第1回(講義・演習) プレゼンテーション概要 第2回(講義・演習) 伝える技術と効果的な表現 第3回(講義・演習) 自己認識と他者認識 第4回(講義・演習) 信頼関係をつくる(ラポールテクニック) 第5回(講義・演習) 伝わる話し方、聴き方 第6回(講義・演習) 上手く発表できる話し方 第7回(講義・演習) 相手を行動変容させる応対力 第8回(講義・演習) 企画書・提案書を書くコツ 第9回(講義・演習) 市場動向・事業計画・収支計画の作成方法 第10回(演習) プレゼン企画書作成①プレゼン課題テーマについて説明。 入院患者、通院患者、患者家族、看護師、地域医療などの対象と対象者の課題解決や有効性のあるプランを企画書にまとめる 第11回(演習) プレゼン企画書作成②テーマ決め、パワーポイントを使う効果と基本の使い方 第12回(演習) プレゼン企画書作成③各自作成、ストーリーテリング 第13回(演習) プレゼン企画書作成④各自作成、個別確認 第14回(演習) プレゼン企画書作成⑤各自作成、発表原稿の作成方法 第15回(発表会) プレゼンテーション発表会 (発表会の方法) ①人数によって異なるが、4名1グループとして個々に5分間発表をする ②10の審査項目から、全員審査をする ※審査用紙は事前に配布 ③審査用紙を集計後、グループで1名を選定 ④発表後は、互いにフィードバックや意見交換を行う ⑤プレゼンシートは指定のフォルダに全員保存し提出する ・フィードバック方法 ・プランに対して個別に情報提供とフィードバックをする						
ナンバリング	NREL1004						

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード	95390		
科目	9539 英語 I			授業種別	週間授業		
担当教員	船井 純平			単位数	1		
その他担当者							
授業概要	大学生に必要な基礎英語（基礎文法、語法、語彙、表現）を、ハンドアウトとオーディオ補助教材等を通して段階的に学習する。単にテキストの解説をしたり、演習問題に取り組みさせて言葉を習得させるだけではなく、様々な風俗習慣や民族性をもつ人々の言動を通して、言語と思想との関わりを理解し、母国語を含めた言語一般に対する興味や国際感覚を養う。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性		○					◎
到達目標	①基礎的な文法事項を理解し、辞書を用いて英文を正しく読むことができる。 ②音の変化を理解し、英語で話されているものを正しく聞くことができる。 ③英語圏の文化を理解し、説明できる。						
テキスト（教科書）	ハンドアウトを使用する。						
参考書および参考文献	適宜、指示する。						
受講条件	必修科目						
事前・事後学修（内容・時間）	毎授業前に指定された事前学修（長文の単語を調べて、意味が分かるようにする）を行うこと（毎回1時間程度） 毎授業後に学修した内容について復習すること（毎回1時間程度）						
成績評価							
原則として毎回出席すること。中間試験（40％）、定期試験（40％）、授業中の課題（20％）をあわせて評価する。なお、遅刻、早退、欠席および受講態度不良の場合は減点の対象となる。							
評価項目			割合	評価基準			
中間試験			40％	筆記試験により、授業内容をどの程度理解したかを評価する。			
定期試験			40％	筆記試験により、授業内容をどの程度理解したかを評価する。			
授業中の課題			20％	授業中の課題への取り組みについて評価する。			
授業の実施方法と授業計画	*中間試験・期末試験は採点後速やかに返却し、授業内で解説を行う。また、授業中の課題および質問に対してはその都度フィードバックを行う。 1回目（講義） 授業ガイダンス 2回目（講義・演習） 口語表現（日常生活、食事、学校、交通） 3回目（講義・演習） 新聞・ニュース記事（海外事情、文化） 4回目（講義・演習） 日常会話リスニング / コロケーション 5回目（講義・演習） 英文読解（Wikipedia） / 口語表現（比喻） 6回目（講義・演習） 英語の歌リスニング ① 7回目（講義・演習） リスニング（situation comedy①） 8回目（演習） 中間まとめ 9回目（講義・演習） リスニング（映画① 視聴） 10回目（講義・演習） リスニング（映画② リスニング・表現） 11回目（講義・演習） 口語表現（ビジネス、健康） 12回目（講義・演習） リスニング（situation comedy②） 13回目（講義・演習） 英語の歌リスニング② 14回目（講義・演習） リスニング（situation comedy③） 15回目（演習） 期末まとめ *ただし受講生の習熟度によって内容を変更することがある。						
ナンバリング	NRCL1003						

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード	95391		
科目	9539 英語 I			授業種別	週間授業		
担当教員	船井 純平			単位数	1		
その他担当者							
授業概要	大学生に必要な基礎英語（基礎文法、語法、語彙、表現）を、ハンドアウトとオーディオ補助教材等を通して段階的に学習する。単にテキストの解説をしたり、演習問題に取り組みさせて言葉を習得させるだけではなく、様々な風俗習慣や民族性をもつ人々の言動を通して、言語と思想との関わりを理解し、母国語を含めた言語一般に対する興味や国際感覚を養う。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性		○					◎
到達目標	①基礎的な文法事項を理解し、辞書を用いて英文を正しく読むことができる。 ②音の変化を理解し、英語で話されているものを正しく聞くことができる。 ③英語圏の文化を理解し、説明できる。						
テキスト（教科書）	ハンドアウトを使用する。						
参考書および参考文献	適宜、指示する。						
受講条件	必修科目						
事前・事後学修（内容・時間）	毎授業前に指定された事前学修（長文の単語を調べて、意味が分かるようにする）を行うこと（毎回1時間程度） 毎授業後に学修した内容について復習すること（毎回1時間程度）						
成績評価	原則として毎回出席すること。中間試験（40％）、定期試験（40％）、授業中の課題（20％）をあわせて評価する。なお、遅刻、早退、欠席および受講態度不良の場合は減点の対象となる。						
評価項目		割合	評価基準				
中間試験		40％	筆記試験により、授業内容をどの程度理解したかを評価する。				
定期試験		40％	筆記試験により、授業内容をどの程度理解したかを評価する。				
授業中の課題		20％	授業中の課題への取り組みについて評価する。				
授業の実施方法と授業計画	＊中間試験・期末試験は採点後速やかに返却し、授業内で解説を行う。また、授業中の課題および質問に対してはその都度フィードバックを行う。						
	1回目（講義） 授業ガイダンス 2回目（講義・演習） 口語表現（日常生活、食事、学校、交通） 3回目（講義・演習） 新聞・ニュース記事（海外事情、文化） 4回目（講義・演習） 日常会話リスニング / コロケーション 5回目（講義・演習） 英文読解（Wikipedia） / 口語表現（比喻） 6回目（講義・演習） 英語の歌リスニング ① 7回目（講義・演習） リスニング（situation comedy①） 8回目（演習） 中間まとめ 9回目（講義・演習） リスニング（映画① 視聴） 10回目（講義・演習） リスニング（映画② リスニング・表現） 11回目（講義・演習） 口語表現（ビジネス、健康） 12回目（講義・演習） リスニング（situation comedy②） 13回目（講義・演習） 英語の歌リスニング② 14回目（講義・演習） リスニング（situation comedy③） 15回目（演習） 期末まとめ ＊ただし受講生の習熟度によって内容を変更することがある。						
ナンバリング	NRCL1003						

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	95400			
科目	9540 英語Ⅱ			授業種別	週間授業			
担当教員	船井 純平			単位数	2			
その他担当者								
授業概要	大学生に必要な基礎的な英語を、ハンドアウトとオーディオ教材を通して段階的に学習する。言葉の学習のみならず、テキストやビデオに登場する様々な人々の言動や背景を通して外国事情を理解し、国際感覚を養う。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性		○					◎	
到達目標	①発展的な文法事項を理解し、様々なジャンルの英文を正しく読むことができる。 ②実際に英語圏で話されている英語を聞いて、内容を正しく聞き取ることができる。 ③英語圏の文化と英語の関わりを理解し、説明できる。							
テキスト(教科書)	ハンドアウトを配布する。							
参考書および参考文献	適宜、指示する。							
受講条件	特になし							
事前・事後学修(内容・時間)	毎授業前に指定された事前学習(長文の単語を調べて、意味が分かるようにする)を行うこと(毎回1.5時間程度) 毎授業後に学修した内容について復習すること(毎回1.5時間程度)							
成績評価								
原則として毎回出席すること。中間試験(40%)、定期試験(40%)、授業中の課題(20%)をあわせて評価する。なお、遅刻、早退、欠席および受講態度不良の場合は減点の対象となる。								
評価項目	割合	評価基準						
中間試験	40%	筆記試験により、授業内容をどの程度理解したかを評価する。						
定期試験	40%	筆記試験により、授業内容をどの程度理解したかを評価する。						
授業中の課題	20%	授業中の課題への取り組みについて評価する。						
授業の実施方法と授業計画	*中間試験・期末試験は採点後速やかに返却し、授業内で解説を行う。また、授業中の課題および質問に対してはその都度フィードバックを行う。							
	1回目(講義) ガイダンス 2回目(講義・演習) 英語の歌リスニング① 3回目(講義・演習) リーディング(英語の看板、漫画) 4回目(講義・演習) リーディング(Snack review) / 風刺画 5回目(講義・演習) リスニング(situation comedy①) 6回目(講義・演習) リーディング(犬種) 7回目(講義・演習) 英語の歌リスニング② 8回目(演習) 中間まとめ 9回目(講義・演習) リスニング(映画③ 視聴) 10回目(講義・演習) リスニング(映画④ リスニング・表現) 11回目(講義・演習) ライティング/ 日常表現 12回目(講義・演習) 英語の歌リスニング③ 13回目(講義・演習) 語彙力診断 / 口語表現(情報、通信) 14回目(講義・演習) 接頭辞・接尾辞 15回目(演習) 期末まとめ							
	*ただし受講生の習熟度によって内容を変更することがある。 *授業中の課題について、全体で共有すべき質問等に対しては授業内でフィードバックを行う							
ナンバリング	NRFL1003							

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード	95410			
科目	9541 英語コミュニケーションⅠ			授業種別	週間授業			
担当教員	Stewart Gale			単位数	2			
その他担当者	船井 純平							
授業概要	English conversation course. All classes are taught in English. The course is heavily focused on maximizing students' communication time.							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性		○					◎	
到達目標	Students will learn English useful for confidently communicating with people from other countries through a variety of topics.							
テキスト(教科書)	Let's Chat!, EFL Press, 2007, John Pak ISBN 458 0 24 442005 6							
参考書および参考文献								
受講条件	Students should bring an English dictionary.							
事前・事後学修(内容・時間)	Students should review the English grammar they learned at Junior High School and High School, such as how to form questions and the appropriate usage of tenses (present / past / future etc.). Students should spend 60 minutes at home reviewing each class and preparing for the next week's class.							
成績評価								
Classwork 30% Final exam 70%								
評価項目		割合		評価基準				
Classwork		30%		Participation / Pronunciation				
Final exam		70%		Paper test				
授業の実施方法と授業計画	Time will be allocated in every class for student feedback and questions. In addition to these core topics, there will also be time allocated to English language games and puzzles.							
	1 - (Lecture, drill and pairwork) Introductions and pair interviews.							
	2 - (Lecture, drill and pairwork) Useful classroom English questions and expressions and getting to know your partner.							
	3 - (Lecture, drill and pairwork) Sport and leisure.							
	4 - (Lecture, drill and pairwork) Shopping and big numbers.							
	5 - (Lecture, drill and pairwork) Food.							
	6 - Documentary video and discussion.							
	7 - (Lecture, drill and pairwork) Travel.							
	8 - (Lecture, drill and pairwork) Movies and television.							
	9 - (Pairwork) Quiz.							
	10 - (Lecture, drill and pairwork) Health.							
	11 - Documentary video and discussion.							
	12 - (Lecture, drill and pairwork) Relationships and marriage.							
	13 - (Lecture, drill and pairwork) Music and books and the passive tense.							
	14 - (Lecture, drill and pairwork) Japanese culture.							
15 - Review.								
ナンバリング	NRCL1004							

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	95420		
科目	9542 英語コミュニケーションⅡ			授業種別	週間授業		
担当教員	Stewart Gale			単位数	2		
その他担当者	船井 純平						
授業概要	English conversation course. All classes are taught in English. The course is heavily focused on maximizing students' communication time.						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性		○					◎
到達目標	Students will learn English useful for confidently communicating with people from other countries through a variety of topics with an added focus on multicultural understanding.						
テキスト(教科書)	No textbook – classroom material will be provided.						
参考書および参考文献							
受講条件	Pre-requisite - pass English Communication 1. Students should bring an English dictionary.						
事前・事後学修(内容・時間)	Students should review the material studied in English Communication 1. Students should spend 60 minutes at home reviewing each class and preparing for the next week's class.						
成績評価							
Classwork 30%							
Final exam 70%							
評価項目	割合		評価基準				
Classwork	30%		Participation / Pronunciation				
Final exam	70%		Paper test				
授業の実施方法と授業計画	Time will be allocated in every class for student feedback and questions. In addition to these core topics, there will also be time allocated to English language games and puzzles.						
	1 - (Lecture, drill and pairwork) Self introductions and pair interviews.						
	2 - (Lecture, drill and pairwork) Differences between British English and American English.						
	3 - (Lecture, drill and pairwork) Discuss high school memories and compare with high school life in the UK.						
	4 - Documentary video and discussion.						
	5 - (Lecture, drill and pairwork) Manners in different countries and taboo questions.						
	6 - (Lecture, drill and pairwork) Examine the UK and the UK's culture.						
	7 - (Lecture, drill and pairwork) Examine the USA and American culture.						
	8 - (Lecture, drill and pairwork) Discuss technology and invent a new product.						
	9 - Documentary video and discussion.						
	10 - (Pairwork) Quiz.						
	11 - (Lecture, drill and pairwork) Money, big numbers, foreign currencies and discussion about shopping.						
	12 - (Lecture, drill and pairwork) Food.						
	13 - (Lecture, drill and pairwork) Music.						
	14 - (Lecture, drill and pairwork) Travel and modes of transport.						
15 - Review.							
ナンバリング	NRFL1004						

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード	95430			
科目	9543 英語コミュニケーションⅢ			授業種別	週間授業			
担当教員	Stewart Gale			単位数	2			
その他担当者	船井 純平							
授業概要	English conversation course. All classes are taught in English. The course is heavily focused on maximizing students' communication time.							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性		○					◎	
到達目標	Students will use the English learned and practiced in English Communication 1 and 2 to talk about a more complex range of topics. A large focus will be placed on multicultural understanding.							
テキスト(教科書)	No textbook – classroom material will be provided.							
参考書および参考文献								
受講条件	Pre-requisite - pass English Communication 1 and 2. Students should bring an English dictionary.							
事前・事後学修 (内容・時間)	Students should review the material studied in English Communication 2. Students should spend 60 minutes at home reviewing each class and preparing for the next week's class.							
成績評価								
Classwork 30%								
Final exam 70%								
評価項目		割合		評価基準				
Classwork		30%		Participation / Pronunciation				
Final exam		70%		Paper test				
授業の実施方法と授業計画	Time will be allocated in every class for student feedback and questions. In addition to these core topics, there will also be time allocated to English language games and puzzles.							
	1 - (Lecture, drill and pairwork) Self introductions and pair interviews.							
	2 - (Lecture, drill and pairwork) Scotland, Scottish schools and how they compare to Japanese schools.							
	3 - (Lecture, drill and pairwork) Fashion and trends.							
	4 - Documentary video and discussion.							
	5 - (Lecture, drill and pairwork) Attitudes to money and spending.							
	6 - (Lecture, drill and pairwork) Food and recipes.							
	7 - (Solowork) Using the Internet in English.							
	8 - (Lecture, drill and pairwork) Examine Australia and Australian culture.							
	9 - Documentary video and discussion.							
	10 - (Pairwork) Quiz.							
	11 - (Lecture, drill and pairwork) Looking at various life and social situations and how you would deal with them.							
	12 - (Lecture, drill and pairwork) Dating and marriage.							
	13 - (Lecture, drill and pairwork) Health and lifestyle.							
	14 - (Lecture, drill and pairwork) Tourism and culture in Japan.							
15 - Review.								
ナンバリング	NRAL2004							

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード	95440			
科目	9544 ドイツ語入門Ⅰ			授業種別	週間授業			
担当教員	加藤 皓士			単位数	2			
その他担当者								
授業概要	この授業では、自己紹介、買い物、道を尋ねるなどの具体的な場面でドイツ語での会話を学びながら、簡単な会話ができるようにし、基礎的なドイツ語の初歩的なレベルの文法について習得することを目的とする。 あわせてドイツという国や、ドイツ人の暮らしや生き方についても見ていくことで多様な文化のあり方についても学ぶ。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性		○					◎	
到達目標	① ドイツ語らしい発音ができる。 ② ドイツ語の簡単なあいさつができる。 ③ ドイツ語で数字が言える。 ④ 自分のことや旅行で使える表現がドイツ語で言える。 ⑤ ドイツ人のライフスタイルを知り、日本人としての教養を深める。							
テキスト(教科書)	大園正彦他著 『Grundstufe Deutsch -3.Ausgabe』(三修社 定価2600円) ISBN978-4-384-12311-1 C1084							
参考書および参考文献	特になし。授業の中で指示する。							
受講条件								
事前・事後学修(内容・時間)	毎回、前回の授業で学んだことを確認するための小テストを実施するので、授業後にテキストやノート、プリント類を見直してください(90分×15回)。							
成績評価								
定期試験 70% 授業内での小テスト、中間テスト(1回) 30% ※点数の換算の仕方についてはガイダンスでお話しします。								
評価項目	割合		評価基準					
定期試験	70%		筆記試験にて理解度を確認します。					
小テスト、中間テスト	30%		授業の中で学んだことを理解できているのかどうかを筆記試験にて確認します。					
授業の実施方法と授業計画	この授業では、中学1年生で学ぶ英語レベルのドイツ語を学びます。ですから、高等学校の英語でつまづいた人でも、大丈夫です。 ドイツ語はルールが少し多いですが、英語よりも規則的で読み方も簡単です。 テキストは必ず購入しておくこと。テキストのない人は、出席および授業参加点がゼロになります。							
	1回 [講義]ガイダンス							
	2回 [講義]アルファベットとドイツ語の読み方							
	3回 [講義]ドイツ語のあいさつと数字、曜日、月の読み方							
	4回 [講義]人称代名詞・人称変化							
	5回 [講義]平叙文と疑問文 自己紹介							
	6回 [講義]定冠詞・不定冠詞							
	7回 [講義]定冠詞・不定冠詞・否定 文章読解							
	8回 [講義]人称代名詞の格変化							
	9回 [講義]複数形							
	10回 [講義]復習							
	11回 [講義]復習、中間テスト							
	12回 [講義]前置詞・前置詞の格支配 簡単に書いてみよう							
	13回 [講義]前置詞・前置詞の格支配							
	14回 [講義]所有冠詞							
15回 [講義]半期の振り返りと補足事項								
※皆さんの様子を見ながらゆっくりと授業は進みます。 ※小テストを毎回行い、皆さんが理解できなかったところを確認し、授業中に復習します。 ※受講生の習熟度により授業計画を若干変更する可能性があります。								
ナンバリング	NRBL1002							

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード	95460			
科目	9546 中国語入門Ⅰ			授業種別	週間授業			
担当教員	石田 卓生			単位数	2			
その他担当者								
授業概要	この授業では、中国語の基礎的な能力を習得します。正確な中国語の発音ができるように学習をすすめて、基本的な文法事項を習得することによって中国語の基礎的なコミュニケーション能力を身に付けます。また、中国の文化や習慣を知ることによって、幅広い教養やグローバル社会で活動するための基礎的な知識を修得します。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性		○					◎	
到達目標	日本と地理的に近く、ビジネス社会において今後ますます重要な存在になっていくと考えられる中国語圏の人々とコミュニケーションを図るための語学力を身につけるために到達目標を以下のようになります。 1) 正確な中国語の発音ができる 2) 中国語のローマ字発音表記を読むことができる 3) 教科書の文章を読解することができる 4) 中国語で自己紹介の文章を書くことができる 5) 中国語で自己紹介のスピーチをすることができる							
テキスト(教科書)	相原 茂 / 郭雲輝『新訂 学ビテ時二之ヲ習フ 中国語入門』好文出版、2006年、ISBN4-87220-104-3、2,400円(税別)							
参考書および参考文献	講義中に適宜紹介します。							
受講条件	選択科目							
事前・事後学修(内容・時間)	事前学修：各回のテキストの単語・語句に目を通し、さらに発音をして予習をしておくこと(第1～15回：90分) 事後学修：各回のオンラインテストを受験し、分からなかった問題については復習をすること。さらに学習した文章を音読し、自然な発音ができるように練習すること(第1～15回：90分)							
成績評価								
定期試験、小テスト、課題によって授業の到達目標をどの程度クリアしたのかを評価します。遅刻2回で欠席1回とみなします。また、不誠実な学習態度は減点の対象となります。								
評価項目		割合	評価基準					
定期試験		60%	筆記試験によって学習成果を評価します。					
小テスト		20%	筆記試験によって学習成果を評価します。					
課題		20%	作成された課題によって学習成果を評価します。					
授業の実施方法と授業計画	各回の授業後に課題としてオンラインテストを行う。オンラインテストについて次回授業内で講評を行うことによって当該回の内容についてフィードバックをすると共に随時受講生からの質問に回答する。 第1回 ガイダンス 第1課声調、単母音(講義・演習) 第2回 第1課単母音、第2課複母音(講義・演習) 第3回 第2課子音(講義・演習) 第4回 第3課鼻音(講義・演習) 第5回 発音のまとめ 第4課声調の変化、組み合わせ(講義・演習) 第6回 第5課人称代詞、名前の言い方(講義・演習) 第7回 第5課復習・練習(講義・演習) 第8回 第6課動詞“是”、諾否疑問文、省略疑問文(講義・演習) 第9回 第6課復習・練習(講義・演習) 第10回 第7課動詞述語文、動詞+目的語、形容詞述語文(講義・演習) 第11回 第7課復習・練習(講義・演習) 第12回 第8課指示代詞、疑問詞疑問文、連体修飾語、存在を表す“有”、名詞の場所化(講義・演習) 第13回 第8課復習・練習(講義・演習) 第14回 第5－6課のまとめ(講義・演習) 第15回 第7－8課のまとめ(講義・演習) ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することがあります。							
ナンバリング	NRAL1003							

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード	95480			
科目	9548 看護・医療英語			授業種別	週間授業			
担当教員	船井 純平			単位数	1			
その他担当者								
授業概要	グローバル化の波は医療の世界にも押し寄せ、臨地場面で看護職に求められる英語力は年々高くなっている。また看護の質の向上という点からも世界と交流し情報交換していくことは重要である。そのため、本科目では特に臨床で活用できる英語力を養うことを目標とする。英文講読をするための能力、医療従事者として外国人と英語でコミュニケーションするための能力を養う。具体的には、看護関係の英文の要約を行うとともに、医療現場を扱ったビデオやCDを教材として用い、医療英語の表現法を修得する。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性		○					◎	
到達目標	①医療、看護に関する英語語彙を理解し、説明できる。 ②医療現場で行われる会話を正しく聞き取ることができる。 ③医療、看護に関する英文を正しく読むことができる。							
テキスト(教科書)	English for Medicine Revised Edition 金星堂 西原俊明/西原真弓/Carey Benom著 ISBN978-4-7647-4153-9							
参考書および参考文献	適宜、指示する。							
受講条件	必修科目 特になし							
事前・事後学修(内容・時間)	毎授業前に教科書の指定箇所を予習(Ⅲ長文の意味を調べて、意味が分かるようにする)しておくこと(毎回1時間程度) 毎授業後に学習した内容について復習すること(毎回1時間程度)							
成績評価								
原則として毎回出席すること。中間試験(40%)、定期試験(40%)、授業中の課題(20%)をあわせて評価する。なお、遅刻、早退、欠席および受講態度不良の場合は減点の対象となる。								
評価項目		割合	評価基準					
中間試験		40%	筆記試験により、授業内容をどの程度理解したかを評価する。					
定期試験		40%	筆記試験により、授業内容をどの程度理解したかを評価する。					
授業中の課題		20%	授業中の課題への取り組みについて評価する。					
授業の実施方法と授業計画	*中間試験・期末試験は採点後速やかに返却し、授業内で解説を行う。また、授業中の課題および質問に対してはその都度フィードバックを行う。 1回(講義) ガイダンス 2回(講義・演習) Chapter1(ポリオ等) 3回(講義・演習) Chapter2(処方箋等) 4回(講義・演習) Chapter3(花粉症等) 5回(講義・演習) Chapter4(薬剤等)、DVD(リスニング) 6回(講義・演習) Chapter5(不眠症等) 7回(講義・演習) Chapter7(SARS等) 8回(演習) 中間まとめ 9回(講義・演習) Chapter8(糖尿病等)、DVD(リスニング) 10回(講義・演習) Chapter9(動脈系疾患等) 11回(講義・演習) Chapter10(アメリカの医療保険等) 12回(講義・演習) Chapter11(食物アレルギー等) 13回(講義・演習) Chapter12(CTS等) 14回(講義・演習) Chapter13(更年期等) 15回(演習) 期末まとめ *ただし、受講生の習熟度によって授業計画を変更する場合がある							
ナンバリング	NRBL1006							

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード	95481			
科目	9548 看護・医療英語			授業種別	週間授業			
担当教員	船井 純平			単位数	1			
その他担当者								
授業概要	グローバル化の波は医療の世界にも押し寄せ、臨床場面で看護職に求められる英語力は年々高くなっている。また看護の質の向上という点からも世界と交流し情報交換していくことは重要である。そのため、本科目では特に臨床で活用できる英語力を養うことを目標とする。英文講読をするための能力、医療従事者として外国人と英語でコミュニケーションするための能力を養う。具体的には、看護関係の英文の要約を行うとともに、医療現場を扱ったビデオやCDを教材として用い、医療英語の表現法を修得する。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性		○					◎	
到達目標	①医療、看護に関する英語語彙を理解し、説明できる。 ②医療現場で行われる会話を正しく聞き取ることができる。 ③医療、看護に関する英文を正しく読むことができる。							
テキスト(教科書)	English for Medicine Revised Edition 金星堂 西原俊明/西原真弓/Carey Benom著 ISBN978-4-7647-4153-9							
参考書および参考文献	適宜、指示する。							
受講条件	必修科目 特になし							
事前・事後学修(内容・時間)	毎授業前に教科書の指定箇所を予習(Ⅲ長文の意味を調べて、意味が分かるようにする)しておくこと(毎回1時間程度) 毎授業後に学習した内容について復習すること(毎回1時間程度)							
成績評価								
原則として毎回出席すること。中間試験(40%)、定期試験(40%)、授業中の課題(20%)をあわせて評価する。なお、遅刻、早退、欠席および受講態度不良の場合は減点の対象となる。								
評価項目		割合	評価基準					
中間試験		40%	筆記試験により、授業内容をどの程度理解したかを評価する。					
定期試験		40%	筆記試験により、授業内容をどの程度理解したかを評価する。					
授業中の課題		20%	授業中の課題への取り組みについて評価する。					
授業の実施方法と授業計画	*中間試験・期末試験は採点後速やかに返却し、授業内で解説を行う。また、授業中の課題および質問に対してはその都度フィードバックを行う。 1回(講義) ガイダンス 2回(講義・演習) Chapter1(ポリオ等) 3回(講義・演習) Chapter2(処方箋等) 4回(講義・演習) Chapter3(花粉症等) 5回(講義・演習) Chapter4(薬剤等)、DVD(リスニング) 6回(講義・演習) Chapter5(不眠症等) 7回(講義・演習) Chapter7(SARS等) 8回(演習) 中間まとめ 9回(講義・演習) Chapter8(糖尿病等)、DVD(リスニング) 10回(講義・演習) Chapter9(動脈系疾患等) 11回(講義・演習) Chapter10(アメリカの医療保険等) 12回(講義・演習) Chapter11(食物アレルギー等) 13回(講義・演習) Chapter12(CTS等) 14回(講義・演習) Chapter13(更年期等) 15回(演習) 期末まとめ *ただし、受講生の習熟度によって授業計画を変更する場合がある							
ナンバリング	NRBL1006							

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	95510		
科目	9551 スポーツI			授業種別	週間授業		
担当教員	鈴木 康博			単位数	1		
その他担当者							
授業概要	生涯を通じて気軽にスポーツに親しむことは健康の維持・増進につながり、生活習慣病を予防するためにも必要である。また、スポーツに取り組むことは私たちの住む社会で受けるストレスを解消させるのに効果的である。 本授業では数種目のスポーツに取り組み、スポーツに対する関心、興味を高め、スポーツする習慣を身につけるように指導したい。 以上の内容を実習形式で行う。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性		○			◎		
到達目標	各種スポーツの特性を理解し、基本技術とルールを習得して自主的に試合に取り組むことができる。 また、より高い技能と体力が身につくよう、その学習過程において取り組む態度や仲間との協調性と安全性等の社会的ルールを図ることができる。						
テキスト(教科書)	なし						
参考書および参考文献	大修館書店 最新スポーツルール百科2022 ISBN: 978-4469269277						
受講条件	必修科目						
事前・事後学修(内容・時間)	毎授業前に、事前配布した資料等でルール等を確認しておくこと(第2～15回/20分程度)						
成績評価	原則として毎回出席すること。 ルールをしっかりと把握して、自主的に競技に取り組むこと。 なお、遅刻や劣悪な受講態度は減点の対象とする場合があります。						
評価項目	割合		評価基準				
授業コメントシート	30%		授業の感想を書く				
課題テスト	30%		技能の上達度を確認する。				
競技成績	30%		試合での対戦記録によって評価する。				
レポート課題	10%		教員の指示したテーマでレポートを書く				
授業の実施方法と授業計画	第 1 回	(講義) ガイダンス					
	第 2 回	(実技) ソフトバレー① 基礎技術					
	第 3 回	(実技) ソフトバレー② 集団的プレー					
	第 4 回	(実技) ソフトバレー③ ゲーム					
	第 5 回	(実技) ソフトバレー④ ゲーム					
	第 6 回	(実技) バドミントン① 基礎技術					
	第 7 回	(実技) バドミントン② 集団的プレー					
	第 8 回	(実技) バドミントン③ ゲーム					
	第 9 回	(実技) バドミントン④ ゲーム					
	第10回	(実技) バドミントン⑤ ゲーム					
	第11回	(実技) 卓球① 基礎技術					
	第12回	(実技) 卓球② 応用技術					
	第13回	(実技) 卓球③ ゲーム					
	第14回	(実技) 卓球④ ゲーム					
	第15回	(実技) 卓球⑤ ゲーム					
	授業の実施方法と授業計画	※適宜課題テストや質疑等にフィードバックをおこなう ※ただし、履修学生数によって種目を変更することもある。					
ナンバリング	NRGL1003						

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	95511		
科目	9551 スポーツI			授業種別	週間授業		
担当教員	鈴木 康博			単位数	1		
その他担当者							
授業概要	生涯を通じて気軽にスポーツに親しむことは健康の維持・増進につながり、生活習慣病を予防するためにも必要である。また、スポーツに取り組むことは私たちの住む社会で受けるストレスを解消させるのに効果的である。 本授業では数種目のスポーツに取り組み、スポーツに対する関心、興味を高め、スポーツする習慣を身につけるように指導したい。 以上の内容を実習形式で行う。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性		○			◎		
到達目標	各種スポーツの特性を理解し、基本技術とルールを習得して自主的に試合に取り組むことができる。 また、より高い技能と体力が身につくよう、その学習過程において取り組む態度や仲間との協調性と安全性等の社会的ルールを図ることができる。						
テキスト(教科書)	なし						
参考書および参考文献	大修館書店 最新スポーツルール百科2022 ISBN: 978-4469269277						
受講条件	必修科目						
事前・事後学修(内容・時間)	毎授業前に、事前配布した資料等でルール等を確認しておくこと(第2～15回/20分程度)						
成績評価	原則として毎回出席すること。 ルールをしっかりと把握して、自主的に競技に取り組むこと。 なお、遅刻や劣悪な受講態度は減点の対象とする場合があります。						
評価項目		割合	評価基準				
授業コメントシート		30%	授業の感想を書く				
課題テスト		30%	技能の上達度を確認する。				
競技成績		30%	試合での対戦記録によって評価する。				
レポート課題		10%	教員の指示したテーマでレポートを書く				
授業の実施方法と授業計画	第 1 回	(講義) ガイダンス					
	第 2 回	(実技) ソフトバレー① 基礎技術					
	第 3 回	(実技) ソフトバレー② 集団的プレー					
	第 4 回	(実技) ソフトバレー③ ゲーム					
	第 5 回	(実技) ソフトバレー④ ゲーム					
	第 6 回	(実技) バドミントン① 基礎技術					
	第 7 回	(実技) バドミントン② 集団的プレー					
	第 8 回	(実技) バドミントン③ ゲーム					
	第 9 回	(実技) バドミントン④ ゲーム					
	第10回	(実技) バドミントン⑤ ゲーム					
	第11回	(実技) 卓球① 基礎技術					
	第12回	(実技) 卓球② 応用技術					
	第13回	(実技) 卓球③ ゲーム					
	第14回	(実技) 卓球④ ゲーム					
	第15回	(実技) 卓球⑤ ゲーム					
	授業の実施方法と授業計画	※適宜課題テストや質疑等にフィードバックをおこなう ※ただし、履修学生数によって種目を変更することもある。					
ナンバリング	NRGL1003						

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード	95520		
科目	9552 スポーツⅡ			授業種別	週間授業		
担当教員	鈴木 康博			単位数	1		
その他担当者							
授業概要	生涯を通じて気軽にスポーツに親しむことは健康の維持・増進につながり、生活習慣病を予防するためにも必要である。またスポーツは、ストレスを解消させるために効果的である。 本授業では数種類のスポーツに取り組みながら、スポーツに対する興味や関心を持ち、スポーツをする習慣を身につけることを目指す。 さらに年齢や特性に適したスポーツの在り方、心身の健康に対してより効果的な生活への取り入れ方を学ぶ。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性		○			◎		
到達目標	各種スポーツの特性を理解し、基本技術とルールを習得して自主的に試合に取り組めるようになる。また、より高い技能と体力が身につくよう、その学習過程において取り組む態度や仲間との協調性と安全性等の社会的ルールを図れるようになる。						
テキスト（教科書）	なし						
参考書および参考文献	大修館書店 最新スポーツルール2022 ISBN: 978-4469269277						
受講条件	特になし						
事前・事後学修（内容・時間）	毎授業前に、事前配布した資料等でルール等を確認しておくこと（第2～15回/20分程度）						
成績評価							
原則として毎回出席すること。 ルールをしっかりと把握して、自主的に競技に取り組めること。 なお、遅刻や劣悪な受講態度は減点の対象とする場合があります。							
評価項目		割合	評価基準				
授業コメントシート		30%	授業の感想を書く				
課題テスト		30%	技能の上達度を確認する。				
競技成績		30%	試合での対戦記録によって評価する。				
レポート課題		10%	教員の指示したテーマでレポートを書く				
授業の実施方法と授業計画	第 1 回	(講義) ガイダンス					
	第 2 回	(実技) ソフトバレー① 基礎技術					
	第 3 回	(実技) ソフトバレー② 集団的プレー					
	第 4 回	(実技) ソフトバレー③ ゲーム					
	第 5 回	(実技) バスケットボール①基礎技術					
	第 6 回	(実技) バスケットボール②集団的プレー					
	第 7 回	(実技) バスケットボール③ゲーム					
	第 8 回	(実技) バスケットボール④ゲーム					
	第 9 回	(実技) フットサル①基礎技術					
	第10回	(実技) フットサル②集団的プレー					
	第11回	(実技) フットサル③ゲーム					
	第12回	(実技) フットサル④ゲーム					
	第13回	(実技) バドミントン①基礎技術					
	第14回	(実技) バドミントン②ゲーム					
	第15回	(実技) バドミントン③ゲーム					
	※適宜課題テストや質疑等へフィードバックをおこなう。 ※ただし、履修学生数によって種目を変更することもある。						
ナンバリング	NRBL2007						

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード	95521		
科目	9552 スポーツⅡ			授業種別	週間授業		
担当教員	鈴木 康博			単位数	1		
その他担当者							
授業概要	生涯を通じて気軽にスポーツに親しむことは健康の維持・増進につながり、生活習慣病を予防するためにも必要である。またスポーツは、ストレスを解消させるために効果的である。 本授業では数種類のスポーツに取り組みながら、スポーツに対する興味や関心を持ち、スポーツをする習慣を身につけることを目指す。 さらに年齢や特性に適したスポーツの在り方、心身の健康に対してより効果的な生活への取り入れ方を学ぶ。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性		○			◎		
到達目標	各種スポーツの特性を理解し、基本技術とルールを習得して自主的に試合に取り組めるようになる。また、より高い技能と体力が身につくよう、その学習過程において取り組む態度や仲間との協調性及び安全性等の社会的ルールを図れるようになる。						
テキスト（教科書）	なし						
参考書および参考文献	大修館書店 最新スポーツルール2022 ISBN: 978-4469269277						
受講条件	特になし						
事前・事後学修（内容・時間）	毎授業前に、事前配布した資料等でルール等を確認しておくこと（第2～15回/20分程度）						
成績評価							
原則として毎回出席すること。 ルールをしっかりと把握して、自主的に競技に取り組めること。 なお、遅刻や劣悪な受講態度は減点の対象とする場合があります。							
評価項目		割合	評価基準				
授業コメントシート		30%	授業の感想を書く				
課題テスト		30%	技能の上達度を確認する。				
競技成績		30%	試合での対戦記録によって評価する。				
レポート課題		10%	教員の指示したテーマでレポートを書く				
授業の実施方法と授業計画	第 1 回	(講義) ガイダンス					
	第 2 回	(実技) ソフトバレー① 基礎技術					
	第 3 回	(実技) ソフトバレー② 集団的プレー					
	第 4 回	(実技) ソフトバレー③ ゲーム					
	第 5 回	(実技) バスケットボール①基礎技術					
	第 6 回	(実技) バスケットボール②集団的プレー					
	第 7 回	(実技) バスケットボール③ゲーム					
	第 8 回	(実技) バスケットボール④ゲーム					
	第 9 回	(実技) フットサル①基礎技術					
	第10回	(実技) フットサル②集団的プレー					
	第11回	(実技) フットサル③ゲーム					
	第12回	(実技) フットサル④ゲーム					
	第13回	(実技) バドミントン①基礎技術					
	第14回	(実技) バドミントン②ゲーム					
	第15回	(実技) バドミントン③ゲーム					
	※適宜課題テストや質疑等へフィードバックをおこなう。 ※ただし、履修学生数によって種目を変更することもある。						
ナンバリング	NRBL2007						

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード	95550			
科目	9555 健康科学			授業種別	週間授業			
担当教員	鈴木 知代			単位数	1			
その他担当者								
授業概要	健康は、それ自体が目的ではなく豊かな人生をすごすための資源や力だと言われている。また、私たちの健康は、生物学的な要因だけではなく社会的要因によっても影響を受けている。必要なことは自分で健康を維持したり回復したりして、動的に変化させられる力をつけることであり、私たちを取り巻く社会的要因や環境にも目を向けることである。自分や家族が取り巻く環境と、より良い関係を築きながら健康を維持・増進させ、QOLを高め充実した生活を送るための健康管理の考え方や実践方法について学ぶ。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性			○	◎				
到達目標	1. 私たちの健康は生物学的な要因、社会的な要因、私たちを取り巻く環境から影響を受けていることを述べることができる。 2. 生涯を通してQOLを向上させ充実した生活をおくることができるための健康管理に関する基礎的知識を身につけ、その実践方法を考察できる。 3. 他者に修得した知識を的確に伝えることができる。							
テキスト(教科書)	授業内容に合わせて資料を配布する。							
参考書および参考文献	適宜、必要に応じて紹介する。							
受講条件	必修科目							
事前・事後学修(内容・時間)	①授業内で提示する内容について事前に調べて授業に参加すること(第2、4、5～8回/60分程度)。 ②授業後には、事前学修、授業を通してテーマを深める内容を追加する(第2、4、5～8回/30分程度)。							
成績評価								
原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価する。授業前後の課題レポート、定期試験(レポート)等で総合的に評価する。なお、遅刻、早退や他の学生に迷惑になる授業態度は減点の対象とする場合がある。								
評価項目			割合	評価基準				
課題レポート			40%	自分の生活の中での健康課題について、根拠資料を用いて考察する。評価基準はルーブリックで示す。				
定期試験			50%	レポート。現代の健康問題について、資料を用いて多面的に考察する。評価基準はルーブリックで示す。				
グループディスカッション参加度			10%	グループディスカッションへの参加状況、発言内容等				
授業の実施方法と授業計画	事前・事後課題に関しては授業の中でフィードバックを行う。課題レポート・最終レポートについては、コメントを返す。							
	第1回 健康に生きる力(講義) 日常生活と健康について学ぶ。							
	第2回 ヘルスリテラシー①(講義) 健康を決めるための信頼できる情報とは何かについて学ぶ。							
	第3回 ヘルスリテラシー②(講義) 健康情報を活用して適切な意思決定をするための考え方や方法について学ぶ。							
	第4回 健康の社会的決定要因と健康格差について(講義)							
	第5回 健康管理①(健康を守るために何をするか) 睡眠と健康 : 講義とグループディスカッション							
	第6回 健康管理② 薬物と健康 : 講義とグループディスカッション:							
	第7回 健康管理③ 感染症予防 : 講義とグループディスカッション							
	第8回 健康管理④ ストレス : 講義とグループディスカッション							
	*ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。							
ナンバリング	NRBL1007							

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	95600			
科目	9560 東三河創造入門			授業種別	週間授業			
担当教員	八木 幸一			単位数	2			
その他担当者	斉本 美津子、山田 洋巳							
授業概要	本学の教育理念は「地域社会との連携のもとに、次世代を担うための職能教育を行い、その過程において人間的な成長を促す」ことである。本学が位置する東三河地域についてどのような地域資源があり、どのような地域課題があるのかを学修する。その中から自らテーマを選び、グループのメンバーとともに、実際に地域に足を運び、生きた情報を収集する。そして、この地域の未来を創造するために必要な課題について自らの考えをまとめる。その際、自分が所属する学科以外のグループメンバーと協同作業を行うことで、専門知識のみにとらわれない幅広い視点から課題を検討する力を修得する。 *この科目は当該授業内容に関する実務経験を有する教員等がその実務経験を生かして講義等を行う科目です。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性					○		◎	
到達目標	1. 東三河地域の特徴や地域で行われている活動を調べ、自分たちが取り組む活動の根拠となる地域課題を検討することができる。 2. 検討した地域課題に対して、解決のために行われている実際の活動に参加するための計画を立てることができる。 3. 実際に活動に参加し、活動の内容をまとめることができる。 4. 一連のプロセスを通して、未来を想像するための必要な地域課題について考察することができる。							
テキスト(教科書)	なし							
参考書および参考文献	取り組む内容に応じて適宜紹介する。							
受講条件	受講条件はありません。							
事前・事後学修(内容・時間)	・オリエンテーションで配布された資料を読み返し、発表・議論・各種調査内容をイメージし、各回の活動内容や運営について主体的に検討すること(第1～6回/60分程度) ・検討した事項をグループメンバーと共有できるよう資料としてまとめるとともに、メンバー間でその内容について検討すること(第1～6回/60分程度) ・グループメンバーと協力して発表資料の作成やフィールドワークを適宜実践すること(第7～15回/120分程度)							
成績評価	活動計画書と中間報告プレゼンテーション、最終発表プレゼンテーションをルーブリックを用いて評価する。なお、遅刻や早退、劣悪な授業態度は減点対象とすることがある。							
評価項目		割合	評価基準					
活動計画書		20%	ルーブリックを用いて活動計画書の作成過程及び内容の評価する。					
中間報告プレゼンテーション		30%	ルーブリックを用いて中間報告プレゼンテーションの作成過程および内容の評価する。					
最終発表プレゼンテーション		50%	ルーブリックを用いて最終発表プレゼンテーションの作成過程及び内容の評価する。					
授業の実施方法と授業計画	1回目 (講義・演習) オリエンテーションとテーマ紹介 2・3回目: (講義・演習) プロジェクトグループ毎に活動計画書の作成 4～6回目: (講義・演習) テーマに関する調べ学習(プロジェクト学修の準備) 7回目 (演習) プロジェクトの中間報告 8～10回目: (演習) プロジェクト活動(フィールドワーク) 11～13回目: (講義・演習) プロジェクト活動に対するまとめ 14回目: (演習) プロジェクトの最終発表 15回目: (講義・演習) グループ間ディスカッション ※ 8～13回まではグループ毎に時間配分を調整できる。 ※ 活動計画書や中間プレゼンテーションおよび最終発表の内容について、フィードバックを行う。またグループ学習の内容についても授業時間内で適宜フィードバックを行う。 ※ 受講生の習得度に応じて義授計画を変更することもあり得る。							
ナンバリング	NRBL2009							

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード		95190		
科目	9519 東三河の歴史風土と文化			授業種別		週間授業		
担当教員	高橋 大輔			単位数		1		
その他担当者								
授業概要	東三河地域の自然・風土、暮らし、産業経済、インフラなどの現況と今後の展望について、都市部・中山間地といった地理的特性に応じて具体的な事象や実例を学び、将来の実務や生活に役立てる。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性		○		○	○			
到達目標	1. 東三河地域の自然・風土、人口問題等について都市部・中山間地の視点からその違いと課題を、統計等を用いて学習する。 2. グローバルとローカルの視点から自然災害や環境リスクを捉え、我々の実生活への対応を考える。 3. 東三河の代表的な産業である「農業」「製造業」の現況や今後成長が期待される「観光産業」、それらを支えている道路・港湾、都市計画等のインフラ基盤について、実態や政策を学習する。 4. 以上を通じて、東三河の地域理解を目指す。							
テキスト(教科書)	特定にテキストはなし。講義毎にレジュメ、資料を配布します。							
参考書および参考文献	特定の参考書等はなし。講義の中でテーマに応じて適宜紹介します。							
受講条件	特になし。							
事前・事後学修(内容・時間)	【事前学修】書籍、新聞等に目を通し、関連する社会動向に関心を持って講義に臨んでください。(30分) 【事後学修】配布した講義資料の読み直しや内容整理により復習してください。提示する文献、書籍等により講義内容を深化させてください。(30分～60分)							
成績評価								
・授業内容の理解度を把握するため、毎回出席者に対してリアクションペーパーの提出を求めます。記述内容は、適宜指示します。 ・試験期間中を予定として単位認定試験を行います。 ・各回のリアクションペーパーの提出状況、演習(ディスカッション・発表)や単位認定試験等の内容で総合的に評価します。								
評価項目	割合		評価基準					
毎回のリアクションペーパーの提出と内容	30%		リアクションペーパーで授業内容の理解度を確認する。					
単位認定試験	70%		地域の実情を踏まえた問題指摘や今後の地域のあり方について提案が出来ているかどうか。					
授業毎に講義資料(プリント等)を配付し、投影するスライドに基づいて進めます。毎回、授業終了時にリアクションペーパーに記述し提出してください。その内容は、毎回指示します。 第1回 イントロダクション(講義) ・講義内容の紹介 ・東三河の歴史、地理的特徴、地域政策の解説 第2回 東三河の人口問題を考える(講義) ・我が国と東三河の人口動向(過去から未来の将来推計) ・人口問題(高齢化、少子化等)と対応策 第3回 東三河の自然環境と災害・環境問題(講義) ・グローバルな地理的特性と災害・環境リスク ・住民生活等を守る防災対策やソフト整備 第4回 東三河の産業経済活動の特性(講義) ・東三河の産業的位置づけと地域ポテンシャル ・自動車産業の大転換とCASE、MaaSの動向 第5回 東三河の地域計画と地域づくりの系譜(講義) ・国土計画の歴史と成果 ・都市計画の仕組み、中心市街地のまちづくり 第6回 私たちの生活や産業活動を支えるインフラ整備の動向①(講義) ・道路等のインフラ整備と次世代物流の潮流 ・東三河へのインパクト 第7回 私たちの生活や産業活動を支えるインフラ整備の動向②(講義) ・港湾都市づくりと港湾インフラ整備の歴史 ・臨海部を活用した地域振興の取り組み 第8回 豊橋を事例としたまちづくりの歴史とこれからの期待(講義) ・豊橋の都市発展の歴史 ・まちなかの文化、中心市街地活性化、賑わいの創出 定期試験 試験期間中を予定として単位認定試験を行う(試験) ・本講義の総括 リアクションペーパーに書かれた内容に対するフィードバックを講義時間内で行います。 第2回から第8回については、講義の内容・順序等が変わる場合もある。								
ナンバリング	NRBL2009							

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	95610		
科目	9561 データサイエンス入門			授業種別	週間授業		
担当教員	今井 正文			単位数	2		
その他担当者							
授業概要	本講義では、デジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養として「リテラシーレベル」の知識を身に付ける。また、学修した数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能をもとに、これらを使う際には、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意志でAI等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できるようになることを目指す。なお、はじめて学ぶ者にとっても理解できるように理論よりも演習に重点をおき平易な授業展開を目指す。 授業では、Classroomを活用して、教材（ビデオ、スライド）をもとにした小テストおよび課題提出を実施し、質疑応答やフィードバックなどはClassroomおよび双方向授業や対面授業の時間を設け併せて行う。 ※この科目は基本的にオンデマンド授業、一部を双方向授業や対面授業を併せて実施する。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性		○		◎			
到達目標	・データ・AIによって、社会および日常生活が大きく変化していることを理解できる ・「数理/データサイエンス/AI」が、今後の社会における「読み/書き/そろばん」であることを理解できる ・データ・AI活用領域の広がりを理解し、データ・AIを活用する価値を説明できる ・今のAIで出来ること、出来ないことを理解できる ・AIを活用した新しいビジネス/サービスは、複数の技術が組み合わされて実現していることを理解できる ・データ・AIが日常生活や社会/組織でどのように使われているかを知り、モラル・倫理・リスク・脅威（リスク）の理解を深め、適切に利用することを意識して、知識・スキルの重要性を理解できる ・帰納的推論と演繹的推論の違いと、それらの利点、欠点を理解できる						
テキスト（教科書）	『教養としてのデータサイエンス』北川源四郎/竹村彰通・編 内田誠一/川崎能典/孝忠大輔/佐久間淳/椎名洋/中川裕志/樋口知之/丸山宏・著、講談社サイエンティフィック、ISBN:978-4065238097 https://www.kspub.co.jp/book/detail/5238097.html						
参考書および参考文献	講義の中で適宜紹介する。						
受講条件	特になし。						
事前・事後学修（内容・時間）	次のような事前・事後学習を毎回3時間程度行うこと。（）内に目安の時間を示す。 ・次回授業範囲の内容について教科書や配付資料などの該当箇所を熟読する。（30分程度） ・講義テーマに関する専門用語の意味やその内容を調べる。（60分程度） ・授業で学んだ内容について整理し、理解を深める。（90分程度）						
成績評価							
小テストおよび課題提出（60％：各章の講義内容の理解度を確認する）							
定期試験（40％）							
定期試験内訳：講義内容の基礎的事項に関する問題、発展・応用問題							
評価項目		割合	評価基準				
小テストおよび課題提出		60％	各回の講義内容についての理解度を確認する。				
定期試験		40％	試験にて講義内容についての理解度を確認する。				
授業の実施方法と授業計画	第1章〔導入〕社会におけるデータ・AI利活用 第01回（講義・演習）ガイダンス、1.1 社会でおきている変化 第02回（講義・演習）1.2 社会で活用されているデータ 第03回（講義・演習）1.3 データとAIの活用領域 第04回（講義・演習）1.4 データ・AI利活用のための技術 第05回（講義・演習）1.4 データ・AI利活用のための技術その2 第06回（講義・演習）1.5 データ・AI活用の現場 第07回（講義・演習）1.6 データ・AI活用の最新動向 第2章〔基礎〕データリテラシー 第08回（講義・演習）2.1 データを読む 第09回（講義・演習）2.1 データを読むその2（Excel実習） 第10回（講義・演習）2.2 データを説明する 第11回（講義・演習）2.3 データを扱う（SSDSEデータ実習） 第12回（講義・演習）2.3 データを扱うその2（SSDSEデータ実習） 第3章〔心得〕データ・AI利活用における留意事項 第13回（講義・演習）3.1 データ・AIを扱う上での留意事項 第14回（講義・演習）3.2 データを守る上での留意事項 第15回（講義）まとめ ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することがあり得る。 課題（テストやレポート等）については、Classroomおよび双方向授業や対面授業の時間を通して質問や疑問等に対するフィードバックを行う。 必要に応じて、オフィスアワーなどを利用し個別に対応する。						
ナンバリング	NRBL2010						

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード		960A0		
科目	960A からだの構造と機能Ⅰ			授業種別		週間授業		
担当教員	西 啓太			単位数		1		
その他担当者								
授業概要	本科目では、人間のからだのしくみである「構造と機能について」の理解を目的とする。具体的には、人体の器官系について、個々の細胞・組織・器官に関する内容を取り上げ、個々の知識を人体の全体像と関連付けて理解する。私たちが生命を維持するために、また人間が人間らしく生きるために、人体の構造および組織学・細胞学の基礎や発生学の基本とともに学び、からだの生理・生化学的な機能に関連付けられるよう方向づける。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性		◎		○				
到達目標	① 学修者は、人体の基本構造である構造と機能について説明できる。 ② 学修者は、病態と関連付けた人体の構造と機能について説明できる。							
テキスト(教科書)	系統看護学講座 第11版 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① 坂井建雄、岡田隆夫著 医学書院 ISBN:978-4-260-04687-9							
参考書および参考文献								
受講条件	必修科目							
事前・事後学修(内容・時間)	① 毎回の授業前に授業内容のポイントを読んでおくこと(第2回～14回/20分程度) ② 毎回の授業後に授業内容のポイントの整理をすること(第1回～15回/30分程度) ③ 授業内で実施された確認問題の復習を行うこと(第2回～第14回/30分程度) ④ 定期試験対策のために、各授業内容のポイントを整理しておくこと(第1回～第15回/60分程度)							
成績評価								
★定期試験、小テスト、受講態度により総合的に評価する。評価点に達しない学生に対して、面談を実施して成績の向上を目指す。								
評価項目			割合	評価基準				
定期試験			70%	筆記試験にて講義内容の理解度を確認する。				
中間テスト			30%	筆記試験にて講義内容の理解度を確認する。				
授業の実施方法と授業計画	1.(講義) 看護の土台となる解剖生理学(解剖学とは、生理学とは。解剖学用語)。 2.(講義) 人体の区分と細胞小器官名とその機能、器官、組織の種類と機能 3.(講義) 栄養の消化と機能 消化器系(上部消化器)の構造と機能① 4.(講義) 栄養の消化と機能 消化器系(下部消化器)の構造と機能② 5.(講義) 栄養の消化と機能 消化器系(実質性臓器)の構想と機能③ 6.(講義) 呼吸と血液のはたらき 呼吸器(上気道)の構造 7.(講義) 呼吸と血液のはたらき 呼吸器(下気道)の構造 8.(講義) 内呼吸と外呼吸 呼吸器と呼吸運動と呼吸気量 9.(講義) 内呼吸と外呼吸 ガス交換とガスの運搬と肺の循環と血流、呼吸中枢と呼吸器系と病態生理 10.(講義) 血液の組成と機能① 11.(講義) 血液の組成と機能② 12.(講義) 血液の循環とその調節① 循環器系の構成 末梢血管系の構造 13.(講義) 血液の循環とその機能② 心臓の構造と心臓の拍出機能 心電図 14.(講義) 血圧・血流量の調節 15.(講義) 微小循環と循環器系の病態生理 リンパとリンパ管 講義の中で、学生に対して疑問や質問を投げかけて、学生からの回答に答える形式で進めて行く予定である。確認問題を提供して、その内容に対して講義外で質問を受け付ける。また、中間テストの結果に基づいてフィードバックを行う。 ただし、受講生の習熟度により計画を変更することもあり得る。							
ナンバリング	NRBM1001							

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	960B0		
科目	960B からだの構造と機能Ⅱ			授業種別	週間授業		
担当教員	西 啓太			単位数	2		
その他担当者							
授業概要	本科目では、人間のからだのしくみである「構造」を理解したうえで、からだの機能を理解することを目的とする。からだの機能は、生命を維持するために必要な機能、また人間が人間らしく生きるために必要な機能等があり、それらが多角的、多様に有機的につながって成り立っている。その全体のからだの機能である生理的なメカニズムを理解する。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性		◎		○			
到達目標	① 学修者は、人体の基本構造である構造と機能について説明できる。 ② 学修者は、病態と関連付けた人体の構造と機能について説明できる。						
テキスト（教科書）	系統看護学講座 第11版 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① 坂井建雄、岡田隆夫著 医学書院 ISBN：978-4-260-04687-9						
参考書および参考文献							
受講条件	必修科目						
事前・事後学修（内容・時間）	① 毎回の授業前に授業内容のポイントを読んでおくこと(第2回～第30回/20分程度) ② 毎回の授業後に授業内容のポイントの整理をすること(第1回～第30回/30分程度) ③ 授業内で実施された小テストの復習を行うこと(第2回～第30回/30分程度) ④ 定期試験対策のために、各授業内容のポイントを整理しておくこと(第14回～第15回/60分程度)						
成績評価							
中間試験（50%）と定期試験（50%）の点数で総合判定を行う。中間試験の評価基準は60点として、達成できなかった学生に対して、面談を実施して、講義内容の理解度並びに学習方法を教授する。							
評価項目		割合	評価基準				
定期試験		50%	筆記試験にて講義内容の理解度を確認する。				
中間試験		50%	筆記試験にて講義内容の理解度を確認する。				
授業の実施方法と授業計画	1.(講義) 体液の調節と尿の生成① 腎臓の構造 2.(講義) 体液の調節と尿の生成② 腎臓の機能 3.(講義) 体液の調節と尿の生成③ 腎臓の機能と体液の調節 4.(講義) 内臓機能の調節 自律神経による調節① 自律神経の構造 5.(講義) 内臓機能の調節 自律神経による調節② 自律神経の機能 6.(講義) 内分泌系による調節① 内分泌とホルモン 7.(講義) 内分泌系による調節② 全身の内分泌腺と内分泌細胞 8.(講義) 内分泌系による調節③ ホルモン分泌の調節 9.(講義) 身体の支持と運動 人体の骨格と骨の連結① 10.(講義) 身体の支持と運動 人体の骨格と骨の連結② 11.(講義) 骨格筋の構造 背部の筋、胸部の筋 腹部の筋 12.(講義) 上肢の骨格と筋と運動 13.(講義) 下肢の骨格と筋と運動 頭頸部の骨格と筋 14.(講義) 筋の収縮機構 15.(講義) 神経系の構造と機能 神経細胞と支持細胞 16.(講義) 中枢神経系の外観 脊髄の構造と機能 17.(講義) 脳の構造と機能 18.(講義) 末梢神経系 脳神経 19.(講義) 末梢神経系 脊髄神経と運動機能と上・下行伝導路 20.(講義) 感覚機能と上行伝導路 21.(講義) 眼の構造と機能 眼球の付属器 22.(講義) 耳の構造と聴覚・平衡覚 耳の構造 23.(講義) 味覚と嗅覚 味覚器と味覚 24.(講義) 痛み(疼痛) 痛みの分類と発生機序 25.(講義) 皮膚の構造と機能 皮膚の組織構造 26.(講義) 生体防御機構① 27.(講義) 生体防御機構② 28.(講義) 体温調節 29.(講義) 生殖・発声と老化のしくみ 30.(講義) 男性・女性生殖器官の構造と機能 成長と老化 講義の中で、学生に対して疑問や質問を投げかけて、学生からの回答に対して答える方式を進めて行く予定である。質問や中間試験の結果に対するフィードバックも同時に行っていく。 ただし、受講生の習熟度により計画を変更することもあり得る。						
ナンバリング	NREM1001						

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	960C0		
科目	960C 臨床心理学			授業種別	週間授業		
担当教員	加藤 知佳子			単位数	1		
その他担当者							
授業概要	人が生きていく過程で直面するさまざまな危機的状況において、どのように反応し、行動するのか、心理的な状況・問題と関連させて学びを深める。その心理的な状況・問題の理解を基盤として、心を病む人たちに対してどのような働きかけができるのか、心理面からの援助の在り方とその具体的方法についての基礎を学ぶ。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性		◎		○	○		
到達目標	1. 人間が発達の過程で遭遇する典型的な危機的状況について、年齢と関連付けて列挙できる。 2. 人間が危機的状況において行う典型的な反応と心理的な援助を例示できる。						
テキスト(教科書)	『系統看護学講座 基礎分野 心理学』(山村豊・高橋一公著、医学書院) ISBN 978-4-260-02768-7 (2019年度「心理学概論」テキスト:すでに所有している場合は購入の必要なし)						
参考書および参考文献	『自分を見つめるカウンセリング・マインド:ヘルスケアワークの基本と展開』(五十嵐透子著、医歯薬出版株式会社) ISBN-10: 4263234235						
受講条件	必修科目						
事前・事後学修(内容・時間)	予習・復習の内容(4時間相当) ・指示された話題について、事前に考えたり、調べたりしておく。(各2時間) ・授業で得た気づきと学びについて、ノートにまとめておく。(各2時間) ・学期末には、授業全体の内容を確認し、定期試験範囲の復習を行う。						
成績評価	授業の到達目標の達成度に応じて評価する。なお、度重なる欠席、遅刻、早退および劣悪な受講態度は減点の対象となる場合がある。						
評価項目		割合	評価基準				
ミニレポート		30%	課題に対する取り組みを評価する。				
定期試験		70%	筆記試験によって理解度を評価する。				
授業の実施方法と授業計画	第1回 (講義) イントロダクション:「心理学概論」との接続、基礎から応用へ 第2回 (講義) 発達するひと:発達視点の重要性 第3回 (講義・演習) エリクソンの発達段階と心理学的危機(Think-Pair-Share) 第4回 (講義) 個人から集団へ:対人関係と集団における個 第5回 (講義・演習) ヘルスケアワークにおけるコミュニケーションの問題(Think-Pair-Share) 第6回 (講義) カウンセリング・マインドと心理療法 第7回 (講義・演習) 傾聴とカウンセリング・マインドにもとづくコミュニケーション(Think-Pair-Share) 第8回 (講義・演習) まとめ:学びの共有と質疑応答(Think-Pair-Share) 試験や課題における全体で共有すべき質問事項・疑問点については授業内でフィードバックを行うほか、個別の質問等に対してコメントをフィードバックする場合は、Google Classroomの機能を活用する。なお、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。						
ナンバリング	NREM2005						

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード	960D0		
科目	960D 社会システムと人間			授業種別	週間授業		
担当教員	辰巳 智行			単位数	1		
その他担当者							
授業概要	この講義では、今日われわれが生きている社会の仕組み（社会システム）を理解するために必要な知識と方法論の基礎を学ぶ。 まず、現代社会の基盤となる「近代」という時代を概観しながら、そこで想定される人間像や社会システムの特徴を学ぶ。 次に、具体的な社会問題の事例検討を通じて、受講者が人間と社会システムの関係について深い洞察力を身につけることを目的とする。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性		◎		○			
到達目標	1. 学修者が、現代社会の特徴のひとつである近代性の基礎を説明できる 2. 学修者が、現代社会が想定している人間や集団を社会的な面から説明できる 3. 学修者が、現代の諸課題を人間と社会システムの面から科学的に考察する能力を習得する						
テキスト（教科書）	テキスト（教科書）は指定しない。 講義ごとにプリントを配布する。 講義内容を補足するため、追加資料を Google Classroom などを通じて提示することがある。						
参考書および参考文献	・長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志編著, 2007,『社会学』, 有斐閣 (ISBN:978-4641053700). ・勝又正直, 1999,『ナースのための社会学入門』, 医学書院 (ISBN:978-4260330152). そのほか講義の中で関連文献を紹介する						
受講条件	必修科目						
事前・事後学修（内容・時間）	・日常的に新聞やテレビ, Webのニュースを通じて, 社会の「問題」について見聞を広めておくこと（1時間×8回） その際, 社会の「問題」について言及する記者やキャスター, ネット上の意見・コメントを分析して, どのような立場・視点から, どのような根拠で発言がなされているか, 誰にとって, どのような「問題」であるのかを整理する（0.5時間×8回） ・講義の復習（1.5時間×8回） ・定期試験のための学習（5時間）						
成績評価							
成績は,（1）毎回の講義での貢献やコメントペーパー（講義内レポート）の提出,（2）定期試験の両方で, 講義の到達目標がどの程度達成できているのかを評価する。							
ただし, 定期試験は, 受講生の習熟度や新型コロナウイルスの発生状況によって, レポートに切り替える場合がある。							
評価項目		割合	評価基準				
講義への貢献 コメントペーパーの提出		4500%	コメントペーパー（講義内レポート）で理解度や達成度を評価する。講義中の質問やコメントで取組姿勢も評価する。				
定期試験		5500%	定期試験で, 講義の到達目標がどの程度達成できているのかを評価する。				
授業の実施方法と授業計画	第1回【講義】: ガイダンス: 社会学的想像力 第2回【講義】: 近代の諸要素 第3回【講義】: 国民国家 第4回【講義】: 市民社会 第5回【講義】: 資本主義 第6回【講義】: 近代の家族 第7回【講義】: 働くこと 第8回【講義】: 病気と病院 ・本科目は, 主に講義形式で実施する ・講義に関する質問やコメントは, 講義中や講義前後の時間を利用すること ・提出されたコメントペーパー（講義内レポート）や定期試験は個別にフォローアップするが, 全体で共有すべき話題提供や質問は講義内で紹介やフィードバックするので, それを前提とすること。 ・受講者の習熟度等の理由で, 講義の内容や順序を変更することもある						
ナンバリング	NRCM1005						

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード		961A0	
科目	961A 臨床薬理学			授業種別		週間授業	
担当教員	森本 達也			単位数		1	
その他担当者	刀坂 泰史、砂川 陽一						
授業概要	「生体内に入った薬物が生体にどのような影響を及ぼすか」という薬力学と「生体が生体内に入った薬物をどのように処理するか」という薬物動態学の両面から追求し、治療効果と副作用を明らかにする学問である臨床薬理の基礎知識を学ぶ。また、主な病態に対する薬物療法とその効用の作用機序、副反応、留意点および新たに開発されてきている薬剤等についても学ぶ。※この科目は当該授業内容に関する医師の実務経験を有する教員がその実務経験を活かして講義を行う科目です。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性		◎		○			
到達目標	総論において、薬理学の基礎知識について医学用語を説明でき、薬理学の大筋をつかむ。そして中枢神経、心臓血管系、消化器、抗感染症、抗悪性腫瘍などの臨床で使用されている薬物について説明できる。講義を受ければ重要な薬物のポイントを認識でき、他の薬物も類推できるようになる。						
テキスト(教科書)	薬理学 疾病のなりたちと回復の促進 3 吉岡允弘ら著、医学書院 ISBN:978-4260047166 2,300円						
参考書および参考文献	病気がみえる(シリーズ vol1～15) MEDIC MEDIA 薬がみえる(シリーズ vol1～4) MEDIC MEDIA						
受講条件	必修科目						
事前・事後学修(内容・時間)	○毎授業前に指定箇所まで配布した授業プリントや教科書を読み、医学・薬学用語および、重要な医薬品の知識などについて予習する(第1～15回/30分)。 ○毎授業後に授業で得た医薬品の知識などを授業プリントや教科書・参考書を見直し、理解する。単元ごとに配布した国家試験過去問題を行い理解したかを確認しておくこと(第1～15回/60分)。小テストが行われることがあるので必ず復習をしておくこと。 ○医薬品に関する重要な問題についてニュースなどで注目されるテーマについて、また、授業内で指摘された興味ある事項についてレポートとしてまとめる。必要な予備知識、授業時間外の学習は、資料の下調べなど時間外学習は学生同士のディスカッションなども行いまとめる(第5～10回/30分)。提出するレポートは簡潔に説明した要旨も添付する(第11～14回/30分)。 ○第15回には、最終試験についての重要な個所の注意事項の説明、小テスト、自習を行い試験の対策を行う。小テストの復習と16回目の定期試験範囲について全体の復習を行う(第15回/120分)。						
成績評価							
試験・小テスト・提出レポートから総合的に評価する。原則として毎回出席すること。 定期試験受験資格は出席が 2/3以上とする。早退・遅刻が2回で1回欠席扱いとする。 授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価する。 なお、遅刻、早退や劣悪な受講態度は減点の対象とする場合がある。							
評価項目			割合	評価基準			
定期試験			90%	筆記試験にて理解度を確認する(基礎問題80%、応用問題20%)			
小テスト			5%	講義内容・重要点の理解度を確認するために過去の国試問題を中心に行う。			
課題レポート			5%	課題について簡潔なまとめ方なども考慮する。			
授業の実施方法と授業計画	第1回(講義)	森本 達也	薬理学を学ぶにあたって				
	第2回(講義)	森本 達也	薬理学の基礎知識①				
	第3回(講義)	森本 達也	薬理学の基礎知識②				
	第4回(講義)	森本 達也	循環器系に作用する薬物①				
	第5回(講義)	森本 達也	循環器系に作用する薬物②				
	第6回(講義)	森本 達也	循環器系に作用する薬物③				
	第7回(講義)	刀坂 泰史	中枢神経系に作用する薬物①				
	第8回(講義)	刀坂 泰史	中枢神経系に作用する薬物②				
	第9回(講義)	刀坂 泰史	末梢神経系に作用する薬物				
	第10回(講義)	刀坂 泰史	物質代謝に作用する薬物				
	第11回(講義)	刀坂 泰史	呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物				
	第12回(講義)	砂川 陽一	抗アレルギー薬・抗炎症薬、皮膚科用薬、眼下用薬				
	第13回(講義)	砂川 陽一	抗感染症薬				
	第14回(講義)	砂川 陽一	抗がん剤・免疫治療薬				
	第15回(講義)	砂川 陽一	救急の際に使用される薬物・漢方薬・消毒薬				
ただし、受講学生の習熟度等・講師陣の都合により、順番は変更することもあります。 授業内で課題に対するフィードバックを行います。もしくは問題解説を配布します。							
ナンバリング	NRCM2002						

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	961B0				
科目	961B 臨床栄養学			授業種別	週間授業				
担当教員	上田 洋子			単位数	1				
その他担当者									
授業概要	人間が食物あるいは体内への注入により摂取した食品・栄養物が、栄養となって生命・生活活動に使われる生化学的なメカニズムについて理解する。どのような食品・栄養物を摂取することが、人間の健康にとってよいか、病態を引き起こす栄養の摂取の在り方を学ぶ。これらを通し、学生自身の栄養摂取についても考える機会とする。 またこの科目は医療施設や福祉施設での実務経験を有する教員（管理栄養士）が、その経験を活かし、疾病と栄養や食事内容をイメージしやすいように講義をおこなう科目である。								
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7		
ディプロマポリシーとの関連性		◎		○					
到達目標	・食品から摂取した栄養物が体内で利用されるメカニズムを説明できる。 ・医療における食事療法の重要性を説明できる。 ・疾患別の食事療法の特徴を説明できる。								
テキスト（教科書）	系統看護学講座 専門基礎分冊「栄養学」人体の構造と機能③ 第13版第3刷 中村丁次 医学書院 ISBN 978-4-260-03861-4								
参考書および参考文献	教員作成の教材資料をClassroomに掲示するので各自で印刷し持参すること。								
受講条件	必須科目								
事前・事後学修（内容・時間）	事前学習（2時間相当／8回） ・毎授業前に指定箇所まで教科書を熟読しておくこと。 ・授業の1週間前に次回講義で使用する教材資料を公開するので必ず読んでおくこと。 事後学習（2時間相当／8回） ・教科書や授業時に配布した教材資料などを利用し復習をすること。								
成績評価	授業到達目標がどの程度達成できているか小テストと筆記試験の総合評価とする。								
評価項目		割合	評価基準						
小テスト		30%	講義内容の理解度を確認する。						
定期試験		70%	筆記試験にて理解度を評価する。						
授業の実施方法と授業計画	疾患において、栄養素の摂取と生体作用との関連を繰り返し込む。 授業の最後に提出された質問内容は、次回授業時に復習をふまえ解説を行う。 授業内で実施した小テストについては、フィードバックを行う。 ※記載された数字・アルファベットは、教科書の内容に対応しています。								
	1回（講義） 第1章 人間栄養学と看護 看護と栄養 看護師の役割 第9章 臨床栄養 A：チームで取り組む栄養管理 B：病院内食 一般食 特別治療食 C：栄養補給法 経腸栄養法 経静脈栄養法								
	2回（講義） F：疾患・症状別食事療法の実際 ①：やせ・低栄養患者の食事療法 ②：肥満・メタボリックシンドローム ③：循環器疾患患者の食事療法 ①高血圧症 ②動脈硬化 ③虚血性心疾患 ④心不全								
	3回（講義） ④消化器疾患患者の食事療法 a胃・腸疾患 ①胃炎 ②胃・十二指腸潰瘍 ③腸炎								
	4回（講義） b肝臓・胆嚢疾患 ①急性肝炎 ②慢性肝炎 ③肝硬変 ④脂肪肝 ⑤胆石症 ⑥膵炎								
	5回（講義） 1～4回小テストの実施（フィードバックを行う） 下痢・便秘 ①下痢 ②便秘								
	6回（講義） ⑤栄養・代謝疾患患者の食事療法 ①糖尿病 ②脂質異常症 ③高尿酸血症・痛風 ④ビタミンの欠乏症、過剰症 ⑤ミネラルの欠乏症、過剰症								
	7回（講義） ⑥腎臓疾患患者の食事療法 ①急性糸球体腎炎 ②慢性腎臓病 CKD 透析療法								
	8回（講義） ⑦血液疾患患者の食事療法 ①鉄欠乏性貧血 ②巨赤芽球性貧血 ③白血病 ⑧食物アレルギー疾患患者の食事療法 ⑨骨粗鬆症患者の食事療法 ⑩摂食・嚥下障害患者の食事療法 定期試験実施								
	ただし、受講生の習熟度により授業計画を変更することもある								
	ナンバリング	NREM1002							

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	96090		
科目	9609 生化学			授業種別	週間授業		
担当教員	米田 雅彦			単位数	1		
その他担当者							
授業概要	ヒトを含めて生きているものは、絶えずエネルギーを消費している。そしてヒトの場合、エネルギー源はすべて食事に由来している。エネルギーは食物（栄養素；糖質、脂質、アミノ酸・タンパク質）を消化することから取り出される。その過程（代謝）はすべて化学反応による。この授業では、そもそもエネルギー（ATP）とは何かから始まり、どのようにして食物からエネルギーを産生し、どう使用（消費）していくのかを学ぶ。最終的にはエネルギー代謝を統合して、相互の関係の中で栄養障害やアルコール中毒、糖尿病の代謝の状態を学ぶ。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性		◎		○			
到達目標	1.三大栄養素(糖質、脂質、タンパク質)の構造が理解できる。 2.病気の症状がなぜ起きているか理解できる。 3.薬や治療が体で起こしている変化を推測できるようになる。						
テキスト(教科書)	人体の構造と機能②「臨床生化学」、宮澤恵二著、メディカ出版、ISBN: 978-4-8404-8155-7						
参考書および参考文献	「イラストレイテッドハーバー・生化学」、原著30版、Harold Harper原著、清水孝雄監訳、丸善出版、ISBN: 9784621300978						
受講条件	必修科目						
事前・事後学修(内容・時間)	予 習:事前位配布した資料ならびに教科書の該当ページに一通り目を通しておく。(60分) 復 習:授業内容を振り返り、疑問点を明らかにする。(60分) その他:日常生活の中で、講義内容に関連した情報を気にかける。(適宜)						
成績評価							
定期試験（90％）、毎回の授業後に配布する課題の提出（毎回の授業終了時、授業の始めに時間を設ける）（10％）の結果から評価する。							
評価項目	割合		評価基準				
定期試験	90%		筆記試験にて理解度を確認します。				
毎回の授業で行う課題	10%		毎回の課題の提出で評価します。				
授業の実施方法と授業計画	授業は講義形式で行う。毎回の授業時に課題を配布して、授業の始めに考えてもらう。課題の内容は当日の授業内容または復習の内容である。課題の解説は授業内で行うが、自由に考えてもらうことが目的である。質問は授業前、授業中および授業後に受け付ける。また、課題時に提出してもらい振り返りまたはGoogle Classroomやユニバでの質問も可能である。質問に対する回答は、内容によっては次回の授業またはGoogle Classroomで全員に還元する。						
	第1回 生化学で扱う化学の基礎：特に生体内の反応は水の中で起こるので、水に溶けるという現象を理解する。						
	第2回 糖質：栄養の主成分である糖質（炭水化物）の構造と性質を学ぶ。						
	第3回 脂質とは：ダイエットで目のカタキにされる脂肪の構造を学び、その役割を理解する。						
	第4回 アミノ酸の構造：我々の体を構築するタンパク質の構成成分であるアミノ酸の構造と性質を学ぶ。次のタンパク質の立体構造と酵素を理解するための基本的な知識を補う。						
	第5回 タンパク質の高次構造：生体の構築や生命活動の一部を担っているのはタンパク質であるが、その機能は立体構造によって変化する。また、立体構造異常は病気とつながることを学ぶ。						
	第6回 酵素の性質・活性調節（阻害作用）：生命活動は化学反応の集大成である。その化学反応を行うのは酵素と呼ばれるタンパク質である。その役割と活性制御について学ぶ。薬は化学反応を妨害するものであることも、授業の中で理解することになる。						
	第7回 解糖系（細胞質での糖質の代謝）：食べた糖質（デンプンなど）からどのようにして、生体活動を支えるエネルギー（ATP）を生産するか学ぶ。細胞内の反応（解糖系）を勉強する。						
	第8回 クエン酸回路・電子伝達系・酸化的リン酸化（ATPの産生）：糖質の分解が細胞内で終了した後、より多くのエネルギーを得るために細胞内小器官のミトコンドリアで反応が進行する。エネルギー産生の最終段階を学ぶ。						
	第9回 糖新生・ペントースリン酸回路の意味：脳のエネルギーは糖質のグルコースであるが、食べることだけでは不足するので体内で合成（糖新生）するが、そのメカニズムを学ぶ。さらに解糖系の脳回路のペントースリン酸回路の役割を勉強する。						
	第10回 脂肪の分解：食べた脂肪の分解と組織への分配のメカニズムを理解する。						
	第11回 脂質の合成：食事の途中から脂肪の皮下脂肪組織への貯蓄と脂肪の合成が始まるが、そのメカニズムを勉強する。						
	第12回 プロスタグランジンの働きと製剤との関係について勉強する。						
	第13回 血糖値の調整と糖尿病：糖尿病について学び、今まで勉強してきた糖質・脂肪（脂質）・タンパク質の分解と合成（生成）の正常とは異なる状態を理解する。						
	第14回 タンパク質の代謝：タンパク質の消化と体内への取り込みについて学ぶ。さらにアミノ酸の分解により生体にとって有害なもの（アンモニア）ができるが、その処理（尿素回路）は肝臓で行われる。その仕組みについて勉強する。また、アミノ酸はタンパク質の構成成分としての役割以外に単独または誘導体がいりうな機能をもつことを勉強する。						
第15回 核酸の代謝：核酸およびゲノムの構造を学んだ後で、核酸の分解の過程（代謝）と代謝異常による病気である痛風について学ぶ。							
ただし、学生の習熟どにより割り振りの時間を変更することもあります。							
ナンバリング	NRFM1001						

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	961D0			
科目	961D 病原体と感染			授業種別	週間授業			
担当教員	齋藤 寛史			単位数	1			
その他担当者								
授業概要	人間生活を取り巻く微生物やウイルスと人間（宿主）との相互作用について学修する。病原微生物やウイルスの基礎、生体防御機構、検査と診断、治療及び薬剤耐性等について学修する。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性		○		○				
到達目標	1 主な病原微生物やウイルスの種類や特徴、病原性について説明できる。 2 これらの知識が、医療の現場で活用できる方法について説明できる。							
テキスト（教科書）	南嶋洋一他 疾病のなりたちと回復の促進『4』微生物学（第14版） 医学書院 ISBN 978-4-260-04702-9							
参考書および参考文献	特になし							
受講条件	必修科目							
事前・事後学修（内容・時間）	1 毎授業前に指定箇所まで教科書を読んでおくこと（2～7回／30分程度）。 2 微生物や感染症に関する新聞記事等に関心を持ち、知識を深めること。 *以上1、2について、1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることを踏まえ、自己学習を行うこと。							
成績評価								
小テストと学期末に行う筆記試験で評価する。								
評価項目		割合	評価基準					
小テスト		10%	講義内容の理解度を確認する。					
定期試験		90%	筆記試験にて理解度を確認する。					
授業の実施方法と授業計画	5回終了後に、それまでの講義内容に関する小テストを行う。小テストは採点後資料を配布し、講義で解説する。 本科目は全て講義形式で行う。 1回 微生物と微生物学、細菌の性質 2回 ウイルスの性質・真菌の性質 3回 感染と感染症、感染に対する生体防御機構 4回 滅菌と消毒、感染症の検査と診断 5回 感染症の治療、感染症の現状と対策 小テスト 6回 病原細菌と細菌感染症 7回 病原ウイルスとウイルス感染症 8回 病原真菌と真菌感染症、寄生虫と衛生動物 ただし、受講生の習熟度により授業計画を変更することもある。							
ナンバリング	NRCM1006							

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード		96510		
科目	9651 病態と治療の基礎			授業種別		週間授業		
担当教員	大林 雅春			単位数		1		
その他担当者								
授業概要	病変の生じるシステム、病気の定義・病因等の基本的な知識を学び、生体のシステムと病態、生命現象を理解する。具体的には、細胞の変性と壊死、損傷、循環障害、炎症、腫瘍等を学修する。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性		●		○				
到達目標	1. 細胞・組織の障害とその修復、再生、適応の過程を、形態学的な変化として説明できる。 2. 人体に備わる病態からの修復機構、生体防御機構について基本的な仕組みを説明できる。 3. 炎症や腫瘍などの基本的な概念を説明できる。							
テキスト(教科書)	系統看護学講座 疾病のなりたちと回復の促進 [1] 病理学 (第6版) 大橋健一(著) 医学書院 ISBN:978-4-260-04203-1							
参考書および参考文献	なるほどなっとく!病理学 plus: 病態形成の機序と各器官の疾病の特徴 小林 正伸 (著) 南山堂 ISBN-10:4525151811							
受講条件	必修科目							
事前・事後学修 (内容・時間)	本授業は、アクティブラーニングの「反転授業」のスタイルを取り入れて実施する。すなわち、次の授業項目の簡単な事前課題 (基本問題)を果たし、次の授業の前に提出物として提出してもらう。これは、前もって各自で課題を教科書等で調べる「予習」のスタイルとなり、事前課題をこなしてから本講義の授業を迎える前提の授業である。約30分から1時間ほど、テキスト中心に取り組むこと。 毎回の授業で配る『講義資料(紙媒体)』は、講義中の全てのスライドを配布資料としてまとめたものである。講義資料を授業の前に配るので、各自空欄にメモ等をする。また全てのスライドをインターネットのGoogleDrive上に閲覧共有設定するので、自己学修(事後学修)に役立てること。授業中のみならず、いつでもどこでも閲覧可能である。講義内容に便利なサイトや付随するサイトをURLやQRコードで紹介する。授業には、PCやタブレット、スマートフォンなど端末を持ち込みを許可する。 Googleのクラスルームに掲載する『演習問題(正誤訂正問題および選択式問題)』は、授業内容を問題形式で学習出来るように工夫したものである。事前課題の出題内容も含まれているので、解答合わせも兼ねて毎回必ず確認しておくこと。必要に応じて自己学修(事後学修)に役立てること。特に「選択式問題」は、国家試験の傾向も踏まえて適宜改訂している。演習問題は、定期試験に約6割出題します。将来的な国家試験勉強にもなるので学習を心掛ける。							
成績評価								
筆記試験およびレポート/課題								
評価項目		割合	評価基準					
定期試験		90%	学習内容について理解の程度を総合的に把握する。					
レポート・課題提出		10%	学習内容について課題やレポートを果たし、理解の程度を把握する。					
授業の実施方法と授業計画	第1回 病気の原因、細胞・組織の障害と修復 第2回 代謝障害 第3回 先天異常と遺伝子異常、老化、死 第4回 循環障害 第5回 免疫 第6回 炎症 第7回 感染症 第8回 腫瘍 第1～8回は講義を行う。 ＊ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。 ＊授業中の内容に関する質問や感想、リクエストに関しては、リアクションペーパーに記入すること。次の授業までに個々にメール、あるいは口頭で返答する。多い質問項目などには、次の授業の冒頭で説明する。指摘された改善点などには、素早く対応するので遠慮せずに、口答でもリアクションペーパーでもメールでも対応します。授業中には、講義内容を把握しやすいようにビデオ学習、その他動画等の視覚効果を活かした学習も行うので、上映中は集中して病態の理解に努めること。 ＊授業中には、講義内容を把握しやすいようにビデオ学習、その他動画等の視覚効果を活かした学習も行うので、上映中は集中して病態の理解に努めること。							
ナンバリング	NRFM1002							

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	96520			
科目	9652 病態と治療Ⅰ（内科系）			授業種別	週間授業			
担当教員	山口 直己			単位数	2			
その他担当者	小竹 伴照、磯貝 善蔵、武藤 真広、澤崎 浩平、渡邊 智治							
授業概要	主に内科的な病変を引き起こす疾患と治療ならびにその発生要因について学修する。本科目では、主に循環器疾患、呼吸器疾患、腎疾患、皮膚疾患の主要病態、症状、検査、治療について最新の知見を踏まえて学修する。 この科目は当該授業内容に関する医師の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性		◎		○				
到達目標	1. 循環器系の主な病態と治療の概括を述べることができる 2. 呼吸器系の主な病態と治療の概括を述べることができる 3. 腎臓系の主な病態と治療の概括を述べることができる 4. 皮膚の主な病態と治療の概括を述べることができる							
テキスト（教科書）	浅野嘉延、吉山直樹編：看護のための臨床病態学 改訂5版、南山堂、ISBN 978-4-525-50515-8							
参考書および参考文献	適宜、授業内で紹介する							
受講条件	必修科目							
事前・事後学修（内容・時間）	<事前学修> 1. 該当する病態について「からだの構造と機能」、「生命科学の基礎」、「生化学」等、関連分野科目を授業前に復習しておく（第1回～15回／30分） 2. 授業計画を参照して、テキストの該当ページを読み、分からない箇所を明確にしておく（第1回～15回／30分） <事後学修> 1. 授業後は配布資料も含めて自身のまとめノートを作成しておく（第1回～15回／30分） 2. 授業を受けて不明だった事項に関しては必ず調べ明確にしておく（第1回～15回／30分）							
成績評価	到達目標における達成度で評価する。 遅刻・早退・無断欠席、および劣悪な受講態度（私語・居眠り等）は減点の対象とする。							
評価項目		割合	評価基準					
定期試験		100%	筆記試験（マークシート）において到達度を評価する					
授業の実施方法と授業計画	本科目は全て講義形式で行う <受講イントロダクション> 第1回 呼吸器系の解剖と生理【講義】 （豊橋創造大学：小竹伴照） 第2回 呼吸器系の症候、検査と治療【講義】 （豊橋創造大学：小竹伴照） 第3回 呼吸器感染症、アレルギー・免疫疾患、慢性閉塞性肺疾患【講義】 （豊橋創造大学：小竹伴照） 第4回 間質性肺疾患、気道系疾患、肺腫瘍、肺循環疾患【講義】 （豊橋創造大学：小竹伴照） 第5回 換気異常、呼吸不全、胸膜疾患、縦隔疾患【講義】 （豊橋創造大学：小竹伴照） 第6回 循環器系の主な病態とそのメカニズム、基礎的知識【講義】 （浜松医療センター：澤崎浩平） 第7回 先天性心疾患、心不全等の病態と治療【講義】 （浜松医療センター：武藤真広） 第8回 虚血性心疾患・心筋症等の病態と治療【講義】 （浜松医療センター：澤崎浩平） 第9回 不整脈等疾患の病態と治療【講義】 （浜松医療センター：武藤真広） 第10回 動脈系疾患の病態と治療、血圧異常【講義】 （浜松医療センター：澤崎浩平） 第11回 腎臓系の主な病態とそのメカニズム、基礎的知識【講義】 （豊橋市民病院：渡邊智治） 第12回 慢性腎臓病・腎不全・尿毒症等の病態と治療【講義】 （豊橋市民病院：渡邊智治） 第13回 糸球体腎炎・ネフローゼ症候群等の病態と治療【講義】 （豊橋市民病院：渡邊智治） 第14回 全身性疾患に伴う腎疾患の病態と治療【講義】 （豊橋市民病院：渡邊智治） 第15回 炎症、湿疹・感染・各種皮膚疾患【講義】 （国立長寿医療研究センター：磯貝善蔵） ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもあるので、初回授業時に配布する授業計画表を必ず確認すること（講師の都合により、時間および講師の変更の可能性あり）。 授業時間内にミニテストを行った場合にはその場で解答し解説する。 試験の結果に応じて補習を行う。							
ナンバリング	NRGM1001							

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード	96530			
科目	9653 病態と治療Ⅱ (内科系)			授業種別	週間授業			
担当教員	鈴木 知代			単位数	2			
その他担当者	小竹 伴照、西村 康明、榊原 由美子、長山 浩士、高取 宏昌							
授業概要	主に内科的な病変を引き起こす疾患と治療、ならびにその発生要因について学修する。本科目では、主に血液疾患、神経疾患、内分泌・代謝疾患の主要病態、症状、検査、治療について最新の知見を踏まえて学修する。 この科目は当該授業内容に関する医師の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性		◎		○				
到達目標	1. 血液・免疫疾患の主な病態と治療の概括を述べることができる 2. 神経疾患の主な病態と治療の概括を述べることができる 3. 内分泌・代謝疾患の主な病態と治療の概括を述べることができる 4. 感覚器系（眼）の病態と治療の概括を述べることができる							
テキスト（教科書）	浅野嘉延、吉山直樹編：看護のための臨床病態学 改訂5版、南山堂、ISBN 978-4-525-50515-8 （1年次購入済み）							
参考書および参考文献	適宜、授業内で紹介する							
受講条件	必修科目							
事前・事後学修（内容・時間）	<事前学修> 1. 該当する病態について「からだの構造と機能」、「生命科学の基礎」、「生化学」等、関連分野科目を授業前に復習しておく。（第1回～15回／30分） 2. 授業計画を参照して、テキストの該当ページを読み、分からない箇所を明確にしておく。（第1回～15回／30分） <事後学修> 1. 授業後は配布資料も含めて自身のまとめノートを作成しておく。（第1回～15回／30分） 2. 授業を受けて不明だった事項に関しては必ず調べ明確にしておく。（第1回～15回／30分）							
成績評価								
到達目標における達成度で評価する。 遅刻・早退・無断欠席、および劣悪な受講態度（私語・居眠り等）は減点の対象とする。								
評価項目	割合		評価基準					
定期試験	100%		筆記試験（マークシート）において到達度を確認する					
授業の実施方法と授業計画	<受講イントロダクション> 第1回 「血液」 解剖と生理、症候【講義】 （豊橋創造大学 小竹伴照） 第2回 「血液」 検査と治療、主な疾患【講義】 （豊橋創造大学 小竹伴照） 第3回 免疫・防御系異常が起こる病態のメカニズムと治療（基礎的知識）【講義】 （浜松医療センター：高取宏昌） 第4回 アレルギー疾患・膠原病・自己免疫疾患・免疫不全症の病態と治療【講義】 （浜松医療センター：高取宏昌） 第5回 内分泌代謝異常が起こる病態のメカニズムと対処法（基礎的知識）【講義】 （浜松医療センター：長山浩士） 第6回 視床下部一下垂体系異常の病態と治療【講義】 （浜松医療センター：長山浩士） 第7回 ホルモンの分泌過剰と不足の病態と治療【講義】 （浜松医療センター：長山浩士） 第8回 糖代謝異常・脂質代謝異常・水電解質代謝異常・痛風等の病態と治療【講義】 （浜松医療センター：長山浩士） 第9回 脳・神経系異常の病態と対処法（基礎的知識）【講義】 （第二成田記念病院：西村康明） 第10回 脳血管障害の病態と治療①脳梗塞【講義】 （第二成田記念病院：西村康明） 第11回 脳血管障害の病態と治療②頭蓋内出血他【講義】 （第二成田記念病院：西村康明） 第12回 脳腫瘍・神経系の感染・神経性変疾患の病態と治療【講義】 （第二成田記念病院：西村康明） 第13回 神経系変性疾患の病態と治療、脱髄性疾患【講義】 （第二成田記念病院：西村康明） 第14回 末梢神経疾患・筋疾患の病態と治療【講義】 （第二成田記念病院：西村康明） 第15回 感覚器系（眼）の病態と治療【講義】 （豊橋市民病院：榊原由美子） ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもあるので、初回授業時に配布する授業計画表を必ず確認すること（講師の都合により、時間および講師の変更の可能性あり）。 授業時間内にミニテストを行った場合にはその場で解答し解説する。 定期試験については適宜フィードバックを行う。							
ナンバリング	NRDM2001							

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード		96540		
科目	9654 病態と治療Ⅲ (外科系)			授業種別		週間授業		
担当教員	井上 直子			単位数		2		
その他担当者	杉浦 昌、山下 克也、安藤 雅規、佐野 逸郎、山口 浩志、渡邊 智治							
授業概要	主に外科的な疾患を診断するための検査、主要病態と症状、治療について最新の知見を踏まえて学修する。手術や麻酔に関する内容も含む。 この科目は当該授業内容に関する医師の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性		◎		○				
到達目標	1. 手術・麻酔および必要な検査を述べることができる 2. 摂取・消化・吸収に関わる主な病態と外科的治療を述べることができる 3. 運動器系疾患の主な病態と外科的治療を述べることができる 4. 泌尿器系疾患の主な病態と外科的治療を述べることができる 5. 感覚器系疾患 (耳鼻咽喉科) の主な病態と外科的治療を述べることができる							
テキスト (教科書)	池上敬、高橋則子、(編)、(2023)、系統看護学講座別巻 臨床外科看護総論 第12版、医学書院、ISBN978-4-260-04998-6 浅野嘉延、吉山直樹、(編)、(2023)、看護のための臨床病態学 改訂5版、南山堂、ISBN 978-4-525-50515-8 (購入済)							
参考書および参考文献	適宜、授業内で紹介する							
受講条件	必修科目							
事前・事後学修 (内容・時間)	<事前学修> 1. 該当する病態について「からだの構造と機能」、「生命科学の基礎」、「生化学」等、関連分野科目を授業前に復習しておく (第1回～15回/30分) 2. 授業計画を参照して、テキストの該当ページを読み、分からない箇所を明確にしておく (第1回～15回/30分) <事後学修> 1. 授業後は配布資料も含めて自身のまとめノートを作成しておく (第1回～15回/30分) 2. 授業を受けて不明だった事項に関しては必ず調べ明確にしておく (第1回～15回/30分)							
成績評価								
到達目標における達成度で評価する。 遅刻・早退・無断欠席、および劣悪な受講態度 (私語・居眠り等) は減点の対象とする。								
評価項目	割合		評価基準					
定期試験	100%		筆記試験 (マークシート) において到達度を確認する					
授業の実施方法と授業計画	<受講イントロダクション> 第1回 手術・麻酔及び必要な検査①麻酔法・呼吸管理【講義】 (豊橋市民病院:佐野逸郎) 第2回 手術・麻酔及び必要な検査②外科的治療と術後管理【講義】 (豊橋市民病院:佐野逸郎) 第3回 手術・麻酔及び必要な検査③外科的治療と術後管理【講義】 (豊橋市民病院:佐野逸郎) 第4回 摂取・消化・吸収障害の病態と治療 消化管の基礎的知識【講義】 (豊橋医療センター:山下克也/安藤雅規) 第5回 摂取・消化・吸収障害の病態と治療 食道・胃・十二指腸疾患【講義】 (豊橋医療センター:山下克也/安藤雅規) 第6回 摂取・消化・吸収障害の病態と治療 小腸・大腸の疾患【講義】 (豊橋医療センター:山下克也/安藤雅規) 第7回 摂取・消化・吸収障害の病態と治療 肝・胆・脾の基礎知識【講義】 (豊橋医療センター:山下克也/安藤雅規) 第8回 摂取・消化・吸収障害の病態と治療 肝・胆道・脾疾患【講義】 (豊橋医療センター:山下克也/安藤雅規) 第9回 運動器系にかかわる病態のメカニズムと対処法【講義】 (本学:杉浦昌) 第10回 骨折・関節異常の病態と治療【講義】 (本学:杉浦昌) 第11回 脊椎・脊髄異常の病態と治療①【講義】 (本学:杉浦昌) 第12回 脊椎・脊髄異常の病態と治療②【講義】 (本学:杉浦昌) 第13回 泌尿器系疾患の病態と治療①尿路結石・腎細胞がん・水腎症【講義】 (豊橋市民病院:渡邊智治) 第14回 泌尿器系疾患の病態と治療②尿路感染症・前立腺肥大・前立腺がん【講義】 (豊橋市民病院:渡邊智治) 第15回 感覚器系疾患 (耳鼻咽喉科) の病態と治療【講義】 (豊橋医療センター:山口浩志) ただし、学生の習熟度により授業計画を変更することもあるので、初回授業時に配布する授業計画表を必ず確認すること (講師の都合により、時間および講師の変更の可能性あり)。 授業時間内にミニテストを行った場合にはその場で解答し解説する。 試験結果は、必要に応じてフィードバックおよび補講を行う。							
ナンバリング	NRAM2001							

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード		96550	
科目	9655 病態と治療Ⅳ (小児)			授業種別		週間授業	
担当教員	河合 洋子			単位数		1	
その他担当者	佐野 伸一郎、田口 智英、宮本 健、大下 裕法、金岡 遼						
授業概要	小児期における代表的な疾患の病態および症状、検査、治療について学修する。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性		◎		○			
到達目標	1. 小児の特性（成長・発達の特徴）について述べるができる。 2. 小児期における代表的な疾患の主要病態とその症状について述べることができる。 3. 小児期における代表的な疾患の治療、検査について述べるができる。 ※この科目はが該当授業内容に関する医師の実務経験を有する教員等がその経験をいかし講義を行う科目である。						
テキスト（教科書）	・奈良間美保著，系統看護学講座 専門分野 小児看護学① 小児看護学概論・小児臨床看護総論 第14版，医学書院 ISBN：978-4-260-038607 ・奈良間美保著，系統看護学講座 専門分野 小児看護学② 小児臨床看護各論 第14版，医学書院 ISBN：978-4-260-038669						
参考書および参考文献	適宜紹介する						
受講条件	必修科目 履修条件を付けない						
事前・事後学修（内容・時間）	①授業前には教科書の該当箇所を熟読する（第1回～第8回／120分程度） ②授業後には授業での学びを整理しておく（第1回～第8回／120分程度） ③全8回終了後にはすべての事項について復習を行い学修内容を整理する（6時間程度） 以上を参考に自己学修を行うこと。なお、小児看護学原論と関連させて学修することが望ましい。						
成績評価							
定期試験の成績から評価を行う。							
評価項目		割合	評価基準				
定期試験		100%	到達目標に沿って、授業での重要な点について適切に理解しているか筆記試験で確認する				
授業の実施方法と授業計画	*学習内容に関する質問事項については、各授業内で解説を行う。 *各回においてリアクションペーパーの記載を求める。 *授業への意見・質問等についての解説は、クラスルームも活用する（フィードバック） 第1回（講義）．消化器疾患の病態と治療（口唇口蓋裂、腸重積症、肥厚性幽門狭窄症、ヒルシュスプルング病、鎖肛、食道閉鎖症、胆道閉鎖症など）、腎・泌尿器・生殖器疾患の病態と治療（ネフローゼ症候群、糸球体腎炎など）（宮本） 第2回（講義）．悪性新生物の病態と治療（白血病、神経芽腫など）、神経・運動器疾患の病態と治療（てんかん、脳炎、筋ジストロフィーなど）、感覚器系疾患（皮膚・眼・耳鼻）の病態と治療、精神疾患の病態と治療（発達障害、神経症など）（宮本） 第3回（講義）．小児の特性（成長と発達）、新生児疾患の病態と治療（新生児仮死、新生児一過性多呼吸、メレナ）（田口） 第4回（講義）．免疫・アレルギー疾患の病態と治療（食物アレルギー、気管支喘息、自己免疫疾患など）、血液・造血器疾患の病態と治療（貧血、血小板減少性紫斑病、血友病など）、感染症の病態と治療（麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、水痘などのウイルス感染症、細菌感染症）（田口） 第5回（講義）．呼吸器疾患の病態と治療（上気道疾患、下気道疾患）（金岡） 第6回（講義）．循環器疾患の病態と治療（心室中隔欠損症、ファロー四徴症など）（大下） 第7・8回（講義）．染色体異常・胎内環境により発症する先天異常の病態と治療、代謝・内分泌疾患の病態と治療（先天性代謝異常症、糖尿病、低身長、中枢性尿崩症、クレチン症など）（佐野） ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することがある。						
ナンバリング	NRBM2002						

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード	96560		
科目	9656 病態と治療Ⅴ（産科・婦人科）			授業種別	週間授業		
担当教員	大林 陽子			単位数	1		
その他担当者	渡辺 慎一郎、保條 説彦						
授業概要	産科・婦人科疾患の病態生理を理解し、疾患の診断、検査、治療、症状等について学ぶ。主に、女性生殖器（子宮・卵巣等）疾患の病態生理、妊娠・分娩が原因となつて起こる母体・胎児に起こる疾患の病態生理について学ぶ。 ※この科目は当該授業内容に関する医師の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性		◎		○			
到達目標	1. 妊娠・分娩・産褥期の異常の診断、治療、検査、症状について説明できる。 2. 女性生殖器（子宮・卵巣等）疾患の診断、治療、検査、症状について説明できる。						
テキスト（教科書）	系統看護学講座 成人看護学9 女性生殖器 第15版、末岡浩他、医学書院、ISBN9784260035675 現代の母性看護 概論 第2版、入山茂美他編、名古屋大学出版会、ISBN9784815808990 現代の母性看護 各論、入山茂美他編、名古屋大学出版会、ISBN9784815809744						
参考書および参考文献	病気がみえるvol.10産科 第4版、医療情報科学研究所編集、メディックメディア、ISBN9784896327137 病気がみえるvol.9婦人科 第4版、医療情報科学研究所編集、メディックメディア、ISBN9784896327120						
受講条件	必修科目						
事前・事後学修（内容・時間）	<事前学修> 1. 該当する病態について「からだの構造と機能」「生命科学の基礎」「生化学」等、関連分野科目を授業前に復習しておく（第1～8回/30分） 2. 授業計画を参照して、テキストの該当頁を読み、わからない箇所を明確にしておく（第1～8回/30分） <事後学修> 1. 授業後はテキストの内容をもとに自身のまとめノートを作成しておく（第1～8回/30分） 2. 授業を受けて不明な事項について、テキストや参考書で調べて明確にしておく（第1～8回/30分）						
成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価します。なお、遅刻・早退・無断欠席や劣悪な受講態度（私語・居眠り等）は減点の対象とする場合があります。						
評価項目		割合	評価基準				
定期試験		100%（ 産科50%・ 婦人科50%）	筆記試験（マークシート）にて理解度を確認する				
授業の実施方法と授業計画	第1～4回（講義） 渡辺 慎一郎 産科（周産期における異常） 妊娠期の異常と管理（子宮外妊娠・多胎妊娠を含む） 基礎疾患に妊娠が合併した妊産婦の管理 分娩期の異常（胎児機能不全と新生児仮死） 産褥期の異常 第5～8回（講義） 保條 説彦 婦人科疾患 婦人科腫瘍（良性・悪性） ホルモン関係の疾患（月経・更年期） 婦人科炎症疾患 *学生の習熟度により授業計画を変更することがある。 *課題（テスト等）や質疑内容については、授業内あるいはClassroomを通してフィードバックする。						
ナンバリング	NRBM2003						

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード	96570			
科目	9657 病態と治療Ⅵ (精神)			授業種別	週間授業			
担当教員	桑原 高史			単位数	1			
その他担当者								
授業概要	世界精神保健調査によると、日本における成人の気分障害、不安障害、衝動制御障害、物質関連障害のいずれかの生涯有病率は24.2%、12か月有病率は10.0%となっている。調査に含まれていない統合失調症や認知症などを含めると、日本における精神疾患の有病率はさらに高くなると推測される。また身体疾患の患者でも、ストレスが継続的に加わることで、結果として精神医学的な問題が生じることも多い。日々患者に接している医療従事者が主治医より先に精神的な不調に気づくことも多いことから、医療従事者として必要な知識を身につけることは必須である。精神疾患の一部は慢性的な経過をたどるが、治せない患者はいても関わることでできない患者はいない。したがって精神科は医療従事者としてやりがいを感じられる分野であろう。 本講義は、8回の授業により、医療従事者として必要な精神医学的知識の習得を目標とする。 ※この科目は当該授業内容に関する医師の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義棟を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性		◎		○				
到達目標	第1回 精神医学の歴史や、症候学、検査方法などを理解できる 第2回 統合失調症の疫学、病態、診断、経過、治療について理解できる 第3回 気分(感情)障害の疫学、病態、診断、経過、治療について理解できる 第4回 不安障害、ストレス関連障害、摂食障害の疫学、病態、診断、経過、治療について理解できる 第5回 児童・思春期における精神障害の疫学、病態、診断、経過、治療について理解できる 第6回 精神作用物質による精神および行動の障害の疫学、病態、診断、経過、治療について理解できる 第7回 器質性精神障害(認知症など)、てんかん、睡眠障害の疫学、病態、診断、経過、治療について理解できる 第8回 成人のパーソナリティと行動の障害の疫学、病態、診断、経過、治療について理解できる							
テキスト(教科書)	教科書は使用しない。講義毎に資料を提示する。							
参考書および参考文献	テーマ、興味に応じて各種新書に目を通すことが望ましい							
受講条件	必修科目							
事前・事後学修(内容・時間)	教科書の下記の章を事前に予習しておくこと(第1回～8回/60分) 第2章 精神障害をもつ人の抱える症状と診断のための検査 第3章 主な精神疾患/障害 第4章 精神疾患の主な治療法 授業後は当日配布されたプリントを元に復習すること(第1回～8回/60分) ※1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることを踏まえ、自己学修を行うこと							
成績評価	定期試験を主として小テストを勘案する。							
評価項目		割合	評価基準					
定期試験		60%	一連の講義を通した総合的な理解度を確認する。					
小テスト		40%	各講義の最後に当日の授業内容の理解度を確認するために行う。					
授業の実施方法と授業計画	授業はPowerPointを使用して行う。 この科目は全て講義形式で行う。 第1回 精神医学総論(歴史や症候学を中心に) 第2回 統合失調症 第3回 気分(感情)障害 第4回 不安障害、ストレス関連障害、摂食障害 第5回 児童・思春期における精神障害 第6回 精神作用物質による精神および行動の障害 第7回 器質性精神障害(認知症など)、てんかん、睡眠障害 第8回 成人のパーソナリティと行動の障害 ※必要に応じて小テストのフィードバックをおこなう。							
ナンバリング	NRCM2004							

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	96210		
科目	9621 公衆衛生学			授業種別	週間授業		
担当教員	齋藤 寛史			単位数	2		
その他担当者							
授業概要	人間の健康は様々な社会生活環境と関連していることを知り、公衆衛生的考え方の基本を学修する。そして、少子高齢化社会の日本における各ライフステージの健康課題と、それに対する各種諸制度を含む公衆衛生的対策の現状と課題について学修する。 この科目は当該授業に関する食品衛生の実務経験を有する教員がその経験を活かし講義を行う。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性		◎		○			△
到達目標	1 疾病の予防と健康保持増進について、その意義と重要性、技術について説明できる 2 公衆衛生向上の意義と重要性について学び、地域社会に役立てることができる						
テキスト(教科書)	神馬征峰他 健康支援と社会保障制度【2】公衆衛生(15版) 医学書院 ISBN 978-4-260-05312-9						
参考書および参考文献	特になし						
受講条件	必修科目						
事前・事後学修(内容・時間)	1 毎授業前に指定箇所まで教科書を読んでおくこと(2～14回／30分程度)。 2 公衆衛生に関する新聞記事等に関心を持ち、知識を広く深めること。 ※以上1、2について、1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることを踏まえ、自己学習を行うこと。						
成績評価							
小テストと学期末に行う定期試験で評価する。							
評価項目	割合		評価基準				
小テスト	10%		講義内容の理解度を確認する。				
定期試験	90%		筆記試験にて理解度を確認する。				
授業の実施方法と授業計画	6回終了後に、それまでの講義内容に関する小テストを行う。小テストは採点后資料を配布し、講義で解説する。 本科目は全て講義形式で行う。 1回 公衆衛生を学にあたって、公衆衛生のエッセンス 2回 公衆衛生の活動対象 3回 公衆衛生のしくみ 4回 集団の健康をとらえるための手法 疫学・保健統計 5回 環境と健康 6回 感染症とその予防・国際保健 小テスト 7回 地域における公衆衛生の実践(地域保健)① 公衆衛生看護、母子保健 8回 地域における公衆衛生の実践(地域保健)② 成人保健 9回 地域における公衆衛生の実践(地域保健)③ 高齢者保健 10回 地域における公衆衛生の実践(地域保健)④ 精神保健 11回 地域における公衆衛生の実践(地域保健)⑤ 歯科保健、障害者・難病保健) 12回 学校と健康 13回 職場と健康 14回 健康危機管理 15回 災害保健 ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。						
ナンバリング	NRGM1002						

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	96270			
科目	9627 保健医療福祉行政論			授業種別	週間授業			
担当教員	西川 浩昭			単位数	2			
その他担当者								
授業概要	健康で文化的な最低限度の生活を営むことは憲法に保障された国民の権利である。そのために必要であり、用意されている保健医療福祉行政の目的、保健行政と地方自治制度・地方分権の意義や保健行政の役割と制度の仕組みとその財源である国と地方自治体の財政と医療経済を学修する。また、保健福祉計画の必要性を理解し、住民参画による策定のプロセス、推進と評価の方法について教授し、政策能力の向上をはかる。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性		◎		○				
到達目標	わが国における保健医療福祉行政および保健医療福祉サービスの基礎的知識を学ぶ。また、地方公共団体における保健医療福祉行政施策に関する基礎的知識を学ぶ。 1. 我が国における保健福祉政策の現状を把握する。 2. 保健医療福祉行政のしくみを学ぶ。 3. 社会保障・社会福祉制度のしくみを学ぶ。							
テキスト(教科書)	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度3社会保障・社会福祉 医学書院 ISBN:9784260048590							
参考書および参考文献	統計数値・政策等内容の変化が多い科目であるので、補足資料を配付する。 保健医療福祉行政論 医学書院 ISBN:978426004222 国民の福祉と介護の動向 2024/2025 厚生統計協会 国民衛生の動向 2025/2026厚生統計協会(2025年9月刊行予定)							
受講条件	必修科目							
事前・事後学修(内容・時間)	授業計画に沿って、教科書の関係箇所を熟読し予習しておくこと(各回30分程度)。 授業後は、配布資料と講義内容を復習し、復習用の問題に解答すること(各回60分程度)。 授業の性格上、事後学修が中心となるので、十分に復習すること。							
成績評価								
課題提出及び定期試験により授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価する。								
評価項目			割合	評価基準				
課題提出物			10%	講義内容の理解度を確認する。				
定期試験			90%	筆記試験にて理解度を確認する。				
授業の実施方法と授業計画	第1回(講義) 保健医療福祉行政の仕組みと財政 第2回(講義) 社会保障の概念と仕組み 第3回(講義) 公衆衛生行政・地域保健 第4回(講義) 医療提供体制 医療法・医療計画 第5回(講義) 医療経済・国民医療費 第6回(講義) 医療保険制度① 医療保険制度の概要・国民健康保険 第7回(講義) 医療保険制度② 被用者保険・後期高齢者医療保険 第8回(講義) 介護保険制度① 制度の概要 第9回(講義) 介護保険制度② 要介護認定・介護サービス 第10回(講義) 年金保険制度 制度の概要・国民年金・厚生年金 第11回(講義) 労働者の保護 雇用保険・労働者災害保険 第12回(講義) 社会福祉① 社会福祉の概要・生活保護 第13回(講義) 社会福祉② 障害者福祉、高齢者福祉 第14回(講義) 社会福祉③ 児童福祉、寡婦母子福祉 第15回(講義) 保健医療分野の国際協力 課題のフィードバックは講義内で行う。							
ナンバリング	NREM2006							

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード		96280		
科目	9628 保健医療統計学Ⅰ			授業種別		週間授業		
担当教員	中川 博文			単位数		1		
その他担当者								
授業概要	看護学領域では質量の様々なデータと直面する。データを適切に処理し活用するには統計理論に関する知識が必要不可欠となる。本科目では統計データ処理に必要な確率の基礎や理論分布等について学修する。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性		○		○				
到達目標	近年の医療の高度化とともに科学的根拠にもとづく意思決定能力が看護の現場で強く求められるようになってきており、実データによる統計解析処理の重要性が増している。このような実状を踏まえ、本授業の到達目標を以下の通りとする。 ①データとは何かについて説明できる ②データの尺度水準と尺度の違いを説明できる ③代表値の種類について説明することができ、それぞれの値を求めることができる ④分散や標準偏差について説明することができ、それぞれの値を求めることができる ⑤標本と母集団の関係について説明できる ⑥正規分布の特徴などについて説明できる ⑦正規分布の標準化と標準正規分布について説明できる ⑧正規分布以外の分布について簡単に説明できる							
テキスト(教科書)	「医療看護のためのやさしい統計学(基礎編)」第10刷 山田寛著 (東京図書:ISBN978-4-489-00632-6)							
参考書および参考文献	「看護学生のための疫学・保健統計」第1版 浅野嘉延著 (南山堂:ISBN978-4-525-05341-3) 「保健統計・疫学」改訂5版 福富和夫・橋本修二共著 (南山堂:ISBN978-4-525-05335-2)							
受講条件	必修科目							
事前・事後学修(内容・時間)	毎回の授業について、事前および事後学修(学修時間:4時間相当)を必ず行うこと。それぞれの内容と時間は以下の通りとする。 ・授業に該当する内容は事前に必ず教科書等で確認しておくこと(第2～第7回/2時間相当) ・授業で扱った数式や数値データ等は事後、必ず確認しておくこと。また、演習で実施した内容は繰り返し練習を行い、確実にできるようにしておくこと(第1～第8回/2時間相当)							
成績評価								
授業には毎回出席すること。 当授業目標への達成度評価は以下の2通りの方法で行う。 ・筆記試験(中間試験および定期試験) ・課題レポート 単位認定は上の評価方法で得られた点数を合計し、その6割以上獲得した者を対象とする。 なお、遅刻、早退、欠席や劣悪な授業態度は減点の対象になる場合がある。								
評価項目		割合	評価基準					
中間試験		30%	中間期までの学習目標への達成度を筆記試験により評価する					
定期試験		50%	当授業科目の到達目標への達成度を筆記試験により評価する					
課題レポート		20%	授業中実施する演習は課題レポートとして、その提出状況や完成度等の観点から評価する。					
授業の実施方法と授業計画	第1回(講義・演習)		ガイダンス(道具としての統計およびデータの性質を把握しよう)					
	第2回(講義・演習)		データを斬る、尺度水準と数の性質および代表値とは					
	第3回(講義・演習)		ばらつきをどう評価する、分散および標準偏差とは					
	第4回(講義・演習)		標本から母集団を知る					
	第5回(講義・演習)		データ集団から特徴を読み取る度数分布とヒストグラム					
	第6回(講義・演習)		統計学で最も重要とされる正規分布とは何か					
	第7回(講義・演習)		標準化法と標準正規分布、偏差値など					
	第8回(講義・演習)		正規分布以外(二項分布など)の特徴について					
受講学生の習熟度により授業計画を変更する場合がある。なお、授業中に実施した演習課題や中間試験等は後日可能な範囲で解説を行う。								
ナンバリング	NRCM2005							

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード		96290		
科目	9629 保健医療統計学Ⅱ			授業種別		週間授業		
担当教員	中川 博文			単位数		1		
その他担当者								
授業概要	看護・医療をとりまく様々なデータを用いた統計処理の手法を学ぶ。また、種々の統計データ処理の実践的応用に関する知識を修得し、健康に関する統計の在り方についても学ぶ。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性		○		○				
到達目標	近年の医療の高度化とともに科学的根拠にもとづく意思決定能力が看護の現場で強く求められるようになってきており、実データによる統計解析処理の重要性が増している。このような実状を踏まえ、本授業の到達目標を以下の通りとする。 ①統計的仮説検定の基本的内容について説明できる ②帰無仮説と対立仮説を組み立てることができる ③データのばらつきの違いを調べるF検定の方法について説明できる ④対応のあるデータの母平均に差があるかを調べるt検定法について説明できる ⑤対応のないデータの母平均に差があるかを調べるt検定法について説明できる ⑥ウェルチのt検定について説明できる ⑦カイ2乗を利用した適合度検定と独立性検定について説明できる ⑧ピアソンの相関係数を求めることができる							
テキスト（教科書）	「医療看護のためのやさしい統計学（基礎編）」第10刷 山田寛著 （東京図書：ISBN978-4-489-00632-6）							
参考書および参考文献	「看護学生のための疫学・保健統計」第1版 浅野嘉延著 （南山堂：ISBN978-4-525-05341-3） 「保健統計・疫学」改訂5版 福富和夫・橋本修二共著 （南山堂：ISBN978-4-525-05335-2）							
受講条件	必修科目							
事前・事後学修（内容・時間）	毎回の授業について、事前および事後学修（学修時間：4時間相当）を必ず行うこと、それぞれの内容と時間は以下の通りとする。 ・授業内容に該当する部分は必ず教科書等で事前に確認しておくこと（第2～第7回/2時間相当） ・授業で扱った数式や数値データ等は再度確認しておくこと。また、演習で実施した内容は繰り返し練習を行い、確実にできるようにしておくこと（第1～第8回/2時間相当）							
成績評価								
授業には毎回出席すること。 当授業目標への達成度評価は以下の2通りの方法で行う。 ・筆記試験（中間試験および定期試験） ・課題レポート 単位認定は上の評価方法で得られた点数を合計し、その6割以上獲得した者を対象とする。 なお、遅刻、早退、欠席や劣悪な授業態度は減点の対象になる場合がある。								
評価項目	割合		評価基準					
中間試験	30%		中間期までの到達目標への達成度を筆記試験で評価する。					
定期試験	50%		当授業の到達目標への達成度を筆記試験により評価する。					
課題レポート	20%		授業中実施する演習は課題レポートとして、その提出状況や完成度等の観点から評価する。					
授業の実施方法と授業計画	第1回（講義・演習）	ガイダンス、仮説検定の考え方						
	第2回（講義・演習）	母分散には差があるか（F検定）						
授業の実施方法と授業計画	第3回（講義・演習）	対応のある2群データの母平均に差があるか（t検定）						
	第4回（講義・演習）	対応のない2群データの母平均に差があるか（t検定）						
	第5回（講義・演習）	ウェルチのt検定とは						
	第6回（講義・演習）	実測値と予測値の適合度検定（ χ^2 検定）						
	第7回（講義・演習）	分割表による独立性の検定（ χ^2 検定）						
	第8回（講義・演習）	2変数の関係の強さはどうすればわかる（ピアソンの相関係数の算出）						
	受講学生の習熟度により授業計画を変更する場合がある。なお、授業中に実施した演習課題や中間試験等は後日可能な範囲で解説を行う。							
ナンバリング	NRFM2005							

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード		962A0	
科目	962A 環境と人間			授業種別		週間授業	
担当教員	渡部 吉規			単位数		1	
その他担当者							
授業概要	人類の産業活動が地球環境に及ぼす影響を学ぶ。環境倫理の観点から、持続可能な発展のために科学技術の発展と人間の生活を自然環境に調和させることの大切さおよび現代人類の担う役割を理解する。 授業では、アクティブラーニングとして、テーマに関する討論形式でのグループワークおよび発表を行うことで理解の推進を図る。また、電子データでの教材資料公開、ワークシート配付、課題提出を行う。 ※この科目は当該授業内容に関する企業現場での環境保全対策の実務経験を有する教員がその経験を活かし講義を行う科目である。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性		◎		○			△
到達目標	①人類の活動が環境へ及ぼす影響について説明することができる。 ②持続可能な社会を実現するために実践すべき行動を述べることができる。						
テキスト(教科書)	オリジナル資料を電子データにて配付する。						
参考書および参考文献	【例題で学ぶ環境科学15講】(伊藤和男・久野章仁・小出宏樹, コロナ社, 978-4-339-06642-5) 参考URL : https://www.coronasha.co.jp/np/isbn/9784339066425/						
受講条件	必修科目						
事前・事後学修(内容・時間)	次のような事前・事後学習を毎回4時間程度行うこと。()内に目安の時間を示す。 ・次回授業範囲の内容について配付資料および参考書の該当箇所を熟読する。(60分程度) ・インターネットなども活用し、次回講義テーマに関する「予習レポート」を作成する。(60分程度) ・毎回の授業で学んだ内容について整理し、理解を深める。(30分程度) ・配付資料および参考書などを活用して、予習と復習に励む。(90分程度) その他、 ・授業中に指定した問題・演習問題は必ず解くこと。 ・講義で出された課題は次回の講義までに必ず解くこと。						
成績評価	授業の到達目標の達成度を次項に示す「予習レポート」、「課題レポート」、「ワークシート」および「定期試験」の4つの「評価項目」の得点にて総合評価する。 ※「予習レポート」はその性質上、必ず授業開始前に提出すること。授業開始後に提出しても受理しない。 原則として毎回出席すること。正当な理由なく3回以上欠席した者は失格とする。また、出席点は設定しないが、遅刻・早退や劣悪な受講態度は減点の対象とする場合がある。						
評価項目		割合	評価基準				
予習レポート		20%	各回の授業テーマに対する適切な内容・記述になっているかを評価する。				
課題レポート		10%	課題に対する適切な内容・記述になっているかを評価する。				
ワークシート		20%	講義内容の理解度を授業内で確認する。				
定期試験		50%	基本的な授業内容の理解度を筆記試験にて確認する。				
授業の実施方法と授業計画	※各回の授業開始前までに「予習レポート」を提出すること。 第1回【講義】ガイダンス：本科目の目的と概要、単位取得要件、評価方法などの説明をする。イントロダクション：世界各地で起こっている環境問題を概観する。 第2回【講義】持続可能な社会と環境倫理：持続可能な社会の実現のために求められる環境倫理の理念を考える。 【アクティブラーニング】環境倫理に関するグループ討論および発表。 【予習】「環境倫理」の定義を調べ、「予習レポート」を作成する。 第3回【講義】生物多様性：生物多様性の概念を理解し、その保存に向けて人類の担う役割を学ぶ。 【アクティブラーニング】生物多様性に関するグループ討論および発表。 【予習】「生物多様性」が減少することの問題点を調べ「予習レポート」を作成する。 第4回【講義】循環型社会と資源・廃棄物：循環型社会の構築における資源供給・廃棄物処理の問題点について考える。 【アクティブラーニング】循環型社会に関するグループ討論および発表。 【予習】「循環型社会」とはどんな社会かを調べ、「予習レポート」を作成する。 第5回【講義】低炭素社会とエネルギー：持続可能な未来のため、我々が志向すべき「低炭素社会」について考える。 【アクティブラーニング】低炭素社会に関するグループ討論および発表。 【予習】「低炭素社会」とはどんな社会かを調べ、「予習レポート」を作成する。 第6回【講義】地球温暖化：地球温暖化の現状と将来の影響予測について説明し、温暖化の原因とその不確実性、対策技術について解説する。 【アクティブラーニング】地球温暖化の影響に関するグループ討論および発表。 【予習】身近に実感する「地球温暖化」の影響を調べ、「予習レポート」を作成する。 第7回【アクティブラーニング】討論会：出題テーマについてグループで討論し、結論を発表する。 【予習】「課題レポート」を作成する。 第8回【講義】四大公害：我が国の環境問題歴史を振り返る。 【定期試験】 【予習】「四大公害」のうちの1つを調べ、原因と影響をまとめる。 ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもあり得る。 授業内で課題に対するフィードバックを行う。						
ナンバリング	NREM1003						

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード	970A0		
科目	970A 看護学原論			授業種別	週間授業		
担当教員	藤井 徹也			単位数	2		
その他担当者							
授業概要	看護学全体を概観し、その基盤となっている看護学のメタパラダイムである人間・環境・健康・看護について、本質的な見方、考え方を学ぶことをめざす。 看護の歴史的な背景および看護理論の見地から、目的・本質を中心に看護の原理を理解する。また、看護の対象である人間そして病人について理解し、臨床判断の必要性や看護の方法の概括とケアの方向性、看護が提供されるシステム全体を知る。さらに、地域包括ケアなどの現状の看護トピックスや今後の看護の課題についても考察する。 *この科目は該当授業内容に関する看護の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目である。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性		◎		△			△
到達目標	1. 看護の概念、定義に含まれる構成要素（人間、環境、健康、看護）の理解を通し、看護の本質、原理について考察できる。 2. 看護の対象である個人/家族/集団について、その対象を全体的な存在として理論的基盤の見地から述べることができる。 3. 看護の専門性、責任・義務を多様な視点から、看護を学ぶ者としての方向性を考察できる。 4. 看護の機能、役割、保健福祉医療チームについて看護活動との関連を通し、その概括を述べることができる。 5. 看護の本質、専門性を大切にした看護、現状と課題について考えることができる。						
テキスト（教科書）	1) 松木光子編集：看護学概論，第5版，ヌーヴェルヒロカワ，2011.ISBN:978-4-86174-039-8 2) 日本看護協会編：看護職の基本的責務・定義・概念/基本法/倫理2025年度版，日本看護協会出版会，2025. ISBN:未定						
参考書および参考文献	1) C.Roy（松木光子監訳）：ザ・ロイ適応看護モデル第2版，医学書院，2016. ISBN:978-4-260-00973-7 2) J.B.George編（南裕子，他訳）：看護理論集第3版，日本看護協会出版会，2013. ISBN:978-4-8180-1718-4 *その他、授業時に提示する。						
受講条件	必修科目						
事前・事後学修（内容・時間）	①指定されたテキストの範囲を事前学修する（第1～15回）。 ②専門科目である看護学に初めて踏み込む導入、看護学の全体をoverviewする位置づけの科目である。耳慣れない用語等に接すること多い。教員の体験や見解も多く語られるため、学修内容を適宜まとめ整理する（第1～15回）。 ③内容を理解、考察するのに社会状況や他の分野との関連性が欠かせないため、多角的に整理する（第1～15回）。 *2単位の修得には90時間の学修時間が必要であることを踏まえ、講義毎に事前・事後学修合わせて90分程度の自己学修を行う。						
成績評価							
筆記試験（80%）、課題レポート・講義中の提出物（10%）、講義中の討論の参加態度（10%）について総合的に評価する。なお、欠席、遅刻、早退や劣悪な受講態度は減点の対象とする。							
評価項目		割合	評価基準				
定期試験（筆記試験）		80%	各授業の重要な点について適切に理解していることを評価する。				
講義中の提出物		10%	課題に対し文献を活用して分析し考察がされていることを評価する。				
講義中の討論の参加度		10%	講義中の意見交換、発表への討論が自主的に発言できるか、他者の意見に関心を持った発言が出来るか等を評価する。				
授業の実施方法と授業計画	第1回	Introduction；看護学の学修に向けて（講義：藤井）					
	第2回	看護の概念、看護の本質①（講義：藤井）					
	第3回	看護の概念、看護の本質②（講義：藤井）					
	第4回	看護の歴史的な変遷と本質（講義：藤井）					
	第5回	米国における看護（講義：ゲストスピーカー）					
	第6回	看護の対象の理解①、生理的心理社会的な統合体（講義：藤井）					
	第7回	看護の対象の理解②、病人の理解（講義：藤井）					
	第8回	看護の構成要素としての主要概念①（環境、健康、人間、看護）（講義：藤井）					
	第9回	看護の構成要素としての主要概念②（環境、健康、人間、看護）（講義：藤井）					
	第10回	自分が今考える看護の構成要素の概念と関連性（講義：藤井）					
	第11回	自分が今考える看護の構成要素の概念とその関連性の検討（講義：藤井）					
	第12回	看護の構成要素の概念とその関連性の検討、理論をふまえて（講義：藤井）					
	第13回	看護の専門性・責任・義務、看護と看護理論、看護理論の概観（講義：藤井）					
	第14回	看護の役割、機能、保健医療チーム、看護活動（講義：藤井）					
	第15回	看護活動の現状の課題と今後の展望（講義：藤井） *発表内容やリアクションペーパーの回答は授業時間内で行う。課題（定期試験やレポート等）のフィードバックは、授業内またはメール等でコメントする。					
ナンバリング	NRCM1001						

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	970B0		
科目	970B 看護理論概説			授業種別	週間授業		
担当教員	藤井 徹也			単位数	1		
その他担当者							
授業概要	看護理論を学ぶ意義を理解し、学ぶことに興味をもつ。また、理論そのものの構造、守備範囲、主張点のつかみ方など、理論をクリティークできる視点を理解する。そのうえで、看護理論、周辺理論の時代的な流れ、関連性を概観し、先人の理論を実際に講読する。この講読、討論、発表、討論を繰り返す中で、それらの理論の内容、関連性が分かり、多様な理論を身近なもので、活用することに興味深くなる姿勢を養う。また、実際に、文献の講読方法を学び、自らの考え方にも理論を活用する。この科目は、当該授業内容に関する看護職の実務経験を有する教員等が、その実務経験を活かして講義等を行う科目である。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性		◎		△			
到達目標	1. 看護理論を学ぶ目的と意義を理解でき、自らの考える看護に対する考え方の基礎にすることが出来る。 2. 理論の構造、守備範囲の存在を知り、理論を構造的に述べることが出来る 3. 看護理論を支える周辺理論について、その特徴と看護への活用のされ方等、概括的に述べる事が出来る 4. 主要な看護理論の特徴と活用のされ方などの概括について歴史的変遷、影響された理論を含めて述べる事が出来る 5. 看護理論および周辺の理論に関する文献講読、グループワークを通し、理論への接近の仕方と理論への興味関心を深め、プレゼンテーションが出来る						
テキスト(教科書)	1) 野嶋佐由美、田井雅子他：看護学と概念と倫理，日本看護協会出版会，2021.ISBN:978-4-8180-2357-4						
参考書および参考文献	1) 松木光子編集：看護学概論，第5版，ヌーヴェルヒロカワ，2011.ISBN:978-4-86174-039-8 2) 城ヶ端初子：新訂版実践に生かす看護理論19，第2版，サイオ出版，2024.ISBN:978-4-90717-671-6 3) 自らが講読を必要とする、また、考え方を広げるためにさらに必要とする文献						
受講条件	必修科目						
事前・事後学修(内容・時間)	①授業前には事前に提示した文献や参考書の必要箇所を熟読する。 ②授業後には授業での学びを整理しておく。 ③授業内で指示する内容については、事前に調べて授業に臨む。 ①②③について、1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることを踏まえ、自己学修を行うこと。(第1回～8回講義の予習・復習で各々30分程度)						
成績評価							
筆記試験(85%)、グループワークを含めた学修への取り組み状況(グループワークの参加度)(15%)で評価する。 なお、欠席、遅刻、早退や劣悪な受講態度は減点の対象とする。							
評価項目		割合	評価基準				
定期試験(筆記試験)		85%	講義内容の理解度を確認する				
グループワークを含めた学修への取り組み状況(グループワークの参加度)		15%	課題について文献を用いて適切に分析、自分の考えまとめてグループワークで述べるができること、グループワークに臨む態度、グループメンバーとしての役割を遂行をしているかの視点で評価する。				
授業の実施方法と授業計画	第1回 Introduction, 看護学における理論、看護学の発展 (講義:藤井) 第2回 先人たちの看護理論(1) ナイチンゲール、ヘンダーソン (講義、GW:藤井) 第3回 先人たちの看護理論(2) オレム、ペブロー (講義、GW:藤井) 第4回 先人たちの看護理論(3) トラベルビー、キング (講義、GW:藤井) 第5回 先人たちの看護理論(4) ロジャース、ワトソン (講義、GW:藤井) 第6回 先人たちの看護理論(5) ベナー、ロイ (講義、GW:藤井) 第7回 先人たちの看護理論(6) レーニンガー、看護現象を理解するための諸理論(1) マズローの自己実現論、発達理論 (講義、GW:藤井) 第8回 看護現象を理解するための諸理論(2) 危機理論、ストレス・コーピング理論、システム論、看護理論のまとめ (講義、GW:藤井) *発表内容およびリアクションペーパーについては、授業内にフィードバックとしてコメントとする。 定期試験のフィードバックは受講生にメール等でコメントする。						
ナンバリング	NREM1004						

開講年度・開講学期	2025年度 春学期				授業コード		970C0	
科目	970C 看護倫理				授業種別		週間授業	
担当教員	桂川 純子				単位数		2	
その他担当者	林 美佐、大林 陽子、原沢 優子、今福 恵子、河合 洋子							
授業概要	現在の社会の多様な事象の中で、保健医療及び看護に求められる高い倫理への要請を理解した上で、医療に求められる倫理、看護倫理の意義、必要性を理解する。また、多様な角度から倫理的課題を感じ取る感受性と、看護倫理の原則を基盤に、医療における事象を対象者の人権を擁護する視点から考察できる基礎的な能力を育成する。さらに、臨地における事例の倫理的ジレンマに焦点をあて、看護倫理の哲学的、理論的な見地からも具体的に検討し考察する。この科目は、当該授業内容に関する看護職の実務経験を有する教員等が、その実務経験を活かして講義等を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性			◎	○	○	△		
到達目標	1. 看護倫理の基盤となる主要概念を説明できる。 2. 看護倫理における専門職としての規範を説明できる。 3. 倫理的な感受性を育むことの必要性がわかり、自身の倫理的価値観を省察できる。 4. 様々な看護場面での倫理的課題を述べることができる。 5. 看護に関連した場面における倫理的課題を検討し、看護者にとって必要な行動を示すことができる。							
テキスト(教科書)	・日本看護協会編；看護者の基本的責務一定義・概念/基本法/倫理，日本看護協会出版会ISBN:978-4-8180-2086-3 ・宮坂道夫他著（2024）系統看護学講座-別巻 看護倫理第3版、ISBN978-4-260-03445-6							
参考書および参考文献	・サラ・T. フライ（著）、メガン・ジェン ジョンストン（著）、Sara T. Fry（原著）、Megan-Jane Johnstone（原著）、片田 範子（翻訳）、山本 あい子（翻訳）；看護実践の倫理—倫理的意思決定のためのガイド、日本看護協会出版会、ISBN:978-4-8180-1512-8							
受講条件	必修科目							
事前・事後学修(内容・時間)	【第1回（3時間）】 ・事前学修：これまでの看護の学修や体験から「いのち」について考える。 ・事後学修：授業内のワークで取り組んだ内容についてふり振り返り、自身の言葉でまとめる。課題に取り組む。 【第2～6回（各1時間）】 ・事前学修：教科書該当箇所を熟読し、専門用語や概念について確認する。 ・事後学修：授業で学んだ内容についてふり振り返り、日常生活、看護場面でどのように応用されるか考える。専門用語や概念について内容を正しく理解し、使用場面を設定し、イメージトレーニングする。 【第7～11回（各1時間）】 ・事前・事後学修：各担当者からの課題に取り組む。GoogleClassroomや事前の授業内で提示されることがある。 【第12～15回（各1時間）】 ・事前学修：これまで学んだ看護倫理に関する用語や概念、求められる態度について自身の意見として討議できるように準備する。 ・事後学修：看護倫理に必要な知識や態度について、自身の実践でどのように活用するか考える。							
成績評価								
筆記試験、グループワーク、レポートで総合的に評価する								
評価項目	割合		評価基準					
定期試験	70%		看護倫理の主要な用語、概念、事項について内容を含めて適切に理解できているか確認する。 看護倫理全体に関連する基礎的・概念的な内容と、各分野別の内容から出題される。					
事例検討のグループワーク	15%		グループワークによる成果および看護職に必要な倫理的な態度について確認する。メンバー間での相互評価も行う。					
課題レポート	15%		倫理的な看護師（看護学生）の行動についてのレポートを作成し、 1.指示された課題が不足なく取り組まれているか 2.学んだ内容を踏まえて、自分の考えを述べられているか 3.適切な日本語表現でレポートを書くためのマナーが守られているかの視点から確認する。					
授業の実施方法と授業計画	第1回	ガイダンス、看護の場で発見する倫理、看護者の倫理綱領：その歴史と改定（講義、演習（個人ワーク））（桂川）						
	第2回	倫理的行動の背景にある倫理理論（講義）（桂川）						
	第3回	患者の権利とは何か（講義）（桂川）						
	第4回	私は、私の行動をどのように選択するか：ナラティブ・対話・コンサルテーションという方法（講義）（桂川）						
	第5回	看護者として私はどのように行動するか：看護倫理の概念と原則（講義）（桂川）						
	第6回	倫理的課題のある事例へのアプローチ：事例分析の方法を理解する（講義、ワーク）（桂川）						
	第7回	周産期における看護倫理（講義）（桂川）						
	第8回	小児看護学と看護倫理（講義）（河合）						
	第9回	高齢者看護学と看護倫理（講義）（原沢）						
	第10回	在宅看護学と看護倫理（講義）（今福）						
	第11回	精神看護学と看護倫理（講義）（桂川）						
	第12回	倫理的課題のある事例へのアプローチ：事例を分析する（演習（グループワーク））（桂川、林）						
	第13回	私たちが考える倫理的課題へのアプローチ（演習（グループワーク））（桂川、林）						
	第14回	私たちが考える倫理的課題へのアプローチ（発表（グループワーク））（桂川、林）						
	第15回	倫理的な実践を行なう看護者とは：まとめ（講義）（桂川、林）						
※※毎時のリアクションペーパー（Google Classroom経由Formsを使用するので通信機器を持参すること）に述べられた内容のうち特に学修に関連するものは、授業内やGoogle Classroomでコメントする。グループでの発表へは授業内でコメントする。定期試験、課題レポートは、成績確定後、個別に対応する。								
ナンバリング	NRAM3004							

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード		9.70E+02	
科目	970E ヘルスアセスメント論			授業種別		週間授業	
担当教員	山口 直己			単位数		2	
その他担当者	笹木 りゆこ、西澤 和義、藤井 徹也、井上 直子、林 美佐						
授業概要	看護の対象に対して、どのような看護ケアが必要か適切に臨床判断するためのアセスメントについて、理論・エビデンスを基に理解する。看護の対象生理的・心理社会的な全体の統合体として捉え、アセスメントから看護診断への臨床判断のプロセスを理論的基盤のもと理解する。そのプロセスの成り行きから、有効な看護ケアの方向性についても学ぶ。 この科目は当該授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目である。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性	△			◎			
到達目標	1. 看護の対象について、ロイ適応看護モデルを基盤として生理的心理社会的な全体として統合的な視点で捉え、ヘルスアセスメントをすることの意義を述べることができる。 2. 看護の視点である4つの適応様式（生理的機能・自己概念・役割機能・相互依存）から、個人の適応状態を臨床判断するために必要なメカニズムと、アセスメント（行動、刺激）の内容を述べることができる。 3. 2のプロセスの継続から、主な看護診断と看護介入の方向性を述べることができる。 4. アセスメントをするために必要なフィジカルイグザミネーションが実施できる。						
テキスト（教科書）	①C.Roy（松木光子監訳）：ザ・ロイ適応看護モデル第2版，2010，医学書院。 ISBN: 978-4-260-00973-7 ②NANDA-I（日本看護診断学会監訳）：NANDA-I 看護診断2024～2026，医学書院。 ISBN: 978-4260057127 ③横山美樹：はじめてのフィジカルアセスメント第2版，2019，メヂカルフレンド社。 ISBN: 978-4-8392-1648-1						
参考書および参考文献	なし						
受講条件	必修科目						
事前・事後学修（内容・時間）	①毎授業前に指定箇所までテキストを読むこと。（第2回～30回／30分程度） ②授業後には授業での学びを整理し、疑問点を明確にする。（第1回～30回／60分） ③授業内で学修すべき内容の課題がある場合、調べて授業に臨むこと（第1回～30回／30分）						
成績評価							
定期試験（筆記試験）75％ 定期試験（技術試験）15％ 小テスト10％を総合して評価する なお、欠席、遅刻、早退や劣悪な受講態度は減点の対象とする。							
評価項目	割合		評価基準				
定期試験（筆記試験）	75％		講義内容の理解度を確認する。講義内容が多いため定期試験は中間試験と期末試験を予定している。				
定期試験（技術試験）	15％		実技の修得状況を確認する				
小テスト	10％		講義内容の理解度を確認する				
授業の実施方法と授業計画	第1・2回 対象の状態を臨床判断するために必要なヘルスアセスメントの意義と思考方法 ロイ看護適応モデルを活用したヘルスアセスメントの捉え方＜講義＞（山口） 第3・4回 バイタルサインのアセスメント ＜講義＞（山口） 第5・6回 バイタルサインの測定方法 ＜演習＞（山口、その他担当教員） 第7・8回 酸素摂取のアセスメント＜講義＞（藤井） 第9・10回 排泄のアセスメント＜講義＞（山口） 第11回 排泄のフィジカルイグザミネーション＜講義＞（山口） 第12回 酸素摂取のフィジカルイグザミネーション＜講義＞（藤井） 第13回 排泄のフィジカルイグザミネーション ＜演習＞（山口、その他担当教員） 第14回 酸素摂取のフィジカルイグザミネーション ＜演習＞（藤井、その他担当教員） 第15回 栄養のアセスメント＜講義＞（井上） 第16回 防御のアセスメント＜講義＞（笹木） 第17・18回 活動と休息のアセスメント＜講義＞（笹木） 第19回 神経のアセスメント＜講義＞（山口） 第20回 体液・電解質、酸・塩基平衡のアセスメント＜講義＞（林） 第21回 活動と休息のフィジカルイグザミネーション＜講義＞（山口） 第22回 神経機能のフィジカルイグザミネーション＜講義＞（山口） 第23回 活動と休息のフィジカルイグザミネーション＜演習＞（山口、その他教員） 第24回 神経機能のフィジカルイグザミネーション＜演習＞（山口、その他教員） 第25回 感覚のアセスメント＜講義＞（藤井） 第26回 内分泌機能のアセスメント＜講義＞（山口） 第27回 自己概念様式のアセスメント＜講義＞（山口） 第28回 役割機能様式のアセスメント＜講義＞（山口） 第29回 相互依存のアセスメント＜講義＞（山口） 第30回 まとめ、事例演習＜講義・演習＞（山口） ＊リアクションペーパーの回答、小テストの解答は授業時間内に行う ＊筆記試験および技術試験について全体にフィードバックを行う ＊受講生の習熟度により授業計画を変更することもある						
ナンバリング	NRFM1005						

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード		980D0	
科目	980D 基礎看護学方法論Ⅰ			授業種別		週間授業	
担当教員	井上 直子			単位数		2	
その他担当者	三輪木 君子、笹木 りゆこ、山口 直己、西澤 和義、藤井 徹也、林 美佐						
授業概要	看護の目的を達成するために提供される方法論として看護技術は存在する。基本的な生活上の看護援助および人間関係を形成するためのコミュニケーションについて学ぶと共に、看護技術の根拠となる知識を基に、技術に共通して必要となる要素（安全・安楽・正確）に基づいた看護技術を講義・演習をとおして学修する。 *この科目は該当授業内容に関する看護の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目である。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性	○		○	◎	△		
到達目標	1. 看護場面に共通して必要となる看護技術を実施するために必要な基本的な知識とその根拠を述べることができる。 2. 安全・安楽・正確・効率（経済性）・美しさ（審美性）を考慮した看護技術を実施できる。 3. 看護技術を受ける対象者の状態を把握し、対象者を尊重した態度で実施できる。						
テキスト（教科書）	1. 茂野香おる（他），系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学② 19版，医学書院，2023. ISBN:978-4-260-04992-4 2. 任和子（他），系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 18版，医学書院，2021. ISBN:978-4-260-04212-3 3. 篠崎恵美子・藤井徹也，看護コミュニケーション-基礎から学ぶスキルとトレーニング-第2版，医学書院，2022. ISBN978-4-260-04793-7						
参考書および参考文献	必要時に適宜紹介する。						
受講条件	必修科目						
事前・事後学修（内容・時間）	1.授業前には教科書の指定箇所を読んでおくこと（第2回～30回の講義／60分程度） 2.講義で学修した知識を復習する（第2回～30回の講義／60分程度） 3.演習では、事前に配布される手順書の読み込み、クラスルームにアップされた演習動画を視聴する（第2回～26回の演習／60分程度） 4.看護技術は繰り返し練習を積み重ねることによって習得されるため、演習で学修した内容を繰り返し練習する（全体で16時間）						
成績評価							
筆記試験、技術試験、参加状況、課題を総合的に評価する なお、欠席、遅刻、早退や受講態度は減点対象とする							
評価項目	割合		評価基準				
定期試験（筆記）	55%		講義内容の理解度を確認する				
定期試験（技術）	35%		技術の修得状況を確認する				
参加状況・課題	10%		講義・演習を受講するための準備状況を確認試験、課題提出で確認する				
授業の実施方法と授業計画	*授業では新しい知見をふまえた内容を教授する。 第1回 看護技術論概論（講義）、実習室オリエンテーション（井上、その他担当者） 第2回・第3回 感染防止の技術（講義）（笹木、その他担当者） 第4回 衛生的な手洗い、エプロン・手袋の着脱（演習）（笹木、その他担当者）、実習室の使い方（井上、その他担当者） 第5回・第6回 環境調整技術、衣生活援助技術（講義）（井上、その他担当者） 第7回 ベッドメイキング（演習）（井上、その他担当者） 第8回・第9回 臥床患者のシーツ交換・寝衣交換（演習）（井上、その他担当者） 第10回・第11回 活動・休息の援助技術、苦痛の緩和・安楽確保の援助技術（講義）（笹木、その他担当者） 第12回・第13回 体位の保持、体位変換、移乗・移送（演習）（笹木、その他担当者） 第14回・第15回 清潔援助技術（講義）（井上、その他担当者） 第16回 足浴（演習）（井上、その他担当者） 第17回・第18回 洗髪（演習）（井上、その他担当者） 第19回・第20回 清拭（演習）（井上、その他担当者） 第21回 排泄の援助技術（講義）（井上、その他担当者） 第22回 おむつ交換・陰部洗浄（演習）（井上、その他担当者） 第23回・第24回 食事の援助技術・口腔ケア（講義）（林、その他担当者） 第25回・第26回 食事の援助・口腔ケア（演習）（林、その他担当者） 第27回・第28回 コミュニケーション①②（講義）（藤井、その他担当者） 第29回・第30回 コミュニケーション③④（講義）（藤井、その他担当者） *リアクションペーパーの回答は授業時間内に行う。 *小テスト・筆記試験・技術試験について全体にフィードバックを行う。						
ナンバリング	NRFM1006						

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード		9.80E+02		
科目	980E 基礎看護学方法論Ⅱ			授業種別		週間授業		
担当教員	山口 直己			単位数		2		
その他担当者	三輪木 君子、笹木 りゆこ、西澤 和義、藤井 徹也、井上 直子、林 美佐							
授業概要	医学治療・検査に伴う看護技術を根拠に基づいて対象者に提供する必要性を理解し、正確かつ安全、安楽に看護技術を実施するための知識・技術・態度を講義および学内演習を通して修得する。 この科目は当該授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	○		○	◎	△			
到達目標	1. 医学治療・検査に伴って必要となる看護技術を実施するために必要な基礎的な知識を述べることができる。 2. 医学治療・検査に伴う基本的な看護技術を演習をとおして、正確かつ安全、安楽に配慮し実施できる。 3. 対象者の心身の状態を把握し、人として尊重した態度で実施できる。 4. 対象者に合った看護技術を考えることができる。							
テキスト(教科書)	1. 任 和子(他):系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③、医学書院、第18版、ISBN978-4-260-02760-1 *1年次に購入済み 2.茂野香おる(他):系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②、医学書院、ISBN:978-4-260-04211-6 *1年次に購入済み							
参考書および参考文献	授業の内容の理解を深め演習を効果的に行うために、動画を紹介する。あらかじめ視聴し演習に臨むこと。							
受講条件	必修科目							
事前・事後学修(内容・時間)	1.授業前には教科書の指定箇所を読んでおくこと(第2回～30回の講義/60分程度) 2.講義で学修した知識を復習する(第2回～30回の講義/60分程度) 3.演習では、事前に配布される手順書の読み込み、クラスルームにアップされた演習動画を視聴する(第2回～30回の演習/60分程度) 4.看護技術は繰り返し練習を積み重ねることによって習得されるため、演習で学修した内容を繰り返し練習する(全体で16時間)							
成績評価								
原則として毎回出席すること。 授業の到達目標がどの程度達成できているかを定期試験、小テスト、課題で総合的に評価する。 なお、欠席、遅刻、早退や劣悪な受講態度は減点の対象とする。								
評価項目		割合		評価基準				
定期試験(筆記試験)		55%		講義内容の理解度を確認する				
定期試験(技術試験)		30%		実技の修得状況を確認する				
小テスト		10%		演習に臨むための準備状況を確認する				
課題		5%		事例に沿った看護技術実施計画の内容を確認する				
授業の実施方法と授業計画		第1回 ガイダンス、感染防止の基礎知識《講義》(山口)						
		第2回 感染防止の技術(無菌操作、滅菌手袋の着脱、ガウンテクニック) 創傷管理の技術(創傷処置)《講義》(山口)						
		第3・4回 無菌操作、滅菌手袋の着脱、創傷処置《演習》(山口、その他教員)						
		第5回 排泄援助技術①(導尿)《講義》(井上)						
		第6回 排泄援助技術②(浣腸)《講義》(林)						
		第7回 一時的導尿 《演習》(井上、その他教員)						
		第8回 グリセリン浣腸 《演習》(林、その他教員)						
		第9・10回 呼吸・循環を整える技術(酸素吸入、排痰ケア)《講義》(井上)						
		第11・12回 酸素吸入療法、口腔・鼻腔内吸引《演習》(井上、その他教員)						
		第13・14・15回 与薬の技術《講義》(山口)						
		第16・17回 検査の技術(検体検査、生体検査)《講義》(山口)						
		第18・19回 静脈血採血 《演習》(山口、その他教員)						
		第20・21回 皮下注射・筋肉内注射 《演習》(山口、その他教員)						
		第22・23回 点滴静脈内注射 《演習》(山口、その他教員)						
		第24・25回 食事援助技術(非経口的栄養摂取の援助)《講義》(林)						
		第26・27回 経管栄養法 《演習》(林、その他教員)						
		第28回 死の看取りの援助(死後の処置)《講義》(山口)						
		第29・30回 事例に基づく看護援助(GW・発表)《演習》(山口)						
		*授業では新しい知見を含めた内容を教授する。						
		*演習は前半・後半グループに分けて実施する。						
		*受講生の習熟度により授業計画を変更することもある。						
*リアクションペーパーの回答、小テストの解答は時間内に行う。								
*筆記試験・技術試験については全体にフィードバックを行う。								
ナンバリング	NRDM2004							

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード		980F0	
科目	980F 基礎看護学方法論Ⅲ			授業種別		週間授業	
担当教員	笹木 りゆこ			単位数		1	
その他担当者	山口 直己、西澤 和義、藤井 徹也、井上 直子、林 美佐						
授業概要	看護の視点から対象者が生理的・心理社会的に全体として適応して生活しているか臨床判断し、必要な看護ケアを立案、実施し、成果を得る看護のプロセスについて看護理論を基盤として理解する。模擬事例を通し、対象者にとって有効な看護プロセスを最新の知見を踏まえながら、学生自身が体験的・主体的に展開する。 この科目は当該授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目である。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性			△	◎			
到達目標	1. 看護過程の意義、展開方法について概括を説明できる。 2. 看護過程の展開について、ロイ適応看護モデルを基盤に理論的に根拠立ててアセスメントすることを説明できる。 3. 行動（診断指標）、刺激（影響因子＜関連因子／危険因子＞）を理解し、アセスメントすることを説明できる。 4. アセスメントの結論として看護診断し、看護目標と解決に向けた看護介入の計画立案をすることを説明できる。 5. 模擬事例を用いて2～4の一連の看護プロセスの展開に取り組むことができる。						
テキスト（教科書）	①C.Roy（松本光子監訳）：ザ・ロイ適応看護モデル第2版，2011，医学書院 ISBN:978-4-260-00973-7 ②NANDA-I（日本看護診断学会監訳）：NANDA-I 看護診断2024～2026原書第13版，医学書院，ISBN: 978-4260057127 ③茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学218版，2022，医学書院，ISBN:978-4-260-04992-4 ＊①、③は1年次に購入済み						
参考書および参考文献	なし						
受講条件	必須科目						
事前・事後学修（内容・時間）	①毎授業前には、テキストの指定箇所を熟読する。（第1回～7回／30分程度） ②授業後には、授業での学びを整理しておく。（第1回～15回／30分程度） ③授業後には、看護過程記録の学修すべき内容について、フィードバック等の指導を受けて取り組む。（第8回～14回／60分程度）						
成績評価							
定期試験（筆記）、看護過程記録内容、学修の取り組みで総合的に判断する。 看護過程記録内容、取り組み姿勢は、授業の到達目標の達成状況をルーブリック評価表に基づいて評価する。 各時間で体験的に学修する進捗となっているため、原則として毎回出席する必要がある。 なお、欠席、遅刻、早退や演習課題の取り組み等で劣悪な受講姿勢は減点の対象とする。							
評価項目	割合	評価基準					
定期試験（筆記試験）	40%	講義の中で学んだ学修内容の理解度を確認し、評価する。					
看護過程記録内容	50%	模擬事例の演習課題から理解度を確認し、ルーブリック評価表の評価基準で評価する。					
小テスト	10%	講義内容の理解度を確認する。					
授業の実施方法と授業計画	第1回 看護過程とは 問題解決過程、クリティカルシンキング、看護理論との関係 〈講義〉（笹木） 第2回 看護過程の各段階について①アセスメント〈講義〉（笹木） 第3回 看護過程の各段階について②看護問題の明確化（看護診断①）〈講義〉（笹木） 第4回 看護過程の各段階について③看護問題の明確化（看護診断②）〈講義〉（笹木） 第5回 看護過程の各段階について④看護目標、看護計画、実施、評価〈講義〉（笹木） 第6回 看護過程を展開するための方法論 ロイ適応看護モデルを理論的基盤とした看護過程の展開〈講義〉（笹木） 第7～14回 模擬事例の展開〈講義・演習〉（笹木、その他担当教員） 模擬事例内容の理解とアセスメントの枠組みに沿った展開 生理的機能様式 情報収集、分析解釈、看護診断、看護介入、計画について 第15回 模擬事例のまとめ 看護計画実施、評価について 看護記録 〈講義〉（笹木） ＊第7回以降の内容については授業計画を変更する場合がある。 ＊小テスト、提出された看護過程記録のフィードバックを授業時間内に行う。 ＊筆記試験については、全体にフィードバックを行う。						
ナンバリング	NRAM2004						

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	98610			
科目	9861 基礎看護学実習Ⅰ			授業種別	実習			
担当教員	井上 直子			単位数	1			
その他担当者	笹木 りゆこ、山口 直己、西澤 和義、藤井 徹也、林 美佐							
授業概要	基礎看護学で学んだ学修内容を活用しながら、看護の対象者との関わりや生活援助の体験をとおして、対象者の生活の実際を知り、対象者の視点から看護の役割について考える。また、実習を通して看護への関心を深め、主体的な学修への動機づけとする。 この科目は当該授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	◎		○		△			
到達目標	1.患者が24時間過ごす療養環境とその過ごし方を知ることができる 2.既修の知識・技術を用いながら、患者とコミュニケーションをとることができる 3.療養している患者の気持ちを知ることができる 4.患者の療養生活の実際から看護ケアの必要性を考えることができる 5.患者の療養生活を支える看護師と関係職種の役割と連携について知ることができる 6.看護学を学ぶものとして誠実な態度で行動することができる 7.看護への関心を深め、自らの今後の学修を考えることができる							
テキスト(教科書)	特になし							
参考書および参考文献	篠崎恵美子・藤井徹也：看護コミュニケーション-基礎から学ぶスキルとトレーニング-第2版，医学書院，2022. ISBN 978-4-260-04793-7							
受講条件	必修科目							
事前・事後学修(内容・時間)	*実習は45時間をもって1単位とする。但し、実習開始にあたり不足する内容、また、実習後に補う内容については各自学修を行うこと。 事前学修 ・基礎看護学で学修した知識を復習する ・基礎看護学方法論Ⅰで学修した実技内容を十分に練習する ・入院して療養生活において患者が感じること、考えることについて、レポートにまとめる							
成績評価								
全出席を原則とする。 授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価する。 なお、欠席・遅刻・早退は減点の対象となる。								
評価項目	割合		評価基準					
実習内容・記録	65%		目標の到達状況を確認する					
課題・実習に取り組む姿勢	35%		実習中の行動・言動・カンファレンスでの発言内容、実習に臨むにあたっての事前学修・事後学修状況を確認する					
授業の実施方法と授業計画	1. 実習期間：5日間 2. 実習内容： 実習中 ・翌日の実習の目標・計画を立案する ・実習後にその日の実習を振り返り、学びと課題を記述する 実習1日目「学内」看護学実習へのレディネス形成(実習オリエンテーション、知識・技術の事前確認と演習、模擬患者セッション) 実習2日目「臨地」病院実習(a.医療の場の1つである病院の機能とそこでの看護の役割・実際を知る、b.病院内における関係職種の機能・役割、看護師との連携を知る) 実習3～4日目「臨地」病院実習(実習指導者の支援のもとに対象者への看護ケアに参画→参加or同席し、療養生活の実際と対象者の多様なニーズを知る) 実習5日目「学内」実習のまとめ(a.病院における臨地実習で得た経験と課題の検討、グループワークと発表会) 実習後 ・実習を終えての学びと課題について、レポートにまとめる *ルーブリック評価表をもとに実習全体を通したフィードバックを行う							
ナンバリング	NRGM1003							

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード		98620		
科目	9862 基礎看護学実習Ⅱ			授業種別		実習		
担当教員	西澤 和義			単位数		2		
その他担当者	笹木 りゆこ、山口 直己、藤井 徹也、井上 直子、林 美佐							
授業概要	一人の患者を受け持ち、対象者との関わりを通して対象理解を深め、看護過程を展開する。看護の視点から対象者の生理的・心理社会的全体として適応しているかどうか、アセスメントし看護診断をする。この臨床判断のプロセスを通し、必要な看護ケアを立案し、それに基づいた看護技術による生活援助を実践し、その評価とフィードバックを行う。また、対象者にあった生活援助の実施に必要な知識・技術・態度を学修する。さらにこの一連の体験を通して、看護における患者―看護師の人間関係の重要性を理解する。 この科目は当該授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	◎		○	△	○			
到達目標	1. 対象者の健康状態の維持・増進および問題解決に向けて、看護過程が展開できる。 2. 対象者の健康状態の臨床判断に基づき、生活援助に関する看護技術が実施できる。 3. 対象者と人間関係を築くことができる。 4. 看護を学ぶ者としての倫理的態度を考え、行動できる。							
テキスト(教科書)	なし							
参考書および参考文献	適宜紹介する							
受講条件	必修科目							
事前・事後学修(内容・時間)	実習は 45 時間をもって1単位とする。但し、実習開始にあたり不足する内容、また、実習後に補う内容については各自学修を行うこと。 また、実習前の学内オリエンテーションに出席し、実習に臨むこと。							
成績評価								
実習内容、実習記録、カンファレンスでの発言、実習への取り組み姿勢により、ルーブリック評価表に基づいて総合的に評価する。なお、欠席、遅刻、早退や劣悪な実習態度は減点の対象とする場合がある。								
評価項目	割合		評価基準					
実習記録、実習内容、カンファレンス発言内容	75%		ルーブリック評価表の評価基準で評価する					
実習への取り組み姿勢	25%		ルーブリック評価表の評価基準と実習態度で評価する					
授業の実施方法と授業計画	1. 実習期間 2週間 2. 実習内容 1) 行動計画の立案と実施 日々、自身の実習目標(行動目標)を立案し、目標が達成するよう行動計画を立案し実施する。 また、1日の学びと実習目標に対する振り返りをする。 2) 看護過程の展開 受け持ち患者(対象者)の看護過程を展開し、看護介入を実施する。 実施後は、その成果を評価・修正して看護過程を展開する。 3) 生活援助に関する看護技術の実施 受け持ち患者(対象者)の健康状態にあわせて、必要な生活援助の看護技術実施計画を立案して実施する。 実施後は、臨地実習指導者及び教員と振り返りを行い、計画を修正して、繰り返し実施する。 4) カンファレンス カンファレンスは原則として毎日行う。テーマの決定、運営方法は、担当教員の指導を受けながら各グループメンバーで話し合い、学生が中心になって運営する。 *日々、行動計画、看護過程、看護技術の記録や実施内容に対して、教員及び臨地実習指導者がフィードバックする。							
ナンバリング	NRFM2006							

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	984A0		
科目	984A 在宅看護学原論Ⅰ			授業種別	週間授業		
担当教員	蒔田 寛子			単位数	2		
その他担当者	今福 恵子						
授業概要	社会の変化をふまえた在宅看護の歴史の変遷、在宅で医療や看護を必要とする療養者と家族の特徴、看護の役割、関連する保健医療・福祉・介護制度の概要とICTの活用も含めた多職種連携について学修する。また、諸外国の在宅ケア、在宅看護のあり方等について学び、わが国が目指すソーシャルキャピタルが効果的に発揮される地域包括ケアシステムと、それをふまえた在宅看護のあり方を発展的に考えることができる基礎的能力を養う。*この科目は当該授業内容に関する在宅看護の実務経験を有する教員が、その実務経験を活かして講義等を行う科目です。教員の研究結果を教育内容に含めて講義を行っています。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性			◎	○	△		△
到達目標	在宅看護の考え方、その歴史と諸外国の状況、在宅看護実施に関連した法制度、地域包括ケアシステムと多職種連携、家族を含めた在宅看護の対象について学び、説明することができる。具体的には、以下の内容である。 1. 在宅看護の変遷とその社会的背景について説明できる。 2. 在宅看護の対象と在宅看護の特徴を理解し、看護を実践するための基礎的能力を身につける必要性について説明できる。 3. 在宅看護における倫理的な問題について意識を高く持ち、倫理的問題への意見を述べることができる。 4. 多職種連携を基盤に支援する必要性と連携における看護の役割について説明できる。 5. 社会の変化と在宅看護に関連する法制度をふまえ、地域包括ケアシステムについて説明できる。 6. 諸外国の在宅ケアの実態も参考に、在宅看護を発展的に考え説明できる。						
テキスト(教科書)	ナーシング・グラフィカ 地域療養を支えるケア 第8版 石田千絵、臺有桂、山下瑠理子編 メディカ出版 (ISBN: 978-4-8404-8471-8) ナーシング・グラフィカ 地域療養を支える技術 第3版 石田千絵、臺有桂、山下瑠理子編 メディカ出版 (ISBN: 978-4-8404-8472-5) 療養者が望む暮らしを支える 地域・在宅看護過程 尾崎章子、蒔田寛子編著 医歯薬出版 (ISBN: 978-4-263-23775-5)						
参考書および参考文献	その都度紹介する。						
受講条件	履修条件をつけない						
事前・事後学修(内容・時間)	1. 授業前に講義テーマに該当するテキストの内容を熟読する(1～12回/30分程度) 2. 講義で学んだ内容は配布資料、テキストを見直し整理しておく(毎回/60分程度) 3. プレゼンテーションは、指定された項目について、テキスト、参考文献等を活用し、グループで協力し準備すること(13-15回について180分程度) 4. 筆記試験には授業内容の復習を十分に行い臨むこと 以上について、1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることをふまえ、自己学修を行うこと。						
成績評価							
原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価します。なお、遅刻、早退や劣悪な受講態度は減点の対象とする場合があります。 筆記試験とプレゼンテーションの合計で評価し到達しなかった場合に再試験とします。							
評価項目		割合	評価基準				
課題の発表		30%	わかりやすいスライド作成と発表、質問への対応が適切で、積極的に質問ができるかで評価する。				
定期試験		70%	筆記試験にて理解度を確認する。				
授業の実施方法と授業計画	第1回	授業ガイダンス(講義 蒔田) 在宅看護の考え方 在宅看護の背景と動向 諸外国の在宅看護					
	第2回	生活とは 生活と健康 (講義・演習 蒔田)					
	第3回	生活の基盤としての地域 (講義・演習 蒔田) 地域包括ケアシステムと共生社会 地域アセスメント					
	第4回	在宅看護の対象(療養者) (講義 蒔田) 在宅療養者の多様性					
	第5回	在宅看護の対象(家族) (講義 蒔田) 在宅療養の場における家族の捉え方 家族とは 介護者としての家族 看護の対象としての家族					
	第6回	いのちと生活を見守る訪問看護(講義・ディスカッション 蒔田)					
	第7回	在宅看護における倫理 (講義・ディスカッション 蒔田)					
	第8回	在宅療養を支える訪問看護 訪問看護ステーション (講義 蒔田)					
	第9回	地域包括ケアシステムと多職種連携・多施設連携 (講義 蒔田)					
	第10回	在宅ケアに関する法制度 法制度の考え方 グループ課題の説明 (講義・プレゼンテーション準備 蒔田)					
	第11回	現在の在宅ケアにかかわる制度 (講義 蒔田) 医療保険制度、介護保険制度					
	第12回	在宅看護における安全と健康危機管理 災害対策 (講義 今福)					
	第13回	在宅ケアに関わる法制度について(1) (プレゼンテーション 蒔田)					
	第14回	在宅ケアに関わる法制度について(2) (プレゼンテーション 蒔田)					
	第15回	在宅ケアに関わる法制度について(3) (プレゼンテーション 蒔田) *ただし受講学生の習熟度等により授業計画を変更することもあります。 *講義内容の順序は変更することもあります。 *レポート等提出物は適宜コメントし返却します。 *定期試験の疑問点については適宜フィードバックします。					
ナンバリング	NRBM1002						

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード		984B0		
科目	984B 在宅看護学原論Ⅱ			授業種別		週間授業		
担当教員	蒔田 寛子			単位数		1		
その他担当者								
授業概要	地域の多様な場で人々の暮らしを支える看護の役割を学修する。さらに対象者の生活する場に応じた多職種連携および、関連する保健医療・福祉・介護制度の概要について学び、地域包括ケアの必要性について理解する。*この科目は当該授業内容に関する在宅看護の実務経験を有する教員が、その実務経験を活かして講義を行う科目です。教員の研究結果を教育内容に含めて講義を行っています。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性			△	○	△		◎	
到達目標	在宅看護に関連した法制度を踏まえ、地域の多様な場で人々の暮らしを支える看護について説明することができる。具体的には、以下の内容である。 1. 社会の変化に伴う地域の多様な場での看護の役割の広がりについて説明できる。 2. 地域の人々の生活を支える看護における倫理的な問題について意識を高くもち考えを述べることができる。 3. 地域の多様な場での地域包括ケアシステムについて説明できる。 4. 人々の生活を支えるための有機的な多職種連携と、連携における看護の役割について説明できる。 5. 今後の社会の変化を踏まえ、在宅看護を発展的に考え説明できる。							
テキスト(教科書)	地域・在宅看護論 尾崎章子、佐野けさ美編著 医歯薬出版 (ISBN:978-4-263-23757-1) 療養者が望む暮らしを支える地域・在宅看護過程 尾崎章子、蒔田寛子編 医歯薬出版 (ISBN:978-4-263-23775-5)							
参考書および参考文献	その都度紹介する。							
受講条件	履修条件を付けない							
事前・事後学修(内容・時間)	1. 事前に講義テーマに該当するテキストの内容を熟読する(毎回30分程度) 2. 講義で学んだ内容は配布資料、テキストを見直し整理しておく(毎回60分程度) 3. レポートは資料なども参考に熟考し作成すること(180分程度) 4. 定期試験には授業内容の復習を十分に行い臨むこと 以上について、1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることをふまえ、自己学修を行うこと							
成績評価								
原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価します。筆記試験とレポート課題の合計で評価し到達しなかった場合に再試験とします。なお、劣悪な受講態度は減点の対象となる場合があります。								
評価項目	割合		評価基準					
課題レポート	20%		課題に対して適切で、論理的にわかりやすい内容であるかで評価する。					
定期試験	80%		筆記試験にて理解度を確認する。					
授業の実施方法と授業計画	第1回 授業ガイダンス 地域の多様な場での看護の広がり 連携する多職種・多施設 (講義 蒔田) 第2回 病院での在宅看護と多職種連携 (講義 蒔田) 第3回 高齢者施設での看護と多職種連携 (講義 蒔田) 第4回 児童、障害者の福祉施設での看護と多職種連携 (講義 蒔田) 第5回 産業保健における在宅看護と多職種連携 (講義 蒔田) 第6回 地域包括支援センターにおける看護と多職種連携 (講義：地域包括支援センターで保健師として活躍するゲストスピーカー) 第7回 介護保険事業を通じたまちづくり (講義：ゲストスピーカー 自治体職員、地域住民) 第8回 薬害と看護 (講義：ゲストスピーカー 当事者、弁護士)							
	※ただし受講学生の習熟度により授業計画を変更することもあります。 ※講義内容の順序は変更することもあります。 ※レポート等提出物は適宜コメントし返却します。 ※定期試験の疑問点については適宜フィードバックを行います。							
ナンバリング	NRBM2007							

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード	9.84E+02		
科目	984E 在宅看護学方法論			授業種別	週間授業		
担当教員	蒔田 寛子			単位数	1		
その他担当者	今福 恵子						
授業概要	在宅看護の対象者は、小児から高齢者までと年齢の幅は広く、寝たきりの高齢者、がんの終末期患者、神経系難病患者、在宅療養している子ども、精神疾患をもつ療養者等、対象の疾病や状態もさまざまである。本科目では、地域包括ケアシステムを踏まえ、在宅療養者の特徴と看護の方法について学ぶ。＊この科目は当該授業内容に関する在宅看護の実務経験を有する教員が、その実務経験を活かして講義等を行う科目です。教員の研究結果を教育内容に含めて講義を行っています。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性			○	◎			△
到達目標	1. 在宅看護の対象者の特徴と、特徴をふまえた援助の実際について説明できる。 2. 在宅看護における倫理的な問題、多職種連携の必要性について説明できる。 3. 在宅看護の対象者により利用できる社会保障制度について説明できる。 4. 地域包括支援システムにおける看護の役割について説明できる。						
テキスト（教科書）	地域・在宅看護論 尾崎章子、佐野けさ美編著 医歯薬出版 (ISBN:978-4-263-23757-1) 療養者が望む暮らしを支える地域・在宅看護過程 尾崎章子、蒔田寛子編 医歯薬出版 (ISBN:978-4-263-23775-5)						
参考書および参考文献	その都度紹介する。						
受講条件	履修条件を付けない						
事前・事後学修（内容・時間）	1. 事前に講義テーマに該当するテキストの内容を熟読する（毎回/30分程度）。 2. 講義で学んだ内容は配布資料、テキストを見直し整理しておく（毎回/60分程度）。 3. 課題に対して論理的でわかりやすくレポートを作成する（第8回/90分程度） 3. 筆記試験には授業内容の復習を十分に先行し臨む。 以上について、1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることをふまえ、自己学修を行うこと。						
成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価します。なお、遅刻、早退や劣悪な受講態度は減点の対象とする場合があります。筆記試験と課題レポートの合計で評価し、到達しなかった場合に再試験とします。						
評価項目	割合		評価基準				
課題レポート	10%		課題に対し適切で、論理的にわかりやすい内容であるかで評価する。				
定期試験	90%		筆記試験にて理解度を確認する。				
授業の実施方法と授業計画	第1回 寝たきりの高齢者の在宅看護（講義 蒔田） 第2回 認知症高齢者の在宅看護（講義 蒔田） 第3回 がんの終末期患者の在宅看護（講義 蒔田） 第4回 AYA世代のがん療養者の在宅看護（講義・グループワーク 蒔田） 第5回 高齢独居療養者の在宅看護（講義 蒔田） 第6回 在宅療養している子どもの看護（講義 蒔田） 第7回 精神疾患をもつ療養者の在宅看護（講義 蒔田） 第8回 神経系難病患者の在宅看護（講義 今福） ＊ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもあります。 ＊講義内容の順序は変更することもあります。 ＊レポート等提出物は適宜コメントし返却します。 ＊定期試験の疑問点については適宜フィードバックします。						
ナンバリング	NRGM2007						

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード		984C0		
科目	984C 在宅看護学演習Ⅰ			授業種別		週間授業		
担当教員	蒔田 寛子			単位数		1		
その他担当者	今福 恵子、渡邊 富士子							
授業概要	在宅看護ではさまざまな対象者に、生活の場の特徴を踏まえて臨床判断できる能力が必要である。本科目では、講義と演習を通して、療養者および家族の健康状態と生活状況から支援ニーズを把握し、適切な看護を提供するための看護過程について学修する。*この科目は当該授業内容に関する在宅看護の実務経験を有する教員が、その実務経験を活かして講義等を行う科目です。教員の研究結果を教育内容に含め教授しています。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性			△	◎				
到達目標	1. 在宅療養者の健康問題について知識をふまえて論理的にアセスメントし説明できる。 2. 在宅療養者の健康問題と家族を含めた対象の生活について説明できる。 3. 療養生活継続及び生活の質向上への必要な看護について説明できる。 4. 在宅療養者の支援ニーズをふま看護計画を立案できる。 5. 訪問看護における援助の特徴について説明できる。 6. 地域包括ケアシステムにおける看護の役割について説明できる。							
テキスト(教科書)	地域・在宅看護論 尾崎章子、佐野けさ美編著 医歯薬出版 (ISBN:978-4-263-23757-1) 療養者が望む暮らしを支える地域・在宅看護過程 尾崎章子、蒔田寛子編 医歯薬出版 (ISBN:978-4-263-23775-5)							
参考書および参考文献	その都度紹介する。							
受講条件	履修条件を付けない							
事前・事後学修(内容・時間)	①事前に講義テーマに該当するテキストの内容を熟読する(毎回/30分程度) ②看護過程の個人課題を完成させて、グループワークに臨むこと(第2～10回/120分程度) ③ロールプレイングではグループで協力しシナリオを完成させて授業に臨むこと(第12回～14回/60分程度) ④演習で学んだ内容は確実な知識となるよう復習しておく(毎回/30分程度) 以上①～④について、1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることをふまえ、自己学修を行うこと。							
成績評価								
原則として毎回出席すること。なお、遅刻、早退や劣悪な受講態度は減点の対象とする場合がある。課題の合計で評価し到達しなかった場合に再試験とする。								
評価項目		割合	評価基準					
看護過程の課題		70%	看護過程の課題レポートの内容で評価する。					
シナリオ(個人・グループ)		20%	療養者や家族それぞれの思いが表出されているか、訪問看護のケアの意味づけと療養者・家族の意思を尊重した支援になっているかを評価する。					
ロールプレイング参加度・振り返りレポート		10%	それぞれの立場の思い、また訪問看護師の支援の必要性、配慮する点など理解度を評価する。					
授業の実施方法と授業計画	講義は全員で受講し、演習はグループに分けて実施する。 第01回 授業ガイダンス 在宅看護過程の基本的な考え方 事例紹介(講義 蒔田) 第02回 在宅看護過程におけるアセスメント 健康問題(演習:グループワーク・発表 蒔田) 第03回 在宅看護過程におけるアセスメント 価値意思決定から排泄(演習:グループワーク・発表 蒔田) 第04回 在宅看護過程におけるアセスメント 睡眠から認知機能(演習:グループワーク・発表 蒔田) 第05回 在宅看護過程におけるアセスメント セクシュアリティから家族(演習:グループワーク・発表 蒔田) 第06回 在宅看護過程におけるアセスメント 社会との関係から社会資源の活用(演習:グループワーク・発表 蒔田) 第07回 在宅看護過程におけるアセスメント 自立した暮らしからその人らしい暮らし(演習:グループワーク・発表 蒔田) 第08回 在宅看護過程におけるアセスメント 今後の療養生活の方向性と関連図(演習:グループワーク・発表と講義 蒔田) 第09回 在宅看護過程における看護課題の明確化と優先順位(演習:グループワーク・発表 蒔田) 第10回 在宅看護過程における看護計画(演習:グループワーク・発表 蒔田) 第11回 在宅看護過程事例のロールプレイングの説明とシナリオ作成(演習 今福) 第12回 ロールプレイングのシナリオ作成(訪問看護師役・療養者役・家族介護者役等)(演習:グループワーク 今福) 第13回 ロールプレイング練習と評価修正(演習:グループワーク 今福) 第14回 ロールプレイング発表と振り返り(演習:グループワーク 今福) 第15回 各事例における活用できる介護サービスについて(演習:今福) *ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもあります。 *提出された看護過程演習課題については、コメントをした上で返却します。 *レポート等提出物は適宜コメントし返却します。							
ナンバリング	NRAM2008							

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード	984D0			
科目	984D 在宅看護学演習Ⅱ			授業種別	週間授業			
担当教員	今福 恵子			単位数	1			
その他担当者	蒔田 寛子、渡邊 富士子							
授業概要	在宅看護ではさまざまな対象者に、生活の場の特徴をふまえて安全な援助を実施できる能力が必要である。本科目では、講義と演習を通して、在宅療養生活を支える日常生活援助技術と医療処置（医療ケア）について学修する。＊この科目は当該授業内容に関する在宅看護の実務経験を有する教員が、その実務経験を活かして講義などを行う科目です。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	△		△	◎				
到達目標	1.在宅の特性を考慮し、療養者や家族の状況、および生活環境に合わせた日常生活援助の方法について説明することができる。 2.医療ケアに伴う援助について、在宅における援助方法および、起こりうるリスクとその対応について説明できる。 3.訪問看護に必要な基本的マナー、コミュニケーションスキルを身につけることができる。							
テキスト（教科書）	ナーシング・グラフィカ 地域療養を支えるケア 第7版 臺有桂、石田千絵、山下瑠理子編 メディカ出版（ISBN：978-4-8404-7543-3）¥3,740 ナーシング・グラフィカ 地域療養を支える技術 第2版 臺有桂、石田千絵、山下瑠理子編 メディカ出版（ISBN：978-4-8404-7544-0）¥3,080 療養者が望む暮らしを支える地域・在宅看護過程 尾崎章子、蒔田寛子編 医歯薬出版（ISBN：978-4-263-23775-5）¥2,750							
参考書および参考文献	その都度紹介する。							
受講条件	必修科目（専門科目）履修条件を付けない。							
事前・事後学修（内容・時間）	①講義内容に該当するテキストの内容を読んでおくこと（毎回/30分程度） ②講義内容に該当する援助技術について、基礎看護学で学んだ内容を復習しておく（毎回/30分程度） ③演習で学んだ内容は、実習で活用できるよう自身で整理しておく（毎回/30分程度） 以上について、1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることをふまえ、自己学修を行うこと。							
成績評価								
筆記試験と演習への取り組み、レポートの合計で再試験の判定をします。 なお、遅刻、早退や劣悪な受講態度は減点の対象とする場合があります。								
評価項目	割合		評価基準					
筆記試験	50%		講義で学んだ内容の理解度を確認する。					
演習への取り組み	30%		グループでの協力度・演習への取り組み姿勢について評価する。					
演習後のレポート	10%		講義での学びと演習での学びから在宅看護技術の理解度を評価する。					
訪問看護マナー演習事後課題	10%		講義での学びを活かし、家庭訪問マナーの理解度を評価する。					
授業の実施方法と授業計画	講義は全員で受講し、演習はAグループ、Bグループに分かれて実施します。							
	第01回	ガイダンス、在宅における日常生活援助の特徴（講義）					（今福）	
	第02回	家庭訪問マナー（講義・演習）					（今福）	
	第03回	日常生活援助－食事・清潔の援助（講義）					（今福）	
	第04回	日常生活援助－排泄・活動の援助（講義）					（今福）	
	第05回	日常生活援助－活動（演習）					（今福）	
	第06回	医療ケアに伴う援助－在宅における摂食嚥下への看護（講義・演習）					（ゲストスピーカー）	
	第07回	医療ケアに伴う援助－在宅管理栄養法（講義）					（今福）	
	第08回	医療ケアに伴う援助－在宅中心静脈栄養法（講義）					（今福）	
	第09回	医療ケアに伴う援助－在宅酸素療法（講義・演習）					（外部講師）	
	第10回	医療ケアに伴う援助－在宅人工呼吸療法（講義）					（今福）	
	第11回	医療ケアに伴う援助－排痰ケア・吸引（講義・演習）					（今福）	
	第12回	医療ケアに伴う援助－腹膜透析（講義）					（今福）	
	第13回	医療ケアに伴う援助－褥瘡（講義）					（今福）	
	第14回	医療ケアに伴う援助－ストーマ管理（講義）					（今福）	
	第15回	医療ケアに伴う援助－疼痛管理・薬物療法（講義）					（今福）	
＊ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもあります。 ＊レポート等提出物は適宜コメントし返却します。								
ナンバリング	NRAM3009							

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード		986C0		
科目	986C 在宅看護学実習			授業種別		実習		
担当教員	今福 恵子			単位数		2		
その他担当者	蒔田 寛子、小侯 由佳、鈴木 知代、渡邊 富士子							
授業概要	在宅看護では、様々な対象に応じて、根拠をふまえた援助の実践能力が必要である。本科目では、在宅で療養生活している対象者の理解を深め、個々の対象の健康障害、生活状況を把握し、保健、医療、福祉の制度や介護保険制度をふまえて看護計画を立案実施評価ができる基礎的能力を養う。さらに療養生活を継続するために必要な包括的支援と支援の中での看護専門職の役割について学び、在宅看護を発展的に考えることができる能力を養う。 ※この科目は当該授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	◎		○	○	○		△	
到達目標	1.訪問看護を利用しながら在宅で生活している対象者とその家族の健康状態、生活状況をふまえて看護計画を立案し実践できる。 2.通所介護や多機能サービスを利用しながら生活している対象者の特徴を理解し、対象者におけるサービス利用の意義を説明できる。 3.在宅ケアにおける多職種連携の必要性と、看護専門職の役割を説明できる。 4.実習で体験した事象をふまえて在宅看護における倫理的問題について考えを述べることができる。 5.看護学生としての自覚を持ち、責任ある行動がとれる。							
テキスト(教科書)	ナーシング・グラフィカ 地域療養を支えるケア 第6版 臺有桂、石田千絵、山下瑠理子編 メディカ出版 (ISBN: 978-4-8404-6520-5) ナーシング・グラフィカ 地域療養を支える技術 第1版 臺有桂、石田千絵、山下瑠理子編 メディカ出版 (ISBN: 978-4-8404-6134-4) 療養者が望む暮らしを支える 地域・在宅看護過程 尾崎章子、蒔田寛子編著 医歯薬出版 (ISBN: 978-4-263-23775-5) ¥2,750							
参考書および参考文献	その都度紹介する							
受講条件	必修科目 (専門科目)							
事前・事後学修(内容・時間)	実習は45時間をもって1単位とする。但し、実習開始にあたり不足する内容、また、実習後に補う内容については各自学修を行うこと。 指示された事前学習課題を行い、実習に臨むこと。							
成績評価								
ルーブリック評価表に基づき評価する。								
評価項目	割合		評価基準					
実習内容、実習記録、カンファレンスへの参加度	100%		ルーブリック評価表に基づき評価する。					
授業の実施方法と授業計画	【実習内容】 1.事前オリエンテーション 学内での事前オリエンテーションに参加する。 2.訪問看護ステーションでの実習(6日間) 実習指導者およびスタッフの訪問に同行し実習する。 3.通所サービス・多機能サービスでの実習(2日間) 実習指導者の指導の下、利用者とのコミュニケーション、ケアを行う。 4.学内実習(2日間) 学内で記録の指導整理 カンファレンス 中間・最終評価							
	【実習スケジュール】 訪問看護ステーションでの実習を中心に、1週目と2週目の同じ曜日に通所サービス・多機能サービスでの実習を行う。 毎週金曜日は原則学内実習とする。							
	【実習方法】 訪問看護ステーションの実習では、受け持ち事例を決めて看護過程の展開を行い、看護計画に沿って実施評価まで行う。受け持ち事例以外の療養者へも訪問看護に同行し、対象の特徴と訪問看護について理解を深める。 通所サービス・多機能サービスでの実習では、施設の1日のスケジュールに従い、日常生活援助は指導者指導の下に実施、医療処置などについては目的をもって看護援助を見学し学ぶ。 他詳細は在宅看護学実習要項を参照すること。 ※実習記録については、教員及び実習指導者が内容を確認し、適宜コメントする。							
ナンバリング	NREM3011							

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード	988A0			
科目	988A 成熟期看護学原論			授業種別	週間授業			
担当教員	豊島 由樹子			単位数	2			
その他担当者	原沢 優子、東野 智子							
授業概要	成人期への移行期である思春期から人生の完成期である老年期までを成熟期と捉え、この段階にある人々の加齢による変化および発達課題や健康上のニーズ、健康問題について理解する。また、健康状態に応じた看護実践の基本となる理論や考え方、地域包括ケアシステムを含めた保健医療福祉政策の動向や医療システムについて学修する。 ※この科目は当該授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かし講義等を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性			◎	○			△	
到達目標	1. 成熟期にある人々の成長・発達過程を理解し、成人各期の特徴と発達課題を説明できる。 2. 成熟期に生じやすい生活の変化に伴う健康問題を、成人保健の動向と関連づけて説明できる。 3. 成熟期のさまざまな健康状態に応じた看護の特徴を説明できる。 4. 成熟期の健康上のニーズや健康問題に対する人々の心身の反応を理解し、成熟期看護に用いる基本的な考え方（理論・概念）を説明できる。 5. 認知症を含めた高齢者を支える保健医療福祉制度を理解し、看護の特徴を説明できる。 6. 成熟期にある人々の権利擁護と倫理的課題および看護の役割が説明できる。							
テキスト（教科書）	「成人看護学 成人看護学概論 改訂第5版」、林直子 他編、南江堂、2025年、ISBN： 978-4524211920 「老年看護学 第10版（系統看護学講座）」、北川公子 他、医学書院、2025年、 冊子ISBN： 978-4260056892・電子ISBN： 978-4260656894 「老年看護 病態・疾患論 第6版（系統看護学講座）」、鳥羽研二 他、医学書院、2025年、冊子ISBN： 978-4260056830・電子ISBN： 978-4260656832							
参考書および参考文献	授業の中で適宜紹介する。教員作成の補足資料を各回の講義で配布する。							
受講条件	必修科目							
事前・事後学修（内容・時間）	事前学修として、教科書の指定された部分を読み、理解が難しい箇所や疑問点に付箋を貼るなど予習した上で毎授業に臨むこと（第1～15回／60分程度）。 事後学修として、授業で得た気づきと学びをまとめる。またGoogle Classroomの復習問題に取り組み、授業内容の復習を行う（第1～15回／60分程度）。 1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることを踏まえ、自己学修を行うこと。							
成績評価								
原則として毎回出席すること。授業の到達目標の達成状況を、定期試験と授業課題から評価する。なお、劣悪な授業態度や提出物の不備については減点対象とする。								
評価項目			割合	評価基準				
定期試験			90%	筆記試験にて理解度を確認する。				
授業課題			10%	課題に対する適切な内容・記述になっているかを評価する。				
授業の実施方法と授業計画	第1回：授業ガイダンス、成熟期看護の対象の理解 <講義>（豊島）							
	第2回：成熟期の健康問題の動向 <講義>（豊島）							
	第3回：生活習慣に関連する健康障害 <講義>（豊島）							
	第4回：成熟期の対象における保健・医療・福祉政策 <講義>（豊島）							
	第5回：健康状態に応じた看護の特徴 1.リハビリテーション看護 <講義>（豊島）							
	第6回：健康状態に応じた看護の特徴 2.慢性看護 <講義>（豊島）							
	第7回：健康状態に応じた看護の特徴 3.急性期看護 <講義>（東野）							
	第8回：成熟期看護に用いる理論・概念 ①ストレス・コーピング <講義>（東野）							
	第9回：成熟期看護に用いる理論・概念 ②危機 <講義>（東野）							
	第10回：成熟期看護に用いる理論・概念 ③セルフケア・自己効力 <講義>（豊島）							
	第11回：成熟期看護に用いる理論・概念 ④サクセスフルエイジング・ストレングス・コンフォート <講義>（原沢）							
	第12回：健康状態に応じた看護の特徴 4.高齢者看護 <講義>（原沢）							
	第13回：高齢者の権利擁護・倫理的課題と高齢者看護の理念・役割 <講義>（原沢）							
	第14回：高齢者の生活を支える保健医療福祉制度と療養の場における看護 <講義>（原沢）							
	第15回：認知症施策と認知症高齢者への看護の目標 <講義>（原沢）							
授業課題については、授業内あるいはClassroomを通して質問や疑問等に対するフィードバックを行う。 ただし、受講学生の習熟度等により授業計画を変更することもある。								
ナンバリング	NRBM2008							

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	988B0			
科目	988B 成熟期看護学方法論Ⅰ			授業種別	週間授業			
担当教員	小山 順子			単位数	1			
その他担当者								
授業概要	急性期やクリティカルケアを必要とする重篤な状態、周術期にある人とその家族の特徴を理解する。また、看護援助に必要な臨床判断と、生命維持、心身の回復過程を理解し、対象者の特性に応じて生きることが支え、QOLを高める看護援助について多職種連携の視点を踏まえて学修する。 *この科目は当該授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員がその実務経験を生かして講義等を行う科目です。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性			○	◎			△	
到達目標	1. 急性期および回復期にある対象への看護に必要な基盤となる概念を説明できる 2. 急性期にある対象の身体的・心理社会的特徴について説明できる 3. 手術療法に伴う生体侵襲を理解し、対象者の心身の状態に応じて適切な看護援助について説明できる 4. 救命医療や手術療法を受ける患者の人権や生命の尊厳を守る看護について述べることができる 5. クリティカルな状態にある対象の身体的・心理社会的側面を踏まえた援助を述べることができる 6. 回復過程にある対象の状態を理解し、セルフケアの再獲得への支援が説明できる 7. 急性期および回復期にある対象の治療や社会復帰への意思決定に関して、主体的取り組みへのサポートを理解し述べることができる							
テキスト(教科書)	中島恵美子 編集(2022):ナースングラフィカ成人看護学(4):周術期看護 第4版 メディカ出版。 ISBN:978-4-8404-7539-6 本庄恵子,吉田みつ子監修(2020):新訂版 写真でわかる臨床看護技術2アドバンス。インターメディカ。 ISBN:978-4-89996-414-8 矢永勝彦,高橋則子 編集(2020):系統看護学講座別巻 臨床外科看護総論[第11版]。医学書院 ISBN:978-4-260-02769-4 (病態と治療で購入済)							
参考書および参考文献	北島政樹,江川幸二 編集(2020):系統看護学講座別巻 臨床外科看護各論[第9版]。医学書院。 ISBN:978-4-260-02765-6							
受講条件	必修科目(履修条件を付けない)							
事前・事後学修(内容・時間)	事前学修:授業前には教科書の指定箇所を熟読し、授業内で指示する内容については、事前に調べて授業に臨む(第1〜8回/60分程度)。 事後学修:授業後には授業での学びを整理する。またClassroomより講義確認問題に取り組む(第1〜7回/60分程度)。第8回課題レポート作成、全講義の学修内容を振り返りまとめる *1単位の習得には45時間の学修時間が必要であることを踏まえ、自己学修を行うこと。							
成績評価								
筆記試験と課題レポートにより評価する。 原則として毎回出席すること、遅刻、欠席、早退や劣悪な授業態度は減点の対象とする場合がある。								
評価項目		割合	評価基準					
定期試験		90%	筆記試験にて理解度を確認する					
課題レポート		10%	課題に対する内容の適切性について評価する					
授業の実施方法と授業計画	第1回 急性期および回復期にある患者への看護に必要な基盤となる概念(講義) 第2回 麻酔による生体の反応、生体の損傷に伴う反応(講義) 第3回 手術侵襲と術後の合併症、術前・術後の看護(講義) 第4回 消化代謝系に障害のある患者の看護(講義)、ストーマ管理(演習) 第5回 運動器系/性・生殖系・乳腺機能に障害のある患者の看護(講義) 第6回 呼吸器系に障害のある患者の看護(講義) 第7回 循環器系に障害のある患者の看護(講義) 第8回 クリティカルな状態にある患者の看護(ゲストスピーカー講義) ・受講学生の習熟度により授業計画を変更することがある ・ゲストスピーカーは、救急の現場で活躍されている認定看護師による講義である ・課題やリアクションペーパーの質疑内容、試験についてのフィードバックは、授業内またはClassroomを通して行う							
ナンバリング	NRGM2008							

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	988C0			
科目	988C 成熟期看護学方法論Ⅱ			授業種別	週間授業			
担当教員	豊島 由樹子			単位数	1			
その他担当者								
授業概要	慢性病とともに生活する患者とその家族の特徴と、特有な健康問題・関連する諸要因について理解し、今後も住み慣れた地域で暮らしていくための地域包括ケアの視点から、慢性病とともに生活する患者と家族におけるQOLの向上・充実にむけた看護援助に必要な臨床判断能力を養うための基礎的知識について学修する。 ※この科目は当該授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かし、講義等を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性			○	◎			△	
到達目標	1. 慢性病とともに生活する患者の代表的な健康障害（病態・症状・合併症など）と関連する諸要因について説明できる。 2. 慢性病とともに生活する患者の身体・心理・社会面の療養上の特徴を説明できる。 3. 慢性病の病状維持や増悪予防に向けた治療を受ける患者に対する看護援助について説明できる。 4. 生涯にわたり慢性病と上手に付き合っていく住み慣れた地域で暮らしていくために、患者・家族に必要なセルフケアを支える看護援助について説明できる							
テキスト（教科書）	「成人看護学 慢性期看護 改訂第4版」、鈴木久美 他編、南江堂、2023年、ISBN: 978-4524234363 「成人看護学 成人看護学概論 改訂第5版」、林直子 他編、南江堂、2025年、ISBN: 978-4524211920（既に購入済）							
参考書および参考文献	授業の中で適宜紹介する。教員作成の補足資料を各回の講義で配布する。							
受講条件	必修科目							
事前・事後学修（内容・時間）	事前学修として、配布する次回講義分の事前学修課題に、各自取り組んだ上で講義に臨むこと。 講義は事前学修課題の内容を踏まえて進める（第1～8回／60分程度）。 事後学修として、各回の授業における主要な内容をまとめた課題レポートを作成する。またGoogle Classroomを利用した復習問題に取り組むこと。（第1～8回／60分程度）。 1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることを踏まえ、自己学修を行うこと。							
成績評価								
原則として毎回出席すること。授業の到達目標の達成状況を、定期試験と課題レポートから評価する。なお、劣悪な授業態度や提出物の不備については減点対象とする。								
評価項目		割合	評価基準					
定期試験		70%	筆記試験にて理解度を確認する。					
授業後課題（レポート）		30%	課題に対して適切な内容・記述になっているかを評価する。					
授業の実施方法と授業計画	第1回：授業ガイダンス、化学療法と看護 ＜講義＞ 第2回：血液疾患患者と看護 ＜講義＞ 第3回：自己免疫疾患患者と看護 ＜講義＞ 第4回：慢性呼吸不全患者と看護 ＜講義＞ 第5回：肝硬変患者と看護 ＜講義＞ 第6回：脳血管障害患者と看護 ＜講義＞ 第7回：神経難病患者と看護 ＜講義＞ 第8回：慢性心不全患者と看護 ＜講義＞ 各授業後に提出する学修課題に関しては、授業内あるいはClassroomを通して質問や疑問等に対するフィードバックを行う。 ただし、受講学生の習熟度等により授業計画を変更することもある。							
ナンバリング	NRGM2009							

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード		988D0		
科目	988D 成熟期看護学方法論Ⅲ			授業種別		週間授業		
担当教員	原沢 優子			単位数		2		
その他担当者	三村 絵美							
授業概要	健康な高齢者、疾病を持つ高齢者、要介護高齢者高齢者など、高齢者看護が対象とする人の暮らしを支えるために必要な看護実践に関する知識・技術の具体的な方法を学習する。特に、高齢者に特有の症状や高齢者に多い疾患をアセスメントする視点、高齢者への具体的な看護の考え方・看護方法を教授する。さらに、認知症について理解を深め、認知症高齢者との関わりを学び、コミュニケーションスキルを演習する。これらの学習を通して地域の高齢者の健康から要介護者、疾患を持つ高齢者への看護に必要な実践力を知識修得する。 ※この科目は、臨床における高齢者看護と認知症看護の実務経験を有する教員が講義を行う。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	△
ディプロマポリシーとの関連性			○	◎				
到達目標	1.高齢者の暮らしの特徴を理解し、高齢者の暮らしを支える看護が説明できる。 2.老年症候群を理解し、それをアセスメントする技術と必要な看護が説明できる。 3.高齢者に多い症状と疾患を理解し、高齢者特有のアセスメントと必要な看護が説明できる。 4.認知症高齢者の特徴を理解し、認知症高齢者への看護が説明できる。 5.認知症高齢者とのコミュニケーション技術を理解し、実践時に気を付けることを説明できる。							
テキスト(教科書)	(2年次春購入済)「老年看護学 第10版(系統看護学講座)」,北川公子 他,医学書院, 2025年, 冊子ISBN: 978-4260056892・電子ISBN: 978-4260656894 「老年看護 病態・疾患論 第6版(系統看護学講座)」,鳥羽研二 他,医学書院, 2025年, 冊子ISBN: 978-4260056830・電子ISBN: 978-4260656832							
参考書および参考文献	授業の中で適宜紹介する。教員作成の講義資料を各回、配布する。							
受講条件	必修科目 履修条件を付けない							
事前・事後学修(内容・時間)	事前学修(第1～15回/30分程度) ・当該授業に関する教科書のページを事前に示す。 事前学修では、その該当ページを授業前までに読む。 内容の理解が難しい箇所や疑問点に付箋を貼り授業に臨む。 授業にて解決しない疑問点は、リアクション ペーパーに記載して質問する。 事後学修(第1～15回/60分程度)。 ・授業で配布されたレジュメを振り返り、知識として修得する内容を整理する。 その他、気づき・学びを自己学習としてノート等にとまとめる。 ・毎回の授業で事後学修課題を提示する。 事後学修課題は、資料をみなくても全問正解となるまで繰り返し解く。 レポート課題について、授業の事後学修に加えて文献学習を活用する。							
成績評価								
定期試験と課題レポートから評価する。劣悪な授業態度、早退・遅刻、提出物の不備は減点となる場合がある。								
評価項目	割合		評価基準					
課題レポート1	10%		第4回後に第2から4回までの課題をだす。到達目標の達成度を評価基準とする。					
課題レポート2	10%		第14回後に認知症高齢者とその看護の理解度を確認する。					
定期試験	80%		筆記試験にて講義の理解度を確認する。					
授業の実施方法と授業計画	※双方向型授業の展開をする。 ※各回リアクションペーパーの記載(foams)を通して質問・意見を求める。 ※質問・意見・試験やレポート等へのフィードバック方法: classroomを通して行う。 ※各自の携帯電話などインターネット通信機器を持参すること 第1回 (講義) 授業ガイダンス、高齢者看護の対象と看護の特徴<原沢・三村> 第2回 (講義・演習) 高齢者の暮らしを支える看護 ①自立して口から食べる看護<三村・原沢> 第3回 ②自立してトイレ排泄ができる看護<原沢> 第4回 (講義) ③活動・参加の維持と休息・睡眠のバランスを整える看護 <原沢> 第5回 (講義) 老年症候群とその看護;脱水、低栄養、めまい、骨粗鬆症<原沢> 第6回 (講義) 高齢者に疾病・症状と看護 ①脳梗塞・パーキンソン病<原沢> 第7回 (講義) ②血圧調整障害、心疾患、貧血<原沢> 第8回 (講義) ③慢性閉塞性肺疾患・肺炎・肺結核<三村> 第9回 (講義) ④食道炎・胆石症・大腸憩室炎<原沢> 第10回 (講義) ⑤スキンテア・皮膚掻痒症・褥瘡<原沢> 第11回 (講義) ⑥難聴・白内障・黄斑変性症他<原沢> 第12回 (講義) ⑦歯周病、感染症、運動器系疾患の看護<原沢> 第13回 (講義) 認知症高齢者の基礎知識とコミュニケーションスキル<原沢> 第14回 (演習) 認知症高齢者とのコミュニケーションスキルを高めよう<原沢> 第15回 (講義) 高齢者と医療安全/安全な薬物療法<原沢>							
ナンバリング	NRGM2010							

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード		9.88E+02		
科目	988E 成熟期看護学演習Ⅰ			授業種別		週間授業		
担当教員	小山 順子			単位数		1		
その他担当者	高野 純平							
授業概要	急激な健康破綻および回復過程にある対象の紙上事例を用いて、その対象に適切な看護を提供するための看護過程を学ぶ。また、看護技術演習では、クリティカルな状態にある対象の療養支援に必要な主な看護技術を学ぶ。 ＊この科目は当該授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員がその実務経験を生かして講義等を行う科目です。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	△		○	◎	○		△	
到達目標	1. 急性・回復期にあり、侵襲の大きい治療を受ける対象者を理解するために必要な情報のアセスメント・看護診断・目標設定ができる。 2. 急性・回復期にあり、侵襲の大きい治療を受ける対象者に対して必要な看護計画を立案できる。 3. 急性・回復期にある対象者に必要な検査・治療時の援助について理解し、適切な方法で実施、評価できる。 4. 急性・回復期にある対象者とその家族の価値観や権利を理解し、意思決定を擁護・支持するための方法を考えることができる。 5. クリティカルな状態にある患者に対する具体的な看護方法について理解し、実施できる。							
テキスト(教科書)	(既に購入済) 中島 恵美子 編集(2024):ナースング・グラフィカ成人看護学④周術期看護[第4版]。メディカ出版.ISBN: 978-4840475396 矢永勝彦,小路美喜子編集(2017):系統看護学講座別巻1臨床外科看護総論[第11版]。医学書院.ISBN: 978-4-260-02769-4 本庄恵子,吉田みつ子監修(2020):新訂版 写真でわかる臨床看護技術 2アドバンス。インターメディカ.ISBN: 978-4-89996-414-8 NANDA-I(日本看護診断学会監訳):NANDA-I看護診断2021-2023.医学書院.ISBN:978-4-260-04628-2							
参考書および参考文献	北島政樹,江川幸二編集(2017):系統看護学講座別巻 臨床外科看護各論[第11版]。医学書院.ISBN:978-4-260-02769-4 北村聖編:臨床病態学2巻 第2版。スーパールビロカワ.ISBN:978-4861740503							
受講条件	必須科目(履修条件をつけない)							
事前・事後学修(内容・時間)	事前学修:授業前には教科書の指定箇所を熟読し、授業内で指示する内容については、事前に調べて授業に臨む(第2～15回/60分)。 事後学修:授業後には授業での学びを整理し看護過程レポートを作成する(第1～13回/60分)。クリティカルケア技術演習について、講義内容をまとめイメージトレーニングを行う。また演習後に得た気づきと学びをまとめる(第14～15回/60分)。定期試験範囲の復習を行う(第15回/60分)。							
成績評価								
筆記試験と課題レポート、講義・演習に対する取り組みにより評価する。 原則として毎回出席すること。遅刻、欠席、早退や劣悪な授業態度は減点の対象とする場合がある。								
評価項目	割合	評価基準						
定期試験	30%	筆記試験にて理解度を確認する						
課題レポート(看護過程レポート)	50%	課題に対する内容の適切性について評価する						
講義・演習に対する取り組み	20%	講義・演習の取り組み、各回の課題提出、演習の参加姿勢から確認する						
授業の実施方法と授業計画	第1回	周手術期看護:ガイダンス/急性・回復期看護の特徴[講義](小山)						
	第2回	看護過程の展開①:事例紹介・情報収集[講義・演習](小山、その他教員)						
	第3回	看護過程の展開②:アセスメント[講義](小山)						
	第4回	看護過程の展開②:アセスメント[演習](小山、その他教員)						
	第5回	看護過程の展開③:アセスメントの統合、看護診断[講義](小山)						
	第6回	看護過程の展開③:アセスメントの統合、看護診断[演習](小山、その他教員)						
	第7回	看護過程の展開④:看護目標、看護計画[講義・演習](小山、その他教員)						
	第8回	看護過程の展開⑤:看護援助(手順書)[講義](小山)						
	第9回	看護過程の展開⑤:看護援助(手順書)[演習](小山、その他の教員)						
	第10回	看護過程の展開:(プレゼンテーション)看護援助:術前訓練[演習](小山、その他教員)						
	第11回	看護過程の展開:(プレゼンテーション)看護援助:術後1日目の離床援助[演習](小山、その他教員)						
	第12回	看護過程の展開⑥:看護記録、評価[講義](小山)						
	第13回	看護過程の展開⑥:看護記録、評価[演習](小山、その他教員)						
	第14回	クリティカルケア看護:人工呼吸器装着中の患者の看護:気管吸引・体位ドレナージ[講義](小山)						
	第15回	クリティカルケア看護:気管吸引[演習](小山、その他教員)						
ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することがある。 ・課題レポートやリアクションペーパーの質疑内容については、授業内でフィードバックを行う。 ・試験のフィードバックはClassroomを通して行う。								
ナンバリング	NRBM3015							

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード		988F0		
科目	988F 成熟期看護学演習Ⅱ			授業種別		週間授業		
担当教員	豊島 由樹子			単位数		1		
その他担当者	山本 義昭							
授業概要	慢性病とともに生きる患者の紙上事例を用いて看護過程を展開することから、慢性病を抱えながらもその人らしい生活の実現に向けた看護を行うために必要な臨床判断能力を養う。また慢性病とともに生活するためにセルフマネジメントを必要とする患者に特有な看護技術について学修する。 ※この科目は当該授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かし講義等を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	△		○	◎	○		△	
到達目標	1. 慢性病を抱えて生活する患者を総合的に理解するために必要な病態・検査・治療などの知識について説明できる。 2. 慢性病を抱えて生活する患者の紙上事例を通して、系統的に情報を整理できる。 3. 整理した情報を科学的思考をもとに解釈・分析・統合し、慢性病を抱えて生活する患者の看護上の問題を明確化できる。 4. 慢性病を抱えて生活する患者の看護上の問題を解決し、その人らしい生活の実現に向けた看護計画を立案できる。 5. 慢性病とともに生活するためにセルフマネジメントを必要とする患者を支援するために必要となる看護技術を修得できる。							
テキスト（教科書）	「糖尿病治療の手引き 改訂第58版増補」，日本糖尿病学会編著，南江堂，2023年，ISBN: 978-4524210046 「成人看護学 慢性期看護 改訂第4版」，鈴木久美 他編，南江堂，2023年，ISBN 978-4524234363（既に購入済） 「成人看護学 成人看護学概論 改訂第4版」，林直子 他編，南江堂，2022年，ISBN: 978-4524230730（既に購入済）							
参考書および参考文献	授業の中で適宜紹介する。教員作成の補足資料を随時配布する。							
受講条件	必修科目							
事前・事後学修（内容・時間）	事前学修として、「成熟期看護学原論」「成熟期看護学方法論Ⅱ」の内容を復習し、グループワークに必要な参考図書や文献・資料を選択し自分で調べた上で、毎授業に臨むこと。また看護技術演習については「基礎看護学技術」で修得した知識・技術を復習した上で演習に臨むこと(第1～15回/30分程度)。 事後学修として、各自でグループワークで得た気づきと学びをもとに、個人で看護過程レポートを作成する(第1～12, 15回/60分程度)。また看護技術演習については、演習後に得た気づきと学びをまとめる(第13, 14回/30分程度)。 1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることを踏まえ、自己学修を行うこと。							
成績評価								
原則として毎回出席すること。授業の到達目標の達成状況を、課題レポート、実技に対する取り組み、定期試験から評価する。なお、劣悪な授業態度や提出物の不備については減点対象とする。								
評価項目	割合		評価基準					
課題レポート(看護過程記録)	40%		課題に対して適切な内容・記述になっているかを評価する。					
課題レポート(授業内課題)	10%		課題に対して適切な内容・記述になっているかを評価する。					
実技に対する取り組み	20%		実技の修得状況、演習記録から確認する。					
定期試験	30%		筆記試験にて理解度を確認する。					
授業の実施方法と授業計画	第1回：授業ガイダンス・慢性病を抱える事例の看護過程の展開① 事例紹介 ＜講義＞（豊島・山本） 第2回～3回：慢性病を抱えて生活する事例の看護過程の展開②③ 事例についての情報整理 ＜演習・個人ワーク＞（豊島・山本） 第4回～5回：慢性病を抱えて生活する事例の看護過程の展開④⑤ 病態関連図の作成 ＜演習・グループワーク＞（豊島・山本） 第6回～7回：慢性病を抱えて生活する事例の看護過程の展開⑥⑦ 全体関連図の作成 ＜演習・グループワーク＞（豊島・山本） 第8回～9回：慢性病を抱えて生活する事例の看護過程の展開⑧⑨ 看護計画立案 ＜演習・グループワーク＞（豊島・山本） 第10回：慢性病を抱えて生活する事例の看護過程の展開⑩ 看護過程まとめ ＜講義＞（山本・豊島） 第11回：糖尿病患者に対するセルフマネジメント支援 ＜講義＞（ゲストスピーカー：慢性疾患専門看護師） 第12回：糖尿病患者・家族を支援する看護師の役割と実践 ＜講義＞（ゲストスピーカー：慢性疾患専門看護師） 第13回：血糖自己測定・インスリン自己注射の看護技術 ＜実技＞（山本・豊島） 第14回：安全な輸液管理の看護技術 ＜実技＞（山本・豊島） 第15回：慢性腎不全患者と看護 ＜講義＞（豊島） 課題レポートに関しては、実習での学修に役立てられるようコメントを行い、採点后に返却する。また課題については、授業内あるいはClassroomを通して質問や疑問等に対するフィードバックを行う。ただし、受講学生の習熟度等により授業計画を変更することもある。							
ナンバリング	NRBM3016							

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード		988G0		
科目	988G 成熟期看護学演習Ⅲ			授業種別		週間授業		
担当教員	原沢 優子			単位数		1		
その他担当者	蒔田 寛子、桂川 純子、小山 順子、大林 陽子、河合 洋子							
授業概要	本科目は、エンドオブライフケアを主題としたオムニバス形式の授業展開をする。 第1回から第8回までは、エンドオブライフケアの専門家から基礎知識を学修する。 第9回以降は、医療における多様な場面のエンドオブライフケアとして、領域別に異なる特徴を各専門領域の教員が具体例を挙げて教授する。 本科目は、医療者として実践するエンドオブライフケアの基礎知識の修得と領域別のエンドオブライフケアの知識修得を目的とする。 ※この科目は、臨床における実務経験を有する教員が講義を行う。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性			○	◎	○		△	
到達目標	1.エンドオブライフケアの理念、目的が説明できる。 2.グリーフ&ベリフメントケアが説明できる。 3.症状緩和・症状マネジメントの方法が説明できる。 4.がん患者・非がん患者のエンドオブライフケアの違い・特徴が説明できる・ 5.自死・不慮の事故死へのエンドオブライフケア 6.子どものエンドオブライフケアの特徴が説明できる。 7.ベリネイタル・ロスの特徴が説明できる。 8.ICU/救命医療におけるエンドオブライフケアの特徴が説明できる。 9.高齢期のエンドオブライフケアの特徴が説明できる。 10.在宅におけるエンドオブライフケアの特徴が説明できる。 11.エンドオブライフケアに関する意思決定支援（ACP）が説明できる。							
テキスト（教科書）	エンドオブライフケア看護学―基礎と実践、小笠原知枝他編、ヌーヴェルヒロカワ、ISBN-13 978-4861740749							
参考書および参考文献	各回の授業の中で適宜紹介する。							
受講条件	必須科目 履修条件を付けない							
事前・事後学修（内容・時間）	事前学修：第1回～第8回 教科書の指定箇所を読む（各30分程度）。 第9回～第15回 指定された事前学習課題を行う（各30分程度）。 ※初回授業ガイダンスにて事前学修課題を提示する。 事後学修：全回において授業にて配布されたレジメを再読し、到達目標を達成するまで復習する（各60分程度）。							
成績評価								
定期試験と課題レポートを総合して評価する。 授業欠席・遅刻・態度不良に関して減点となる場合がある。								
評価項目	割合		評価基準					
定期試験	90%		第1回～15回の講義内容の理解度について筆記試験にて確認、点数化する。本科目の到達目標の達成レベルが評価基準となる。					
課題レポート	10%		第1回に課題を説明する。評価基準は、課題と合わせて紙面にて提示する。					
授業の実施方法と授業計画	※本科目は、講義を主とするが講義内に事例を含める。 ※各回リアクションペーパーの記載（foams）を通して質問・意見を求める。 ※質問・意見・試験やレポート等へのフィードバック方法：classroomを通して行う。 ※各自の携帯電話などインターネット通信機器を持参すること 第1回 授業ガイダンス、エンドオブライフケアの理念・目的・ケア対象、死生観 <原沢> 第2回 エンドオブライフケア期の症状緩和・マネジメント（痛み・呼吸困難）<がん看護CNS> 第3回 エンドオブライフケア期の症状緩和・マネジメント（精神的苦痛）<がん看護CNS> 第4回 がん患者（成人期）の治療選択・意思決定支援とエンドオブライフケア<がん看護CNS> 第5回 喪失・悲嘆とグリーフ&ベリフメントケア <加藤> 第6回 その人らしさを支えるためのスピリチュアルケア <加藤> 第7回 非がん患者（成人期 心不全・腎不全）へのエンドオブライフケア<加藤> 第8回 非がん患者（成人期 呼吸器・神経疾患）へのエンドオブライフケア<加藤> 第9回 高齢期のエンドオブライフケア ～健常期、認知機能低下期、要介護期、老衰期の看護、施設のEO/L～<原沢> 第10回 自死・不慮の事故死へのエンドオブライフケア<桂川> 第11回 回 ベリネイタル・ロスのエンドオブライフケア ～出生にかかわる死への看護～<大林> 第12回 子どもにかかわるエンドオブライフケア ～終末期にある子どもと家族・きょうだいの看護～<河合>> 第13回 ICU・救急医療の場面におけるエンドオブライフケア ～生命維持装置装着者へのケア、家族へのケア～<小山> 第14回 在宅におけるエンドオブライフケア<蒔田> 第15回 エンドオブライフケアにおける意思決定支援（ACP）・まとめ <原沢>							
ナンバリング	NRBM3017							

開講年度・開講学期	2025年度 春学期				授業コード		988H0	
科目	988H 成熟期看護学演習Ⅳ				授業種別		週間授業	
担当教員	原沢 優子				単位数		1	
その他担当者	三村 絵美							
授業概要	高齢者看護に必要な思考法およびアセスメント方法を活用し、実習に向けて高齢者への看護過程展開方法を事例演習を通して学修する。また、高齢者看護の実践に多い看護技術について、知識的理解および実技体得の両面から学修する。認知症高齢者ケア技術については、アセスメントスケールの活用とコミュニケーション演習などから適切な看護技術の修得を目的とする。 ※本科目は当該内容に関する看護の実務経験を有する教員が実務経験を活かして教育する。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	△		○	◎	○		△	
到達目標	1.嚥下リハビリテーションの知識修得と技術が実施できる。 2.口腔機能リハビリテーションと口腔粘膜ケアの知識修得と技術が実施できる。 3.認知症高齢者への対応スキルを学習し、特に立ち上がり援助を実施できる。 4.介護施設入所中の高齢者の事例に対する看護過程の展開が実施できる。 5.高齢者看護のアセスメント、看護目標、看護計画の特徴がわかる。							
テキスト(教科書)	(2年次購入済) 老年看護学 北川公子編集 医学書院 冊子ISBN 978-4-260-03186-8 電子 ISBN 978-4-260-03478-4 老年看護病態・疾患論 鳥羽研二編集 医学書院 冊子ISBN978-4-260-03172-1 電子 ISBN 978-4-260-03479-1							
参考書および参考文献	(本学図書館所蔵) 1.生活機能からみた老年看護過程 第4版、山田律子編集、医学書院、ISBN978-4-260-04274-1 2.生活機能のアセスメントにもとづく老年看護過程、奥宮暁子他著、医歯薬出版、ISBN978-4-263-23562-1							
受講条件	必修科目 履修条件を付けない							
事前・事後学修(内容・時間)	事前学修 初回授業日に演習課題、看護過程に関する課題を提示する。(各回1時間程度) 本科目は、自宅課題を前提として授業内でグループワークを行う。 事後学修 演習課題は、実習前・実習中に振り返り学修する。(各回30分程度)							
成績評価								
「演習課題」の達成状況および「実技演習」の習得状況から評価する。 欠席、遅刻、早退、劣悪な授業態度、提出物の不備については減点対象となる場合がある。								
演習課題 ①嚥下リハビリテーション、②口腔機能リハビリテーション/口腔粘膜ケア、③認知症高齢者への援助技術、 ④看護過程展開 実技演習 ①嚥下リハビリテーション、②口腔機能リハビリテーション/口腔粘膜ケア ③認知症高齢者への援助技術								
評価項目			割合	評価基準				
演習・技術課題①②③			30%	各10点×3=30点満点。評価基準は課題の実施状況とする。				
演習課題④			60%	自宅課題の実施状況、グループワークの参加度、情報・アセスメントの完成度、目標設定・優先順位設定の適正度、看護計画の具体性を評価基準とする。				
実技演習①②③			10%	各技術への事前学習態度、技術の適切性を評価基準表により点数評価する。				
授業の実施方法と授業計画	※この科目は、2コマ連続開催を基本とするが、1コマ開催日がある。 ※看護過程の演習は、個人の自己学習を前提としたグループワークを講義内で行う。 ※プレゼンテーションの実施があります。 ※質問・意見・試験やレポート等へのフィードバック方法：classroomを通して行う。 ※演習は、担当教員全員で行う							
	4/24	第1回(講義) 授業ガイダンス、ICFの生活機能にもとづく看護過程の展開 1. 演習事例紹介、目標指向型思考 <原沢>						
	5/1	第2回・第3回(講義・演習) 高齢者看護の技術 ①嚥下リハビリテーション<実技演習>☆ <原沢・三村・摂食嚥下障害認定看護師(外部講師)>						
	5/15	第4回・第5回(講義・演習) 高齢者看護の技術 ②口腔機能リハビリテーション・口腔粘膜ケア<実技演習>☆<原沢・三村>						
	5/20	第6回・第7回(講義・演習) 高齢者看護の技術 ③認知症高齢者への対応技術・立ち上がり援助<実技演習> ☆ <原沢・三村・地域包括支援センターケアマネジャー(外部講師)>						
	6/2	第8回・第9回(演習) 看護過程の展開 2. 情報・アセスメント <グループワーク・個人ワーク> <三村・原沢>						
	6/19	第10回(演習) 看護過程の展開 3. 目標・優先順位 <グループワーク> <三村・原沢>						
	7/3	第11回・第12回(演習) 看護過程の展開 4. 看護計画 <グループワーク> <三村・原沢>						
	7/10	第13回(演習) 看護過程の展開 看護目標・計画発表会 <プレゼンテーション> <三村・原沢>						
	7/10	第14回(講義・演習) 看護過程展開のまとめ、看護評価 <原沢>						
7/17	第15回(演習) HDS-Rの使用法・演習まとめ <原沢>							
ナンバリング	NRBM3018							

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期				授業コード	98810		
科目	988I 成熟期看護学実習Ⅰ				授業種別	実習		
担当教員	原沢 優子				単位数	1		
その他担当者	三村 絵美							
授業概要	日常生活が自立した高齢者との関わりを通して、既習の高齢者看護に活用される理論・概念を基盤に高齢者を捉える視点(観察力)を体得する。 日常生活が自立した高齢者との関わりを通して、高齢期の健康生活に向けた看護について考えを深め、看護実践への基礎能力を修得する。 豊橋市の高齢者事業への参加を通して高齢期の自立した生活を支える地域の社会資源(人的・組織的)について知識を深める。 ※本科目は当該内容に関する看護の実務経験を有する教員がその実務経験を活かして教育する。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	◎		○	○	○		△	
到達目標	1. 高齢者と円滑なコミュニケーションをとることができる。 2. 高齢者に形成された暮らし方への価値観、健康への価値観が理解できる。 3. 加齢に伴う身体的・心理的・社会的特徴を理論・概念を活用して把握するとともに、それがもたらす日常生活への影響を説明できる。 4. 高齢者の健康生活に向けて既習の基礎看護技術を活用して活動ができる。 5. 高齢期の健康生活に向けた看護について考えを深め、自身の考えを説明できる。 6. 地域で暮らす高齢者の活動と健康を支える制度と関係する人々の役割が説明できる。 7. 地域の高齢者がより健康的に暮らすための今後の看護課題を考えることができる。							
テキスト(教科書)	(購入済) 老年看護学第10版 北川公子編集 医学書院 2025年、 冊子ISBN: 978-4260056892・電子ISBN: 978-4260656894 老年看護病態・疾患論第6版 鳥羽研二編集 医学書院 2025年 冊子ISBN: 978-4260056830・電子ISBN: 978-4260656832							
参考書および参考文献	適宜紹介する。							
受講条件	必須科目 履修条件を付けない							
事前・事後学修(内容・時間)	実習1単位の修得には45時間の学修時間が必要である。 事前学習 1. 指定課題 7月オリエンテーションにて具体的内容を提示する。 知識に関する課題、技術に関する自己学習課題がある。 ・成熟期看護学原論において学修した内容の復習。 ・基礎看護学にて学修した基礎看護技術の復習 ・ビジュラंकクラウドを活用したコミュニケーション技術の視聴 事前学習 翌日の実習計画、技術、コミュニケーションスキルの確認等 事後学修 1. 実習目標の評価、実習記録の課題 2. 実習終了後は、理解不足があった知識について国家試験に向けた自己学修をする。							
成績評価	実習目標、到達目標の達成状況を実習記録、看護実践、事前課題、実習態度、カンファレンス参加度、グループワーク参加度から評価する。各項目別の評価表に基づき評価する。実習への欠席、遅刻、劣悪な実習態度を減点対象とする。							
評価項目		割合	評価基準					
実習記録、看護実践		80%	評価表に基づいて評価する。					
事前課題、カンファレンス参加度、グループワーク参加度		20%	各項目の評価表に基づき評価する。					
授業の実施方法と授業計画	※この実習の成績評価等のフィードバックは面談にて行う。 1. 実習期間 1週間(8/6および8/25～9/19のうち4日間) 2. 実習場所 豊橋市内にある老人福祉センター 3. 実習方法・内容 ・豊橋市が行う高齢者の健康生活支援に向けた活動を学修する。 ・老人福祉センターにて行われる地域高齢者の活動に参加する。 ・学生がグループ別に老人福祉センターにて健康教室を開催し、高齢者の参加を誘導する。 ・高齢者に積極的に話しかけることを通じて実習目標の達成を目指す。 ・到達目標に関する実習記録の課題を行い目標の達成度を深める。 ・学内実習ではグループワークを行い、個々の学びを広げる。 ・学内実習では発表会を通して成果のプレゼンテーション力を高める。 4. スケジュール ・7月にオリエンテーションを行う。日時は別途案内する。 ・実習の詳細は「成熟期看護学実習Ⅰ 実習要項」にて提示する。 ・7月オリエンテーションにおいて要項と実習施設の学生配置、事前学修課題を提示する。 ・その他、必要事項はclassroomを開示して案内する。							
ナンバリング	NREM2009							

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	988J0			
科目	988J 成熟期看護学実習Ⅱ			授業種別	実習			
担当教員	小山 順子			単位数	1			
その他担当者	高野 純平							
授業概要	クリティカルケアを必要とする重篤な状態にある患者とその家族の特徴を踏まえ、対象者の生命維持に向けた治療の特徴や回復過程に応じた適切な看護を実践する能力を養う。 *この科目は当該授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員がその実務経験を生かして講義等を行う科目です。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	◎		○	○	○		△	
到達目標	1. 生命の危機的状況に直面した患者とその家族への看護の特徴について述べることができる 2. クリティカルな状態にある患者とその家族に対するチーム医療について考えることができる 3. クリティカルな状態にある患者とその家族への看護の役割について述べることができる 4. クリティカルな状況にある患者への看護実践の一部を看護師とともに実施することができる 5. クリティカルな状況にある患者とその家族への倫理面について考え、述べることができる 6. 看護学生として責任ある行動をとることができ、積極的に実習に取り組むことができる							
テキスト(教科書)	成熟期看護学方法論Ⅰの授業科目と同様 林直子 他編(2022): 成人看護学 成人看護概論 改定第4版, 南江堂. ISBN:978-4524230730 中島恵美子 編集(2022): ナースングラフィカ成人看護学(4): 周術期看護 第4版, メディカ出版. ISBN:978-4840475396 矢永勝彦, 高橋則子 編集(2020): 系統看護学講座別巻 臨床外科看護総論 第11版, 医学書院. ISBN:978-4260027694							
参考書および参考文献	必要に応じて適宜紹介する							
受講条件	必修科目(履修条件をつけない)							
事前・事後学修(内容・時間)	実習は45時間をもって1単位とする。但し、実習開始にあたり不足する内容、また、実習後に補う内容については各自学修を行うこと。 実習前の事前学修: 既修した内容を復習して実習に臨む。また、実習ガイダンスで提示した事前課題を期日までに行うこと。 実習中の学修: 実習中の課題に取り組むこと。 事後学修: 実習での学びと自己の課題を明確にする。							
成績評価								
実習目標、到達目標の達成状況を実習評価表に基づき総合的に評価する。								
評価項目	割合		評価基準					
実習内容、実習記録、カンファレンス参加度、課題レポート、提出物等	100%		評価表に基づき評価する					
授業の実施方法と授業計画	1. 実習場所: 岡崎市民病院、豊川市民病院、浜松医療センター 2. 実習期間: 1週間 3. 実習内容 臨地実習(3日): クリティカルケアが提供される場(ICU、救命センター、手術室等)で実習する。 学内実習(2日): 救急処置に必要な看護技術演習、学びの共有 詳細は事前オリエンテーションで説明する。 ・事前課題は担当教員がフィードバックを行い、返却する。 ・課題レポート、実習記録は担当教員が実習後面接時にフィードバックを行う。							
ナンバリング	NREM2010							

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	988K0		
科目	988K 成熟期看護学実習Ⅲ			授業種別	実習		
担当教員	豊島 由樹子			単位数	1		
その他担当者	山本 義昭						
授業概要	慢性病とともに地域で生活している患者の特徴を理解し、継続した治療や日常生活における自己管理に向けた看護実践に必要な基礎的能力を養う。 ※この科目は当該授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かし講義等を行う科目である。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性	◎		○	○	○		△
到達目標	1. 透析治療を継続しながら地域で生活している患者と家族の権利を擁護し、尊重した言動がとれる。 2. 透析治療を継続しながら地域で生活している患者の病態・治療、日常生活における自己管理、疾患や治療についての受け止め、社会的影響について説明できる 3. 透析治療を継続しながら地域で生活している患者と家族に関わる医療チームにおいて、看護職の役割と多職種連携について説明できる。 4. 看護学生として責任ある行動をとることができ、専門職者として常に学び続ける姿勢をもつことができる。						
テキスト(教科書)	(既ご購入済) 「成人看護学 慢性期看護 改訂第4版」, 鈴木久美 他編, 南江堂, 2023年, ISBN 978-4524234363 「成人看護学 成人看護学概論 改訂第4版」, 林直子 他編, 南江堂, 2022年, ISBN: 978-4524230730 「糖尿病治療の手引き 改訂第58版増補」, 日本糖尿病学会編著, 南江堂, 2023年, ISBN: 978-4524210046						
参考書および参考文献	適宜紹介する						
受講条件	必修科目						
事前・事後学修(内容・時間)	実習は45時間をもって1単位とする。但し、実習開始にあたり不足する内容、実習後に補う内容については各自学修を行うこと。 実習においては「成熟期看護学原論」「成熟期看護学方法論Ⅱ」「成熟期看護学演習Ⅱ」で学修した内容を復習して実習に臨む。また、指定された事前課題を期日までに行う。 実習後は、理解が不十分であった内容について、国家試験に向けて各自復習を行う。						
成績評価							
到達目標が達成できているかを、事前課題、実習記録、看護実践、課題レポート等について、実習評価表に基づいて総合的に評価する。							
評価項目	割合		評価基準				
実習内容、実習記録、課題レポート等	100%		実習評価表に基づき評価する				
授業の実施方法と授業計画	1) 透析クリニック実習 ①実習期間:1週間 ②実習場所:医療法人社団三遠メディメイツ 豊橋メイツクリニック ③実習内容:慢性病(腎不全・透析治療)とともに地域で生活している患者とその家族への看護について学修する。 2) 実習方法 (1) 学内オリエンテーション・臨地オリエンテーション:実習施設の概要等について説明を受ける。 (2) 臨地における医師・臨床工学士・管理栄養士からの臨床講義をもとに、透析治療における医療チーム連携について学ぶ。 (3) 臨地で実習指導者・教員の指導のもと、透析患者に対する治療・看護について、看護学生として責任をもって実習を行う。 事前課題および実習記録については、教員または実習指導者が適宜内容を確認し、その後の学修に役立てられるようフィードバックを行う。 詳細については、「成熟期看護学実習Ⅲ実習要項」参照。						
ナンバリング	NREM3013						

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	988L0		
科目	988L 成熟期看護学実習Ⅳ			授業種別	実習		
担当教員	豊島 由樹子			単位数	2		
その他担当者	山本 義昭						
授業概要	慢性病を抱える入院患者とその家族を総合的に理解し、退院後のその人らしい生活の実現に向けた看護実践に必要な基礎的能力を養う。 ※この科目は当該授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かし講義等を行う科目である。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性	◎		○	○	○		△
到達目標	1. 慢性病を抱える入院患者とその家族に対して、適切な援助的人間関係を築くことができる 2. 慢性病を抱える入院患者を総合的に理解し、看護過程の思考を用いて、その人らしい生活の実現に向けた看護が実践できる。 3. 慢性病を抱える入院患者・家族に関わる医療チームにおいて、看護専門職の役割を認識して行動することができる。 4. 慢性病を抱える入院患者と家族の権利を擁護し、看護専門職としての倫理観を身につけることができる。 5. 看護学生として責任ある行動をとることができ、専門職者として常に学び続ける姿勢をもつことができる。						
テキスト(教科書)	(既に入済) 「成人看護学 慢性期看護 改訂第4版」, 鈴木久美 他編, 南江堂, 2023年, ISBN 978-4524234363 「成人看護学 成人看護学概論 改訂第4版」, 林直子 他編, 南江堂, 2022年, ISBN: 978-4524230730 「糖尿病治療の手引き 改訂第58版増補」, 日本糖尿病学会編著, 南江堂, 2023年, ISBN: 978-4524210046						
参考書および参考文献	適宜紹介する						
受講条件	必修科目						
事前・事後学修(内容・時間)	実習は45時間をもって1単位とする。ただし、実習開始にあたり不足する内容、実習後に補う内容については各自学修を行うこと。 実習においては「成熟期看護学原論」「成熟期看護学方法論Ⅱ」「成熟期看護学演習Ⅱ」で学修した内容を復習して実習に臨む。また、指定された事前課題を期日までに行う。 実習後は、理解が不十分であった内容について、国家試験に向けて各自復習を行う。						
成績評価							
到達目標が達成できているかを、事前課題、看護実践、実習記録、カンファレンスでの発言等について、実習評価表に基づいて総合的に評価する。							
評価項目	割合	評価基準					
実習内容、実習記録、カンファレンスへの参加度 等	100%	実習評価表に基づき評価する。					
授業の実施方法と授業計画	1) 慢性看護病棟実習 ①実習期間：2週間 ②実習場所：豊橋医療センター、豊川市民病院、聖隷三方原病院、浜松市リハビリテーション病院 ③実習内容：慢性病を抱えて入院している患者1～2名を受け持ち、看護過程を用いて看護を実践する。 2) 実習方法 (1) 学内オリエンテーション・臨地オリエンテーション：実習施設の概要、診療記録の開覧方法等について説明を受ける。 (2) 臨地で実習指導者・教員の指導のもと、看護学生として責任をもって実習を行う。 (3) カンファレンス：毎日、学生主体で行う。臨地最終日に臨地実習指導者も交えて、実習のまとめカンファレンスを行う。 (4) 最終日には、実習施設合同のカンファレンスを行い、実習目標について学びの共有をはかる。 事前課題および実習記録については、教員または実習指導者が適宜内容を確認し、その後の学修に役立てられるようフィードバックを行う。 詳細については、「成熟期看護学実習Ⅳ実習要項」参照。						
ナンバリング	NREM3014						

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	988M0		
科目	988M 成熟期看護学実習Ⅴ			授業種別	実習		
担当教員	小山 順子			単位数	2		
その他担当者	高野 純平						
授業概要	周手術期およびクリティカルな状態にある患者とその家族を、生体侵襲や心理社会面など全人的に捉え、生命維持に向けた治療の特徴や回復過程に応じた看護援助のための基礎的能力を養う。 *この科目は当該授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員がその実務経験を生かして講義等を行う科目です。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性	◎		○	○	○		△
到達目標	1. 周手術期、クリティカルな状態にある患者とその家族に対して、積極的な関心を持ち、適切な関係を築くことができる。 2. 周手術期、クリティカルな状態にある患者の生理的、心理社会的状態をアセスメントし、看護診断ができる。 3. 周手術期、クリティカルな状態にある患者の看護介入について立案できる。 4. 周手術期、クリティカルな状態にある患者に全人的理解に基づいた看護を実践できる。 5. 患者の権利を擁護し、看護専門職者としての倫理観を身につけることができる。 6. 患者にかかわる医療関係者との連携の重要性を理解し、述べることができる。 7. 看護学生として責任ある行動をとることができ、専門職者として常に学び続ける姿勢をもつことができる。						
テキスト(教科書)	本庄恵子,吉田みつ子監修(2020):新訂版 写真でわかる臨床看護技術 2アドバンス [Web動画付].インターメディカ. ISBN: 978-4-89996-414-8 (成熟期看護学方法論Ⅰで購入済み) 中島 恵美子 編集 (2020):ナースing・グラフィカ成人看護学(4)周術期看護[第3版].メディカ出版. ISBN: 978-4-8404-5376-9 (成熟期看護学方法論Ⅰで購入済み) 矢永勝彦, 高橋則子編集(2017):系統看護学講座別巻1臨床外科看護総論[第11版].医学書院. ISBN: 978-4-260-02769-4 (病態と治療で購入済み)						
参考書および参考文献	適宜紹介する						
受講条件	必修科目(履修条件をつけない)						
事前・事後学修(内容・時間)	実習は45時間をもって1単位とする。但し、実習開始にあたり不足する内容、また、実習後に補う内容については各自学修を行うこと。 実習前の事前学修:既修した内容を復習して実習に臨む。また、実習ガイダンスで提示した事前課題を期日までに行うこと。 実習中の学修:実習中の課題に取り組むこと。 事後学修:実習での学びと自己の課題を明確にする。						
成績評価							
実習目標、到達目標の達成状況を実習評価表に基づき総合的に評価する。							
評価項目	割合	評価基準					
実習内容、実習記録、提出物、カンファレンス参加度 等	100%	評価表に基づき評価する					
授業の実施方法と授業計画	周手術期実習(岡崎市民病院、豊川市民病院、豊橋医療センター) ①実習期間:2週間 ②実習内容 臨床実習:手術療法を受ける患者を受け持ち、術前から術後回復期までの看護を実践する。 学内実習:実習初日(オリエンテーション、術直後の観察演習等)、最終日(実践した看護について学びの共有) 詳細は事前オリエンテーションで説明する。 ・事前課題は担当教員との実習前面接時にフィードバックを行い、返却する。 ・課題レポート・実習記録は担当教員との実習後面接時にフィードバックを行う。						
ナンバリング	NREM3015						

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード		988N0	
科目	988N 成熟期看護学実習Ⅵ			授業種別		実習	
担当教員	原沢 優子			単位数		2	
その他担当者	三村 絵美						
授業概要	要介護状態等により介護老人保健施設あるいは療養病床等で過ごす高齢者を対象として、高齢者看護に必要な理論や概念の知識をもとに健康支援と生活支援の両側面からエビデンスに基づく看護過程の展開を行う。高齢者の意思を尊重する態度、倫理的な志向、安楽な看護技術の提供を通して高齢者への看護実践に必要な知識と技術の基礎的能力を養う。 ※本科目は当該内容に関する看護の実務経験を有する教員がその実務経験を活かして教育する。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性	◎		○	○	○		△
到達目標	1. 高齢者と家族を尊重した倫理的態度により看護学生として信頼される人間関係を築くことができる。 2. 高齢者看護に必要な知識・エビデンスをもとに高齢者の健康状態・生活機能への看護過程展開ができる。 3. 高齢者の生活機能の維持を支える保健医療福祉チームの一員として行動し、看護の役割を明確に認識できる。 4. 学生グループ間において建設的な意見交換を行い、協働して学びを深めることができる。 5. 看護学生として責任ある行動をとり、専門職者として創造的に学び続ける姿勢が身につく。						
テキスト(教科書)	(購入済) 老年看護学 北川公子編集 医学書院 冊子ISBN 978-4-260-03186-8 電子 ISBN 978-4-260-03478-4 老年看護病態・疾患論 鳥羽研二編集 医学書院 冊子ISBN978-4-260-03172-1 電子 ISBN 978-4-260-03479-1						
参考書および参考文献	(本学図書館所蔵) 1.生活機能からみた老年看護過程 第4版、山田律子編集、医学書院、ISBN978-4-260-04274-1 2.生活機能のアセスメントにもとづく老年看護過程、奥宮暁子他著、医歯薬出版、ISBN978-4-263-23562-1						
受講条件	必修科目 履修条件を付けない						
事前・事後学修(内容・時間)	実習1単位の修得には45時間の学修時間が必要である。 事前学習 1.指定課題 8月オリエンテーションにて具体的内容を提示する。 知識に関する課題、技術に関する自己学習課題がある。 2.自己学修 ・「成熟期看護学原論」「成熟期看護学方法論Ⅲ」「老年看護学演習Ⅳ」の復習。 ・基礎看護学にて学修した基礎看護技術の復習 ・ビジュアルクラウドを活用した病態理解、フィジカルアセスメント技術、コミュニケーション技術の視聴 3.翌日の実習計画、技術の手技確認等 事後学修 1. 実習日の評価、看護過程展開に関する記録の未達成分の課題 2. 実習終了後は、理解不足があった知識について国家試験に向けた自己学修をする。						
成績評価							
実習目標、到達目標の達成状況を実習記録、看護実践、事前課題、実習態度、カンファレンス参加度、グループワーク参加度について、各項目別に作成した評価表に基づき評価する。実習への欠席、遅刻、劣悪な実習態度を減点対象とする。							
評価項目	割合		評価基準				
実習記録、看護実践	80%		評価基準表に基づき評価する。				
事前課題、カンファレンス参加度、グループワーク参加度	20%		項目別に作成した評価基準表に基づき評価する。				
授業の実施方法と授業計画	この実習の成績評価等のフィードバックは面談にて行う。 1. 実習期間 2週間 2. 実習場所 介護老人保健施設：明陽苑、おとわの杜 療養病床、地域包括ケア病棟等：総合青山病院、浜名病院、瀬美病院 3. 実習方法・内容 ・臨地実習にて1名の高齢者を受け持ち看護過程の展開をする。 ・高齢者に対して学内にて演習済みの基礎看護技術を安全に実践する。 ・最終学内日にグループにて「実習の学び」をテーマにピア・ラーニングする。 また、その内容をプレゼンテーション資料としてまとめ発表会をする。 ・個人の「実習の学び」をレポート提出する。 ・実習終了日に担当教員と面談にて学修達成状況の振り返りをする。 4. スケジュール ・8月に領域別実習オリエンテーションを行う。日時は別途案内する。 ・実習の詳細は「成熟期看護学実習Ⅵ 要項」にて提示する。 8月オリエンテーションにおいて要項と実習施設の学生配置、事前学修課題を提示する。 ・その他、必要事項はclassroomを開設して案内する。						
ナンバリング	NRFM3016						

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード		98800		
科目	9880 成熟期看護学実習Ⅶ			授業種別		実習		
担当教員	豊島 由樹子			単位数		1		
その他担当者	笹木 りゆこ、山口 直己、小俣 由佳、西澤 和義、藤井 徹也、桂川 純子、小山 順子、井上 直子、大林 陽子、高野 純平、山本 義昭、原沢 優子、川合 茉莉、新井 志歩、今福 恵子、斉本 美津子、三村 絵美、阪下 陽香、鈴木 知代、河合 洋子、渡邊 富士子							
授業概要	エンドオブライフ期にある療養者と家族の特徴、および緩和ケアについて理解し、その人らしさを支える看護援助について学ぶ。また地域包括ケアシステム構築に向けた保健・医療・福祉等の現状を踏まえて看護専門職としての役割や責務を果たす幅広い社会的貢献の観点から看護実践を行うための基礎的能力を養う。 ※この科目は当該授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かし講義等を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	◎		○	○	○		△	
到達目標	1. エンドオブライフ期にある療養者と家族の特徴および緩和ケアの実践について理解し、その人らしさを支える看護援助について説明できる。 2. 地域包括ケアシステム構築に向けた保健・医療・福祉等の現状を踏まえて看護専門職としての役割や責務を果たす幅広い社会的貢献の観点を理解した看護を実践できる。 3. 対象者を尊重し、人権を擁護する倫理的姿勢を基盤として行動できる。							
テキスト（教科書）	（既に購入済） 「エンドオブライフケア看護学 基礎と実践」、小笠原知枝 他編，ヌーベルヒロカワ，2018年，ISBN:978-4861740749							
参考書および参考文献	適宜紹介する							
受講条件	必修科目							
事前・事後学修（内容・時間）	実習は45時間をもって1単位とする。但し、実習開始にあたり不足する内容、実習後に補う内容については各自学修を行うこと。 実習においては「成熟期看護学演習Ⅲ」で学修した内容を復習して臨む。 また、各領域で指示された事前課題について期日までに学修する。 実習後は、理解が不十分であった内容について、国家試験に向けて各自復習を行う。							
成績評価								
到達目標が達成できているかを、事前課題、実習記録、看護実践、課題レポート等について、実習評価表に基づいて総合的に評価する。								
評価項目	割合		評価基準					
実習内容、実習記録、課題レポート、カンファレンスへの参加度 等	100%		実習評価表に基づき評価する。					
授業の実施方法と授業計画	①実習期間：1週間 ②実習場所：聖隷三方原病院ホスピス、および各領域で指定する実習施設 ③実習内容・方法： 1日目：実習オリエンテーション、アドバンスケアプランニング(ACP)等に関するグループワーク 2日目：ホスピス見学実習 3～5日：各看護学領域における実習 ・実習施設 豊橋医療センター							

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード		983A0		
科目	983A 小児看護学原論			授業種別		週間授業		
担当教員	河合 洋子			単位数		1		
その他担当者								
授業概要	子どもと家族を取り巻く環境の変化や関連する法律・施策の変遷、地域包括ケアシステムにおける子ども・子育て支援の現状等の基本的知識をふまえ、小児看護の対象となる人々と役割について学修する。また、子どもの成長・発達の特徴を理解し、アセスメントできる能力を養う。 *この科目は該当授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員等がその経験を活かし講義等を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性			◎	○		○	○	
到達目標	1. 小児医療・看護の変遷と小児看護の特徴について述べることができる。 2. 小児にとっての家族の機能・役割について述べることができる。 3. 子どもの権利を理解し、小児看護における倫理について述べることができる。 4. 小児の健康を維持・促進するための保健医療福祉について述べることができる。 5. 成長・発達の一般的原則、成長・発達に影響する因子を説明できる。 6. 小児期における各成長・発達段階に応じた身体的変化、心理社会的変化の特徴を理解した上で、子どもの成長・発達をアセスメントできる。 7. 各成長・発達段階の特徴を踏まえ、成長・発達の評価法について述べることができる。							
テキスト(教科書)	・奈良間美保著, 系統看護学講座 専門分野 小児看護学1 小児看護学概論・小児臨床看護総論 第14版, 医学書院 ISBN: 9784260038607 ・奈良間美保著, 系統看護学講座 専門分野 小児看護学2 小児臨床看護各論 第14版, 医学書院 ISBN: 9784260038669							
参考書および参考文献	・鴨下重彦・柳澤正義監, こどもの病気の地図帳 ISBN: 9784062066051 適宜紹介する							
受講条件	必修科目							
事前・事後学修(内容・時間)	①授業前には教科書の指定箇所を熟読する(第1回～第8回/各1時間程度) ②授業後には授業での学びを整理しておく(第1回～第8回/各2時間程度) ③授業内で指示する内容については、事前に調べて授業に臨む(3時間程度) ④小テストの実施前後には指定範囲を復習する(小テスト 各回:8回/1時間程度) 以上①②③④について、1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることを踏まえ、自己学修を行うこと。なお、1年次に学んだ「からだの構造と機能Ⅰ・Ⅱ」、「母性看護学原論」などと関連させて学習すること。							
成績評価								
筆記試験及び小テストで評価を行う。なお、劣悪な授業態度(私語、居眠り等)は減点の対象とする。								
評価項目		割合	評価基準					
定期試験		90%	到達目標に沿って、授業での重要な点について適切に理解しているかを筆記試験で確認する					
小テスト		10%	授業開始前または終了時に、授業内容について知識確認のための小テストを実施し評価する。小テスト実施日、範囲については事前に提示する。 なお、授業形態、進度によって課題レポートに変更する場合がある。					
授業の実施方法と授業計画	*各回においてリアクションペーパーの記載を求める。 *各授業開始時に前回の講義内容・課題等に関する振り返り(フィードバック)を行う(授業への意見・質問等についての解説含む)。クラスルームも活用することがあるので確認すること。							
	第1回(講義) ガイダンス、小児の特徴、小児看護の対象と役割							
	第2回(講義) 成長・発達の一般的原則と影響する因子、小児の成長・発達①(新生児期、乳児期)							
	第3回・第4回(講義) 小児の成長・発達②③(幼児期)							
	第5回(講義) 小児の成長・発達④(学童期、思春期)、発達の評価(発達評価の目的と方法)							
	第6回(講義) 小児の健康維持・促進のための法律①(主な保健統計、予防接種法)							
	第7回(講義) 小児の健康維持・促進のための法律②(児童福祉法、母子保健法)							
	第8回(講義) 子どもの権利と小児看護における倫理、家族のアセスメント							
	※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもあります							
ナンバリング	NRDM2003							

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	983B0		
科目	983B 小児看護学方法論			授業種別	週間授業		
担当教員	河合 洋子			単位数	2		
その他担当者	中島 怜子						
授業概要	成長・発達段階をふまえ、様々な健康レベル、施設や地域など多様な場における子どもと家族の特徴を理解し、子どもの成長・発達そのものを促進する援助や子どもと家族の健康を支えるための看護の方法を学習する。 *この科目は該当授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員等がその経験を活かし講義等を行う科目である。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性			○	◎			△
到達目標	1. 発達段階に応じた養育と看護について説明できる。 2. 病気や障害が子どもと家族に与える影響を説明できる。 3. 発達段階によって生じやすい小児期特有の症状と必要な看護について説明できる。 4. 子どもと家族がおかれる場（入院中、外来）の特性に応じた看護について説明できる。 5. 病気や障害を抱え、様々な病期（急性期・慢性期・終末期・周手術期）におかれた子どもと家族の特徴を理解し、必要な看護について説明できる。 6. 先天的な健康問題や障害のある子ども、虐待等の特別な状況にある子どもや家族の特徴を理解し、必要な看護について説明できる。						
テキスト（教科書）	・奈良間美保著，系統看護学講座 専門分野 小児看護学① 小児看護学概論・小児臨床看護 総論 第14版，医学書院 ISBN：978-4-260-038607 ・奈良間美保著，系統看護学講座 専門分野 小児看護学② 小児臨床看護各論 第14版，医学書院 ISBN：978-4-260-038669						
参考書および参考文献	適宜、授業で紹介する。また、授業内において、教員作成の補正資料を随時配布する。						
受講条件	必修科目 履修条件を付けない						
事前・事後学修（内容・時間）	①授業前には、教科書の指定箇所を熟読する（第1回～第15回／各1時間程度） ②授業後には、配布資料をもとに授業での学びを整理しておく（第1回～第15回／各2時間程度） ③授業内で指示する内容については、事前に調べて授業に臨む（3時間程度） ④小テスト実施前後には指定範囲を復習する（小テスト6回分／各2時間程度） 以上を参考に自己学習を行うこと。なお、小児看護学原論、病態と治療Ⅳ（小児）で学修した内容と関連させて学修すること。						
成績評価							
筆記試験、小テストの結果から評価を行う。劣悪な受講態度（居眠り、私語等）は減点の対象とする。							
評価項目	割合	評価基準					
定期試験	90%	到達目標に沿って、授業での重要な点について適切に理解しているかを筆記試験で確認する					
小テスト	10%	当該範囲までの授業内容に関する要点を適切に理解しているかを評価する。小テスト実施日、範囲については事前に提示し、授業内で実施する。なお、授業形態、進度によって課題レポートに変更する場合がある。					
授業の実施方法と授業計画	*各回においてリアクションペーパーの記載を求める。 *各授業開始時に前回の講義内容・課題等に関する振り返り（フィードバック）を行う（授業への意見・質問等についての解説含む）。クラスルームも活用することがあるので確認すること。						
	第1回（講義） 養育と看護（基本的な生活習慣の獲得、子どもの事故・安全な環境）①（河合）						
	第2回（講義） 養育と看護（基本的な生活習慣の獲得）②（河合）						
	第3回（講義） 養育と看護（基本的な生活習慣の獲得）③（河合）						
	第4回（講義） 外来における子どもと家族の看護（中島）						
	第5回（講義） 病気・障害および入院などの環境が子どもと家族に及ぼす影響、健康問題のある子どもと家族の看護（河合）						
	第6回（講義） 子どもに起こりやすい症状と看護①（発熱、嘔吐・下痢、脱水）（中島）						
	第7回（講義・個人ワーク） 子どもに起こりやすい症状と看護②（呼吸困難、けいれん、発疹など）（中島）						
	第8回（講義・個人ワーク） 周手術期にある子どもと家族の看護（幽門狭窄、鎖肛など）（河合）						
	第9回（講義・個人ワーク） 急性期にある子どもと家族の看護①（先天性心疾患など）（河合）						
	第10回（講義・個人ワーク） 急性期にある子どもと家族の看護②（川崎病など）（河合）						
	第11回（講義） 慢性期にある子どもと家族の看護①（ネフローゼ症候群など）（河合）						
	第12回（講義） 子どもの虐待と看護（中島）						
	第13回（講義） 障害のある子どもと家族の看護（障害の捉え方、発達障害など）（坪見）						
	第14回（講義） 慢性期にある子どもと家族の看護（小児がん）（宮城島）						
	第15回（講義） 慢性期にある子どもと家族の看護③（糖尿病など）（河合）						
※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。							
ナンバリング	NRFM2008						

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード		98330	
科目	9833 小児看護学演習			授業種別		週間授業	
担当教員	河合 洋子			単位数		1	
その他担当者	川合 茉莉、阪下 陽香						
授業概要	小児看護に必要な技術について、その基本となる理論と根拠に基づく実践的知識を修得するとともに、安全、安楽、発達を考慮した援助方法について学ぶ。また、小児看護の対象となる子どもとその家族の状況を適切に判断し、看護援助を立案、実施、評価するために必要な看護のプロセスについて、紙上事例を通して学ぶ。 *この科目は該当授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員等がその経験を活かす講義等を行う科目である。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性	△		○	◎	○		△
到達目標	1. 小児看護に必要な技術について、安全・安楽、発達を考慮した援助方法を述べることができる。 2. 小児看護に必要な技術について、安全・安楽、発達を考慮した方法で実践できる。 3. 小児看護の対象となる子どもと家族に対して、尊重した態度、姿勢を示すことができる。 4. 子ども・家族の健康状態、ニーズを適切に判断するために、理論的に根拠立ててアセスメントすることができる。 5. 子ども・家族の健康状態、ニーズを適切に捉え、具体的な看護計画が立案できる。						
テキスト（教科書）	・奈良間美保著，系統看護学講座 専門分野 小児看護学① 小児看護学概論 小児臨床看護総論 第14版，医学書院 ISBN：9784260038607 ・奈良間美保著，系統看護学講座 専門分野 小児看護学2 小児臨床看護各論 第14版，医学書院 ISBN：9784260038669 ・中野綾美編，ナースング・グラフィカ小児看護学②小児看護技術 第5版，メディカ出版，ISBN：9784840478434						
参考書および参考文献	・浅野みどり編，根拠と事故防止から見た小児看護技術 第3版，医学書院，ISBN：9784260043250 ・適宜、授業で紹介する。また、授業計画に沿って、教員作成の補足資料を適宜配布する。						
受講条件	必修科目						
事前・事後学修（内容・時間）	①授業前には教科書の該当箇所を熟読する（第1回～第15回／各60分程度） ②授業後には配布資料をもとに授業での学びを整理しておく（第1回～第15回／各30分程度） ③技術演習に関する内容は事前に調べて授業に臨む（第6，7，8，10，11回／各60分程度） 以上を参考に自己学修を行うこと。なお、病態と治療Ⅳ（小児）、小児看護学概論、小児臨床看護学、基礎看護技術で修得した内容と関連させて学修することが望ましい。						
成績評価							
筆記試験、看護過程演習の課題および技術演習の課題で評価を行う。なお、劣悪な授業態度（私語、居眠り、自己学修の不備など）は減点の対象とする。							
評価項目		割合	評価基準				
定期試験		80%	到達目標に沿って、講義・演習での重要な点について理解しているかを筆記試験で確認する				
看護過程演習の課題		20%	指示した課題に対する適切かつ十分な内容・記述になっているかを評価する				
技術演習の課題		減点方式	課題に対する適切な内容・記述になっているかを評価する				
授業の実施方法と授業計画	第1回	看護過程ガイダンス（事例紹介、アセスメントの進め方等）【講義】					
	第2回	看護過程の展開①（成長・発達および病態と治療の理解）【講義】					
	第3回	看護過程の展開②（アセスメント）【演習】					
	第4回	小児看護における基本技術【講義】 ーコミュニケーション、フィジカルアセスメントー					
	第5回	小児看護における基本技術【講義】 ー身体計測、バイタルサイン測定ー					
	第6回	小児看護における基本技術【演習】 ー身体計測ー					
	第7回	小児看護における基本技術【演習】 ーバイタルサイン測定ー					
	第8回	プレパレーション【講義・演習】 ープレパレーションについて考え、実際に行ってみるー					
	第9回	検査・処置における介助技術【講義】 ー与薬の技術ー					
	第10回	検査・処置における介助技術【演習】 ー与薬の技術（特に経口与薬）ー					
	第11回	検査・処置における介助技術【講義・演習】 ー末梢静脈内持続点滴の管理・抑制ー					
	第12回	NICUにおける看護（ゲストスピーカー）【講義】					
	第13、14回	看護過程の展開③（問題の明確化／関連図を含む）【講義、演習】					
	第15回	看護過程の展開④（看護計画立案）【講義・演習】					
	※本科目は、講義、演習のいずれかのスタイルにより実施する。また、技術演習はグループに分かれ実施する。 ※技術に関する課題（補足資料含む）は実習でも活用するため、不足があった場合は、追加・修正し、整理しておくこと。 ※事前課題および提出物については、教員が適宜内容を確認し、フィードバックする。						
ナンバリング	NRCM3009						

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード		983C0		
科目	983C 小児看護学実習Ⅰ			授業種別		実習		
担当教員	河合 洋子			単位数		1		
その他担当者	川合 茉莉、阪下 陽香							
授業概要	乳幼児期にある子どもとの関わりを通して、子どもの成長・発達の特徴および遊びや生活についての理解を深め、成長・発達を支援するための実践力を養う。また、子どもとのコミュニケーション、遊びの援助、日常生活援助などの小児看護に必要な基礎的実践能力を育成する。 *この科目は該当授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員等がその経験を活かし実習指導を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	◎		○	○	○	△	△	
到達目標	1. 乳幼児期における子どもの成長・発達について理解できる。 2. 乳幼児期における子どもの日常生活と養育環境について理解できる。 3. 子どもの発達に応じた遊びや生活の支援を通して、成長・発達を促進するための関わりができる。 4. 誠実な態度で実習に臨むことができる。							
テキスト(教科書)	なし							
参考書および参考文献	適宜紹介する							
受講条件	必修科目 履修条件を付けない							
事前・事後学修(内容・時間)	実習は45時間をもって1単位とする。但し、実習開始にあたり不足する内容、実習後に補う内容については、各自で学習を行うこと。 <具体的な内容> ①関連する病態と治療Ⅳ(小児)、小児看護学原論など、これまで学修した内容の復習 ②事前課題として指示した内容について、実習中に活用できるように整理しておく							
成績評価								
実習内容(目標の達成状況)、実習への取り組み姿勢、記録等で総合的に評価する。								
評価項目	割合		評価基準					
実習状況・実習記録・カンファレンスへの参加度 等	100%		本科目の到達目標に対する細項目について、評価基準にそって評価する(詳細は評価表参照のこと)					
授業の実施方法と授業計画	1. 事前オリエンテーション 全体オリエンテーション(学内) 2. 保育園実習(3日間) 保育園実習は、病棟実習前豊橋市内の指定された保育園で実施する。各施設の日課や行事に従い、配属されたクラスの保育士の指導のもと、一緒に保育活動に参加する。 3. 学内実習(2日間) 保育園実習前:子どもの成長・発達および乳幼児期の子どもの生活に関して学習を深める。 保育園実習後:学習の整理およびグループ討議、全体発表および他施設で実習した学生と学びの共有を行う。 詳細は小児看護学実習1の実習要項を参照のこと *事前課題および実習記録については、教員または実習指導者が適宜内容を確認し、フィードバックする。							
ナンバリング	NRGM3007							

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	983D0			
科目	983D 小児看護学実習Ⅱ			授業種別	実習			
担当教員	河合 洋子			単位数	1			
その他担当者	川合 茉莉、阪下 陽香							
授業概要	健康上の課題を有する子どもとその家族の状況を的確にアセスメントし、看護診断する臨床判断能力を育成するとともに、子どもと家族の意思を尊重し、健康を支えるための看護実践能力を養う。入院や治療、検査を要する子どもとその家族を受け持ち、看護実践を通して学修する。 *この科目は該当授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員等がその経験を活かして実習指導を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	◎		○	○	○	△	△	
到達目標	1. 子どもの成長・発達段階を把握し、評価できる。 2. 小児の健康状態を観察し、その健康のレベルと発達段階に応じて日常生活を提供できる。 3. 小児を取り巻く環境を理解し、援助に活かすことができる。 4. 小児看護に特有な日常生活援助、および診療介助に伴う技術の必要性を理解し、援助することができる。 5. 子どもの権利擁護の重要性を理解したうえで、子どもと家族を尊重した関わりができ、援助的人間関係が形成できる。							
テキスト(教科書)	なし							
参考書および参考文献	適宜紹介する							
受講条件	必修科目 履修条件を付けない							
事前・事後学修(内容・時間)	実習は45時間をもって1単位とする。但し、実習開始にあたり不足する内容、実習後に補う内容については、各自で学習を行うこと。 ＜具体的な内容＞ ①専門基礎科目、専門科目での講義・演習(特に関連する病態と治療Ⅳ[小児]、小児看護学原論、小児看護学方法論、小児看護学演習)で、これまで学修した内容の復習 ②事前課題として指示した内容について、実習中に活用できるように整理しておくこと							
成績評価	実習内容、実習記録、カンファレンスでの発言内容、実習への取り組み姿勢により、評価表に記載の評価項目、評価基準にそって総合的に評価する。なお、実習における取り組みが誠実でない場合(欠席、遅刻など)は減点の対象とする。							
評価項目	割合		評価基準					
実習内容・実習記録・カンファレンスへの参加度 等	100%		5段階の基準にそって評価する(詳細は評価表参照のこと)					
授業の実施方法と授業計画	1. 事前オリエンテーション 1) 全体オリエンテーション(学内) 2) 病院・病棟オリエンテーション 2. 病棟実習 病棟実習は、臨地実習計画表に基づき、指定された病院で実習を行う。入院している小児を受持ち、看護過程の展開を通して、看護を実践する。 ＜実習の進め方＞ 1日目: 学内オリエンテーション/病院・病棟オリエンテーション、受持ち患児の決定など 2日目以降: 看護計画の立案および計画に基づく援助の実施 ※病棟実習最終日: 最終カンファレンス(病院により時間は異なる。) 5日目: 学内実習 詳細は小児看護学実習要項を参照のこと *事前課題および実習記録については、教員が適宜内容を確認し、フィードバックする。							
ナンバリング	NRGM3010							

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード		982A0		
科目	982A 母性看護学原論			授業種別		週間授業		
担当教員	大林 陽子			単位数		1		
その他担当者								
授業概要	母性看護の基盤となる概念を理解し、母性看護の役割、看護の対象について学ぶ。また、母子保健の動向や母子保健施策の現状と課題を学ぶ。さらに、女性の身体の形態・機能的変化を理解し、ライフサイクル各期における健康とニーズとそれに応じた看護について学ぶ。 ※この科目は当該授業内容に関する看護の実務経験を有する教員がその実務を活かして講義等を行う科目です。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性			◎	○			○	
到達目標	1. 母性看護の基盤となる概念および理論、母性看護の役割、看護の対象について説明できる 2. わが国の母子保健の動向と母子保健施策の現状と課題について説明できる 3. 女性のライフサイクル各期における健康とニーズ、健康問題とその看護について説明できる 4. 母子の健康と社会問題、母子を支援する社会体制について説明できる 5. 不妊症の夫婦への支援について説明できる							
テキスト(教科書)	現代の母性看護 概論 第2版、入山茂美他編、名古屋大学出版会、ISBN9784815811860 系統看護学講座 専門分野 成人看護学9 女性生殖器官 第15版、末岡浩他、医学書院、ISBN9784260035675							
参考書および参考文献	母子保健の主なる統計、母子衛生研究会、ISBN9784938481131 わが国の母子保健、母子衛生研究会、ISBN9784938481223 令和4年版少子化社会対策白書、内閣府編集、日経印刷、ISBN9784865793291 病気がみえるvol.10産科 第4版、医療情報科学研究所編集、メディックメディア、ISBN9784896327137 病気がみえるvol.9婦人科 第4版、医療情報科学研究所編集、メディックメディア、ISBN9784896327120							
受講条件	必修科目							
事前・事後学修(内容・時間)	1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることをふまえ、事前・事後学修を毎授業60分程度行う ＜事前学修＞ 毎授業前にテキストの該当箇所を読み、内容を事前に調べて授業に参加すること(第1～8回/30分程度) ＜事後学修＞ 毎授業後に授業で得た学びについてレポートを作成しておき、定期試験前に再復習すること(第1～8回/30分程度)							
成績評価								
原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価します。なお、遅刻・早退・無断欠席や劣悪な受講態度(私語・居眠り等)は減点の対象とする場合があります。								
評価項目		割合	評価基準					
定期試験		90%	筆記試験にて理解度を確認する					
課題レポート		10%	課題に対する適切な内容・記述になっているかを評価する					
授業の実施方法と授業計画	第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回	(講義) 母性看護の概念、母子保健の動向 (講義) 母性看護学の理論、ジェンダーとヘルスプロモーション (講義) 女性のライフサイクルと健康 ライフサイクルにおける女性の身体・心理的变化、思春期女性の健康 (講義) 女性のライフサイクルと健康 各ライフステージにおけるヘルスニーズと健康課題① (講義) 女性のライフサイクルと健康 各ライフステージにおけるヘルスニーズと健康課題② (講義) 母子の健康と社会問題 女性に対する暴力 (講義) 母子を支援する社会体制 母子支援の関係法規、女性の就労と子育て 社会的弱者である母子への支援、在日外国人への支援 (講義) 生殖医療と生命倫理、不妊症の夫婦への支援 * 受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。 * 課題(テストやレポート等)やリアクションペーパーの質疑内容については、授業内あるいはCrassroomを通してフィードバックする。						
ナンバリング	NRCM2008							

開講年度・開講学期	2025年度 春学期	授業コード	982B0
科目	982B 母性看護学方法論	授業種別	週間授業
担当教員	齊本 美津子	単位数	2
その他担当者	大林 陽子、新井 志歩		
授業概要	妊婦・産婦・褥婦・新生児の身体・心理社会的特性を理解し、対象の状態とニーズに応じた看護の基礎的知識と具体的な看護方法を理解し、看護実践に必要な基礎的能力を養う。 ※この科目は当該授業内容に関する看護の実務経験を有する教員等がその経験を活かし講義等を行う科目である。		
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3 DP4 DP5 DP6 DP7
ディプロマポリシーとの関連性		○	◎ △ △
到達目標	1. 妊婦の身体・心理社会的特性とその看護について説明できる 2. 妊婦健康診査、妊婦の保健相談について説明できる 3. ハイリスク妊娠、妊娠期の異常とその看護について説明できる 4. 分娩3要素、分娩機転と分娩経過、分娩が母児に及ぼす影響とその看護について説明できる 5. 産婦の身体的特性とニーズに応じた看護について説明できる 6. 分娩期の異常とその看護について説明できる 7. 褥婦の身体・心理社会的特性とその看護について説明できる。 8. 産褥期の異常とその看護について説明できる。 9. 新生児の生理とアセスメントと看護について説明できる。 10. ペリネイタルロスを経験した母親・家族への支援について説明できる。		
テキスト(教科書)	現代の母性看護 各論、入山茂美他編、名古屋大学出版会、ISBN9784815809744 現代の母性看護 概論 第2版、入山茂美他編、名古屋大学出版会、ISBN9784815811860 根拠と事故防止からみた母性看護技術 第3版、石村由利子編、医学書院、ISBN9784260043243		
参考書および参考文献	系統看護学講座専門分野Ⅱ 母性看護学 1 母性看護概論 第14版、森恵美、医学書院、ISBN9784260042253 系統看護学講座専門分野Ⅱ 母性看護学 2 母性看護学各論 第14版、森恵美、医学書院、ISBN9784260042253 病気がみえるvol.10産科 第4版、医療情報科学研究所編集、メディックメディア、ISBN9784896327137 NANDA-1看護診断 定義と?2021-2023 原書第12版、T.ヘザー・ハードマン、上鶴重美他、医学書院、ISBN978-4-260-04628-2		
受講条件	必修科目		
事前・事後学修(内容・時間)	1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることをふまえ、事前・事後学修を毎授業60分程度行う<事前学修> 毎授業前にテキストの該当箇所を読み、内容を事前に調べて授業に参加すること(第1~15回/30分程度)<事後学修> 毎授業後に授業で得た学びについてレポートを作成しておき、定期試験前に再復習すること(第1~15回/30分程度)		
成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価します。なお、遅刻、早退、無断欠席や劣悪な受講態度(私語・居眠り等)は減点の対象とする場合があります。		
評価項目	割合	評価基準	
定期試験	90%	筆記試験にて理解度を確認する	
課題レポート	10%	課題に対する適切な内容・記述になっているかを評価する	
授業の実施方法と授業計画	第1回 (講義) 妊婦の身体的特性(母体・胎児) 第2回 (講義) 妊婦の身体的特性とニーズの看護(妊婦健康診査、保健相談) 第3回 (講義) 妊婦の身体的特性とニーズの看護(保健相談、マイナートラブル)、 妊娠期の心理社会的特性(親になるための準備教育) 第4回 (講義) ハイリスク妊娠と妊娠期の異常と看護 第5回 (講義) 分娩3要素、分娩機序と分娩経過 第6回 (講義) 分娩経過に伴う産婦と胎児の変化と看護 第7回 (講義) 産婦・胎児のニーズとアセスメントと看護 第8回 (講義) 分娩の異常と看護 第9回 (講義) 褥婦の身体的特性(退行性変化)とニーズのアセスメントと看護 第10回 (講義) 褥婦の身体的特性(退行性変化)とニーズのアセスメントと看護 第11回 (講義) 褥婦の身体・心理社会的特性と看護 第12回 (講義) 産褥期の異常と看護(帝王切開分娩後の褥婦の看護を含む) 第13回 (講義) 新生児の生理、アセスメントと看護 第14回 (講義) 新生児の異常と看護 第15回 (講義) ペリネイタルロスを経験した母親・家族への支援 *受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。 *課題(テストやレポート等)やリアクションペーパーの質疑内容については、授業内やClassroomを通してフィードバックする。		
ナンバリング	NRCM2009		

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	98280			
科目	9828 母性看護学演習			授業種別	週間授業			
担当教員	斉本 美津子			単位数	1			
その他担当者	大林 陽子、新井 志歩							
授業概要	妊娠・分娩・産褥・新生児期の事例による母性看護過程を展開し、母性看護実践に必要な看護過程展開の基礎的能力を修得する。また、母性看護の対象となる妊婦・産婦・褥婦・新生児の観察・ケアに必要な根拠に基づく看護技術を修得する。 ※この科目は当該授業内容に関する看護の実務経験を有する教員が、その実務経験を活かして講義等を行う科目です。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性			○	◎	○		△	
到達目標	1. 母性看護における看護過程のあり方を説明できる 2. 対象事例の状態をアセスメントし、妊娠期・分娩期・産褥期の状態を要約できる 3. 対象事例の妊娠・分娩・産褥・新生児経過をアセスメントし、看護診断、看護目標設定、看護計画を立案できる 4. 妊婦・産婦・褥婦・新生児の観察・ケアに必要な根拠に基づく看護技術について説明でき、技術を修得できる							
テキスト(教科書)	現代の母性看護 概論 第2版、入山茂美他編、名古屋大学出版会、ISBN9784815811860 現代の母性看護 各論、入山茂美他編、名古屋大学出版会、ISBN9784815809744 根拠と事故防止からみた母性看護技術 第3版、石村由利子編、医学書院、ISBN9784260043243							
参考書および参考文献	病気がみえるvol.10産科 第4版、医療情報科学研究所編集、メディックメディア、ISBN9784896327137							
受講条件	必修科目							
事前・事後学修(内容・時間)	1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることをふまえ、事前・事後学修を毎授業60分程度行う ＜事前学修＞ 1. 毎授業で指示する課題について事前に学修し資料を作成する(第1・2・7～15回/60分) 2. 1. の過程で生じた疑問点を明確にして授業に臨む ＜事後学修＞ 1. 毎授業後に授業で得た学びを事前学修の内容に加筆修正し、内容を整理する(第1・2・7～15回/60分) 2. 技術演習後は技術をくり返し行い、根拠に基づく技術修得に努める(第3～6回/60分)							
成績評価								
原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価します。なお、遅刻・早退・無断欠席や劣悪な受講態度(私語・居眠り等)は減点の対象とする場合があります。 筆記試験と課題レポート内容を総合的に評価する								
評価項目		割合	評価基準					
課題レポート(看護過程展開)		50%	課題に対する適切な内容・記述になっているかを評価する					
定期試験(母性看護技術)		50%	筆記試験にて理解度を確認する					
授業の実施方法と授業計画	第1回 第2回 第3～6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回	(講義) 母性看護における看護過程展開 (講義) 母性看護技術、演習ガイダンス (演習) 母性看護技術演習 妊婦：レオボルド腹部触診法、子宮底長・腹囲測定、CTG装着 褥婦：子宮収縮状態観察 新生児：観察・バイタルサイン測定、抱き方、沐浴、おむつ交換、更衣 (講義・演習) 妊娠期の状態のアセスメントと要約 (講義・演習) 分娩期の状態のアセスメントと要約 (講義・演習) 退行性変化のアセスメント、看護診断・目標・計画立案① (講義・演習) 退行性変化のアセスメント、看護診断・目標・計画立案② (講義・演習) 進行性変化のアセスメント、看護診断・目標・計画立案 (講義・演習) 心理社会面のアセスメント、看護診断・目標・計画立案 (講義・演習) 新生児のアセスメント、看護診断・目標・計画立案① (講義・演習) 新生児のアセスメント、看護診断・目標・計画立案② (講義・演習) 母性看護過程展開まとめ						
	* 受講学生の習熟度により授業計画を変更することがある。 * 課題(テストやレポート等)やリアクションペーパーの質疑内容については、授業内やClassroomでフィードバックする。							
ナンバリング	NRFM2007							

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	98660			
科目	9866 母性看護学実習			授業種別	実習			
担当教員	斉本 美津子			単位数	2			
その他担当者	大林 陽子、新井 志歩							
授業概要	周産期にある妊婦・産婦・褥婦・新生児の身体・心理社会的特性を理解し、母子とその家族の看護実践に必要な基礎的知識・技術看護過程展開により養う。 ※この科目は当該授業内容に関する看護の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	◎		○	○	○	△	△	
到達目標	1. 妊娠により生じた妊婦と胎児の心身の変化をアセスメントし、状態に応じた看護過程を展開できる 2. 分娩により生じた心身の変化における産婦と胎児の状態をアセスメントできる 3. 褥婦の退行性・進行性変化を観察し、状態をアセスメントし、順調な経過を促進する看護過程を展開できる 4. 新生児の胎外適応過程と生理的变化を観察し、状態をアセスメントし、生後日数に応じて順調に経過する看護過程を展開できる 5. 褥婦と夫・パートナーを含む家族の役割適応を把握し、順調な家族形成に向けて適応を促す援助を実施できる 6. 母子保健医療チームの一員として、看護者の役割や責任を自覚して行動できる							
テキスト(教科書)	系統看護学講座専門分野Ⅱ 母性看護学1 母性看護概論 第14版、森恵美、医学書院、ISBN9784260042253 系統看護学講座専門分野Ⅱ母性看護学2 母性看護学各論 第14版、森恵美、医学書院、ISBN9784260042253 病気がみえるvol.10産科 第4版、医療情報科学研究所編集、メディックメディア、ISBN97848496327137 根拠と事故防止からみた母性看護技術 第3版、石村由利子編、医学書院、ISBN9784260043243 NANDA-I看護診断 定義と分?2021-2023 原書第12版、T.ヘザー・ハードマン、上鶴重美他、医学書院、ISBN978-4-260-04628-2							
参考書および参考文献	その他、必要に応じて適宜紹介する							
受講条件	必修科目							
事前・事後学修(内容・時間)	実習は45時間をもって1単位とする。但し、実習開始にあたり不足する内容、また、実習後に補う内容については各自学修を行うこと。 ＜事前学修＞ 実習ガイダンスで提示した実習要項の事前学修の指示に従い学修し、実習初日に提出する ＜事後学修＞ 実習での学びと自己の課題をレポートにまとめる							
成績評価								
実習内容、実習記録、カンファレンスへの参加度を総合的に評価する								
評価項目	割合		評価基準					
実習内容、実習記録、カンファレンスへの参加度	100%		実習評価表に則り評価する					
授業の実施方法と授業計画	1. 実習期間 2週間 2. 実習施設 豊川市民病院、豊橋市民病院のいずれか1施設 3. 実習内容・方法 1) 学内オリエンテーション(初日) 2) 臨地実習 ・病棟オリエンテーション(初日) ・褥婦・新生児(あるいは妊婦・産婦)を受け持ち、看護過程を展開する ・日々、受け持ち対象者の看護計画に基づき看護を実践し、評価する。行動計画、看護過程展開、看護実践については、担当教員もしくは実習指導者から日々フィードバックする ・カンファレンスは原則毎日行い、1週目最終日に中間ケースカンファレンス、2週目最終日にケースカンファレンス、まとめを行う 3) 学内まとめ(実習最終日)として、記録提出、担当教員との面談による学修内容・評価のフィードバックを行う。							
ナンバリング	NRFM3010							

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード		986D0		
科目	986D 精神看護学原論			授業種別		週間授業		
担当教員	桂川 純子			単位数		1		
その他担当者								
授業概要	精神看護の対象となる人々のこころの健康に関する理論や歴史的背景、現代の社会病理に関する知識を修得し、誰もが精神の不調を経験する可能性がある中で、幅広い視座からこころの健康を捉える重要性を理解する。精神の不調や精神疾患・障害を持つ人々が尊厳をもって共生社会を生きることを支えるために、多様な価値観を理解し、倫理的・道徳的な視点をもった看護職の役割や、役割の拡大について学修する。 主に講義で実施するが、一部グループワークを取り入れ、展開する。 ※この科目は当該授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性			◎	○	△		△	
到達目標	1. こころの健康を説明できる。 2. こころの健康に関連する理論を説明できる。 3. ストレスマネジメントとその具体的な方法を説明できる。 4. 精神医療保健における関係法規について、歴史的背景を踏まえて説明できる。 5. こころの健康の保持増進や疾病の予防、リハビリにおける看護者の役割について説明できる。							
テキスト(教科書)	・岩崎弥生、渡邊博幸(編)(2021)新体系看護学全書 精神看護学①精神看護学概論／精神保健 第6版、メヂカルフレンド社 ISBN:978-4-8392-3389-1 ・岩崎弥生、渡邊博幸(編)(2021)新体系看護学全書 精神看護学②精神障害をもつ人の看護 第6版、メヂカルフレンド社 ISBN:978-4-8392-3364-8 ・岩崎弥生総監修(2023)精神看護学まとめノート:精神看護学概論／精神保健、精神障害をもつ人の看護、メヂカルフレンド社 ISBN:978-4-8392-1697-9							
参考書および参考文献	適宜紹介する							
受講条件	必修科目							
事前・事後学修(内容・時間)	第1回予習(30分) ・教科書①②の目次を精読し、どのような学習をするのか見通しを立てる。 第2～6、8回予習・復習(各回2～4時間) ・事前学修では、教科書の該当部分を通読し、わからない言葉を辞書、看護学辞書、官庁のHPなどで確認する。 ・事後学修では、授業資料を振り返り、教科書該当箇所を精読する。定義、概念、用語等については、ノートなどにまとめ、内容を理解して知識として定着させる。 ・まとめノートを活用してよい。 第7回(8時間) ・事前学修では、事前に課されたレポート課題に取り組む。 ・事後学修では、予習、グループワークで得た学びと、それに関連する文献等を活用し、学んだ内容を自分の言葉で論述しレポートを作成する。							
成績評価								
筆記試験、グループワークに関連したレポートで総合判断する								
評価項目	割合		評価基準					
定期試験	85%		論述を含む筆記試験により目標の達成度を確認する。					
グループワークとレポート	15%		事前レポート、グループワーク、事後レポートについて、 ・指示された課題が適切に表現されているか ・学んだ内容を踏まえて自分の考えを述べられているか ・適切な日本語表現を用いて論述されているか を確認する。 なお、グループワークに欠席した場合には、他の受講生等周囲の人々との意見交換を含めたレポート課題を別に課す。					
授業の実施方法と授業計画	※毎時のリアクションペーパー(Google Classroom経由Formsを使用するので通信機器を持参すること)に述べられた内容のうち特に学修に関連するものは、授業内やGoogle Classroomでコメントする。試験やレポートは、成績確定後、個別にコメントする。 第1回 こころの健康とは(講義)(桂川) 第2回 こころの健康を理解する理論(講義)(桂川) 第3回 家族・集団のこころの健康(講義)(桂川) 第4回 ストレスマネジメント(講義)(桂川) 第5回 こころの健康を支える制度と歴史(講義)(桂川) 第6回 こころの健康を支える看護の方法(講義)(桂川) 第7回 現代社会とこころの健康(グループワーク)(桂川、都築、藤田) 第8回 こころの健康を支える看護師の役割(講義)(桂川) 受講学生の習熟度により授業計画を変更することがある。							
ナンバリング	NRAM2003							

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	9.86E+02		
科目	986E 精神看護学方法論			授業種別	週間授業		
担当教員	桂川 純子			単位数	2		
その他担当者							
授業概要	精神の不調や精神疾患・障害により日常生活や人生をおくる上で支援が必要な人々に対して、発達段階、健康レベル、地域包括ケアを含む多様な場での予防、早期発見、診療の補助・治療、リカバリーの過程を支援する臨床判断と支援方法の専門的知識を学習する。その際、人々の主体性の尊重や、治療と人権擁護のバランス、多職種連携・協働の視点の重要性について理解を深める。 授業方法は、主に講義とする。 ※この科目は当該授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性	△		○	◎			△
到達目標	1. 精神疾患/精神障がいをもつ人に共通する治療と看護について説明できる。 2. 主な精神疾患/精神障がいをもつ人への看護について、尊厳を守り、セルフケアの視点を踏まえた具体的な方法を説明できる。 3. 精神医療保健における社会資源について、他職種協働の観点から説明できる。 4. わが国における精神看護の発展について説明できる。 5. 精神疾患/精神に障がいをもつ人へのセルフケアとリカバリーを踏まえた看護者の役割について説明できる。						
テキスト(教科書)	・岩崎弥生、渡邊博幸(編)(2021)新体系看護学全書 精神看護学①精神看護学概論/精神保健 第6版、メチカルフレンド社 ISBN: 978-4-8392-3389-1 ・岩崎弥生、渡邊博幸(編)(2021)新体系看護学全書 精神看護学②精神障害をもつ人の看護 第6版、メチカルフレンド社 ISBN: 978-4-8392-3364-8 ・岩崎弥生総監修(2023)精神看護学まとめノート:精神看護学概論/精神保健、精神障害をもつ人の看護、メチカルフレンド社 ISBN: 978-4-8392-1697-9						
参考書および参考文献	適宜紹介する						
受講条件	必修科目						
事前・事後学修(内容・時間)	各回予習(30分～1時間) ・疾患や治療については、「病態と治療Ⅵ(精神科)」の授業内容を基盤とするので、復習して記憶を想起させておくようにする。 第1回予習(30分) ・教科書①②の目次を精読し、どのような学習をするのか見通しを立てる。 第2～10、12～15回予習・復習(各回2～4時間) ・事前学修では、教科書の該当部分を通読し、わからない言葉や辞書、看護学辞書、官庁のHPなどで確認する。 ・事後学修では、授業資料を振り返り、教科書該当箇所を精読する。定義、概念、用語等については、ノートなどにまとめ、内容を理解して知識として定着させる。 ・まとめノートを活用してよい。 第11回(ゲストスピーカー講義)8時間 ・予習では、地域で生活する当事者の人々に関する指定ビデオを視聴して、内容を整理し、不明な用語や内容について調べ学習をする。 ・復習では、予習、ゲストスピーカー講義で得た学びと、それに関連する文献等を活用し、学んだ内容を自分の言葉で論述しレポートを作成する。						
成績評価	筆記試験、課題レポートを総合的に勘案して判断する。						
評価項目		割合	評価基準				
定期試験(中間評価を含む)		90%	論述を含む筆記試験により目標の達成度を確認する。				
レポート		10%	指示された課題が適切に表現されているか、学んだ内容を踏まえて適切な日本語表現を用いて自分の考えを述べられているか確認する。				
授業の実施方法と授業計画	※毎時のリアクションペーパー(Google Classroom経由Formsを使用するので通信機器を持参すること)に述べられた内容のうち特に学修に関連するものは、授業内やGoogle Classroomでコメントする。中間評価は授業内で解説する。希望者に個人指導を行う。定期試験やレポートは、成績確定後、個別にコメントする。 第1回 精神疾患・精神障がいをもつ人を支える医療の基本、ケアの原則(講義)(桂川) 第2回 ささまざまな精神症状への看護(講義)(桂川) 第3回 精神科医療における安全とリスク管理(講義)(桂川) 第4回 こころの健康への援助と「患者-看護師」関係の構築(講義)(桂川) 第5回 精神疾患・精神障がいをもつ人のセルフケアを支える看護(講義)(桂川) 第6回 急性期の精神症状で支援が必要な人への看護(講義)(桂川) 第7回 回復期の精神症状で支援が必要な人への看護(講義)(桂川) 第8回 精神看護学における看護援助の原則(中間評価)(講義)(桂川、都築、藤田) 第9回 解説、慢性期の精神症状(精神障害)で支援が必要な人への看護(講義)(桂川) 第10回 依存症により支援が必要な人への看護(講義)(桂川) 第11回 様々な精神疾患で支援が必要な人への看護(講義)(桂川) 第12回 精神疾患・精神障がいと共に地域で生きる(講義)(ゲストスピーカー、桂川、都築、藤田) 第13回 精神疾患・精神障がいをもつ人を支える地域医療保健福祉(講義)(桂川) 第14回 精神看護学の発展:リエゾン精神看護、司法精神看護(講義)(桂川) 第15回 リカバリーを踏まえた看護者の役割(講義)(桂川) 受講学生の習熟度により授業計画を変更することがある。						
ナンバリング	NRGM2006						

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード	98380		
科目	9838 精神看護学演習			授業種別	週間授業		
担当教員	桂川 純子			単位数	1		
その他担当者							
授業概要	精神看護学における具体的な看護実践の方法について、精神科での入院治療や地域包括ケアの視点から、一連の看護過程を通して対象者の特徴を踏まえた臨床判断と看護実践するための基礎的能力を修得する。この過程で、精神看護学における看護技術としての治療的コミュニケーション技法やリフレクション、心理・社会的両方の実態について学習する。 講義および個人ワーク、ペアワーク、グループワークにより展開する。 ※この科目は当該授業内容に関する精神看護学の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性	◎			○	○	△	△
到達目標	1. 看護の対象者との関係性構築やケアの基本となる看護技術を実践できる。 1)基本的コミュニケーション技法をロールプレイで実践し修得する。 2)治療的コミュニケーション技法を実践する場や方法について説明できる。 3)治療的コミュニケーション技法をロールプレイで実践できる。 4)精神症状のある人へのコミュニケーションの工夫について説明できる。 5)看護場面でのリハビリテーション療法の技法の意義と活用場面を説明できる。 6)グループの活用、チームメンバーとの協力が、人間関係や活動などにどのように影響するか述べられる。 2. プロセスレコードを用いてコミュニケーション場面における自己を洞察できる。 1)コミュニケーションの場面を振り返り、プロセスレコードを記述できる。 2)対人関係を構築する上でプロセスレコードを活用して自己を振り返ることの意義を説明できる。 3. 精神疾患、精神障害をもつ人へのセルフケアの視点を踏まえた看護過程を展開できる。 1)ケアに必要な情報からアセスメントできる。 2)セルフケア、リカバリーの視点から対象者の全体像を記述し、看護診断できる。 3)看護診断に基づき、具体的な看護計画を立案できる。						
テキスト(教科書)	・岩崎弥生、渡邉博幸(編)(2021)新体系看護学全書 精神看護学①精神看護学概論／精神保健 第6版,メチカルフレンド社 ISBN: 978-4-8392-3389-1 ・岩崎弥生、渡邉博幸(編)(2021)新体系看護学全書 精神看護学②精神障害をもつ人の看護 第6版,メチカルフレンド社 ISBN: 978-4-8392-3364-8 ・安俣亮明、武藤敦志(2010)コンコダンス:患者の気持ちに寄りよするためのスキル21,医学書院 ISBN 978-4-260-01078-8						
参考書および参考文献	・宮本真巳(2013):援助技法としてのプロセスレコード,精神看護出版,ISBN 978-4-9900907-7-7						
受講条件	必修科目(専門科目)						
事前・事後学修(内容・時間)	第1～15回 ・事前学修:これまで学んだ精神看護学領域の科目(病態と治療Ⅵ(精神)、精神看護学原論、精神看護学方法論)についてを十分復習する。(各回30分) ・事後学修:講義や演習を行う中で、理解不足、学修不足であると自覚した箇所について復習し、本科目の課題を達成できるように補充する。 第1～4, 8～11回(各回60分) ・事後学修:指示されたコミュニケーション、患者とのワークに関する課題に取り組む。 第5～7, 12～14回(各回60分) ・事後学修:指示された看護過程の展開に関する課題に取り組む。グループワークの際メンバーと協力できるように、個人個人が指定された課題に取り組む。プレゼンテーションの準備では、メンバーと協力して取り組む。 ・指定の期間に、看護過程に関する個人指導を1回以上受ける。 第15回(3時間) 全過程での学修状況について振り返り、まとめる。						
成績評価	筆記試験、課題レポート、グループワークへの貢献で総合判断する。						
評価項目	割合	評価基準					
課題レポート①	20%	授業内で学んだ方法で、プロセスレコードを作成できているか確認する。					
課題レポート②	20%	提示された事例についてセルフケアの視点を踏まえた看護過程を展開できているかどうか確認する。					
グループワークへの貢献	10%	グループワークによる成果およびメンバー間の相互評価により看護実践に必要なメンバーとの協働・協力を確認する。					
定期試験	50%	精神疾患・精神障害をもつ人の看護過程をセルフケアの視点で展開し、看護実践を行うために必要な知識を、主に選択・記述により確認する。					
授業の実施方法と授業計画	※毎時のリアクションペーパー (Google Classroom経由Formsを使用するのでの通信機器を持参すること)に述べられた内容のうち特に学習に関連するものは、授業内やGoogle Classroomでコメントする。課題レポートは、授業内で解説する。その他、個別に対応する。 第1回 精神看護学における看護実践の基本:人間関係の構築(講義、ワーク)(桂川、都築、藤田) 第2回 コンコダンス:基本的・治療的コミュニケーション技法、プロセスレコードの活用(講義、ワーク)(桂川、都築、藤田) 第3回 基本的コミュニケーション技法、コンコダンスのためのコミュニケーション技法(演習)(桂川、都築、藤田) 第4回 プロセスレコードを用いたコミュニケーションの振り返り(演習)(桂川、都築、藤田) 第5回 精神疾患・精神症状をもつ人へのセルフケアとリカバリーの視点をもちた看護の展開:発達的セルフケア領域、基本的条件付けのアセスメント(講義、ワーク)(桂川、都築、藤田) 第6回 精神疾患・精神症状をもつ人へのセルフケアとリカバリーの視点をもちた看護の展開:普遍的セルフケア領域のアセスメント(講義、ワーク)(桂川、都築、藤田) 第7回 精神疾患・精神症状をもつ人へのセルフケアとリカバリーの視点をもちた看護の展開:全体像の理解と看護診断(講義、ワーク)(桂川、都築、藤田) 第8回 リカバリーを支える看護の方法(講義)(桂川、都築、藤田) 第9回 精神疾患・障がいを持つ人への看護実践①:情報の整理と全体像の把握(講義、ワーク)(桂川、都築、藤田) 第10回 人間関係の構築:進展におけるプロセスレコードの活用方法(講義、ワーク)(桂川、都築、藤田) 第11回 精神疾患・障がいを持つ人への看護実践②:病状や個性性をふまえた看護計画の立案(演習、グループワーク)(桂川、都築、藤田) 第12回 精神疾患・障がいを持つ人への看護実践③:看護実践の評価(演習、グループワーク)(桂川、都築、藤田) 第13回 ターミネーション、SSTの実践、CBTの実践(講義、演習)(桂川、都築、藤田) 第14回 ストレスマネジメントの方法:モニタリング、リラクゼーション、マインドフルネス(講義、ワーク)(桂川、都築、藤田) 第15回 精神疾患・障害をもつ人への看護実践:まとめ(講義)(桂川、都築、藤田)						
	受講学生の習熟度により授業計画を変更することがある。						
ナンバリング	NRDM3004						

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期				授業コード		98680	
科目	9868 精神看護学実習				授業種別		実習	
担当教員	桂川 純子				単位数		2	
その他担当者								
授業概要	精神疾患・障害のために日常生活や対人関係に困難を抱えている対象者の生活の実際を知り、リカバリーの視点を踏まえたその人らしい日常生活を送るための支援、地域包括ケアを活用した社会参加に向けた働きかけなどの看護を実践する。 その過程で、リフレクションを踏まえた援助の人間関係の構築、多職種との協働を活用し、科学的根拠や倫理的・道徳的態度を基盤とした精神看護における臨床判断と看護実践に適用する能力を身に付ける。 ※ 授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	◎		○	○	○	△	△	
到達目標	1. 精神症状、精神疾患、精神障害をもつ人の困難やリカバリーの過程を理解することができる。 2. 精神疾患・障害をもつ人を支える環境を知り、どのような影響をもたらしているか理解することができる。 3. セルフケア、リカバリーの視点をふまえて受持ち患者に必要な看護を実施し、こころの健康と看護に関する理解を深めることができる。 4. 精神看護学領域において、看護専門職者としてふさわしい科学的根拠の活用、倫理的・道徳的態度を養うことができる。							
テキスト(教科書)	・岩崎弥生編 (2019) :新体系 看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論／精神保健 第5版, メヂカルフレンド社 ISBN: 978-4-8392-3363-1 ・岩崎弥生編 (2019) :新体系 看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護 第5版, メヂカルフレンド社 ISBN: 978-4-8392-3364-8 ・安保寛明、武藤教志 (2010) コンコダンス: 患者の気持ちに寄りそうためのスキル21, 医学書院 ISBN 978-4-260-01078-8 (他の授業で購入済)							
参考書および参考文献	実習前に実習参考資料を配布予定。その他適宜提示します。							
受講条件	必修科目							
事前・事後学修 (内容・時間)	1単位45時間の学習が必要であることを踏まえ、事前課題は、実習オリエンテーション時に連絡する、精神看護学に関連する定義、用語、方法論についてまとめ身に付けつつ、実習期間中に活用できるように資料として作成する。 実習中は、実習目標を達成するための自宅学習を実施する。 事後学修では、実習期間中に学んだ内容について、振り返り知識の定着を図る。							
成績評価								
ルーブリック評価表に基づいて、評価する。								
評価項目	割合		評価基準					
ルーブリック評価表	100%		ルーブリック評価表に基づき総合的に評価します。					
授業の実施方法と授業計画	※日々の学修状況に対しては、臨地実習時間、あるいは学内実習時間にコメントする。また、ルーブリック中間評価で、到達度について確認する。 実習期間 2週間 (学内実習あり) 実習場所 精神科病棟 実習方法 実習指導者のもとと原則1名の患者を受け持ち看護過程の展開を行う。 1病棟 2～4名 でグループを再編成する。 1週目 ・臨地オリエンテーションを通して精神科病院組織全体の理解を深める。 ・プロセスレコードを用い、看護師-患者関係の構築における対人相互作用について学びを深める。 ・受け持ち患者のアセスメントに基づき、看護診断を導き出す。 2週目 ・看護診断に基づき看護計画を立案し、看護計画の一部を実践し評価する。 ・自己洞察及び自己の傾向についての理解を深めるとともに、対人関係構築のプロセスに活かす。 ・社会資源や多職種連携の過程を体験し、リカバリーへの影響について考察する。 ・最終カンファレンスを通して学びを統合する。 カンファレンスは基本的に毎日実施する。 ・デイリーカンファレンス 【内容】一日の振り返りやテーマカンファレンス。実習に関する質問、相談。 【日時】毎日実習終了前 (30分) ・中間カンファレンス 【内容】受け持ち患者についての統合アセスメント、看護診断の発表。 【日時】実習1週目の金曜日 (60～90分) (予定) ・最終カンファレンス 【内容】看護実践の実際や介入後の評価について発表し、テーマに沿った話し合いから学びの統合を図る。 【日時】実習2週目の金曜日 (60～90分) (予定) ※フィードバックは、ルーブリック評価表を用いて個人面談で行う。							
ナンバリング	NRGM3008							

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード	974A0		
科目	974A 看護管理学			授業種別	週間授業		
担当教員	森田 恵美子			単位数	1		
その他担当者							
授業概要	看護管理学は、質の高いケアを提供するために、ケアの担い手である自分たちがどのようにあればより能力を発揮できるのか、人が仲間を作り組織で働くときにその効果を高めるにはどうしたら良いのか、リーダーシップとは何なのか、資源を有効に活用して成果を上げるにはどうすればよいか、看護がどうあれば社会をよりよくすることに結びつくのかなどを考える領域です。 この科目では、看護師として臨床での看護管理の実務経験のある教員が、人、グループ、組織、社会と看護の関係を模索し、ケアを支える看護管理の基本的な考え方を教授していきます。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性			○	○		◎	
到達目標	1) 看護管理とは、医療・看護の質とはどのようなものか理解し、その評価方法について説明できる。 2) 人と組織の関係を理解し、組織で働く上での個人の役割や自己の課題を考えることができる。 3) リーダーシップとマネジメント、モチベーションについて、身近な例を用いて説明ができる。 4) 専門職としてのキャリア開発のあり方について、自己の考察ができる。 5) 保健医療福祉制度の最近の動向と課題を知り、看護への影響を考察することができる。						
テキスト(教科書)	上泉和子：系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践〔1〕看護管理,医学書院,2020。ISBN:978-4-260-03182-0						
参考書および参考文献	講義ごとに提示する						
受講条件	必修科目						
事前・事後学修(内容・時間)	① 授業計画にある内容をテキスト(教科書)を参考にして各回の授業内容に応じた30分程度の予習をして講義に出席する。特に用語の定義などは事前学習しておく。 ② 授業後には、各回の授業内容に応じた学びを整理し30分程度の復習をしておく。 ③ 授業内で指示する内容については、事前に調べて授業に臨む。 ④ 筆記試験には、授業内容の復習を十分に行い臨む。 ※以上①②③④について、1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることを踏まえ、自己学修を行うこと。						
成績評価	授業の到達目標がどの程度達成できているか筆記試験、毎回の講義の振り返りシートで評価します。						
評価項目	割合		評価基準				
筆記試験	80%		筆記試験にて理解度を確認します				
講義振り返りシート	20%		振り返りシートの内容、授業理解度等				
	各回の最初に、前回の講義内容に関する理解度、質問などについてフィードバックする。						
授業の実施方法と授業計画	第1回(講義) オリエンテーション 看護管理と医療・看護の質評価 看護管理学とは、医療や看護の質とは何かを理解し、質評価の枠組み、看護の質を測定するための試みについて学ぶとともに、質向上に向けた現状と課題について考える。						
	第2回(講義) 看護管理と組織 前回の講義内容に関する理解度、質問などについてフィードバックする。看護ケアのマネジメントおよび組織とは何か、看護専門職の働く場(病院や保健所等)について、チーム医療や多職種連携とは何かについて学ぶ。						
	第3回(講義) 看護ケアのマネジメント 前回の講義内容に関する理解度、質問などについてフィードバックする。看護業務の実践、安全管理、情報の活用する方法について学ぶ。						
	第4回(講義) 看護職のキャリアマネジメント 前回の講義内容に関する理解度、質問などについてフィードバックする。看護職のキャリア形成、キャリアディベロプメント、タイムマネジメント、ストレスマネジメントについて学ぶ。						
	第5回(講義) 看護サービスのマネジメント 前回の講義内容に関する理解度、質問などについてフィードバックする。組織目標達成のマネジメント、看護サービス提供の仕組みづくり、労働環境について学ぶ。						
	第6回(講義) ケアの効果的・効率的提供を支える仕組み 前回の講義内容に関する理解度、質問などについてフィードバックする。人・物・情報などの効果的・効率的な活用について学ぶ。						
	第7回(講義) マネジメントに必要な知識・技術 前回の講義内容に関する理解度、質問などについてフィードバックする。組織マネジメント、人々や集団に働きかけるために必要なリーダーシップとマネジメント、組織の調整、動機付け・コンフリクトマネジメントをついて学ぶ。						
	第8回(講義) 看護を取り巻く諸制度 前回の講義内容に関する理解度、質問などについてフィードバックする。看護職と法制度、医療制度、看護政策の過程などについて学ぶ。						
ナンバリング	NRCM4016						

開講年度・開講学期	2025年度 春学期		授業コード		974B0		
科目	974B 看護教育学		授業種別		週間授業		
担当教員	藤井 徹也		単位数		1		
その他担当者							
授業概要	看護学教育全体を概観したうえで、教育の基本的な理論のもと、看護教育制度、教育課程の変遷と現在の課題を理解する。そのうえで、卒後教育、継続教育の現状、生涯学習の方法等の概括を理解し、看護の質を高めるために実践の場に教育がケアにも看護職の能力向上にも実際に活用されていることを知り、自らの進む方向に役立てる。 ※この科目は当該授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員等がその実務を活かして講義等を行う科目です。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性						◎	△
到達目標	1, 看護学教育、看護教育の本質と目的について述べることができる。 2, 看護教育制度、看護教育課程について変遷をふまえて理解し、変化する看護行政を視野に現状における課題について考察しまとめることが出来る。 3, 看護学教育に必要な教育内容、方法、評価の概括に述べることができる。 4, 継続教育、生涯教育の必要性とその在り方の概括について述べるができる。 5, 専門職における教育的な機能の意義と重要性について理解できる。						
テキスト(教科書)	グレッグ美鈴、池西悦子編集：看護教育学 改訂第3版, 南江堂 (ISBN 978-4-524-20424-3)						
参考書および参考文献	講義時に適宜示す						
受講条件	特になし						
事前・事後学修 (内容・時間)	①授業前には参考書の指定箇所を熟読する。②看護学原論等で学んだ看護教育制度の復習、各看護学で学んだ看護に必要な教育的な機能等の復習をしておく。また、自らが学んできて、現在に至っている教育課程を振り返ってみておくと、学修に効果的である。③授業後には授業での学びを整理しておく。④授業内で指示する内容については、事前に調べて授業に臨む。以上①②③④について、1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることを踏まえ、自己学修を行うこと。(第1回～8回講義の予習・復習で、各々30分程度)						
成績評価	筆記試験 (85%)、課題レポート (10%)、授業・討論の取り組み姿勢 (5%) について総合的に評価する。 なお、欠席、遅刻、早退や劣悪な受講態度は減点の対象とする。						
評価項目		割合	評価基準				
定期試験 (筆記試験)		85%	講義内容の理解度を確認する				
課題レポート		10%	課題について文献を用いて適切に分析、自分の考えがレポートに書かれているかの視点で評価する				
授業・討論の取り組み姿勢		5%	主体的学ぶ態度、自ら意見を理論的に適切な表現で伝えることができることを視点で評価する				
授業の実施方法と授業計画	第1回	看護教育学とは、看護学教育、本質と目的、教育の理論的根拠 (講義:藤井)					
	第2回	看護教育制度の変遷と現状① (講義:藤井)					
	第3回	看護教育課程の変遷と現状②、欧米による看護学教育 (講義:藤井)					
	第4回	看護教育の内容、方法 (講義:藤井)					
	第5回	看護教育の評価 (講義:藤井)					
	第6回	継続教育、生涯教育 (講義:藤井)					
	第7回	専門職における教育的機能の重要性 (講義:藤井)					
	第8回	看護学教育の現状における課題と今後の方向性 (講義:藤井)					
	*リアクションペーパーの回答は授業時間内で行う。課題 (定期試験やレポート等) のフィードバックは、授業内またはメール等でコメントする。						
ナンバリング	NRDM4007						

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード		98460		
科目	9846 看護学研究Ⅰ			授業種別		週間授業		
担当教員	大林 陽子			単位数		1		
その他担当者	笹木 りゆこ、山口 直己、小俣 由佳、西澤 和義、藤井 徹也、桂川 純子、小山 順子、井上 直子、豊島 由樹子、山本 義昭、原沢 優子、川合 茉莉、新井 志歩、斉本 美津子、三村 絵美、阪下 陽香、鈴木 知代、河合 洋子							
授業概要	看護における研究の意義、研究プロセス、具体的な研究デザイン、研究方法、研究倫理などの看護研究の基礎的知識を最新の研究動向を踏まえて基盤となる能力を養う。 また、関心のあるテーマについての文献検索、文献クリティーク、文献のまとめを実際に行う。 ※この科目は当該授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員がその実務経験を活かし講義等を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性				○		◎		
到達目標	1. 看護における研究の意義と課題について説明できる。 2. 看護研究における倫理的配慮について説明できる。 3. 研究プロセスの概観、研究デザインについて述べることができる。 4. 看護学分野における自らの研究課題を明確化し、その研究課題に関連する適切な文献を系統的に探索できる。 5. 自己の研究課題に関連する文献をクリティークし、文献内容をまとめることができる。 6. 看護研究に対する興味・関心・探求心をもち主体的に取り組むことができる。							
テキスト(教科書)	坂下玲子、宮芝智子、小野博史、系統看護学講座 別巻 看護研究 第2版、医学書院、ISBN9784260049955 前田樹海、江藤裕之、APAに学ぶ看護系論文執筆のルール 第2版、医学書院、ISBN9784260052900(購入済)							
参考書および参考文献	※随時、個別に指示する。							
受講条件	必修科目							
事前・事後学修(内容・時間)	①授業前にワークが提示される場合には、実施して授業に臨む(1～15回/30分程度) ②授業後には授業での学びを整理しておく(1～15回/30分程度) ③授業内で指示する内容については、授業後に調べて次の授業に臨む(1～15回/60分程度)							
成績評価								
原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価する。なお、遅刻、早退や他の人に迷惑をかけるような受講態度は減点の対象とする場合がある。								
評価項目		割合	評価基準					
課題レポート(第1～7回分)		30%	講義の理解度を評価する。					
文献検討まとめ		50%	評価表を用いて、課題に対して適切に論述されているかを評価する。					
演習・レポート作成への取り組み		20%	評価表を用いて、課題やレポート作成の取り組み内容を評価する。					
授業の実施方法と授業計画	第1回(講義)	看護における研究とは何か(河合)						
	第2回(講義)	研究倫理について(河合)						
	第3回(講義)	研究プロセスの概観(1)(河合)						
	第4回(講義)	研究プロセスの概観(2)(河合)						
	第5回(講義)	研究デザインと研究方法(河合)						
	第6回(講義・演習)	文献検索の実際(図書館司書)						
	第7回(講義)	看護研究のための文献クリティーク(河合)						
	※第8回以降は所属ゼミに分かれて履修する。							
	第8～15回(演習) 自己の研究課題の選定、文献検索、文献クリティーク、文献のまとめ(担当教員)							
	* 受講学生の学修状況により授業計画を変更することがある。 * リアクションペーパーの質疑内容については、授業内でフィードバックする。 * 課題レポートや文献まとめの内容については、授業内でフィードバックする。							
ナンバリング	NRBM3009							

開講年度・開講学期	2025年度 春学期～秋学期			授業コード	98470			
科目	9847 看護学研究Ⅱ			授業種別	春学期（週間授業）、秋学期（週間授業）			
担当教員	大林 陽子			単位数	1			
その他担当者	笹木 りゆこ、山口 直己、小俣 由佳、西澤 和義、藤井 徹也、桂川 純子、小山 順子、井上 直子、豊島 由樹子、山本 義昭、原沢 優子、川合 茉莉、新井 志歩、斉本 美津子、三村 絵美、阪下 陽香、鈴木 知代、河合 洋子							
授業概要	看護学研究Ⅰで学んだ研究の基礎的知識および自己の研究課題に関する文献検討のまとめをもとに、最新の研究動向を踏まえ、自己の研究課題を明確にして研究計画書を作成する。 研究計画書の作成を通して、看護研究に必要な基礎的能力を養うとともに、看護における研究の意義を理解し、専門職者として生涯にわたり継続して研鑽し、専門性を発展させる基本的態度を培う。 ※この科目は当該授業内容に関する看護の実務経験を有する教員がその実務経験を活かし講義等を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性				○		◎		
到達目標	1. 自己の研究課題を明確化にし、文献検討することができる。 2. 自己の研究課題について、目的、意義、対象、研究方法、倫理的配慮を明確にし、研究計画書を作成することができる。 3. 研究計画について発表し、質疑応答することができる。 4. 看護研究に対する興味・関心・探求心をもち主体的に取り組むことができる。							
テキスト（教科書）	坂下玲子、宮芝智子、小野博史：系統看護学講座 別巻 看護研究 第2版、医学書院、ISBN9784260021821（3年次購入済） 前田樹海、江藤裕之：APAに学ぶ看護系論文執筆のルール 第2版、医学書院、ISBN9784260052900（3年次購入済）							
参考書および参考文献	ゼミにて随時、個別に指示する。							
受講条件	必修科目							
事前・事後学修（内容・時間）	①授業前にはテキスト等の該当箇所を熟読し、提示された内容については事前に調べて授業に臨む（第1～13回/30分程度）。 ②授業後には学びを整理し、レポートの作成を進める（1～13回/60分程度）。 ③計画発表会に向けて準備を行う（14・15回/60分程度）。							
成績評価								
課題レポート（研究計画書）、発表、研究への取り組み態度で総合的に評価する								
評価項目	割合		評価基準					
課題レポート（研究計画書）	60%		評価表に基づき、研究計画書が適切な内容・記述になっているかを評価する。					
発表	15%		評価表に基づき、発表時の状況、発表用の資料等について評価する。					
授業への取り組み	25%		評価表に基づき、研究への取り組み姿勢などについて評価する。					
授業の実施方法と授業計画	第1～13回：（講義・演習）各自の研究テーマに沿った研究計画書の作成（担当教員） 第14・15回：研究計画の発表（合同）							
	* 受講学生の学修状況により授業計画を変更することがある。 * 課題レポート、発表の内容については、授業内でフィードバックする。							
ナンバリング	NRDM4008							

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード		97450		
科目	9745 家族看護学			授業種別		週間授業		
担当教員	蒔田 寛子			単位数		1		
その他担当者								
授業概要	社会の変化とともに、世帯構造は変化し、家族のありようもさまざまで個性は大きい。看護の対象は病んでいるその人だけではなく、影響を及ぼしあっている家族も看護の対象と捉える必要性から、家族看護学は発展し、注目されてきた。本科目では、家族看護学発展の歴史的背景をふまえ、家族の機能、援助の方法、および家族を一つの単位として、アセスメントし援助する必要性を学修する。※この科目は当該授業内容に関する看護の実務経験を有する教員がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。家族看護の事例検討は教員の研究的取り組みを踏まえ教授します。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性			◎	○	△		△	
到達目標	家族看護学発展の歴史とその必要性をふまえ、家族を包括的に理解し援助する基本的姿勢を身につけることができる。具体的には以下の内容である。 1. 家族を包括的に捉え、支援する必要性を説明できる。 2. 家族の複雑さと個性性をふまえ、高い倫理性を備え関わろうとする姿勢を獲得できる。 3. 家族支援における多職種との連携の必要性について、職種の特徴もふまえ説明できる。 4. 社会の変化をふまえ、家族看護学についても発展的に考え述べることができる。							
テキスト(教科書)	家族看護学―理論と実践― 第5版、鈴木和子・渡辺裕子・佐藤律子、日本看護協会出版会、ISBN 978-4-8180-2208-9							
参考書および参考文献	その都度紹介する。							
受講条件	履修条件を付けない							
事前・事後学修(内容・時間)	①事前に講義テーマに該当するテキストの内容を熟読する(1～5回/30分程度)。 ②講義で学んだ内容は配布資料、テキストを見直し整理しておく(毎回/60分程度)。 ③授業内で指示する内容について事前に調べて授業に参加すること(5回/60分程度)。 ④グループで協力しプレゼンテーションの準備をすること(6～8回/120分程度) 以上の①②③④について、1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることをふまえ、自己学修を行うこと。							
成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価します。筆記試験とプレゼンテーションの合計で再試験の判定をします。なお、遅刻、早退や劣悪な受講態度は減点の対象とする場合があります。							
評価項目		割合	評価基準					
定期試験		70%	本科目で学修した内容が理解できているか筆記試験で確認する。					
プレゼンテーション		30%	家族看護学に関する研究のグループ発表について、スライドと発表のわかりやすさ、質問への対応等で評価する。					
授業の実施方法と授業計画	第1回 授業ガイダンス 家族看護学発展の歴史 文化的背景と家族のありよう(講義) 第2回 家族の定義 家族の成長と発達 家族を理解するための諸理論(講義) 第3回 家族看護に関する研究 プレゼンテーション準備(演習:グループワーク) 第4回 家族アセスメントモデルの紹介 家族看護の事例検討 渡辺式家族アセスメント/支援モデルを使い事例を整理(講義・演習) 第5回 家族看護の事例検討(講義・演習) 渡辺式家族アセスメント/支援モデルを使い事例を整理 まとめ 第6回 家族看護に関する研究 グループ発表①(演習:学生によるプレゼンテーション) 第7回 家族看護に関する研究 グループ発表②(演習:学生によるプレゼンテーション) 第8回 家族看護に関する研究 グループ発表③(演習:学生によるプレゼンテーション) 家族看護における看護者の役割と援助姿勢(講義) *筆記試験とプレゼンテーションの合計100点とし再試験の判定をします。 *学生によるプレゼンテーション内容については、適宜コメントします。 *定期試験の疑問点について適宜フィードバックを行う。 *ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもあります。							
ナンバリング	NRBM3010							

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード	97470		
科目	9747 災害看護学			授業種別	週間授業		
担当教員	笹木 りゆこ			単位数	1		
その他担当者	倉島 正成						
授業概要	災害が人々の健康と生活に及ぼす影響と国内外の災害に関する社会のしくみ、対応システムなどを概観し、災害各期における人々の健康や生活ニーズ、被災者の特徴に合わせた看護について最新の知見を踏まえながら学ぶ。 また、演習を通して災害時に必要とされる基礎的な看護技術を修得する。 ※この科目は当該授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員がその実務経験を活かし講義等を行う科目である。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性						△	◎
到達目標	1. 災害の定義、災害の種類、災害サイクル、国内外の災害に関する社会のしくみと対応システム、倫理原則について述べることができる。 2. 災害が人々の健康に及ぼす影響と必要な看護ケアについて述べることができる。 3. 災害各期の被災者のニーズと看護師の役割や実践活動について述べることができる。 4. 災害時に必要な看護技術について理解し、対象者を尊重した態度で実施できる。 5. 国や地域、病院における防災・減災活動について述べることができる。 6. 災害時の国際支援システム、看護活動について述べることができる。						
テキスト（教科書）	酒井明子、菊池志津子：災害看護（第4版）.南江堂 .ISBN：978-4-524-23165-2						
参考書および参考文献	必要に応じて紹介する。						
受講条件	履修条件を付けない。						
事前・事後学修（内容・時間）	①授業前には教科書の指定箇所を熟読する。（毎回45分程度） ②授業後には、授業での学びを整理しておく。（毎回60分程度） ③授業内で指示する内容については、事前に調べて授業に臨む。（毎回45分程度） ※以上①②③について、1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることを踏まえ、自己学修を行うこと。						
成績評価	原則として毎回出席すること。 授業終了時の定期試験（筆記）にて理解度を確認します。 欠席、遅刻、早退や劣悪な受講態度は減点の対象とします。						
評価項目		割合	評価基準				
定期試験（筆記）		95%	筆記試験にて理解度を確認する。				
学修の取り組み姿勢		5%	講義・演習の取り組みや演習の参加姿勢で確認し、評価する。				
授業の実施方法と授業計画	第1回 第2回 第3、4回 （カール、笹木） 第5回 （木） 第6回 第7回 第8回	災害看護学概要 災害時特有の疾病・医療・看護実践 災害各期の特徴的な健康問題と看護の役割① 災害時に必要な技術① トリアージ 災害時に必要な技術② 災害時の応急処置、搬送 災害各期の特徴的な健康問題と看護の役割② 災害時に配慮を必要とする人への看護 防災・減災マネジメント、災害時の国際支援システムと看護活動	〈講義〉（笹木） 〈講義〉（笹木） 〈講義・演習〉（ゲストスピーカー、笹木） 〈演習〉（ゲストスピーカー、笹木） 〈講義〉（笹木） 〈講義〉（笹木） 〈講義〉（笹木）				
		*授業計画は、授業進行状況により変更の可能性がある *リアクションペーパーの質疑内容、筆記試験については、全体にフィードバックを行う。					
ナンバリング	NRAM4008						

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード		97460		
科目	9746 国際看護学			授業種別		週間授業		
担当教員	内木 美恵			単位数		1		
その他担当者								
授業概要	国際社会における保健衛生の動向および健康問題と対策、加えて、気候変動、貧困、災害など人道的危機等における国際的な支援や協力の基礎知識を学び、人々の健康と幸福に対する看護師の果たすべき役割を理解する。その上で、グローバルヘルスを担う一員である看護師として、何ができるのか検討することを目的とする。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性							◎	
到達目標	・国際的な保健衛生の動向および健康問題と対策を説明できる。 ・国際保健学の歴史的変遷に関する概況を説明できる。 ・気候変動、貧困、災害など人道的危機等における健康への影響を説明できる。 ・貧困、災害など人道的危機等による国際的な支援と看護師の活動を説明できる。							
テキスト（教科書）	看護の統合と実践 [3] 災害看護学・国際看護学 第5版. 医学書院 2024							
参考書および参考文献	「世界子供白書 2023 ユニセフ年次報告2023 すべての子どもに予防接種を」、公益財団法人 日本ユニセフ協会：日本ユニセフ協会：(2023年9月) 「国連開発計画UNDP年次報告書2021」、国連開発計画：UNDP：(2022) 「世界人口基金白書2023 80億人の命、無限の可能性：権利と選択の実現に向けて」、UNFPA：UNFPA：(2023年4月19日) 「世界人口基金白書2020 自分の意に反して：女性や少女を傷つけ平等を奪う有害な慣習に立ち向かう」、UNFPA：UNFPA：(2020)							
受講条件	履修条件を付けない							
事前・事後学修（内容・時間）	①事前：毎回のテーマについて、教科書を活用しながら調べ、内容をA4用紙1枚程度にまとめる。（30分/回程度） ②事後：授業資料と教科書を見直し、学んだことを確認し、整理する。（30分/回程度） ※以上①②について、1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることを踏まえ、自己学修を行うこと。							
成績評価	授業中の質疑応答、ディスカッションを重視します。積極的な発言を期待します。							
評価項目	割合		評価基準					
授業への取り組み	40%		質疑応答への対応、リフレクションペーパーへの記述					
定期試験	60%		筆記試験で理解度を確認する（基礎問題70%程度、応用問題30%程度）					
授業の実施方法と授業計画	<授業の進め方> ・講義、ディスカッションなどで学びを深める。 ・毎回リフレクションペーパーを記入し、提出する。学んだことを記述する中での質問や疑問点も記入すること。質問、疑問点は次の講義で説明する。 ・3回程度、過去の国家試験問題を振り返り、学びを整理していく。 <授業内容> 第1回：講義 国際活動の実際を知る （発展の途上にある国で健康の問題に苦しむ人々、災害、紛争の被災者への看護活動の実際について映像を交え講義する。） 第2回：講義 途上国での保健、衛生に関する理念、動向を知る （プライマリ・ヘルス・ケア、ヘルスプロモーション、リプロダクティブヘルス・ライツ、持続可能な開発目標SDGsなどにつづける理解を深める） 第3回：講義 国際機関、国際協力、国際緊急救援に関連組織を知る 第4回：講義 文化を考慮した看護を考える （レイニンガーの理論を用いた看護を検討する） 第5回：講義 発展の途上にある国の健康の問題を考える 1) 健康であるための生活環境の整備（水と衛生、栄養など） 第6回：講義 発展の途上にある国の健康の問題を考える 2) 疾患等（感染症、母子保健、小児保健）の理解と看護 第7回：講義 世界の災害発生状況 第8回：講義 途上国の災害時と健康の展開について考える （健康を危機的な状態になる自然災害、紛争など）							
ナンバリング	NRBM4015							

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	97490		
科目	9749 医療・看護の最前線			授業種別	週間授業		
担当教員	蒔田 寛子			単位数	1		
その他担当者	藤井 徹也、小山 順子、大林 陽子						
授業概要	日進月歩の医療において、安全で安心な質の高い医療・看護が求められている。本科目では、現代の医療・看護における現状と課題を理解し、最適な医療・看護のあり方、および対象者にとっての最適な看護のあり方をオムニバス方式で学修する。※この科目は当該授業内容に関する看護の実務経験を有する教員が、その実務経験を活かして講義等を行う科目です。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性						◎	
到達目標	現代の医療・介護の現状と課題について関心を持ち、創造的に課題解決に向け対策を考え説明できる。具体的には以下の内容である。 1. 看護が提供される様々な場で注目されている内容について学び説明することができる。 2. 看護が提供される様々な場で注目されている内容に関する課題解決について考え説明できる。 3. 医療・介護の最新の情報に関心を頂き、考えたことを説明できる。						
テキスト(教科書)	特に指定しない						
参考書および参考文献	その都度紹介する						
受講条件	履修条件をつけない						
事前・事後学修(内容・時間)	①毎授業後には、授業で得た学びについて、配布資料、参考図書などを使い整理しておくこと(毎回/60分程度) ②授業で指示した内容については事前に調べて授業に参加すること(毎回/60分程度) ③課題レポート作成(120分程度) 以上、①②③について、1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることをふまえ、自己学修を行うこと。						
成績評価							
原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかを筆記試験と課題レポートの合計で評価します。なお、劣悪な受講態度は減点の対象となることがあります。							
評価項目		割合	評価基準				
定期試験		70%	本科目で学修した内容が理解できているか筆記試験で確認する。				
課題レポート		30%	指定された課題について、講義で学んだ内容をふまえ一貫性がありわかりやすいか、文章表現が適切であるか等で評価する。				
授業の実施方法と授業計画	第1回 授業ガイダンス 特定行為研修制度修了等専門性が高い看護師の活躍と在宅看護における看護師の自律性の高まり(講義:蒔田) 第2回 在宅ケアにおける災害支援(講義:今福) 第3回 高齢認知症患者に対するケアの最前線(講義:原沢) 第4回 公衆衛生看護における母子保健の最前線(講義:鈴木) 第5回 一歩先のこころの健康への取り組み(講義:桂川) 第6回 小児医療・看護の場におけるICTの利活用(講義:河合) 第7回 看護技術の刷新と安全・安楽(講義:藤井) 第8回 移植と再生医療(講義:豊島) ※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもあります。 ※授業内容の順序は変更することもあります。 ※レポート等提出物は適宜コメントし返却します。 ※定期試験の疑問点について適宜フィードバックを行う。						
ナンバリング	NRFM4001						

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード		97830																		
科目	9783 統合実習			授業種別		実習																		
担当教員	豊島 由樹子			単位数		2																		
その他担当者	笹木 りゆこ、山口 直己、小俣 由佳、藤井 徹也、桂川 純子、小山 順子、井上 直子、大林 陽子、高野 純平、山本 義昭、原沢 優子、川合 茉莉、新井 志歩、今福 恵子、斉本 美津子、三村 絵美、阪下 陽香、鈴木 知代、河合 洋子、渡邊 富士子																							
授業概要	4年次春学期までに修得した看護学の講義・演習・実習の学修を統合し、対象者それぞれの特徴に応じた看護実践能力を養うことを目的とする。ここでの看護実践能力とは看護の対象となる人を尊重し権利を擁護する倫理的姿勢を基盤として、対象者のニーズを的確に判断し、適切な看護援助をエビデンスに基づいて提供できる能力、チームの一員として社会性、協調性、安全性をふまえて行動できる能力を指す。また看護実践能力の向上にむけて、学生が自己の課題を明確にし、課題達成に主体的に取り組むことも目指す。 ※この科目は当該授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かし講義等を行う科目である。																							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7																	
ディプロマポリシーとの関連性	◎		○	○	○	○	○																	
到達目標	1. 自己の課題を明らかにし、その課題達成に向け、主体的に取り組むことができる。 2. 対象者を尊重し、人権を擁護する倫理的姿勢を基盤として行動できる。 3. 対象者のニーズを的確に判断し、エビデンスに基づいて適切に看護援助を提供できる。 4. 保健・医療・福祉チームの一員として社会性、協調性、安全性をふまえて行動できる。																							
テキスト(教科書)	各領域で指示されたもの																							
参考書および参考文献	各領域で指示されたもの																							
受講条件	必修科目																							
事前・事後学修(内容・時間)	実習は45時間をもって1単位とする。但し、実習開始にあたり不足する内容、また、実習後に補う内容については各自学修を行うこと。 事前課題については、各領域ごとのオリエンテーションで指示された内容や自己の課題に対して主体的に学修する。 実習後は、理解が不十分であった内容について、国家試験に向けて各自復習を行う。																							
成績評価	到達目標が達成できているかを、事前課題、実習記録、看護実践、課題レポート等について、ルーブリック評価表に基づいて評価する。																							
評価項目		割合	評価基準																					
実習内容、実習記録、発表、課題レポート、カンファレンスへの参加度等		100%	ルーブリック評価表に基づいて評価する。																					
授業の実施方法と授業計画	[実習方法] 1. 実習期間：2025年7月 ※実習施設により変更あり 2. 実習施設 <table><tr><td>豊橋医療センター</td><td><基礎看護学></td></tr><tr><td>豊川市民病院</td><td><成熟期看護学(急性)(慢性)></td></tr><tr><td>豊橋市民病院</td><td><小児看護学、母性看護学></td></tr><tr><td>浜松市リハビリテーション病院</td><td><成熟期看護学(慢性)></td></tr><tr><td>可知記念病院</td><td><精神看護学></td></tr><tr><td>老人保健施設 明陽苑</td><td><成熟期看護学(老年)></td></tr><tr><td>訪問看護ステーション</td><td><在宅看護学></td></tr><tr><td>地域包括支援センター</td><td><公衆衛生看護学></td></tr></table> 3. 実習までの予定 3月に統合実習ガイダンスを行い、学生の希望調査を実施し、実習配置を決定する。その後、各領域のオリエンテーションを行い、事前課題などに取り組み臨地実習に臨む。 ※事前課題および実習記録については、教員または実習指導者が適宜内容を確認し、フィードバックを行う。								豊橋医療センター	<基礎看護学>	豊川市民病院	<成熟期看護学(急性)(慢性)>	豊橋市民病院	<小児看護学、母性看護学>	浜松市リハビリテーション病院	<成熟期看護学(慢性)>	可知記念病院	<精神看護学>	老人保健施設 明陽苑	<成熟期看護学(老年)>	訪問看護ステーション	<在宅看護学>	地域包括支援センター	<公衆衛生看護学>
豊橋医療センター	<基礎看護学>																							
豊川市民病院	<成熟期看護学(急性)(慢性)>																							
豊橋市民病院	<小児看護学、母性看護学>																							
浜松市リハビリテーション病院	<成熟期看護学(慢性)>																							
可知記念病院	<精神看護学>																							
老人保健施設 明陽苑	<成熟期看護学(老年)>																							
訪問看護ステーション	<在宅看護学>																							
地域包括支援センター	<公衆衛生看護学>																							
ナンバリング	NRBM4016																							

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード	96220			
科目	9622 疫学			授業種別	週間授業			
担当教員	齋藤 寛史			単位数	2			
その他担当者								
授業概要	疫学の概念や疫学調査方法、曝露効果の指標などの基本的な統計手法を学ぶ。また、疫学は個人ではなく集団の健康問題を取り上げることから、国内外における保健水準や健康に及ぼす要因の分析手法を学ぶ。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性		○		○				
到達目標	統計学や疫学で利用される基本的な統計手法を理解し、保健師活動の現場で実践できること。							
テキスト(教科書)	はじめて学ぶやさしい疫学(改定第4版) 日本疫学会監修 南江堂 ISBN:978-4-524-20448-9							
参考書および参考文献	1. 基礎から学ぶ楽しい疫学(第4版) 中村好一 医学書院 ISBN:978-4-260-01669-8 2. 疫学の事典 三浦克之、玉腰暁子、尾島俊之(編集) 朝倉書店 ISBN:978-4-254-31097-9 3. 演習問題で学ぶ疫学 横山徹聖 南山堂 ISBN:978-4-525-18531-2 図書館にはこの他にも、多数の参考書が備えられている。							
受講条件	保健師選択コースの学生 医学統計学の初等的知識を理解しておくこと。							
事前・事後学修(内容・時間)	疫学は、個人を対象とする診断学、治療学とは異なり、集団を対象とする研究の論理や基礎を取り上げるので、教科書をあらかじめ読んで、概略をつかんでおくこと。 また、基礎的な統計学を使っているので、初等統計学を理解しておくこと。							
成績評価	保健師活動の現場で実践できること。 国家試験に準拠した定期試験で評価する。							
評価項目		割合	評価基準					
定期試験		90%	筆記試験にて理解度を確認する。					
小テスト		10%	講義内容の理解度を確認する。					
授業の実施方法と授業計画	第1回(講義)疫学とはなにか、疫学を理解するための基本 第2回(講義)疫学で用いられる指標 第3回(講義)疫学研究デザイン① 第4回(講義)疫学研究デザイン②、システムティックレビュー 第5回(講義)バイアスと交絡、スクリーニング、情報収集方法、情報処理 第6回(講義)疫学で用いられる統計学的方法とその解釈 第7回(講義)生命表・平均寿命、保健統計調査、診療関連データベース 第8回(講義)疫学研究と倫理、領域別の疫学① 第9回(講義)領域別の疫学② 第10回(演習)疫学演習①、質疑応答 第11回(演習)疫学演習②、質疑応答 第12回(演習)疫学演習③、質疑応答 第13回(演習)疫学演習④、質疑応答 第14回(演習)疫学演習⑤、質疑応答 第15回(演習)疫学演習⑥、質疑応答 小テストのフィードバックは講義内で行う。 ※習熟度により、講義計画を変更することがある。							
ナンバリング	NRCM3011							

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード	96230		
科目	9623 学校保健学			授業種別	週間授業		
担当教員	津田 聡子			単位数	1		
その他担当者							
授業概要	学校保健の果たす役割と今日の健康課題について理解を深め、学校保健安全に関する知識・技術・態度を習得することを通して、実践力の基礎を養う。学校保健安全法が示す学校における児童生徒等の健康と安全を図るための学校教育や学校保健活動について学び、健全な成長を続けるために必要な事柄を、自己教育の観点を交えて検討していく。 ※この科目は、当該授業内容に関する看護の実務経験を有する教員がその実務経験を活かし講義を行う科目である。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性			◎	○			
到達目標	学校は地域社会の中に存在しており、義務教育時代の重要な教育の場であり、子どもの生きる力を育てる役割を担っていることを理解する。 学校教育における学校保健の役割と重要性を学ぶとともに、子どもの心身の成長には、養護教諭をはじめ、教諭等多くの職種の人たちが関わっていることを理解する。 学校保健は「学校における保健教育と保健管理をいう」と法に示されており、子ども時代の心身の健康づくりに重要な役割を果たす領域であることを学ぶとともに、学校現場では、深刻、複雑化していくばかりの子どもの現代的な心身の健康課題に対して、保健教育、保健管理はどのような役割を担っているのか。また教育現場では、保健教育・保健管理が具体的にどのようなようになされ、子どもの生きる力を養うことに関わっているのかについて、理解し、説明できる。 同時に、より良い人間関係の在り方や自己肯定感を高める取り組みを通じて、学生自身が、自他のいのちの大切さを実感し、今までの自分を振り返り、これからの生き方を考えていくことができる。						
テキスト（教科書）	書名： 新版 学校保健 チームとしての学校で取り組むヘルスプロモーション 著者名：徳山美智子 竹鼻ゆかり他 編 出版社：東山書房 ISBN:978-4-8278-1570-2						
参考書および参考文献	書名： 学校保健実務必携						
受講条件	保健師選択コースの学生						
事前・事後学修（内容・時間）	事前学修：講義計画にそって予習すること（60分）。また子どもに関する新聞記事を購読すること。 事後学修：授業内容を振り返り、学んだ内容や意見をまとめる（60分）						
成績評価							
筆記試験及び授業内のワークシートで評価する							
評価項目	割合		評価基準				
定期試験	80%		筆記試験で理解度を確認する				
授業内のワークシート	20%		授業内容が理解できたか				
授業の実施方法と授業計画	全ての回で、講義・演習を行う。 ①オリエンテーション 学校保健の目的・役割と変遷：教育基本法、学校教育法、学校保健安全法、文部科学省設置法など ②学校保健の構成職種とチーム学校保健：保健教育・保健管理・組織活動（学校保健委員会） ③学校保健計画・学校安全計画について：学校保健計画・学校安全計画、保健室経営計画 ④発達段階に基づいた健康把握・評価と今日の健康課題：現代的な心身の健康課題に対する指導の取り組みについて ⑤健康診断・健康観察：健康診断・健康観察の目的と方法 ⑥健康相談の進め方、児童生徒の心身の健康問題とその対応 ⑦保健管理：安全で健康的な学校づくり（環境衛生・危機管理） ⑧保健教育：指導案の作成と指導方法の工夫について 養護教諭の役割と個別指導 講義毎のワークシートに記載された意見や質問への回答は、翌週の講義内でフィードバックを行う。						
ナンバリング	NRDM3005						

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード		96240		
科目	9624 産業保健学			授業種別		週間授業		
担当教員	塚田 月美			単位数		1		
その他担当者	古井 景							
授業概要	産業保健の理念、目的と現状、労働安全衛生管理の制度とシステム、基本となる法律等について学ぶ。また、産業の場における健康危機管理、産業保健活動の展開方法及び看護職の役割について学ぶ。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性			○	○			△	
到達目標	1. 産業保健の動向、目的、役割、機能と現状を説明できる。 2. 労働安全衛生管理の制度とシステムについて説明できる。 3. 産業保健の場における健康課題について職場環境の特性と関連づけて理解し、必要な健康支援について考えることができる。 4. 産業保健における専門職として、関係機関等との望ましい連携のあり方について考えることができる。							
テキスト(教科書)	産業保健ハンドブック 改訂22版(産業保健ハンドブックシリーズ) 森 晃爾(編集) 労働調査会(2024/8/22) ISBN-10?:4867880485,ISBN-13:978-4867880487							
参考書および参考文献	必要に応じて紹介する。							
受講条件	保健師選択コースの学生であること							
事前・事後学修(内容・時間)	1. 事前に、講義テーマに該当するテキストの内容を熟読する。 2. 講義で学んだ内容は、テキスト等を見直し整理しておく。 3. 厚生労働省「職場における労働衛生対策サイト」,https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/roudoukijun/anken/anzeneisei02.html}のリーフレット等を参考にし、テキスト内容を理解しておく。 4. 産業保健に関連する法令改正が続いています。厚生労働省ホームページを閲覧し、最新の情報を予習し、授業に臨み、復習をすること(2時間相当)。							
成績評価								
原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価します。なお、遅刻、早退、欠席や劣悪な学習態度は減点の対象とする場合もあります。								
評価項目	割合		評価基準					
定期試験	20%		筆記試験にて理解度を確認します。					
講義中の質疑応答等の状況	10%		質疑等、講義への取り組み、理解の状況を確認します。					
課題レポート	70%		課題に対する適切な内容・記述になっているのかを評価する。					
授業の実施方法と授業計画	1回(講義)産業保健の動向 産業保健の目的や歴史、変遷やその対象について学ぶ							
	2回(講義)産業保健の制度とシステム 関係する様々な法律を理解し、それらに基づく体制や活動について学ぶ							
	3回(講義)産業保健における健康課題①(労働安全対策と関係法規) 現在展開されている労働安全対策と近年の健康に関する課題に関連する法律について学ぶ							
	4回(講義)産業保健における健康課題②(職業性疾病について) 一定の職業に従事することでおこる疾病について理解し、その管理対応等について学ぶ							
	5回(講義)産業保健における健康課題③(メンタルヘルス対策) 産業保健分野で特に喫緊の課題となっているメンタルヘルス対策について、その管理対応等について学ぶ							
授業の実施方法と授業計画	6回(講義)産業保健の展開 産業保健職が関わる3管理(5管理)の実践について学ぶ							
	7回(講義)産業保健における産業看護活動①(産業保健情報の把握と活用) 産業看護活動を効果的かつ効率的に進めるために、情報を的確に把握し、看護支援計画、実施、評価に活用、展開することの重要性について学ぶ							
	8回(講義)産業保健における産業看護活動②(各種健診・活動とその事後支援) 産業保健の場で特に専門職としてその専門性を発揮する各種健診等の活動について学ぶ							
	習得度等を鑑みて、産業保健活動のテーマを設定し、授業中に課題を提示します。							
	※第2回～4回は集中講義(古井担当)です。							
授業の実施方法と授業計画	*授業形態はすべて講義となります。レポートは採点后速やかに返却するとともに、講義内で解説を行います。ただし、受講学生の習熟度等により授業計画を変更する事もあります。							
ナンバリング	NRAM3006							

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード		978A0		
科目	978A 公衆衛生看護学原論			授業種別		週間授業		
担当教員	鈴木 知代			単位数		2		
その他担当者	蒔田 寛子、藤井 徹也							
授業概要	公衆衛生看護は、地域で生活するあらゆる人々の健康を看護の立場から保持・増進し、疾病を予防することを目指し、個人・家族、集団、組織、地域を対象に意図的・組織的な活動を展開する。実際には、対象者の健康課題の構造を明らかにすること、また、地域の健康ニーズの的確な把握を行うこと、そして、対象者の主体性にはたらかけることが不可欠となる。そのための公衆衛生看護の理念や活動の方法、展開の基本を学ぶ。 ※この科目は、当該授業内容に関する看護の実務経験を有する教員がその実務経験を活かし講義を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性			◎	○				
到達目標	1. 公衆衛生看護の理念、概念について述べることができる。 2. 公衆衛生看護活動に必要な法律について述べることができる。 3. 公衆衛生看護活動の対象と対象に応じた活動について述べることができる。 4. 公衆衛生看護活動の展開方法について述べることができる。 5. 公衆衛生看護活動の様々な場と活動について述べることができる。							
テキスト(教科書)	標美奈子他:標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論,医学書院,ISBN978-4-260-04707-4							
参考書および参考文献	講義時に適宜示す。							
受講条件	保健師選択コースの学生							
事前・事後学修(内容・時間)	①授業内で提示する内容について事前に調べて授業に参加すること(第1～15回/60分程度)。 ②授業後には、深める内容について提示するため、それについてまとめること(第1～15回/60分程度)。							
成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価する。定期試験(筆記試験)、課題レポートで総合的に評価する。なお、遅刻、早退や他の学生に迷惑になる授業態度は減点の対象とする場合がある。							
評価項目	割合	評価基準						
定期試験	70%	筆記試験にて理解度を確認する。						
課題レポート	30%	課題テーマに関して、適切に論述できているか評価する。						
授業の実施方法と授業計画	事前・事後課題で提示した課題の内容については、授業内でフィードバックする。課題レポートについてはコメントを返す。定期試験についてはフィードバックを行う。 第1回(講義) 公衆衛生看護の歴史(鈴木) 第2回(講義) 公衆衛生看護の理念、ヘルスプロモーション(鈴木) 第3回(講義) 社会環境の変化と健康課題(鈴木) 第4回(講義) 公衆衛生看護における倫理:社会的公正 第5回(講義) 看護をめぐる法と制度(藤井) 第6回(講義) 公衆衛生看護の展開方法(鈴木) ハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチ 第7回(講義) 公衆衛生看護の対象①(個人・家族)(鈴木) 第8回(講義) 公衆衛生看護の対象②(集団)(鈴木) 第9回(講義) 公衆衛生看護の対象③(組織)(鈴木) 第10回(講義) 公衆衛生看護の対象④(地域)(鈴木) 第11回(講義) 公衆衛生看護活動の展開方法①(地域アセスメント)(鈴木) 第12回(講義) 公衆衛生看護活動の展開方法②(計画・実施・評価)(鈴木) 第13回(講義) 保健医療福祉における施策化と事業化(鈴木) 第14回(講義) 公衆衛生看護活動の場①(医療施設・福祉施設)における活動(蒔田) 第15回(講義) 公衆衛生看護活動の場②(行政機関)における活動(鈴木) *ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。							
ナンバリング	NRBM3019							

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード		978B0	
科目	978B 公衆衛生看護学方法論Ⅰ			授業種別		週間授業	
担当教員	鈴木 知代			単位数		2	
その他担当者	小俣 由佳						
授業概要	地域で生活するあらゆる発達段階、健康レベルの個人と家族および人々が生活し活動する集団が、健康の保持増進、健康障害の予防と回復を促進できるように、生活に視点を置いて保健師は保健指導を行う。本科目では、発達段階や健康障害の特性に応じた対象別の保健指導について学ぶ。 ※この科目は、当該授業内容に関する看護の実務経験を有する教員がその実務経験を活かし講義を行う科目である。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性			○	◎			
到達目標	1.発達段階や健康障害の特性に応じた健康課題を述べることができる。 2.発達段階や健康障害の特性に応じた公衆衛生看護における理論・基本的知識・技術について説明できる。 3.個人・家族の健康課題に対する支援や集団・組織や地域を対象とした支援について説明できる。 4.個別支援を集団・地域への支援につなげる公衆衛生看護活動の展開方法について説明できる。						
テキスト(教科書)	①横美奈子他:標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論, 医学書院,ISBN978-4-260-04707-4 ②中村裕美子他:標準保健師講座2 公衆衛生看護技術, 医学書院,ISBN978-4-260-05002-9 ③中谷芳美他:標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動, 医学書院, ISBN978-4-260-05303-7 ④厚生労働統計協会:厚生 の指標 増刊 国民衛生の動向,71(9)2024/2025,ISBN4910038540842.						
参考書および参考文献	①新版 保健師業務要覧 第4版 2023年版, 日本看護協会出版会, ISBN978-4-8180-2561-5 ②宮崎美砂子他:最新公衆衛生看護学第3版 2023年版各論1, 日本看護協会出版会,ISBN978-4-8180-2549-3						
受講条件	保健師コースの学生						
事前・事後学修(内容・時間)	1. 事前に授業テーマに該当するテキストの内容を熟読すること(第1～15回/30分程度)。 2. 授業の最後に、事後学修の内容を提示するので、取り組むこと(第1～15回/30分程度)。 3. 授業テーマに関連する保健医療行政の状況や動向については、「厚生 の指標 増刊 国民衛生の動向」を熟読しておくこと(第1～15回/30分程度)。						
成績評価							
原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価する。定期試験(筆記試験)、課題レポート等で総合的に評価する。なお、遅刻、早退や他の学生に迷惑になる授業態度は減点の対象とする場合がある。							
評価項目		割合	評価基準				
定期試験		60%	筆記試験にて授業内容の理解度を確認する。				
課題レポート		30%	評価基準はルーブリックで示す。				
グループワーク参加度		10%	グループワークへの参加状況と発表内容、取り組みについて評価する。				
授業の実施方法と授業計画	事前・事後学修した内容は、授業の中でフィードバックを行う。課題レポートには、コメントを返す。筆記試験については、フィードバックを行う。 *1～15回、講義が中心となる。 第1回 母子保健(親子保健) 活動(1): 母子保健の理念、母子保健施策の動向と課題 (鈴木) 母子保健の理念と歴史的変遷、母子保健施策、母子保健における健康課題について学ぶ。 第2回 母子保健(親子保健) 活動(2): 母性各期の健康課題と支援 (鈴木) 健康な母性の発達にそった健康課題とそれらに対する予防活動を女性のライフサイクルをふまえて学ぶ。 第3回 母子保健(親子保健) 活動(3): 乳幼児の成長・発達と健康課題への支援 (鈴木) 乳幼児各期の健康課題に対する支援活動を乳幼児の成長・発達と生活をふまえて学ぶ。 実際の市町村の母子保健活動を事例として、支援方法をグループで検討する。 第4回 母子保健(親子保健) 活動(4): 支援のニーズが高い親子の健康課題と支援 (鈴木) 心身障害児、勤労女性、子どもの虐待など支援のニーズが高い親子に対する支援を学ぶ。 第5回 成人保健活動(1): 成人保健の理念、成人保健施策の動向と課題 (鈴木) 成人保健の理念と歴史的変遷、成人保健施策、予防の考え方について学ぶ。 第6回 成人保健活動(2): 成人期の生活の特徴と健康課題 (鈴木) 成人期の健康課題を成人期の生活の特徴をふまえて学ぶ。 第7回 成人保健活動(3): 成人期の健康課題への支援 (鈴木) 成人期の健康課題を解決・改善するための支援活動についてグループで学ぶ。 第8回 歯科保健活動 (鈴木) 歯科(口腔) 保健活動の動向および活動内容について学ぶ。 第9回 高齢者保健活動(1): 高齢者保健の理念および高齢者保健福祉施策の動向と課題 高齢者保健の理念と歴史的変遷、高齢者保健福祉施策について学ぶ。(小俣) 第10回 高齢者保健活動(2): 高齢者の健康課題と支援 (小俣) 高齢期の健康課題とそれを解決・改善するための支援活動について学ぶ。 第11回 障害者保健活動: 障害者保健医療福祉施策の動向と障害者保健活動 (小俣) 障害者保健医療福祉施策の動向をふまえ、障害者への支援内容について学ぶ。 第12回 精神保健活動: 保健医療福祉施策の動向と精神保健活動 (小俣) 精神保健医療福祉施策の動向をふまえ、精神保健活動の内容について学ぶ。 第13回 難病保健活動: 難病対策の動向と難病保健活動 (小俣) 難病対策の動向をふまえ、難病保健活動の内容について学ぶ 第14回 感染症保健活動(1): 感染症保健の動向および感染症保健福祉施策 (小俣) 感染症保健の動向をふまえ、感染症保健福祉施策について学ぶ。 第15回 感染症保健活動(2): 主な感染症に対する動向と保健活動 (小俣) 結核およびHIV感染症等に対する保健活動について学ぶ。 *ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。						
ナンバリング	NRBM3020						

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード	978C0		
科目	978C 公衆衛生看護学方法論Ⅱ			授業種別	週間授業		
担当教員	鈴木 知代			単位数	2		
その他担当者	小俣 由佳						
授業概要	公衆衛生看護の対象は、個人・家族だけではなく、集団、組織、地域がある。また、公衆衛生看護活動は、計画、実施、評価、改善の4段階からなるPDCAサイクルを繰り返すことで活動の継続的な改善をはかる。本科目では、地域アセスメントを中心に公衆衛生看護活動の一連の過程を学ぶ。また、公衆衛生看護活動の展開方法として、健康教育や地域組織活動について学修する。 ※この科目は、当該授業内容に関する看護の実務経験を有する教員がその実務経験を活かし講義を行う科目である。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性			○	◎			
到達目標	1.公衆衛生看護活動は、地域アセスメントをもとに、計画、実施、評価、改善のPDCAサイクルによって進められることが説明できる。 2.地域アセスメントの課程を説明できる。 4.公衆衛生看護学活動における健康教育を適切に実施できる基礎的能力を身につけることができる。						
テキスト(教科書)	① 榎美奈子他：標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論，医学書院，ISBN978-4-260-04707-4 ② 中村裕美子他：標準保健師講座2 公衆衛生看護技術，医学書院，ISBN978-4-260-05002-9 ③ 厚生労働統計協会：厚生指標 増刊 国民衛生の動向，71(9)2024/2025，ISBN4910038540842.						
参考書および参考文献	① 中谷芳美他：標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動，医学書院，ISBN 978-4-260-3187-5 ② 佐伯和子他：域保健福祉活動のための地域看護アセスメントガイド第2版，医歯薬出版，ISBN978-4-263-23710-6						
受講条件	保健師コースの学生						
事前・事後学修(内容・時間)	1. 事前に授業テーマに該当するテキストの内容を熟読すること(第1～4回/30分程度)。 2. 地域診断については、提示する事例の地域についてアセスメント、健康問題抽出、計画作成についての事前準備を行い参加すること(第5～8回/60分程度)。 3. 実習地域の母子保健計画等をレポートして参加すること(第9回/60分程度) 4. 健康教育については、発表に向けて対象や教育内容に適した媒体をグループで作成し、それを用いて練習すること(第10～15回/60分程度)。						
成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価する。定期試験(レポート)などで総合的に評価する。なお、遅刻、早退や他の学生に迷惑になる授業態度は減点の対象とする場合がある。						
評価項目		割合	評価基準				
定期試験		80%	レポート。内容や記述が適切なものになっているか評価する。				
グループワーク参加度		20%	発表内容や使用する媒体の内容について、演習におけるグループメンバーと協力して取り組み姿勢を評価する。				
授業の実施方法と授業計画	事前学修した内容については、毎回授業でフィードバックする。レポートについては、コメントにてフィードバックを行う。 第1回(講義) 公衆衛生看護の対象としての集団・組織・地域について 地域アセスメントの目的・意義について(鈴木) 第2回(講義) 地域アセスメントの過程(鈴木) 第3回(講義) 地域アセスメントに関連する理論と考え方(鈴木) コミュニティ・アセスメント・モデル、プリシード・プロセス・モデル 第4回(講義・演習) セグメントの実践①(鈴木) 事例を用いて、情報収集とアセスメントの方法について 事例についてグループディスカッションを行う。 第5回(講義・演習) 地域アセスメントの実践②(鈴木) 事例を用いて、健康課題の抽出の方法について 事例についてグループディスカッションを行う。 第6回(講義・演習) 地域アセスメントの実践③(鈴木) 事例を用いて、計画立案・評価の方法について 事例についてグループディスカッションを行う。 第7回(講義) 保健福祉対策と事業計画(鈴木) 保健福祉の計画策定や事業計画の策定について 第8回(講義) 地域組織活動の展開①(鈴木) 地域組織活動における公衆衛生看護技術について 第9回(講義) 地域ケアシステム(鈴木) 第10回(講義) 健康教育の目的や方法およびその展開過程(小俣) 第11回(講義・演習) 健康教育の企画書の作成(小俣) 第12回(講義・演習) 健康教育の指導案の作成(小俣) 第13回(講義・演習) 健康教育のシナリオおよび媒体の作成(小俣) 第14回(講義・演習) 健康教育の実施(発表)の準備(小俣) 第15回(講義・演習) 健康教育の実施(発表)と評価(小俣) *ただし、受講生の習熟度により授業計画を変更することがある。						
ナンバリング	NRCM3017						

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード		98730		
科目	9873 公衆衛生看護学演習Ⅰ			授業種別		週間授業		
担当教員	小俣 由佳			単位数		1		
その他担当者	鈴木 知代							
授業概要	個人・家族を対象とした公衆衛生看護活動において用いる保健指導の技術について、基盤となる理論と結び付けて学ぶ。 本科目では、保健師の行う家庭訪問および健康相談について体験的に学ぶことを通じて、個人・家族を対象とした保健指導に必要とされる基礎的能力と技術を養う。 ※この科目は、当該授業内容に関する看護の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かし演習等を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	△		△	◎	○			
到達目標	1. 地域で生活する個人・家族の保健行動・健康行動に対する支援方法について説明できる。 2. 地域で生活する個人・家族の生活と健康について、健康問題を持つ当事者の視点を踏まえ、多角的・包括的にアセスメントできる。 3. 地域で生活する個人・家族が主体的に健康課題を解決するための支援計画を立案できる。 4. 地域で生活する個人・家族の特性に応じた保健指導を実践するための基本的技術を修得できる。							
テキスト(教科書)	樺美奈子 他著 標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論第6版 医学書院 ISBN9784260047074 中村裕美子 他著 標準保健師講座2 公衆衛生看護技術第5版 医学書院 ISBN9784260050029 中谷芳美 他著 標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動第5版 医学書院 ISBN9784260053037							
参考書および参考文献	井伊久美子 他著 新版 保健師業務要覧 第4版 2025年版 日本看護協会出版会 ISBN9784818027879 岸恵美子 他著 保健学講座2 公衆衛生看護支援技術 メチカルフレンド社 ISBN9784839221898 岸恵美子 他著 保健学講座3 公衆衛生看護活動展開論 メチカルフレンド社 ISBN9784839221904 その他に、授業内容をより理解を深めることに役立つ参考書や動画等インターネットコンテンツを授業内で適宜紹介する。							
受講条件	保健師選択コースの学生							
事前・事後学修(内容・時間)	①授業前に、授業のテーマに該当するテキストの内容や指定した資料を熟読する。 (第1, 2, 3, 4, 8, 9, 12, 15回/30分程度) ②授業後に、授業での学びを整理する。 (第1～15回/30分程度)。 ③授業内で学修すべき内容の課題がある場合には、事前に調べて授業に臨む。 (第5, 6, 7, 10, 11, 13, 14回/60分程度) 以上を参考に1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることを踏まえ自己学修を行うこと。							
成績評価								
原則として毎回出席すること。課題レポート、発表内容、グループワークを含めた学修への取り組み状況(授業への参加状況)から評価する。なお、遅刻、早退や他の学生に迷惑になる授業態度については減点の対象とする場合がある。								
評価項目	割合		評価基準					
課題レポート	50%		課題に対して、適切な内容・記述になっているかを評価する。					
発表内容	30%		発表内容および発表後のレポートから、理解度を評価する。					
グループワークを含めた学修への取り組み状況(授業への参加状況)	20%		授業内での発言、意見交換、グループワークへの参加状況を評価する。					
授業の実施方法と授業計画								
演習は小グループに分かれて実施する。演習課題の発表に対するフィードバックは授業内で行い、課題レポートについては、全体にフィードバックを行う。 第01回 公衆衛生看護における保健指導(講義)(小俣) ・公衆衛生看護における保健指導の目的および保健師が行う保健指導の特徴について学ぶ。 第02回 公衆衛生看護における保健指導で活用できる理論(講義)(小俣) ・公衆衛生看護における保健指導で活用できる理論について学ぶ。 第03回 公衆衛生看護における対人支援活動の展開(講義)(小俣) ・公衆衛生看護における対人支援の展開方法と技術について学ぶ。 第04回 成人保健活動:保健指導事例演習①(演習:グループワーク)(小俣) ・事例対象者のアセスメントを行い、支援計画を立案する。 第05回 成人保健活動:保健指導事例演習②(演習:グループワーク)(小俣) ・立案した支援計画に基づきロールプレイングのシナリオおよび媒体を作成する。 第06 成人保健活動:保健指導事例演習③(演習:グループワーク)(小俣) ・立案した支援計画およびシナリオに基づきロールプレイングの技術練習をする。 第07回 成人保健活動:保健指導事例演習④(演習:グループワーク・発表)(担当者全員) ・立案した支援計画およびシナリオに基づきロールプレイングの発表をする。 第08回 保健師が行う家庭訪問による支援の展開(講義)(小俣) ・家庭訪問における保健指導について学ぶ。 第09回 母子保健活動:新生児訪問事例演習①(演習:グループワーク)(小俣) ・事例対象者のアセスメントを行い、支援計画を立案する。 第10回 母子保健活動:新生児訪問事例演習②(演習:グループワーク)(小俣) ・立案した支援計画に基づきロールプレイングのシナリオを作成し技術練習をする。 第11回 母子保健活動:新生児訪問事例演習④(演習:グループワーク・発表)(担当者全員) ・立案した支援計画およびシナリオに基づきロールプレイングの発表をする。 第12回 感染症保健活動:結核事例演習①(演習:グループワーク)(小俣) ・事例対象者のアセスメントを行い、支援計画を立案する。 第13回 感染症保健活動:結核事例演習②(演習:グループワーク)(小俣) ・立案した支援計画に基づきロールプレイングのシナリオを作成し技術練習をする。 第14回 感染症保健活動:結核事例演習③(演習:グループワーク・発表)(担当者全員) ・立案した支援計画およびシナリオに基づきロールプレイングの発表をする。 第15回 公衆衛生看護における保健指導の実際(講義)(ゲストスピーカー:市町村保健師) ・公衆衛生看護における保健指導の展開方法について実際の活動から学ぶ。 *ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。								
ナンバリング	NRCM3013							

開講年度・開講学期	2025年度 春学期				授業コード	98740		
科目	9874 公衆衛生看護学演習Ⅱ				授業種別	週間授業		
担当教員	小俣 由佳				単位数	1		
その他担当者	鈴木 知代							
授業概要	地域アセスメント(地域診断)に活用できる理論や方法に基づき、地域アセスメント(地域診断)の技術について演習を通して具体的に学ぶ。本科目では、実在する地域(実習市町村)の健康課題を見出すプロセスを体験的に学ぶことを通じて、地域アセスメント(地域診断)を適切に実施できる基礎的能力と技術を養う。 また、地域の健康課題の解決や人々の健康の保持増進に向けた政策形成過程について、事例を用いた演習を通して学修する。本科目では、地域の健康課題を解決するための保健事業の企画を立案するプロセスを体験的に学ぶことを通じて、施策化・事業化の基礎的能力を養う。 ※この科目は、当該授業内容に関する看護の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして演習等を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	△		△	◎	○			
到達目標	1. 地域を対象とした公衆衛生看護活動において基盤となる地域アセスメント(地域診断)を展開することができる。 1) 対象となる地域(実習市町村)の人々の生活と健康を多角的・包括的にアセスメントすることができる。 2) 対象となる地域(実習市町村)の特性、健康課題とその要因を明らかにすることができる。 2. 地域の健康水準を高める事業化・施策化を行うための基礎的能力を修得できる。 1) 地域の健康課題の解決や人々の健康の保持増進に向けた政策形成過程と保健師の役割について述べることができる。 2) 地域の健康課題を解決するための保健事業を企画・立案できる。							
テキスト(教科書)	榎美奈子 他著 標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論 医学書院 ISBN9784260047074 中村裕美子 他著 標準保健師講座2 公衆衛生看護技術 医学書院 ISBN9784260050029 中谷芳美他 著 標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動 医学書院 ISBN9784260053037 厚生省の指標2024年8月増刊「国民衛生の動向」2024/2025 厚生労働統計協会 ISBN4910038540842							
参考書および参考文献	井伊久美子 他著 新版 保健師業務要覧 第4版 2025年版 日本看護協会出版会 ISBN9784818027879 佐伯和子他編 地域保健福祉活動のための地域看護アセスメントガイド 第2版 医歯薬出版 ISBN9784263237106 藤内修二 他著 標準保健師講座別巻1 保健医療福祉行政論 第6版 医学書院 ISBN9784260056731 その他、授業内容をより深めることに役立つ参考書、動画やインターネットコンテンツ等、授業内で適宜紹介する。							
受講条件	保健師選択コースの学生							
事前・事後学修(内容・時間)	①授業前には、授業のテーマに該当するテキストの内容や指定した資料を熟読する。 (第1、2、13回/30分程度) ②授業後には、授業での学びを整理する。 (第1～15回/30分程度) ③授業内で学修すべき内容の課題がある場合には、事前に調べて授業に臨む。 (第3～12、14～15回/60分程度) 以上を参考に1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることを踏まえ自己学修を行うこと。							
成績評価								
原則として毎回出席すること。課題レポート、発表内容、グループワークを含めた学修への取り組み状況(授業への参加状況)から評価する。なお、遅刻、早退や他の学生に迷惑になる授業態度については減点の対象とする場合がある。								
評価項目	割合		評価基準					
課題レポート	50%		課題に対して、適切な内容・記述になっているかを評価する。					
発表内容	30%		発表内容および発表後のレポートから、理解度を評価する。					
グループワークを含めた学修への取り組み状況(授業への参加状況)	20%		授業内での発言、意見交換、グループワークへの参加状況を評価する。					
授業の実施方法と授業計画	演習は小グループに分かれて実施する。演習課題の発表に対するフィードバックは授業内で行い、課題レポートについては、全体にフィードバックを行う。 第01回 公衆衛生看護活動における地域アセスメントの過程と方法(講義)(小俣) 第02回 地域アセスメントにおけるデータ収集と分析(講義)(小俣) 第03回 地域アセスメント(1)〈演習:グループワーク〉(小俣) ・地域の概要の把握 第04回 地域アセスメント(2)〈演習:グループワーク〉(小俣) ・地域に暮らす人々に関するアセスメント①:歴史、人口統計 第05回 地域アセスメント(3)〈演習:グループワーク〉(小俣) ・地域に暮らす人々に関するアセスメント②:人口統計、住民の様子、価値観と信念等 第06回 地域アセスメント(4)〈演習:グループワーク〉(小俣) ・地域を構成する要素に関するアセスメント①:物理的環境、経済、政治と行政等 第07回 地域アセスメント(5)〈演習:グループワーク〉(小俣) ・地域を構成する要素に関するアセスメント②:教育、安全と交通、コミュニケーション、レクリエーション等 第08回 地域アセスメント(6)〈演習:グループワーク〉(小俣) ・地域を構成する要素に関するアセスメント③:保健医療と社会福祉等 第09回 地域アセスメント(7)〈演習:グループワーク〉(小俣) ・地域に暮らす人々に関するアセスメントおよび地域を構成する要素に関するアセスメントの整理・統合 第10回 地域アセスメント(8)〈演習:グループワーク〉(小俣) ・地域の健康課題の抽出 第11回 地域アセスメント(9)〈演習:グループワーク〉(小俣) ・第12回に実施する発表の準備 第12回 地域アセスメント(10)〈演習:グループワーク・発表〉(担当者全員) ・地域アセスメント演習の成果を発表:学生によるグループでのプレゼンテーション 第13回 保健師が担う政策形成のプロセスと方法(1)〈演習:グループワーク〉(小俣) ・施策化・事業化の実態と保健師の役割 第14回 保健師が担う政策形成のプロセスと方法(2)〈演習:グループワーク〉(小俣) ・地域の健康課題を解決するための保健事業の企画・立案 第15回 保健師が担う政策形成のプロセスと方法(3)〈演習:グループワーク・発表〉(担当者全員) ・立案した事業計画の発表 *ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。							
ナンバリング	NRCM4017							

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期				授業コード	978D0		
科目	978D 公衆衛生看護管理論				授業種別	週間授業		
担当教員	鈴木 知代				単位数	2		
その他担当者	小俣 由佳							
授業概要	保健師は、地域住民が安全で、安心して、健やかな生活を営めるよう、地域の人々と関係者と連携・協働して効率的・効果的に公衆衛生看護活動を遂行する。そのために必要な公衆衛生看護の管理的な視点や機能について学ぶ。また、教員の研究結果を取り入れ、管理的立場の保健師の役割を発展的に考えることができるための基礎的能力を養う。 ※この科目は、当該授業内容に関する看護の実務経験を有する教員がその実務経験を活かし講義を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性			○	○		◎		
到達目標	1. 公衆衛生看護管理の目的と機能について説明できる。 2. 健康危機管理における保健師の活動と役割について説明できる。 3. 公衆衛生看護活動において研究的視点が必要であることを述べることができる。 5. 公衆衛生看護活動の質の向上のためには公衆衛生看護管理の視点を探求し、発展的に考えることができるための能力を身につけることができる。							
テキスト（教科書）	①標美奈子他：標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論，医学書院，ISBN978-4-260-04707-4 ②中村裕美子他：標準保健師講座2 公衆衛生看護技術，医学書院，ISBN978-4-260-05002-9 ③中谷芳美他：標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動、医学書院、ISBN978-4-260-05303-7 ④厚生労働統計協会/厚生指標 増刊 国民衛生の動向，71(9)2024/2025，ISBN4910038540842。							
参考書および参考文献	必要に応じて適宜紹介する。							
受講条件	保健師コースの学生							
事前・事後学修（内容・時間）	1. 事前に授業テーマに該当するテキストの内容を熟読すること（第1～15回/30分程度）。 2. 授業の最後に、事後学修の内容を提示するので、取り組むこと（第1～15回/30分程度）。 3. 健康危機管理事例（災害・感染症）の情報収集を行うこと							
成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価する。定期試験（レポート）、課題レポートで総合的に評価する。なお、遅刻、早退や他の学生に迷惑になる授業態度は減点の対象とする場合がある。							
評価項目		割合	評価基準					
課題レポート		40%	評価基準はルーブリックで示す。					
定期試験		50%	レポート。レポートの評価基準はルーブリックで示す。					
グループワーク参加度		10%	演習への参加状況、発表時の内容等					
授業の実施方法と授業計画	課題レポートについては、授業内でフィードバックする。最終レポートはコメントにてフィードバックを行う。 第1回（講義） 公衆衛生看護管理の目的・機能 （鈴木） 公衆衛生看護における管理機能の目的と機能について 第2回（講義） 公衆衛生看護の管理機能① （鈴木） 組織運営管理、人事管理・人材育成について 第3回（講義） 公衆衛生看護の管理機能② （鈴木） 予算管理、情報管理について 第4回（講義） 公衆衛生看護の管理機能③ （鈴木） 業務管理について 第5回（演習） 公衆衛生看護管理(まとめ) （鈴木） 管理的立場の保健師の活動事例を用いて演習を行う 第6回（講義） 健康危機管理 （鈴木） 健康危機管理の定義と要因、リスクマネジメント、健康危機管理の要素について 第7回（講義） 健康危機管理① （鈴木） 感染症集団発生時の保健活動について 第8・9・10回（演習） 健康危機管理 （鈴木） 地域における集団感染の事例より保健師の役割について演習を行う 第11回（講義） 健康危機管理② （小俣） 災害と保健活動について 第12・13・14回（演習） 健康危機管理 （小俣） 災害支援の事例より保健師の役割についてについて演習を行う 第15回 まとめ （鈴木・小俣） *ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある							
ナンバリング	NRDM4012							

開講年度・開講学期	2025年度 春学期～秋学期			授業コード		98710		
科目	9871 公衆衛生看護学実習Ⅰ（行政）			授業種別		春学期（実習）、秋学期（実習）		
担当教員	小俣 由佳			単位数		4		
その他担当者	鈴木 知代							
授業概要	地域の人の健康の保持増進、健康障害の予防を担う公衆衛生看護について、その役割および展開プロセスを理解し、実践に必要な基礎的能力を養う。生活者としての個人・家族の理解と支援技術、グループ・組織の理解と支援技術、地域の健康問題の構造の理解と支援技術について、実習を通して具体的に学ぶ。また、地域住民と、関係機関や医療・介護・福祉の多職種と協働しながら事業化した事例の実際を学ぶ。 ※この科目は、当該授業内容に関する看護の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして演習等を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	◎		○	○	○	△	○	
到達目標	1. 地域の人々の健康を保持増進し、健康障害を予防する仕組みと行政における保健師の役割を説明できる。 2. 地域の健康課題に対応するための公衆衛生看護活動の展開プロセスを理解し、地域アセスメント（地域診断）を基に地域の健康課題を明らかにし、解決・改善するための計画を立案できる。 3. 家庭訪問において、支援の展開プロセスを理解し、対象（個人/家族）の健康課題の解決・改善に向けた支援計画を立案できる。 4. 健康教育において、その展開プロセスを理解し、対象（集団/組織）の健康課題に応じた健康教育を計画立案し、指導案を作成し、実施・評価できる。 5. 看護学生として責任ある行動がとれ、主体的に実習に取り組むことができる。							
テキスト（教科書）	公衆衛生看護学の講義・演習で使用したテキスト							
参考書および参考文献	適宜紹介する。							
受講条件	保健師選択コースの学生							
事前・事後学修（内容・時間）	実習は45時間をもって1単位とする。但し、実習開始にあたり不足する内容、また、実習後に補う内容については各自学修を行うこと。 実習においては、公衆衛生看護学原論、公衆衛生看護学方法論Ⅰ・Ⅱ、公衆衛生看護学演習Ⅰ・Ⅱで学修した内容を復習して実習に臨む。また、指示された事前課題を期日までに行う。 ※事前課題については、その後の学修に役立てられるようフィードバックを行う。 実習後は、理解が不十分であった内容について、国家試験に向けて各自復習を行う。							
成績評価								
原則としてすべての実習に出席すること。実習の到達目標がどの程度達成できているかを実習内容、実習記録、実習への取り組み姿勢について、ルーブリック評価表に基づき評価する。 なお、遅刻、早退や劣悪な実習態度については減点の対象とする場合がある。								
評価項目	割合		評価基準					
実習内容、実習記録	90%		ルーブリック評価表に基づき評価する。					
実習への取り組み姿勢	10%		ルーブリック評価表に基づき評価する。					
授業の実施方法と授業計画	1. 実習オリエンテーション 1) 学内での実習オリエンテーションに参加する。 2) 実習施設での実習オリエンテーションに参加する。 2. 実習施設・実習期間 県保健所（1週間）及びその管轄市町村（3週間）で4週間、または中核市で4週間実習する。 3. 実習計画：実習は2～3名のグループで行う。臨地実習スケジュールは実習開始前までに提示する。 1) 臨地実習の内容 （1）保健事業等の実習 ・家庭訪問の見学・支援計画立案、健康教育の計画・実施 ・乳幼児健康診査、各種検診・健康診査、健康相談等の見学 ・組織活動、健康教育室等の見学・参加、連携調整会議への参加、健康危機管理等 （2）地域アセスメント（地域診断）及び事業計画の立案 （3）カンファレンスの実施：毎日のカンファレンス、中間・最終カンファレンス 2) 学内実習の内容 （1）実習1週目 ・カンファレンス（学びの共有や情報交換等）、実習記録の整理、面談 ・地域アセスメント（地域診断）や健康教育に関する学修等 （2）実習2・3週目 ・実習記録の整理、面談 ・地域アセスメント（地域診断）や健康教育に関する学修等 （3）実習4週目の金曜日 ・実習記録の整理、面談等 ・地域アセスメント（地域診断）及び事業計画の発表 詳細については、「公衆衛生看護学実習Ⅰ（行政）実習要項」を参照。 ※実習記録、家庭訪問の支援計画立案、地域アセスメント（地域診断）及び事業計画の立案、健康教育の計画・実施については教員または実習指導者が適宜内容を確認しフィードバックを行う。							
ナンバリング	NRDM4010							

開講年度・開講学期	2025年度 春学期～秋学期				授業コード	98720		
科目	9872 公衆衛生看護学実習Ⅱ（学校・産業）				授業種別	春学期（実習）、秋学期（実習）		
担当教員	鈴木 知代				単位数	1		
その他担当者	蒔田 寛子、小俣 由佳							
授業概要	1. 学校保健実習 小学校・中学校・高等学校で実習を行い、児童・生徒が健康で安全な学校生活を送ることができるために行われる保健教育や保健管理、保健組織活動等の実際を体験的に学び、学校保健活動とそこの中での看護教諭の役割や活動について学ぶ。 2. 産業保健実習 事業所で実習を行い、労働の場において、人々が健康で安全に働くことができるための労働衛生管理の体制と活動の内容・方法の実際を体験的に学び、産業保健活動とそこの中での看護職の役割と活動について学ぶ。 ※この科目は、当該授業内容に関する公衆衛生看護の実務経験を有する教員がその実務経験を活かし行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	◎		○	○	○	△	○	
到達目標	1. 学校保健実習 1) 学校保健の概要について説明できる。 2) 児童・生徒の健康課題への対策と支援について説明できる。 3) 学校保健活動の展開について説明できる。 4) 目的意識を持ち、主体的に実習に取り組むことができる。 2. 産業保健実習 1) 産業保健の概要について説明できる。 2) 事業所の安全衛生管理の体制・活動とそこの中での看護職の活動について説明できる。 3) 事業所の健康課題への対策と看護職の活動の実際を説明できる。 4) 目的意識を持ち、主体的に実習に取り組むことができる。							
テキスト（教科書）	公衆衛生看護学の講義・演習で使用したテキスト							
参考書および参考文献	公衆衛生看護学の講義・演習で使用したもの							
受講条件	保健師選択コースの学生							
事前・事後学修（内容・時間）	*実習は45時間をもって1単位とする。但し、実習開始にあたり不足する内容、また、実習後に補う内容については各自学修を行うこと。 1. 実習で参加・見学する保健活動については、その根拠法、目的、内容等を事前に調べ実習目標を設定すること。 2. 実習で学修した内容については、文献等を活用しまとめること。							
成績評価								
原則としてすべての実習に出席すること。実習の到達目標がどの程度達成できているかで評価する。なお、遅刻、早退や劣悪な実習態度は減点の対象とする場合がある。								
評価項目		割合		評価基準				
実習到達度、実習記録の内容		80%		実習評価表に基づき評価する。				
実習への取り組み		20%		事前課題の内容、目的の明確さ、カンファレンスの参加度、主体性等				
授業の実施方法と授業計画		実習内容・実習記録については臨地での実習指導や学内の面談などでフィードバックを行う。 1. 学校保健実習 1) 事前オリエンテーション (1) 学内での事前オリエンテーションに参加する。 (2) 事前課題を教員に提出し、指導を受ける。 (3) 実習施設に事前訪問を行い、実習の打合せを行う。 ①事前訪問は、実習開始1か月前頃までに学生が実習施設に連絡をして、日程調整を行った上で訪問する。 ②実習施設を事前訪問して、実習内容等の打合せを行い実習の準備をする。 2) 実習施設（小学校・中学校・高等学校）で実習を行う。 3) 実習評価を行い、記録を整理し、教員に提出する。 4) 実習の学びについて、実習施設に報告する。 2. 産業保健実習 1) 学内での事前オリエンテーションに参加する。 2) 事前課題を教員に提出し、指導を受ける。 3) 実習施設（事業所）で実習を行う。 4) 実習評価を行い、記録を整理し、教員に提出する。 *ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。						
ナンバリング	NRDM4011							

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	97770			
科目	9777 地域母子保健			授業種別	週間授業			
担当教員	大林 陽子			単位数	1			
その他担当者	斉本 美津子							
授業概要	地域母子保健の概念、意義を学び、地域における助産師の役割、および、多職種連携について学ぶ。また、母子保健行政のしくみ、制度、主な母子保健施策など、母子保健行政の体系について学ぶ。地域母子保健活動の基盤として、母子保健活動における連携・協働、地域のさまざまな場における助産師の役割を理解し、実際の活動としての産前、産後および特定の状況における具体的な内容・方法について学ぶ。さらに、国際母子保健における、諸外国の母子保健活動や海外在住日本人の母子保健、在留外国人の母子保健を学び、その実際や課題について理解する。 地域母子保健における助産師の活動をもとに、国へ提言すべき助産政策を見出し、提案するプロセスを学ぶ。 ※この科目は当該授業内容に関する看護の実務経験を有する教員がその経験を活かし講義等を行う科目です。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性			◎	○	○	△	○	
到達目標	1. 地域母子保健の概念、意義を説明できる。 2. 地域母子保健における助産師の役割、および、多職種連携について説明できる。 3. 母子保健行政のしくみや制度、主な母子保健施策など、母子保健行政の体系を説明できる。 4. 地域母子保健活動の基盤を理解し、母子保健活動における連携・協働、実際の活動の具体的な内容・方法を説明できる。 5. 助産政策の意義や必要性を理解し、自らの提言を説明できる。 6. 国際母子保健の概要を理解し、諸外国の母子保健活動、海外在住日本人の母子保健、在留外国人の母子保健の実際と課題を説明できる。							
テキスト(教科書)	助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健 第6版、我部山キヨ子編、医学書院、ISBN9784260050043							
参考書および参考文献	母子保健の主なる統計、母子衛生研究会、ISBN9784938481148 令和4年度少子化社会対策白書、内閣府編集、日経印刷、ISBN9784865793291 新版 助産師業務要覧 第4版 I基礎編、福井トシ子編、日本看護協会出版会、ISBN9784818026186 新版 助産師業務要覧 第4版 II実践編、福井トシ子編、日本看護協会出版会、ISBN9784818026193 新版 助産師業務要覧 第4版 IIIアドバンス編、福井トシ子編、日本看護協会出版会、ISBN9784818026209							
受講条件	助産師選択コースの学生							
事前・事後学修(内容・時間)	1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることをふまえ、事前・事後学修を毎授業60分程度行う。 <事前学修> 毎授業前にテキストの該当箇所を読み、内容を事前に調べて授業に参加すること(第1～15回/30分程度) <事後学修> 毎授業後に授業で得た学びについてレポートを作成しておき、定期試験前に再復習すること(第1～15回/30分程度)							
成績評価	筆記試験と課題レポートにより総合的に評価する。							
評価項目	割合		評価基準					
定期試験	80%		筆記試験により理解度を確認する					
課題レポート	20%		課題に対する適切な内容・記述になっているか評価する					
授業の実施方法と授業計画	第1回(講義)	地域母子保健の基本	母子保健のしくみ、母子保健にかかわる制度 主な母子保健施策 地域母子保健活動の基盤 地域母子保健活動の実際(外部講師) 助産政策① 助産政策② 助産政策の提言① 助産政策の提言② 助産政策の提言③ 助産政策の提言④ 諸外国の母子保健活動 海外在住日本人の母子保健、在留外国人の母子保健 地域母子保健の課題と今後 *授業計画は、学生の学修状況により変更することがある。 *課題(テストやレポート等)や質疑内容については、授業内でフィードバックする。					
	第2回(講義)	母子保健の動向と課題						
	第3回(講義)	母子保健行政の体系①						
	第4回(講義)	母子保健行政の体系②						
	第5回(講義)	地域母子保健活動の基盤						
	第6回(講義)	地域母子保健活動の実際(外部講師)						
	第7回(講義)	助産政策①						
	第8回(講義)	助産政策②						
	第9回(講義・演習)	助産政策の提言①						
	第10回(講義・演習)	助産政策の提言②						
	第11回(講義・演習)	助産政策の提言③						
	第12回(講義・演習)	助産政策の提言④						
	第13回(講義)	諸外国の母子保健活動						
	第14回(講義)	海外在住日本人の母子保健、在留外国人の母子保健						
	第15回(講義)	地域母子保健の課題と今後						
ナンバリング	NREM3012							

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード		977H0		
科目	977H 助産学原論			授業種別		週間授業		
担当教員	大林 陽子			単位数		1		
その他担当者								
授業概要	助産の概念、助産師の定義と業務、助産学を支える理論と研究、倫理について学ぶ。また、母子保健の動向と諸制度について学ぶ。さらに、助産の歴史と文化、助産師と教育について学び、助産学を学ぶのに必要な基本的知識を修得する。 ※この科目は当該授業内容に関する助産師の実務経験を有する教員がその実務を活かして講義等を行う科目です。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性			◎	○			○	
到達目標	1. 助産の概念、助産師の定義と業務について説明できる。 2. 助産学を支える理論と研究、倫理について理解し、根拠に基づく助産実践と対象理解に必要な理論を説明できる。 3. 母子保健の動向と諸制度を理解し、現状と課題を説明できる。 4. わが国、および諸外国の助産師教育について説明できる。							
テキスト(教科書)	助産学講座1 基礎助産学〔1〕助産学概論 第6版、我部山キヨ子他編、医学書院、ISBN9784260047081 助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健 第6版、我部山キヨ子編、医学書院、ISBN 9784260050043 助産学講座10 助産管理 第6版、我部山キヨ子編、医学書院、ISBN9784260047098							
参考書および参考文献	母子保健の主なる統計、母子衛生研究会、ISBN9784938481148 令和4年版少子化社会対策白書、内閣府編集、日経印刷、ISBN9784865793291 助産所業務ガイドライン2019、日本助産師会助産業務ガイドライン改訂検討特別委員会編集・監修、日本助産師会出版、ISBN9784905023289 助産師業務要覧 I 基礎編、福井トシ子編、日本看護協会出版会、ISBN9784818026186 助産師業務要覧 II 実践編、福井トシ子編、日本看護協会出版会、ISBN9784818026193 助産師業務要覧 III アドバンス編、福井トシ子編、日本看護協会出版会、ISBN9784818026209							
受講条件	助産師選択コースの学生							
事前・事後学修(内容・時間)	1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることをふまえ、事前・事後学修を毎授業60分程度行う <事前学修> 毎授業前にテキストの該当箇所を読み、内容を事前に調べて授業に参加すること(第1～8回/30分程度) <事後学修> 毎授業後に授業で得た学びについてレポートを作成しておき、定期試験前に再復習すること(第1～8回/30分程度)							
成績評価								
定期試験、課題レポートの内容を総合的に評価する								
評価項目	割合		評価基準					
定期試験	90%		筆記試験にて理解度を確認する					
課題レポート	10%		課題に対する適切な内容・記述になっているかを評価する					
授業の実施方法と授業計画	第1回 (講義) 助産の概念 第2回 (講義) 助産師の定義と義務 第3回 (講義) 助産学を支える理論と研究 第4回 (講義) 助産師と倫理 第5回 (講義) 母子保健の動向と諸制度 第6回 (講義) 助産の歴史と文化 第7回 (講義) 助産師と教育 第8回 (講義) 国際母子保健							
	*ただし、授業計画は受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。 *課題(テストやレポート等)や質疑内容については、授業内でフィードバックする。							
ナンバリング	NRAM3007							

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード		977A0		
科目	977A 助産診断・技術学Ⅰ			授業種別		週間授業		
担当教員	大林 陽子			単位数		2		
その他担当者	新井 志歩、齊本 美津子							
授業概要	妊娠・産褥・新生児期の助産診断過程を展開するのに必要な妊婦・褥婦・新生児の特性と看護に関する基礎的知識・技術を学び、事例による助産診断過程展開技術を修得する。また、親役割の準備・獲得、家族システムの変化に対応した女性と家族の支援に必要な知識・技術を学ぶ。 ※この科目は当該授業内容に関する助産師の実務経験を有する教員がその実務を活かして演習等を行う科目です。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性			○	◎	△			
到達目標	1. 妊娠各期の事例の母体・胎児の身体・心理社会的特性をアセスメントし、状態に応じた助産診断、計画立案ができる 2. 褥婦の事例の身体（退行性・進行性変化）・心理社会的特性をアセスメントし、状態に応じた助産診断、計画立案ができる 3. 新生児の事例の生理的変化の特性をアセスメントし、状態に応じた助産診断、計画立案ができる							
テキスト（教科書）	助産診断・技術学Ⅱ（1）妊娠期 第6版、我部山キヨ子他編、医学書院、ISBN9784260042086 助産診断・技術学Ⅱ（2）分娩期・産褥期 第6版、我部山キヨ子他編、医学書院、ISBN9784260042109 助産診断・技術学Ⅱ（3）新生児期・乳幼児期 第6版、医学書院、ISBN9784260042192 助産診断・技術学Ⅰ 第6版、医学書院、ISBN9784260042260 病気がみえるvol.10産科 第4版、医療情報科学研究所編集、メディックメディア、ISBN9784896327137 マタニティ診断ガイドブック 第6版、日本助産診断実践学会編集、医学書院、ISBN9784260043298							
参考書および参考文献	助産学講座3 母子の健康科学 第6版、我部山キヨ子編、医学書院、ISBN9784260049917 助産学講座4 母子の心理・社会学 第6版、我部山キヨ子編、医学書院、ISBN9784260021869 根拠と事故防止からみた母性看護技術 第3版、ISBN9784260043243 産婦人科診療ガイドライン産科編2023 ISBN9784907890285 母乳育児支援スタンダード 第2版、ISBN9784260020701 助産学講座3 基礎助産学（3）母子の健康科学 第6版、ISBN9784260049917 助産学講座4 基礎助産学（4）母子の心理・社会学 第6版、ISBN9784260021869							
受講条件	助産師選択コースの学生							
事前・事後学修（内容・時間）	1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることをふまえ、事前・事後学修を毎授業60分程度行う ＜事前学修＞ 1. 毎授業で指示する課題について事前に学修し資料を作成する（60分） 2. 1. の過程で生じた疑問点を明確にして授業に臨む ＜事後学修＞ 1. 毎授業後に授業で得た学びを事前学修の内容に加筆修正し、内容を整理する（60分）							
成績評価								
課題レポート・ディスカッション内容を総合的に評価する								
評価項目	割合		評価基準					
課題レポート	60%		課題に対する適切な内容・記述になっているかを評価する					
ディスカッション内容	40%		課題に対する適切な内容になっているかを評価する					
授業の実施方法と授業計画	第1回	（講義）助産診断と助産過程（妊娠・産褥・新生児期）						
	第2回	（演習）妊娠期の助産診断①						
	第3回	（演習）妊娠期の助産診断②						
	第4回	（講義・演習）妊娠期の助産診断③ ディスカッション						
	第5回	（演習）妊娠期の助産診断④						
	第6回	（演習）妊娠期の助産診断⑤						
	第7回	（講義・演習）妊娠期の助産診断⑥ディスカッション						
	第8回	（演習）産褥期の助産診断① 退行性変化						
	第9回	（講義・演習）産褥期の助産診断② 退行性変化 ディスカッション						
	第10回	（演習）産褥期の助産診断③ 進行性変化、心理社会的変化						
	第11回	（演習）産褥期の助産診断④ 進行性変化、心理社会的変化						
	第12回	（講義・演習）産褥期の助産診断⑤ 進行性変化、心理社会的変化 ディスカッション						
	第13回	（演習）新生児期の助産診断①						
	第14回	（演習）新生児期の助産診断②						
	第15回	（講義・演習）新生児期の助産診断③ ディスカッション						
*ただし、授業計画は受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。 *課題レポートやディスカッションの内容、質疑内容については、授業内でフィードバックする。								
ナンバリング	NRBM3013							

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード		977B0		
科目	977B 助産診断・技術学Ⅱ			授業種別		週間授業		
担当教員	大林 陽子			単位数		2		
その他担当者								
授業概要	生殖医療の基礎的知識について学ぶ。ハイリスク妊娠・分娩、妊娠・分娩・産褥期の母子の異常の病態、診断・検査・治療、胎児・新生児の疾患の病態、診断・治療に関する基礎的知識を学ぶ。また、合併症をもつ妊婦・産婦・褥婦の病態、診断・治療・検査について理解し、正常経過を逸脱した妊産婦・新生児の助産実践に必要な知識・助産ケア、母体・胎児・新生児の異常・緊急時の対応について学ぶ。女性のライフサイクル各期の内分泌動態、婦人科疾患について学ぶ。 ※この科目は当該授業内容に関する医師または助産師の実務経験を有する教員がその実務を活かして講義などを行う科目です。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性			○	◎	△			
到達目標	1. 生殖医療の基礎的知識について説明できる 2. ハイリスク妊娠・妊娠期の異常の診断と治療について説明できる 3. 分娩の異常の診断と治療について説明できる 4. 胎児・新生児の疾患と治療について説明できる 5. 婦人科疾患について説明できる 6. ハイリスク妊娠・異常妊娠、ハイリスク分娩・異常分娩の助産診断と助産ケアについて説明できる 7. 産褥期の異常の助産診断と助産ケアについて説明できる 8. 不妊症の夫婦の看護について説明できる							
テキスト(教科書)	助産診断・技術学Ⅱ (1) 妊娠期 第6版、医学書院、ISBN9784260042086 助産診断・技術学Ⅱ (2) 分娩期・産褥期 第6版、医学書院、ISBN9784260042109 助産診断・技術学Ⅱ (3) 新生児期・乳幼児期 第6版、医学書院、ISBN9784260042192 病気がみえるvol.10産科 第4版、ISBN9784896327137 基礎助産学 (2) 母子の基礎科学 第6版、我部山キヨ子他編、医学書院、ISBN978426004208 基礎助産学 (3) 母子の健康科学 第6版、医学書院、ISBN9784260049917 基礎助産学 (4) 母子の心理・社会学 第6版、医学書院、ISBN9784260021869							
参考書および参考文献	最新産科学 正常編 改訂第22版、荒木勲、文光堂、ISBN9784830631191 最新産科学 異常編 改訂第22版、文光堂、荒木勲、ISBN9784830631214 病気がみえるvol.9婦人科 第4版、医療情報科学研究所編集、メディックメディア、ISBN9784896327120 系統看護学講座 専門分野 成人看護学9 女性生殖器、末岡治、医学書院、ISBN9784260035675 産婦人科診療ガイドライン産科編2023、ISBN9784907890285							
受講条件	助産師選択コースの学生							
事前・事後学修 (内容・時間)	1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることをふまえ、事前・事後学修を毎授業60分程度行う <事前学修> 毎授業前にテキストの該当箇所を読み、内容を事前に調べて授業に参加すること (第1～15回/30分程度) <事後学修> 毎授業後に授業で得た学びについてレポートを作成しておき、定期試験前に再復習すること (第1～15回/30分程度)							
成績評価	筆記試験と課題レポート内容を総合的に評価する							
評価項目			割合	評価基準				
定期試験			90%	筆記試験により理解度を確認する				
課題レポート			10%	課題に対する適切な内容・記述になっているかを評価する。				
授業の実施方法と授業計画	第1回	(講義) 妊娠期の異常・ハイリスク妊娠の診断と治療 (薬剤・検査含む) (黒柳医師)						
	第2回	(講義) 妊娠期の異常・ハイリスク妊娠の診断と治療 (薬剤・検査含む) (安井医師)						
	第3回	(講義) 偶発疾患・分娩期の異常の診断と治療 (薬剤、産科手術と麻酔・産科医療と救急の処置) (姜医師)						
	第4回	(講義) 偶発疾患・分娩期の異常の診断と治療 (薬剤、産科手術と麻酔・産科医療と救急の処置) (岡田医師)						
	第5回	(講義) 産褥期の異常・偶発疾患の診断と治療 (薬剤含む) (鈴木医師)						
	第6回	(講義) ライフサイクル期における婦人科疾患 (諸井医師)						
	第7回	(講義) 胎児・新生児の疾患と治療 (薬剤、新生児の蘇生含む) (戸川医師)						
	第8回	(講義) 胎児・新生児の疾患と治療 (薬剤、新生児の蘇生含む) (戸川医師)						
	第9回	生殖医療 (安藤医師)						
	第10回	(講義) ハイリスク妊婦の助産診断と助産ケア (妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、多胎妊娠)						
	第11回	(講義) ハイリスク産婦の助産診断と助産ケア (常位胎盤早期剥離、産科危機的出血、産科ショック、羊水塞栓症)						
	第12回	(講義) 異常分娩の助産診断と助産ケア (回旋異常、分娩遅延、胎児機能不全、急速分娩)						
	第13回	(講義) 産褥期の異常の助産診断と助産ケア						
	第14回	(講義) ペリネイタルロスのケア						
	第15回	(講義) 不妊症の夫婦と看護						
*ただし、授業計画は受講学生の習熟度により授業計画、内容・日程を変更することもある。 *課題 (テストやレポート等) や質疑内容については、授業内でフィードバックする。								
ナンバリング	NRBM3014							

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード		977C0		
科目	977C 助産診断・技術学Ⅲ			授業種別		週間授業		
担当教員	大林 陽子			単位数		2		
その他担当者	斉本 美津子							
授業概要	分娩3要素、分娩機序、分娩経過に関する基礎的知識を学び、分娩期の母体・胎児の身体・心理社会的特性とニーズと状態に応じた助産ケアについて学ぶ。また、その知識をもとに分娩期の事例の状態に応じた助産診断過程展開技術を修得する。 ※この科目は当該授業内容に関する助産師の実務経験を有する教員がその実務を活かして演習などを行う科目です。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性			○	◎	△			
到達目標	1. 分娩の3要素、分娩機序、分娩経過について説明できる 2. 分娩の進行に伴う母体・胎児の身体・心理的变化について説明できる 3. 分娩期の産婦が分娩を正常に経過でき、主体的に分娩に臨むために必要な知識・技術を修得できる 4. 分娩期の産婦事例の状態をアセスメントし、分娩3要素の分娩促進・阻害因子をふまえて状態に応じた助産診断ができ、分娩進行を促進する助産ケア計画を立案できる							
テキスト（教科書）	助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ〔1〕妊娠期 第6版、我部山キヨ子他編、医学書院、ISBN9784260042086 助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ〔2〕分娩期・産褥期 第6版、我部山キヨ子他編、医学書院、ISBN9784260042109 助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ〔3〕新生児期・乳幼児期 第6版、石井邦子他編、医学書院、ISBN9784260042192 病気がみえるvol.10産科 第4版、医療情報科学研究所編集、メディックメディア、ISBN9784896327137 マタニティ診断ガイドブック 第6版、日本助産診断実践学会編集、医学書院、ISBN9784260043298							
参考書および参考文献	正常分娩の助産術 トラブルへの対応と会陰裂傷縫合、進純郎他、医学書院、ISBN9784260010825 分娩介助学 第2版、進純郎、医学書院、ISBN9784260018869 助産学講座3 基礎助産学（3）母子の健康科学 第6版、我部山キヨ子編、医学書院、ISBN9784260049917 助産学講座4 基礎助産学（4）母子の心理・社会学 第6版、我部山キヨ子編、医学書院、ISBN9784260021869 産婦人科診療ガイドライン産科編2023、日本産科婦人科学会/日本産婦人科医会編集・監修、ISBN9784907890285							
受講条件	助産師選択コースの学生							
事前・事後学修（内容・時間）	1単位の特修には45時間の学修時間が必要であることをふまえ、事前・事後学修を毎授業60～90分程度行う ＜事前学修＞ 1. 毎授業前にテキストの該当箇所を読み、内容を事前に調べて授業に参加すること（第2～8回/30分程度） 2. 毎授業で指示する課題について事前に学修し資料を作成し、その過程で生じた疑問点を明確にして授業に臨む（第1、9～15回/60分程度） ＜事後学修＞ 1. 毎授業後に授業で得た学びについてレポートを作成しておき、定期試験前に再復習すること（第2～8回/30分程度） 2. 毎授業後に授業で得た学びを事前学修の内容に加筆修正し、内容を整理する（第1、9～15回/30分程度）							
成績評価								
筆記試験と課題レポート・ディスカッション内容を総合的に評価する								
評価項目	割合		評価基準					
定期試験	50%		筆記試験にて理解度を確認する					
課題レポート・ディスカッション内容	50%		課題に対する適切な内容・記述、ディスカッション内容になっているかを評価する					
授業の実施方法と授業計画	第1回	（講義）分娩期の助産診断と助産過程						
	第2回	（講義）分娩の定義と種類、分娩3要素						
	第3回	（講義）分娩が母体・胎児に及ぼす影響						
	第4回	（講義）正常な分娩経過						
	第5回	（講義）正常分娩からの逸脱の診断						
	第6回	（講義）ハイリスク分娩に伴う助産師の対応						
	第7回	（講義）分娩期の身体・心理社会的変化と助産ケア①						
	第8回	（講義）分娩期の身体・心理社会的変化と助産ケア②						
	第9回	（講義・演習）分娩期の助産診断①						
	第10回	（講義・演習）分娩期の助産診断②						
	第11回	（講義・演習）分娩期の助産診断③						
	第12回	（講義・演習）分娩期の助産診断④						
	第13回	（講義・演習）分娩期の助産診断⑤						
	第14回	（講義・演習）分娩期の助産診断⑥						
	第15回	（講義・演習）分娩期の助産診断⑦						
*ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。 *課題（テストやレポート等）や質疑内容については、授業内でフィードバックする。								
ナンバリング	NRCM3014							

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期				授業コード	97710		
科目	9771 助産診断・技術学Ⅳ				授業種別	週間授業		
担当教員	大林 陽子				単位数	2		
その他担当者	齊本 美津子							
授業概要	妊娠・分娩・産褥。新生児期に正常経過を逸脱した妊婦（胎児）・産婦（胎児）・褥婦・新生児事例の助産診断過程を展開し、助産実践に必要な知識・技術を学ぶ。また、分娩施設退院後の褥婦の乳房・乳頭トラブルの実際と必要な支援についても事例検討をとおして学ぶ。さらに、地域における母子保健活動の実際をもとに、母子支援および助産業務における課題を発展的に考察する能力を養う。 ※この科目は当該授業内容に関する助産師の実務経験を有する教員がその実務を活かして演習等を行う科目です。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性			○	◎	○			
到達目標	1. 妊娠中に正常経過を逸脱した妊婦の助産実践をもとに、助産診断・ケア計画・実施・評価について再考察できる 2. 分娩期に正常経過を逸脱した産婦・胎児の助産実践をもとに、助産診断・ケア計画・実施・評価について再考察できる 3. 産褥期に正常経過を逸脱した褥婦の助産実践をもとに、助産診断・ケア計画・実施・評価について再考察できる 4. 新生児期に正常経過を逸脱した新生児の助産実践をもとに、助産診断・ケア計画・実施・評価について再考察できる 5. 妊娠・分娩・産褥・新生児経過に異常がみられた母子の支援について、地域における母子保健活動の実際をもとに考察し、記述できる。							
テキスト（教科書）	助産学 講座 6 助産診断・技術学Ⅱ〔1〕妊娠 期 第6版、我部山キヨ子他編、医学書院、ISBN9784260042086 助産学 講座 7 助産診断・技術学Ⅱ〔2〕分娩期・産褥期 第6版、我部山キヨ子他編、医学書院、ISBN9784260042109 助産学 講座 8 助産診断・技術学Ⅱ〔3〕新生児期・乳幼児 期 第6版、石井邦子他編、医学書院、ISBN9784260042192 病気がみえるvol.10産科 第4版、医療情報科学研究所編集、メディックメディア、ISBN9784896327137 マタニティ診断ガイドブック 第6版、日本助産診断実践学会編集、医学書院、ISBN9784260043298							
参考書および参考文献	産婦人科診療ガイドライン産科編2023、日本産科婦人科学会/日本産婦人科医会編集・監修、ISBN9784907890285 正常分娩の助産術 トラブルへの対応と会陰裂傷縫合、進純郎他、医学書院、ISBN9784260010825 分娩介助学 第2版、進純郎、医学書院、ISBN9784260018869 母乳育児支援スタンダード 第2版、NPO法人日本ラクテーション・コンサルタンツ協会編集、ISBN9784260020701							
受講条件	助産師選択コース学生							
事前・事後学修（内容・時間）	助産学の講義・演習から学んだ知識・技術を実習事例に応用し、事例検討や課題ディスカッションにより助産学に必要な知識・技術を再確認する。また助産学実習で受け持ち展開した事例をまとめ、学修を深める。自己学修を予習・復習各60分程度行う 授業前に指定箇所を熟読し、授業後には授業の学びを整理し、課題に取り組む。1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることをふまえ、自己学修を行う。							
成績評価	課題レポート・ディスカッション内容を総合的に評価する							
評価項目		割合	評価基準					
課題レポート		60%	課題に対する適切な内容・記述になっているかを評価する					
ディスカッション内容		40%	課題に対する適切な内容になっているかを評価する					
授業の実施方法と授業計画	第1回	(講義・演習) ガイダンス、検討事例選択・調整、事例Hの助産診断						
	第2回	(講義・演習) 事例Hの助産診断						
	第3回	(講義・演習) 異常妊娠の妊婦、胎児の助産診断①						
	第4回	(講義・演習) 異常妊娠の妊婦、胎児の助産診断②						
	第5回	(講義・演習) 分娩経過を逸脱した産婦・胎児の助産診断①						
	第6回	(講義・演習) 分娩経過を逸脱した産婦・胎児の助産診断②						
	第7回	(講義・演習) 分娩経過を逸脱した産婦・胎児の助産診断③						
	第8回	(講義・演習) 分娩経過を逸脱した産婦・胎児の助産診断④						
	第9回	(講義・演習) 乳頭トラブル、母乳分泌不足の褥婦の助産診断①						
	第10回	(講義・演習) 乳頭トラブル、母乳分泌不足の褥婦の助産診断②						
	第11回	(講義・演習) 正常経過を逸脱した新生児の助産診断①						
	第12回	(講義・演習) 正常経過を逸脱した新生児の助産診断②						
	第13回	(講義・演習) 乳腺炎の母親への支援①						
	第14回	(講義・演習) 乳腺炎の母親への支援②						
	第15回	(講義・演習) 退院後の母乳育児支援						
	*学生の習熟度等により授業計画を変更することがある。 *課題レポートやディスカッションの内容については、授業内でフィードバックする。							
ナンバリング	NREM4013							

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード		977J0		
科目	977J 助産技術学			授業種別		週間授業		
担当教員	大林 陽子			単位数		2		
その他担当者	新井 志歩、斉本 美津子							
授業概要	3年次の助産診断・技術学Ⅰ～Ⅲで学修した知識・技術を統合し、助産実践能力に必要な基礎的能力を修得する。分娩期の対象事例の状態をアセスメントし、助産診断、助産計画立案までの一連の助産診断過程展開技術を修得する。また、妊娠・産褥期における健康診査技術や保健指導技術、分娩介助技術および出生直後の新生児の看護に必要な助産技術を修得する。 ※この科目は当該授業内容に関する助産師の実務経験を有する教員がその実務を活かして演習を行う科目です。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	○		○	◎	○	△		
到達目標	1. 妊婦（胎児）・産婦（胎児）・褥婦・新生児の健康診査、観察に必要な技術を修得できる。 2. 妊婦・褥婦の保健指導に必要な指導案を作成できる。 3. 産婦の事例の状態に応じた助産診断過程展開技術を修得できる。 4. 分娩介助技術および出生直後の新生児の看護に必要な助産技術を修得できる。							
テキスト（教科書）	助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ（1）妊娠期 第6版、医学書院、ISBN9784260042086 助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ（2）分娩期・産褥期 第6版、医学書院ISBN9784260042109 助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ（3）新生児期・乳幼児期 第6版、医学書院、ISBN9784260042192 病気がみえるvol.10産科 第4版、メディックメディア、ISBN9784896327137 根拠と事故防止からみた母性看護技術 第3版 石村由利子編 医学書院 ISBN9784260043243							
参考書および参考文献	助産学講座3 基礎助産学〔3〕母子の健康科学 第6版、我部山キヨ子編、医学書院、ISBN9784260049917 助産学講座4 基礎助産学〔4〕母子の心理・社会学 第6版、我部山キヨ子編、医学書院、ISBN9784260021869 母乳育児支援スタンダード 第2版、NPO法人日本ラクテーション・コンサルタント協会編集、ISBN9784260050036 正常分娩の助産術 トラブルへの対応と会陰裂傷縫合、進純郎他、医学書院、ISBN9784260010825 分娩介助学 第2版、進純郎、医学書院、ISBN9784260018869 産婦人科診療ガイドライン産科編2023、ISBN9784907890285							
受講条件	助産師選択コースの学生							
事前・事後学修（内容・時間）	1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることをふまえ、事前・事後学修を毎授業60分程度行う。 ＜事前学修＞ 1. 毎授業で指示する課題について事前に学修し資料を作成する（60分） 2. 1. の過程で生じた疑問点を明確にして授業に臨む ＜事後学修＞ 1. 毎授業後に授業で得た学びを事前学修の内容に加筆修正し、内容を整理する 2. 技術演習後は技術をくり返し行い、根拠に基づく技術修得に努める（30時間）							
成績評価								
分娩介助技術の習得度、課題レポート・ディスカッション内容を総合的に評価する								
評価項目	割合		評価基準					
分娩介助技術試験	50%		分娩介助技術評価表に則り評価する					
課題レポート、ディスカッション内容	50%		レポートが課題に対する適切な内容・記述、ディスカッションの内容であるか評価する					
授業の実施方法と授業計画	第1回	（演習）分娩介助技術、出産直後の児の取り扱い（教員デモンストレーション）						
	第2回	（演習）分娩介助技術（内診、導尿、会陰裂傷縫合術を含む）						
	第3回	（講義・演習）分娩期の助産診断過程展開①						
	第4回	（講義・演習）分娩期の助産診断過程展開②						
	第5回	（講義・演習）分娩期の助産診断過程展開③						
	第6回	（講義・演習）分娩期の助産診断過程展開④						
	第7回	（講義・演習）妊娠期の健康診査・保健指導①						
	第8回	（講義・演習）妊娠期の健康診査・保健指導②						
	第9回	（講義・演習）妊娠期の診断・ケアに必要な技術（胎児モニタリング、超音波エコー）						
	第10回	（演習）分娩介助技術の確認						
	第11回	（講義・演習）沐浴指導						
	第12回	（講義・演習）妊娠期の助産診断過程展開						
	第13回	（講義・演習）産褥・新生児期の助産診断過程展開						
	第14回	（演習）分娩介助技術チェック（技術試験）						
	第15回	（演習）分娩介助技術チェック（技術試験）						
*受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。 *課題（テストやレポート等）や質疑内容については、授業内でフィードバックする。								
ナンバリング	NRCM4018							

開講年度・開講学期	2025年度 秋学期			授業コード	97790			
科目	9779 助産管理			授業種別	週間授業			
担当教員	大林 陽子			単位数	1			
その他担当者	斉本 美津子							
授業概要	助産管理の基本と助産業務管理の基礎的知識、助産業務遂行にあたり必要な関係法規と助産師の義務・責任について学ぶ。また、周産期医療体制と地域連携の実態を理解し、周産期医療の現状と課題について学ぶ。さらに、助産に関する医療安全と危機管理について学び、場に応じた助産業務管理を学び、院内助産・院内助産院、および助産所の助産業務管理に必要な基礎的知識を修得する。 ※この科目は当該授業内容に関する助産師の実務経験を有する教員がその実務を活かして講義等を行う科目です。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性			○	○	○	◎	○	
到達目標	1. 助産管理の基本と助産業務管理の過程・方法・医療経済について説明できる 2. 助産業務の関係法規と助産師の法的責任と義務について説明できる 3. 周産期医療体制の概要とネットワーク、チーム医療と職種間・地域の連携について説明できる 4. 助産師が行う安全対策と医療事故防止、災害対策について説明できる 5. 周産期棟・混合病棟、院内助産・院内助産院、助産師外来の管理について説明できる 6. 助産所の管理・運営、関係法規について説明できる							
テキスト（教科書）	助産学講座10 助産管理 第6版、我部山キヨ子編、医学書院、ISBN9784260047098							
参考書および参考文献	助産所業務ガイドライン2019、改訂検討特別委員会編集・監修、日本助産師会出版、ISBN9784905023289 産婦人科診療ガイドライン産科編2023、日本産科婦人科学会編集・監修、ISBN9784907890186 助産師業務要覧 基礎編、福井トシ子編、日本看護協会出版会、ISBN9784818026186 助産師業務要覧 実践編、福井トシ子編、日本看護協会出版会、ISBN9784818026193 助産師業務要覧 アドバンス編、福井トシ子編、日本看護協会出版会、ISBN9784818026209 助産所開業マニュアル2021ー解説・管理・運営ー、日本助産師会出版、ISBN9784905023364							
受講条件	助産師選択コースの学生							
事前・事後学修（内容・時間）	1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることをふまえ、事前・事後学修を毎授業60分程度行う。 <事前学修> 毎授業前にテキストの該当箇所を読み、内容を事前に調べて授業に参加すること（第1～8回/30分程度） <事後学修> 毎授業後に授業で得た学びについてレポートを作成しておき、定期試験前に再復習すること（第1～8回/30分程度）							
成績評価								
筆記試験と課題レポートにより総合的に評価する								
評価項目		割合	評価基準					
定期試験		80%	筆記試験により理解度を確認する					
課題レポート		20%	課題に対する適切な内容・記述になっているか評価する					
授業の実施方法と授業計画	第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回	(講義) 助産管理の基本と助産業務管理 (講義) 関係法規と助産師の義務・責任 (講義) 助産師の業務の実際① (講義) 助産師の業務の実際② (講義) 助産師の業務の実際③ (講義) 助産所における助産業務管理（外部講師） (講義) 周産期医療体制と地域連携、助産に関する医療安全と危機管理 (講義) 場に応じた助産業務管理 *授業計画は、学生の学修状況により変更することがある。また、第3～5回の内容は、地域における助産師活動に参加する場合もある。 *課題（テストやレポート等）や質疑内容については、授業内でフィードバックする。						
ナンバリング	NRFM3011							

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード		9.77E+02		
科目	977E 助産学実習Ⅰ			授業種別		実習		
担当教員	斉本 美津子			単位数		1		
その他担当者	大林 陽子、新井 志歩							
授業概要	地域における母子保健のニーズを理解し、対象に応じた学級活動の企画・運営・評価をとおして、地域とのつながりの中で助産師が行う小集団活動を学ぶ。 ※この科目は当該授業内容に関する助産師の実務経験を有する教員がその実務を活かして演習等を行う科目です。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	◎		○	○	○	△	△	
到達目標	1. 健康教育の理論に基づいて、性と生殖に関する健康およびその健康教育の内容について説明できる。 2. 健康教育の対象を理解し、対象のニーズに応じた健康教育を企画・運営できる。 3. 実施した健康教育を評価し、課題を考察できる。 4. メンバー同士で協力し、グループワークを発展的に進めることができる。							
テキスト（教科書）	助産学講座5 助産診断・技術学Ⅰ 第6版、堀内茂子他編、医学書院、ISBN9784260042260							
参考書および参考文献	思春期指導実践マニュアル、日本助産師会出版、ISBN 9784905023111 助産師基礎教育テキスト2024年版 第2巻 ウイメンズヘルスケア、吉沢豊予子、日本看護協会出版会、ISBN 9784818026124 助産師による思春期の健康教育、日本助産師会保健指導部会委員会編集・監修、日本助産師会出版、ISBN:9784905023319 助産師のための性教育実践ガイド、川島広江・大石時子、医学書院、ISBN784260000918 保健指導行動変容支援ガイド、足立叔子、医歯薬出版株式会社、2020、ISBN978-4-263-70748-7							
受講条件	助産師選択コースの学生							
事前・事後学修（内容・時間）	実習は45時間をもって1単位とする。但し、実習開始にあたり不足する内容、実習後に補う内容については各自学修を行うこと。 事前学修：実習オリエンテーション時に伝える。 事後学修：学修した内容について文献等を活用し整理する。							
成績評価								
実習内容、実習記録、カンファレンスへの参加度を総合的に評価する								
評価項目	割合		評価基準					
実習内容、実習記録、カンファレンスへの参加度	100%		評価表に基づき評価する。					
授業の実施方法と授業計画	1. ガイダンス、実習オリエンテーション、講義：1日間 1) ガイダンス、オリエンテーション 2) 健康教育に必要な知識・技術 2. 集団指導（妊娠期の母親・両親学級等）の見学：1日間 3. 健康教育の企画：2日間 健康教育の企画、教材・媒体等の考案・検討・作成 4. 健康教育の実施・評価：1日間 1) リハーサル、企画・教材の修正 2) 健康教育の実施（短期大学部 幼児教育・保育科「体育講義」にて） *受講学生の学修状況により、授業計画を変更することがある。 *実習終了時、記録提出、担当教員との面談による学修内容・評価のフィードバックを行う。							
ナンバリング	NRCM3015							

開講年度・開講学期	2025年度 春学期			授業コード	977F0			
科目	977F 助産学実習Ⅱ			授業種別	実習			
担当教員	大林 陽子			単位数	3			
その他担当者	新井 志歩、齊本 美津子							
授業概要	助産実践に必要な概念や理論、助産学の知識・技術をもとに、科学的根拠に基づいて助産実践できる専門職業人としての基礎的能力を養う。主に、妊娠・分娩・産褥・新生児期までの対象を妊娠期から継続して受け持ち、継続的かつ個性のある助産診断過程を展開し、母子とその家族の支援に必要な基礎的能力を養う。 ※この科目は当該授業内容に関する助産師の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	◎		○	○	○	△	△	
到達目標	妊娠期から産後・生後1か月健康診査まで継続して一組の母子を受け持ち、個性のある助産診断過程展開、および、保健指導を実施できる。 1. 妊娠期にある対象の健康診査を適切に実施し、結果に基づいて妊婦および家族に適切な助産ケア計画を立案し、保健指導を実施できる 2. 分娩期にある対象を観察し、状態のアセスメントから状態に応じた助産診断・ケア計画立案・実施・評価ができる 3. 産婦のもつ力を引き出し、分娩促進ケアを実施し、産後のパースレビューをとおして産婦の出産体験や自己の分娩ケアをふり返り評価できる 4. 出生直後の新生児の観察、健康診査とケアを実施できる 5. 褥婦・新生児を適切に観察し、結果に基づいて褥婦・新生児とその家族の状態・状況に応じた助産ケア計画を立案し、ケアを実施できる 6. 褥婦のセルフケア能力を高めるのに必要な育児の知識提供や技術支援（保健指導）を実施できる							
テキスト（教科書）	助産診断・技術学Ⅱ（1）妊娠期 第6版、医学書院、ISBN9784260042086 助産診断・技術学Ⅱ（2）分娩期・産褥期 第6版、医学書院、ISBN9784260042109 助産診断・技術学Ⅱ（3）新生児期・乳幼児期 第6版、医学書院、ISBN9784260042192 助産診断・技術学Ⅰ 第6版、医学書院、ISBN9784260042260 病気がみえるvol.10産科 第4版、メディックメディア、ISBN9784896327137 根拠と事故防止からみた母性看護技術 第3版、石村由利子編、医学書院、ISBN9784260043243 マタニティ診断ガイドブック 第6版、医学書院、ISBN9784260043298							
参考書および参考文献	産婦人科診療ガイドライン産科編2023、ISBN9784907890285 母乳育児支援スタンダード 第2版、ISBN9784260020701 正常分娩の助産術、進純郎他、医学書院、ISBN9784260010825 分娩助産学 第2版、進純郎、医学書院、ISBN9784260018869 基礎助産学（2）母子の基礎科学 第6版、我部山キヨ子他編、医学書院、ISBN978426004208 基礎助産学（3）母子の健康科学 第6版、我部山キヨ子編、医学書院、ISBN9784260049917 基礎助産学（4）母子の心理・社会学 第6版、我部山キヨ子編、医学書院、ISBN9784260021869							
受講条件	助産師選択コースの学生（4年次）							
事前・事後学修（内容・時間）	実習は45時間をもって1単位とする。但し、実習開始にあたり不足する内容、また、実習後に補う内容については各自学修を行うこと。 ＜事前学修＞ 1. 助産診断・技術学Ⅰ～Ⅲ、助産技術学で学修した助産診断過程展開内容、各種保健指導計画を復習する。 2. 助産技術学で修得した分娩助産技術、出生直後の新生児のケアをくり返し演習し、根拠に基づく技術を確認に修得して実習に臨む。 ＜事後学修＞ 実習での学びと自己の課題を明確にする。							
成績評価								
実習内容、実習記録、カンファレンスへの参加度を総合的に評価する								
評価項目	割合	評価基準						
実習内容、実習記録、カンファレンスへの参加度	100%	実習評価表に則り評価する						
授業の実施方法と授業計画	1. 実習期間 3週間 2. 実習施設 豊川市民病院、豊橋市民病院 3. 実習内容・方法 1) 病棟オリエンテーション（初日） 2) 妊娠・分娩・産褥・新生児期の対象（継続事例）を1名受け持ち、助産診断過程を展開する ・妊婦健康診査・保健指導を実施する ・分娩期助産ケア、分娩助産、出生直後の新生児ケアを実施する ・分娩助産後に実習指導者および担当教員のフィードバックを受け、ふり返りと自己の課題を明確にする ・産褥・新生児の入院中の助産ケア、パースレビュー、保健指導を実施する ・産後・生後2週間および1か月健康診査に立ち会い、観察・一部実施する ・母乳外来に付き添い、必要な観察を実施する 3) 実習終了時、記録提出、担当教員との面談による学修内容・評価のフィードバックを行う							
ナンバリング	NRDM4009							

開講年度・開講学期	2025年度 春学期～秋学期				授業コード	977G0		
科目	977G 助産学実習Ⅲ				授業種別	春学期（実習）、秋学期（実習）		
担当教員	大林 陽子				単位数	7		
その他担当者	新井 志歩、齊本 美津子							
授業概要	助産実践に必要な概念や理論、助産学の知識・技術をもとに、科学的根拠に基づいて助産実践できる専門職業人としての基礎的能力を養う。主に、分娩期の対象を受け持ち、個性のある助産診断過程を展開し、母子とその家族の支援に必要な基礎的能力を養う。 ※この科目は当該授業内容に関する助産師の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	◎		○	○	○	△	△	
到達目標	1. 分娩期にある対象を観察し、母児の健康状態から分娩経過に影響する因子をふまえて助産診断過程を展開できる 2. 分娩進行状態をアセスメントし、分娩の経過診断・予測のもとに助産ケア計画を立案できる 3. 産婦の健康状態をアセスメントし、状態に応じた助産診断・ケア計画立案・実施・評価ができる 4. 産婦のもつ力を最大限に引き出し、分娩を促進するための助産ケアを適切に実施できる 5. 母児の状態に合わせて安全に根拠に基づいて分娩を介助できる 6. 出生直後の新生児の健康診査とケアを実施できる 7. 産後のパースレビューをとおして産婦の出産体験や自己の分娩ケアをふり返り評価できる 8. 褥婦・新生児の状態をアセスメントし、助産診断過程を展開できる							
テキスト（教科書）	助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ〔1〕妊娠期 第6版、医学書院、ISBN9784260042086 助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ〔2〕分娩期・産褥期 第6版、医学書院、ISBN9784260042109 助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ〔3〕新生児期・乳幼児期 第6版、医学書院、ISBN9784260042192 病気がみえるvol.10産科 第4版、医療情報科学研究所編集、メディックメディア、ISBN9784896327137 マタニティ診断ガイドブック 第6版、日本助産診断実践学会編集、医学書院、ISBN9784260043298							
参考書および参考文献	正常分娩の助産術 トラブルへの対応と会陰裂傷縫合、進純郎他、医学書院、ISBN9784260010825 分娩介助学 第2版、進純郎、医学書院、ISBN9784260018869 産婦人科診療ガイドライン産科編2023、日本産科婦人科学会/日本産婦人科医会編集・監修、ISBN9784907890285 母乳育児支援スタンダード 第2版、NPO法人日本ラクテーション・コンサルタント協会編集、ISBN9784260020701							
受講条件	助産師選択コースの学生（4年次）							
事前・事後学修（内容・時間）	実習は45時間をもって1単位とする。但し、実習開始にあたり不足する内容、また、実習後に補う内容については各自学修を行うこと。 ＜事前学修＞ 1. 助産診断・技術学Ⅰ～Ⅲ、助産技術学で学修した助産診断過程展開内容、各種保健指導計画を復習する。 2. 助産技術学で修得した分娩介助技術、出生直後の新生児のケアをくり返し演習し、根拠に基づく技術を確実に修得して実習に臨む。 ＜事後学修＞ 実習での学びと自己の課題を明確にする。							
成績評価								
実習内容、実習記録、カンファレンスへの参加度を総合的に評価する								
評価項目	割合		評価基準					
実習内容、実習記録、カンファレンスへの参加度	100%		実習評価表に則り評価する					
授業の実施方法と授業計画	1. 実習期間 7週間 2. 実習施設 豊川市民病院、豊橋市民病院 3. 実習内容・方法 1) 分娩期の対象を1名受け持ち、産婦の助産過程展開、分娩介助、出生直後の新生児の助産ケアを実施する（助産学実習中、計9例程度の分娩介助） 2) 分娩介助後に実習指導者、担当教員のフィードバックを受け、ふり返りと自己の課題を明確にする 3) 産褥・新生児のパースレビューを行い、できる限り入院中の助産ケア、保健指導を実施する 4) 産後・生後2週間・1か月健康診査を実施・見学する 5) 実習終了時、記録提出、担当教員との面談による学修内容・評価のフィードバックを行う							
ナンバリング	NREM4014							